

名古屋市がん対策アンケート調査

調査報告書

2016 年 9 月

名古屋市健康福祉局健康増進課

【目次】

I : 調査概要	3
※がん対策の状況（まとめ）	7
II : 調査結果	13
①市民アンケート	13
1 : 回答者のプロフィール	14
2 : がんの知識	16
3 : がんの予防	17
4 : がん検診について	20
5 : がんの情報について	30
6 : 名古屋市のがん対策について	35
7 : がんの経験	37
②企業	40
1 : 回答者のプロフィール	41
2 : がん予防の取り組み	43
3 : がん検診について	45
4 : がん患者への支援体制	51
5 : 社内におけるがん罹患状況の実態	59
6 : がん対策の課題	63
③協会けんぽ被扶養者	66
1 : 回答者のプロフィール	67
2 : がんの知識	68
3 : がん検診について	69
4 : 特定健康診査について	73
5 : 特定保健指導について	76
④がん患者	78
1 : 回答者のプロフィール	79
2 : 回答者（がん患者）のプロフィール	80
3 : がん医療・がん患者の支援について	85
4 : 仕事と治療の両立について	105
5 : 子育て・介護・家事と治療の両立について	119
6 : 名古屋市のがん対策について	123

⑤病院	125
1：患者からの悩み相談	126
2：患者会やサロンの開催	129
3：ピアサポートについて	131
4：名古屋市のがん対策について	132

VI：付録	133
(調査票)	134
(名古屋市がん対策推進条例)	177

Ⅰ：調査概要

1 調査の概要

(1)調査の背景

平成 18 年にがん対策基本法が成立した後、名古屋市では、平成 24 年 3 月に「がん対策推進条例」を制定し、がんの予防や早期発見をはじめ、医療水準の向上、がん患者の支援など、市をあげてがん対策に取り組んできたところである。

500 円で受診できるワンコインがん検診や無料クーポン券の交付などにより、がん検診受診率向上に取り組んでいるほか、常設型のがん相談・情報サロンの運営、小学 6 年生と中学 3 年生を対象とした学習補助教材の配布、さらに平成 28 年度からは、仕事と治療の両立支援など、社会的な要請に対応するための取り組みを進めている。

一方で、条例制定から 4 年余りが経過する中、がんに関して、新たに様々な課題が生じ、あるいは課題が表出しているところである。医療の進歩によりがん患者の生存率が向上し、がん患者やがん経験者が増加する中、仕事と治療の両立支援のほか、高齢がん患者の在宅療養、高齢者やAYA世代、小児までの幅広い世代のがん患者支援など、新たな課題を踏まえながら、施策を検討する必要がある。

(2)調査の目的

名古屋市のがん対策をさらに推進するため、がんに関する現在の状況を把握し、課題を整理することを目的として調査を実施する。

(3)調査の種類

本調査では、がん対策推進条例の各条文について検証するため、調査対象を以下の 5 種類に分けて実施した。

①	市民一般	名古屋市在住の 20 歳以上の男女
②	企業	名古屋市に拠点を置く企業
③	協会けんぽ被扶養者	全国健康保険協会(協会けんぽ)の被扶養者
④	がん患者	外来診療がん患者
⑤	医療機関	名古屋市内のがん診療連携拠点病院およびがん診療拠点病院 上記以外の病床数 200 床以上の病院

(4)各調査の内容

①市民アンケート(市民一般)

質問内容 : がん予防の推進等(5条)、がんの早期発見の推進(6条)、がん情報
収集および提供(11条)、その他全般

質問数 : 32問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 20歳以上の男女を住民基本台帳から無作為抽出

配布数 : 8,000人

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

②企業

質問内容 : がんの早期発見の推進(6条)、がん患者の支援(10条)等

質問数 : 21問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 名古屋商工会名簿から無作為抽出

配布数 : 1,000社

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

③協会けんぽ被扶養者

質問内容 : がんの早期発見の推進(6条)と特定健診、クーポン券の効果検証等

質問数 : 11問

調査方法 : 郵送配布(回収率向上の為、リマインドハガキを送付)→郵送回収

対象者抽出 : 協会けんぽ愛知支部から名古屋市在住の被扶養者を無作為抽出

配布数 : 3,000人

調査期間 : 郵送6月10日～6月30日返送分まで

④がん患者

質問内容 : がん医療水準の向上(7条)、緩和ケアの充実(8条)、
在宅医療の充実(9条)、がん患者の支援(10条)等

質問数 : 33問

調査方法 : 病院にて調査票配布→回収、その場で記入できない場合は後日郵送回収

対象者抽出 : 名古屋市立大学病院、愛知県がんセンター中央病院、名古屋市立西部医療センター
に通院する外来のがん患者等

配布数 : 1,728人

調査期間 : 病院での調査7月11日～7月28日

⑤病院

質問内容：がん医療水準の向上（７条）、緩和ケアの充実（８条）、在宅療養の充実（９条）、がん患者等の支援（１０条）

質問数：５問

対象病院：名古屋市内のがん診療連携拠点病院及びがん診療拠点病院（１１施設）
病床数 200 床以上の病院（１１施設）計 22 施設

（５）回収率

	配布数	回収数	回収率
① 市民一般	8,000	3,921	49.0%
② 企業	1,000	568	56.8%
③ 協会けんぽ被扶養者	3,000	1,581	52.7%
④ がん患者	1,728	1,600	92.6%
⑤ 医療機関	22	22	100.0%

（６）報告書の表記について

- ・ 本報告書の中の図表の数字は、回答者数を母数にした比率を表す。
- ・ 表示した比率は小数点以下第２位で四捨五入しているため、表示した比率の合計が 100.0%にならない場合がある。また、図表中の小計の比率は、個々の選択肢の比率の合計した数値と異なる場合がある。
- ・ 複数回答の図または表は[MA]または【複数回答】と表示し、複数回答の比率の合計は 100.0%を超える。また複数回答のうち「回答３つまで」などの回答数が３つに限定されているものは[3MA]または【3MA】と表示する。
- ・ 図表の表側の性別、年齢別などの基本属性で、１人など少数の回答者の場合は表示していない場合があり、そのため人数の合計は全体と異なる場合がある。
- ・ 表中の「N」は全体を表す母数を、nはサンプル数を表している。

※がん対策の状況(まとめ)

(1)市民・協会けんぽ被扶養者

がんに対する理解

- ・市民全体の5割以上が、日頃からがん予防を心がけている
- ・がんの知識として8割以上の市民が、たばこががんの関わりや、以前より生存率が高くなっていることについて理解している。一方で日本では2人に1人が生涯でがんにかかる事の認知率が、市民全体の3割、協会けんぽ被保険者全体の4割弱と低く、特に市民の20代、30代といった若年層の認知が低かった。
- また、子宮頸がん、肝がんといったがんの原因となるウィルス等についての認知が低い。

がん検診について

- ・8割以上が、「がんを早期発見するためには、がん検診を定期的に受けることが有効である」ことを認知している。
- ・がん検診を受診しない理由は、「忙しくて時間がないから」、「面倒だから」が多い。
- ・名古屋市の実施しているがん検診施策の認知率は、
 - 「ワンコイン検診の実施」は市民全体の6割、協会けんぽ被扶養者全体の8割。
 - 「がん検診ガイドの配布」は市民全体の3割以上、協会けんぽ被扶養者全体の5割。
 - 「無料クーポン券の配布」は市民全体の4割以上、協会けんぽ被扶養者全体の7割。
- ・昨年度のがん検診受診者は市民全体の3割以上、協会けんぽ被扶養者全体の5割であった。また無料クーポン配布対象者は全体よりも高い6割が受診しており、クーポン配布による受診率向上の効果があつた。
- ・がん検診受診のきっかけは「自身の健康管理のため」が市民全体の5割、協会けんぽ被保険者全体の4割と最も高かった。無料クーポン配布対象者の8割弱が無料クーポンを受診のきっかけとしているなど、ワンコインがん検診と無料クーポン券をきっかけとした受診も一定以上ある。

(2)企業

がんの予防について

- ・社員に対してがん予防の働きかけを行っているのは全体で3割程度、がん検診受診の働きかけを行っているのは全体で5割程度であった。
- ・小規模の企業において、がん予防やがん検診の取り組みを行っている割合が少ない。

仕事と治療の両立について

- ・がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、6割以上の企業が仕事上の配慮をしている。
- ・小規模の企業においては、罹患した社員に対して仕事上の配慮をしている割合が全体よりも低い。

(3)がん患者

悩みについて

- ・「がんについて現在、悩みがある」と回答したのは、全体の約半数、40歳未満では7割以上と高く、悩みの内容は、「精神的な悩み」や「治療中や治療後の症状」が多い。また、「経済的な悩み」や「仕事についての悩み」は、40歳未満の若い世代が多い。

必要な情報について

- ・7割以上が、がんやがんの治療について必要な情報が得られていると回答した。

仕事と治療の両立について

- ・診断時に働いていた者のうち、診断後に離職又は転職し、仕事を継続しなかった者は約3割であった。
- ・仕事と治療の両立について相談できる制度や窓口は、5割以上が「なかった」と回答した。

子育てや介護、家事と治療の両立について

- ・がんと診断されたときの世帯の状況は、「単身高齢者」と「高齢者の夫婦のみ」が2割、「中学生以下の子どもがいた」が1割、「介護や介助が必要な家族がいた」が2割であった。
- ・女性のがん患者の約3割が、子育てや介護、家事と治療の両立について悩んだことや困難であったことが「あった」と回答している。また、子育てや介護、家事と治療の両立について相談できる制度や窓口は、5割以上が「なかった」と回答した。

(4)病院

- ・患者会やサロンをがん種別に実施している病院は少ない。
- ・患者からの悩みとしては、療養先の選択や介護保険サービス等の使い方などのほか、通院治療や在宅療養についての悩み、仕事と治療の両立や経済的なことが多い。
- ・対応における課題としては、関係機関との連携や、相談窓口の情報の不足があげられる。
- ・患者会やサロンは、14病院が実施しているが、がん種別に実施しているのは5病院のみで、内訳は乳房のほか、大腸、胃、甲状腺がある。

(5) 各調査の名古屋市へ充実すべきがん対策の要望まとめ

各調査ごとの名古屋市への要望上位

	1位		2位		3位	
市民 N=3921	がん検診に関する受診勧奨や 情報提供の充実	33.9%	がんの治療や医療機関に関する 相談体制や情報提供の充実	30.8%	子どもの頃からのがん学習(がんを 予防するための生活習慣など、がんについて の正しい知識を身につけるための学習)の 充実	28.9%
企業 N=568	仕事と治療の両立を支援する 取り組みの充実	45.4%	がん検診に関する受診勧奨や 情報提供の充実	35.9%	喫煙対策の充実	25.9%
患者 N=1374	がんの治療や医療機関に関する 相談体制や情報提供の充実	25.6%	がん検診に関する受診勧奨や 情報提供の充実	24.7%	仕事と治療の両立を支援する 取り組みの充実	19.9%
					食生活、運動習慣などのがん 予防に関する啓発	19.9%
病院 N=22	仕事と治療の両立を支援する 取り組みの充実	77.3%	通院や在宅療養を支援する取 組みの充実	68.2%	緩和ケアへの取り組みの充実	63.6%
					介護と治療の両立を支援する 取り組みの充実	63.6%

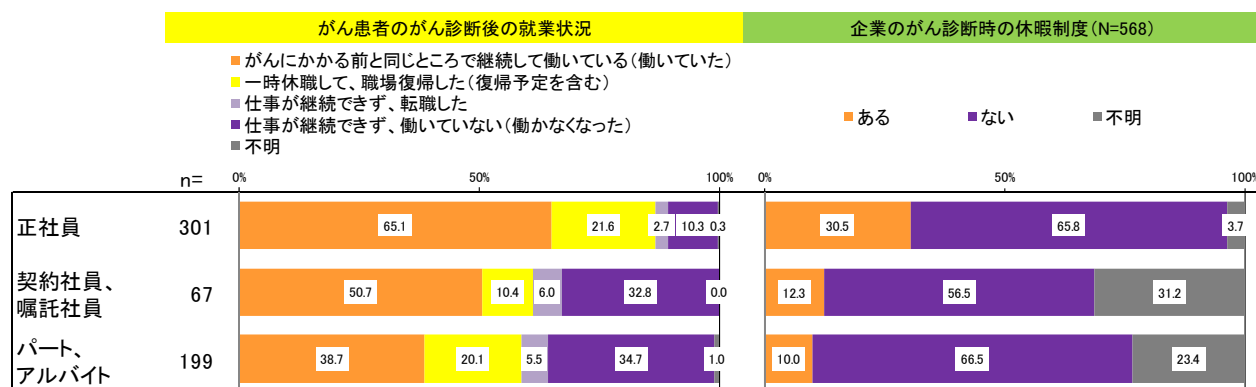
(6) その他のまとめ

ピアサポート・ピアネット・緩和ケアの認知について

- ・ピアサポートの認知率は、市民全体の1割と低く、がん患者全体でも3割にとどまる。
- ・病院におけるピアサポートの必要性は22件中18件が「必要」としているが、実際に実施している病院は22件中8件であった。
- ・ピアネットの認知率は、市民全体の1割弱と低く、がん患者全体でも2割にとどまる。
- ・緩和ケアの認知率は市民全体の5割、がん患者全体の6割以上であった。

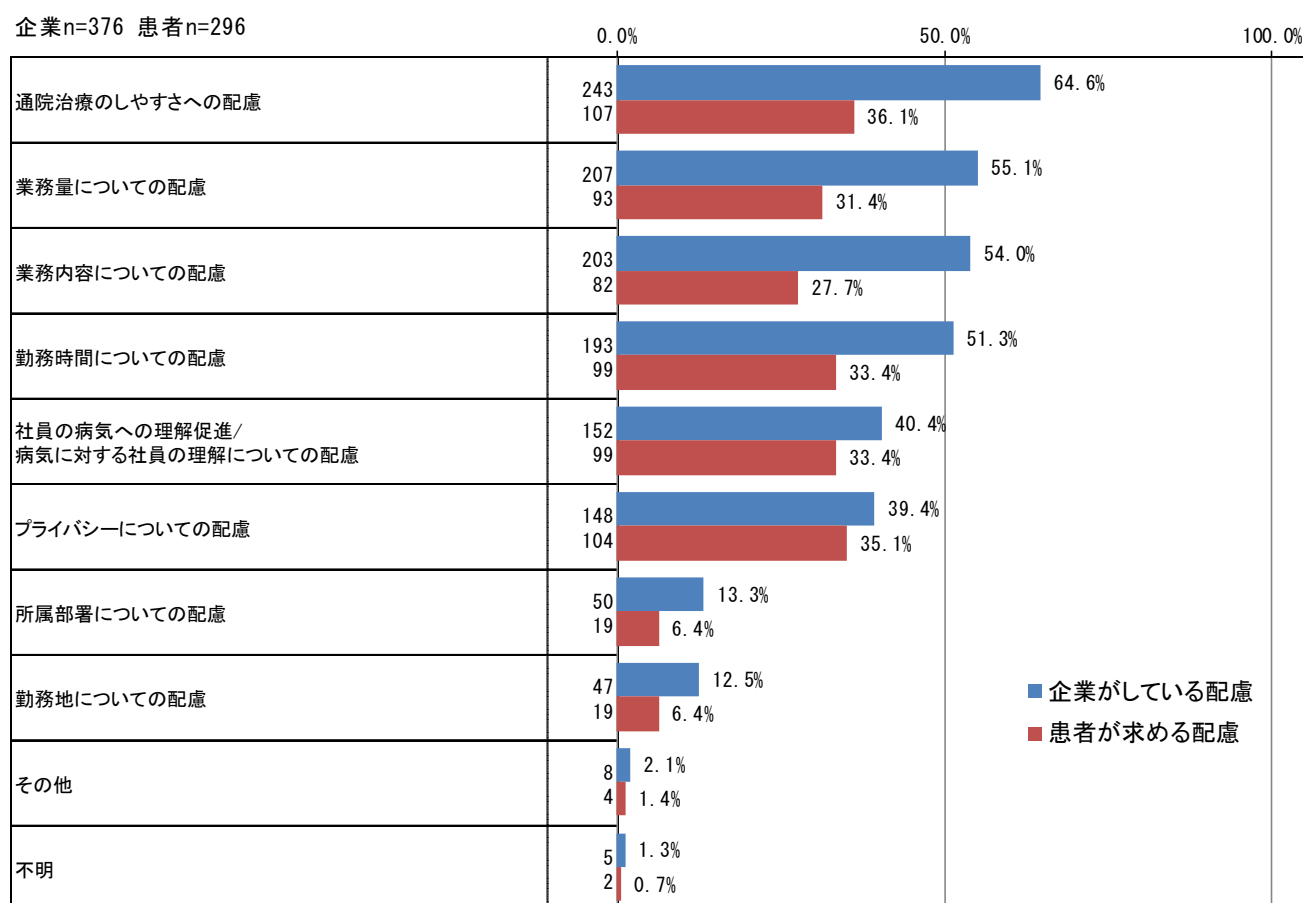
がん患者の復職状況と企業の休暇制度について

- ・がん患者の復職状況とがん診断時に利用できる休暇制度の企業の整備状況について、
正社員の復職率は8割以上で休暇制度がある企業が3割、
契約社員・嘱託社員の復職率は6割以上で休暇制度がある企業は1割強、
パート・アルバイトの復職率は6割弱で休暇制度がある企業は1割
と正規雇用と非正規雇用では、実際の復職率・企業の休暇制度の整備状況ともに関係が見られる。



がん患者が求める配慮と企業が実施している配慮について

- ・がん患者が企業に配慮を求めているのはがん患者の5割であるのに対し、企業の6割以上が、がん患者に対し配慮をしているとしている。
- ・企業がしているがん患者へ配慮と、がん患者が求めている企業の配慮について、「病気への理解促進」や、「プライバシーについての配慮」といった人間関係に関する配慮は、企業がしている配慮としては4割前後と、「通院治療のしやすさ」や「業務量」、「業務内容」、「勤務時間」といった実務上の配慮が5割以上であることに比べると低いが、がん患者が求める配慮としては同じように高くなっている。



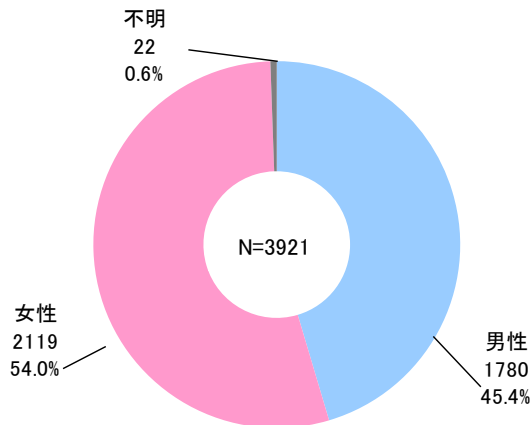
Ⅱ：調査結果

①一般市民

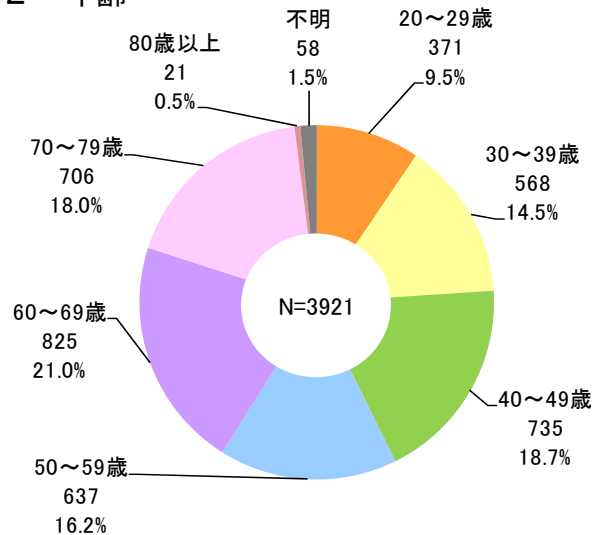
1:回答者のプロフィール

(1) 性別と年齢

問1 性別



問2 年齢



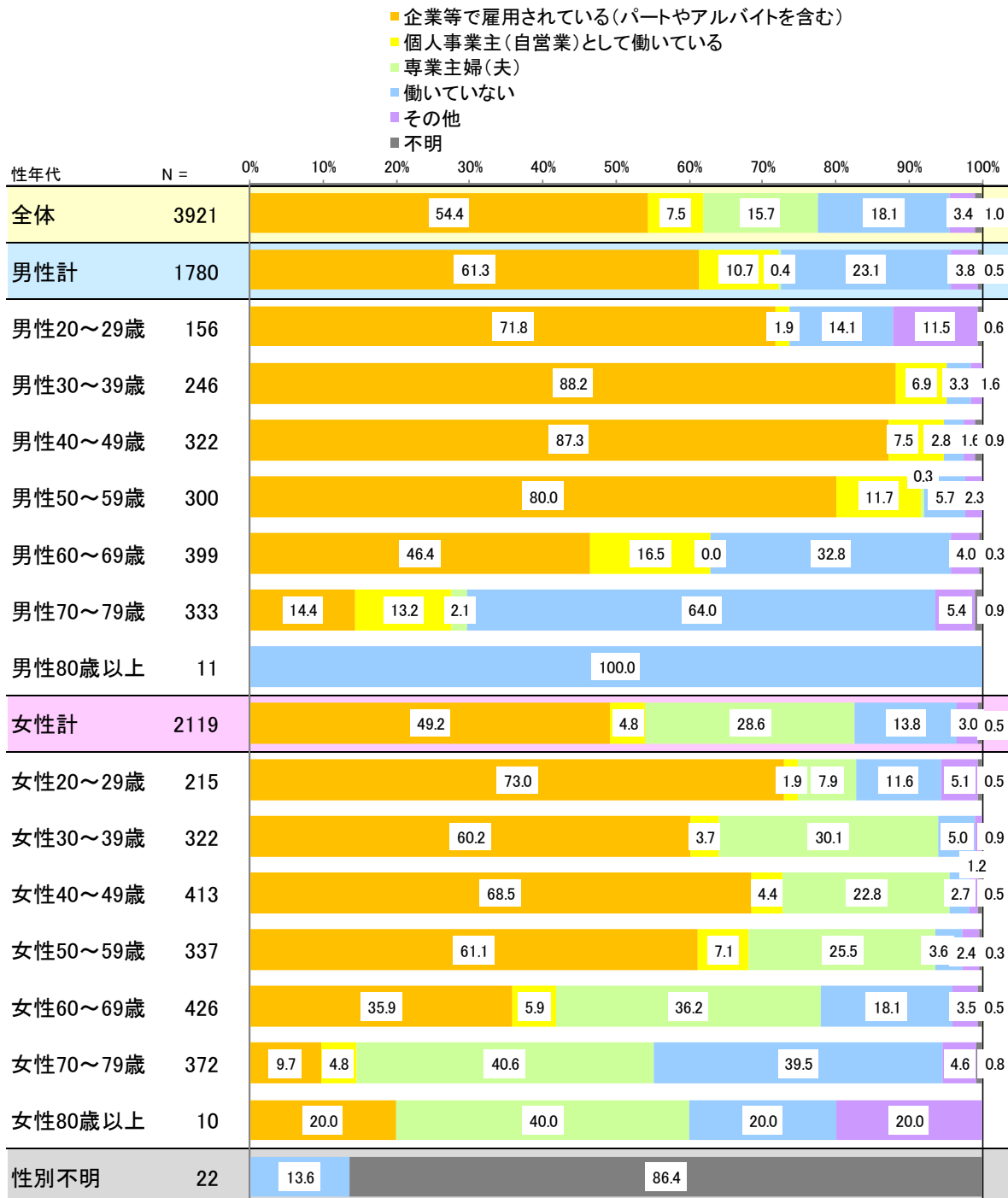
(2) 居住地

問3 居住地

上段:実数 下段:%		調査 数	千 種 区	東 区	北 区	西 区	中 村 区	中 区	昭 和 区	瑞 穂 区	熱 田 区	中 川 区	港 区	南 区	守 山 区	緑 区	名 東 区	天 白 区	不 明
全体		3921	277	121	267	271	225	111	178	199	120	358	233	250	298	439	265	286	23
		100.0	7.1	3.1	6.8	6.9	5.7	2.8	4.5	5.1	3.1	9.1	5.9	6.4	7.6	11.2	6.8	7.3	0.6
性 年 代	男性計	1780	110	52	134	117	112	47	78	83	46	175	116	116	136	205	114	137	2
		100.0	6.2	2.9	7.5	6.6	6.3	2.6	4.4	4.7	2.6	9.8	6.5	6.5	7.6	11.5	6.4	7.7	0.1
	男性20～29歳	156	10	7	11	13	9	8	10	2	4	23	8	11	8	15	8	9	0
		100.0	6.4	4.5	7.1	8.3	5.8	5.1	6.4	1.3	2.6	14.7	5.1	7.1	5.1	9.6	5.1	5.8	0.0
	男性30～39歳	246	14	9	14	11	21	5	12	11	7	20	12	14	32	28	17	19	0
		100.0	5.7	3.7	5.7	4.5	8.5	2.0	4.9	4.5	2.8	8.1	4.9	5.7	13.0	11.4	6.9	7.7	0.0
	男性40～49歳	322	18	7	25	19	14	8	16	14	9	27	21	25	23	47	24	24	1
		100.0	5.6	2.2	7.8	5.9	4.3	2.5	5.0	4.3	2.8	8.4	6.5	7.8	7.1	14.6	7.5	7.5	0.3
	男性50～59歳	300	22	9	19	30	20	9	14	12	9	31	18	16	18	32	14	27	0
		100.0	7.3	3.0	6.3	10.0	6.7	3.0	4.7	4.0	3.0	10.3	6.0	5.3	6.0	10.7	4.7	9.0	0.0
	男性60～69歳	399	21	9	36	20	25	9	15	23	10	36	36	22	30	44	31	32	0
		100.0	5.3	2.3	9.0	5.0	6.3	2.3	3.8	5.8	2.5	9.0	9.0	5.5	7.5	11.0	7.8	8.0	0.0
	男性70～79歳	333	23	11	25	23	21	8	11	21	6	36	21	27	22	37	17	24	0
		100.0	6.9	3.3	7.5	6.9	6.3	2.4	3.3	6.3	1.8	10.8	6.3	8.1	6.6	11.1	5.1	7.2	0.0
	男性80歳以上	11	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	0	1	2	1	1	0
		100.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	0.0
	女性計	2119	167	69	133	154	113	64	100	116	74	183	116	132	162	234	151	149	2
		100.0	7.9	3.3	6.3	7.3	5.3	3.0	4.7	5.5	3.5	8.6	5.5	6.2	7.6	11.0	7.1	7.0	0.1
	女性20～29歳	215	22	8	8	13	12	10	13	11	5	21	14	9	10	22	16	21	0
		100.0	10.2	3.7	3.7	6.0	5.6	4.7	6.0	5.1	2.3	9.8	6.5	4.2	4.7	10.2	7.4	9.8	0.0
	女性30～39歳	322	30	7	24	23	18	8	11	19	10	28	14	19	26	44	20	21	0
		100.0	9.3	2.2	7.5	7.1	5.6	2.5	3.4	5.9	3.1	8.7	4.3	5.9	8.1	13.7	6.2	6.5	0.0
	女性40～49歳	413	34	14	17	31	16	9	22	22	13	29	28	33	43	42	33	27	0
		100.0	8.2	3.4	4.1	7.5	3.9	2.2	5.3	5.3	3.1	7.0	6.8	8.0	10.4	10.2	8.0	6.5	0.0
	女性50～59歳	337	19	11	24	21	21	12	17	14	10	32	16	18	25	38	31	28	0
		100.0	5.6	3.3	7.1	6.2	6.2	3.5	5.0	4.2	3.0	9.5	4.7	5.3	7.4	11.3	9.2	8.3	0.0
	女性60～69歳	426	34	13	25	35	20	15	18	26	16	37	22	30	29	47	33	25	1
		100.0	8.0	3.1	5.9	8.2	4.7	3.5	4.2	6.1	3.8	8.7	5.2	7.0	6.8	11.0	7.7	5.9	0.2
	女性70～79歳	372	26	13	34	29	23	10	16	19	16	36	22	23	25	37	17	26	0
		100.0	7.0	3.5	9.1	7.8	6.2	2.7	4.3	5.1	4.3	9.7	5.9	6.2	6.7	9.9	4.6	7.0	0.0
	女性80歳以上	10	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1	0
		100.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	10.0	0.0
	性別不明	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	19
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.4

(3) 就労状況

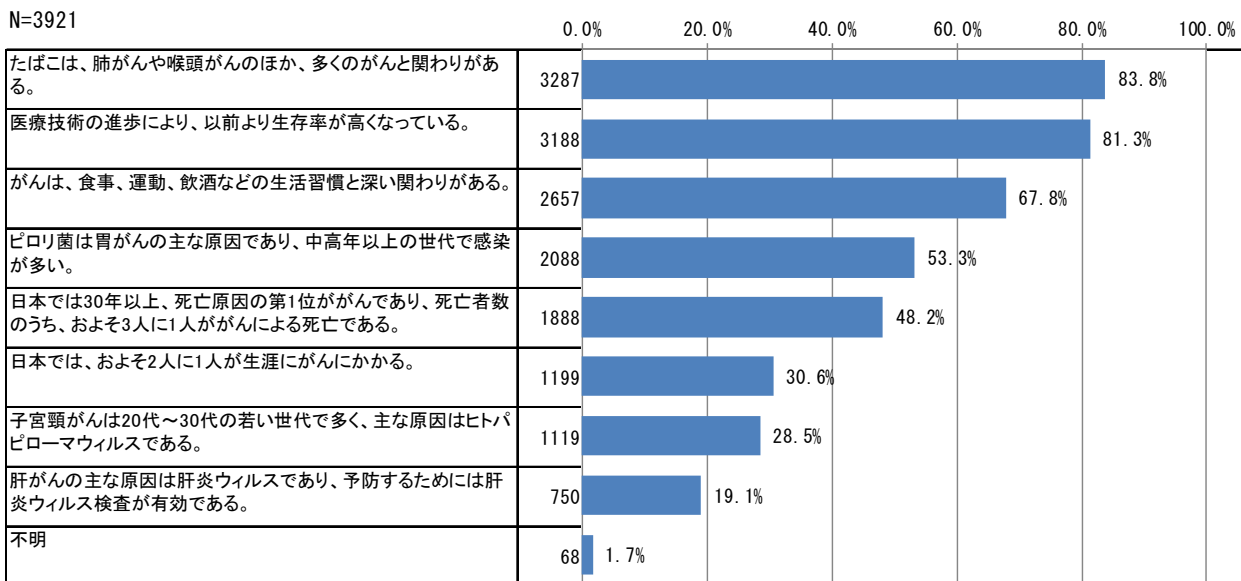
問4 就労状況



2:がんの知識

問5 がんについて知っていることを教えてください。【複数回答】

- ・がんについて知っている知識について、「日本では、およそ2人に1人が生涯にがんにかかる。」の認知度が30.6%と低く、特に男女とも20代30代の若年層の認知が低かった。
- ・子宮頸がんの知識については、女性でも39.7%と低い上、注意が必要な20代女性も38.1%となっている。
- ・肝がんの知識については19.1%と認知度が一番低い。



性年代別表

		調査数	たばこは、肺がんや喉頭がんのほか、多くのがんと関わりがある。	医療技術の進歩により、以前より生存率が高くなっている。	がんは、食事、運動、飲酒などの生活習慣と深い関わりがある。	ピロリ菌は胃がんの主な原因であり、中高年以上の世代で感染が多い。	日本では30年以上、死亡原因の第1位ががんであり、死亡者数のうち、およそ3人に1人ががんにによる死亡である。	日本では、およそ2人に1人が生涯にがんにかかる。	子宮頸がんは20代～30代の若い世代で多く、主な原因はヒトパピローマウイルスである。	肝がんの主な原因は肝炎ウイルスであり、予防するためには肝炎ウイルス検査が有効である。	不明
全体		3921	83.8	81.3	67.8	53.3	48.2	30.6	28.5	19.1	1.7
性年代	男性計	1780	84.6	80.2	65.5	46.5	48.2	28.1	25.2	17.3	2.1
	男性20～29歳	156	84.6	79.5	71.2	17.3	12.2	8.3	1.9		
	男性30～39歳	246	83.7	74.4	70.7	32.5	15.0	13.4	1.6		
	男性40～49歳	322	83.2	81.4	67.7	50.6	16.1	15.2	0.9		
	男性50～59歳	300	86.7	84.7	67.3	54.0	19.3	20.7	2.0		
	男性60～69歳	399	85.5	82.2	63.2	54.9	16.8	23.3	2.3		
	男性70～79歳	333	84.4	78.1	58.9	50.5	11.1	18.9	3.3		
	男性80歳以上	11	90.9	45.5	45.5	27.3	9.1	18.2	0.0		
	女性計	2119	83.6	82.6	69.9	59.2	39.7	20.3	0.9		
	女性20～29歳	215	83.3	74.9	67.9	36.3	38.1	15.8	1.9		
	女性30～39歳	322	83.2	81.1	72.0	49.4	44.1	14.9	0.3		
	女性40～49歳	413	82.6	82.6	75.8	62.2	49.2	19.4	0.5		
	女性50～59歳	337	83.7	87.2	74.2	66.8	44.8	26.1	0.0		
	女性60～69歳	426	84.3	86.4	70.4	69.5	36.9	23.7	1.4		
	女性70～79歳	372	84.9	80.6	58.6	59.9	25.5	19.6	1.9		
	女性80歳以上	10	80.0	70.0	60.0	30.0	20.0	20.0	0.0		
性別不明		22	45.5	45.5	40.9	27.3	13.6	18.2	50.0		

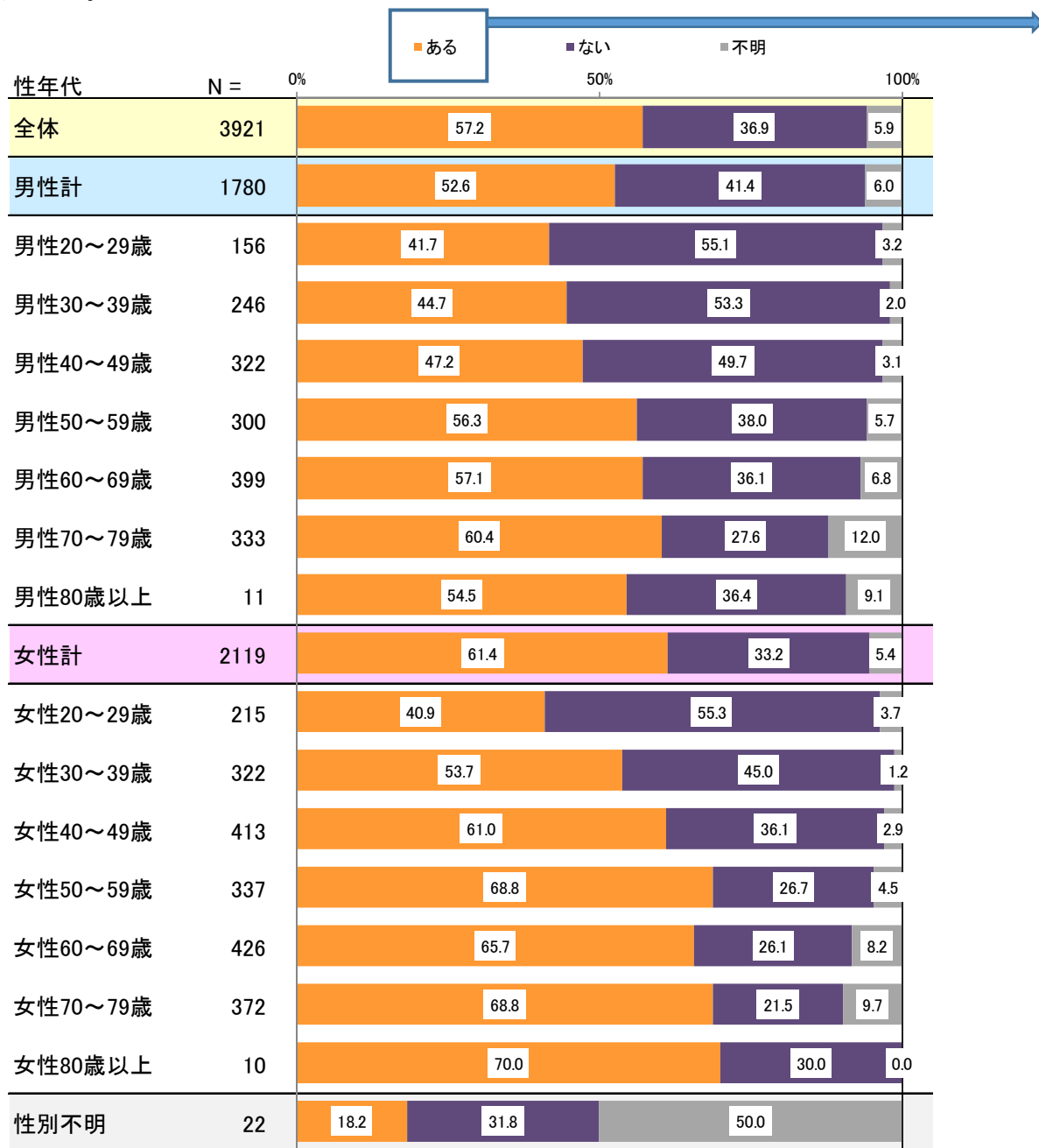
1番高い数値 2番目の数値

3:がんの予防

(1) がん予防の心がけ

問6 がんの予防のために日頃心がけていることはありますか？

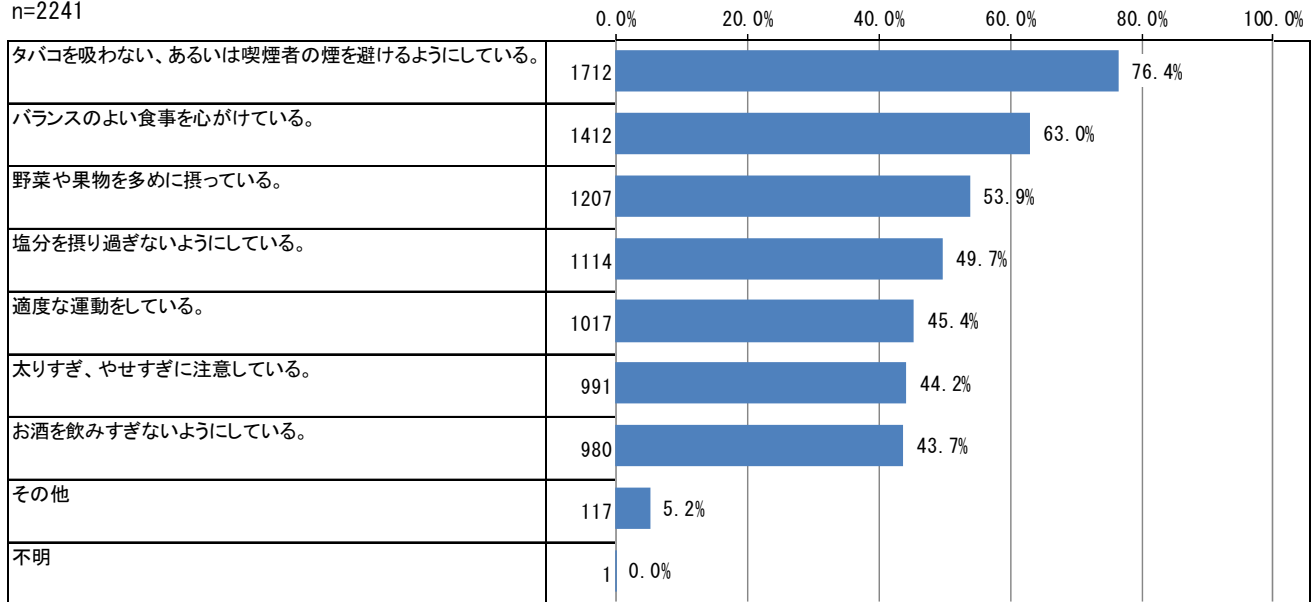
- ・がん予防のために日頃心掛けていていることについて、全体の約6割が「ある」と回答している。
- ・男女別では女性が61.4%と男性の52.6%に比べ「ある」割合が高く、年齢層が高くなるほど高くなる傾向がある。



（問6で「ある」と答えた方）ある場合、それはどのようなことですか【複数回答】

- ・喫煙に関する心がけは76.4%の人が行っており、20代女性では92.0%が喫煙を避けている。
- ・「バランスのよい食事」「塩分」「野菜や果物の摂取」と言った食生活に関する心がけは、男女ともに年齢層が高くなるほど心がける人の割合が高くなっている。

n=2241



性年代別表

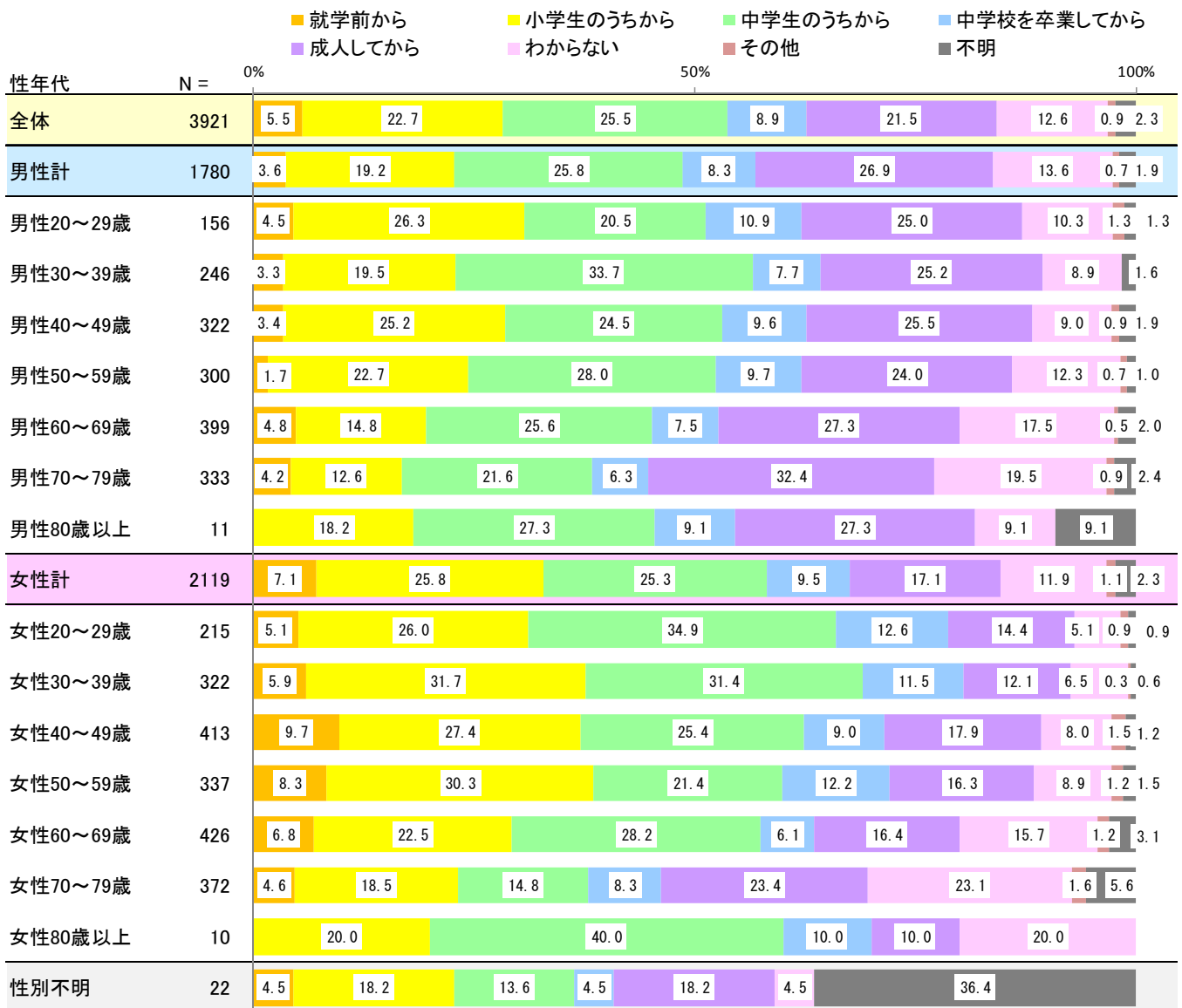
		調査数	よいタバコを吸わない、あるいは喫煙者の煙を避けるようにしている。	お酒を飲みすぎないようにしている。	バランスのよい食事を心がけている。	塩分を摂り過ぎないようにしている。	野菜や果物を多めに摂っている。	適度な運動をしている。	太りすぎ、やせすぎに注意している。	その他	不明
全体		2241	76.4	43.7	63.0	49.7	53.9	45.4	44.2	5.2	0.0
性年代	男性計	936	75.2	49.0	52.6	40.1	49.0	50.4	45.1	3.3	0.1
	男性20～29歳	65	72.3	47.7	40.0	21.5	29.2	43.1	41.5	3.1	0.0
	男性30～39歳	110	73.6	43.6	37.3	22.7	40.0	41.8	40.9	0.9	0.0
	男性40～49歳	152	71.7	45.4	48.0	28.9	44.1	38.2	39.5	1.3	0.0
	男性50～59歳	169	71.0	39.1	49.7	34.9	42.6	45.6	41.4	2.4	0.6
	男性60～69歳	228	76.3	52.2	57.5	50.9	56.6	56.6	46.1	3.5	0.0
	男性70～79歳	201	81.1	59.2	63.7	54.2	59.7	63.2	54.2	6.0	0.0
	男性80歳以上	6	83.3	50.0	83.3	83.3	83.3	66.7	50.0	16.7	0.0
	女性計	1301	77.2	39.8	70.5	56.5	57.2	41.6	43.5	6.6	0.0
	女性20～29歳	88	92.0	43.2	42.0	28.4	31.8	23.9	30.7	3.4	0.0
	女性30～39歳	173	82.7	40.5	63.0	37.0	39.9	21.4	37.6	5.2	0.0
	女性40～49歳	252	78.6	41.7	68.7	46.4	54.0	36.9	43.3	6.7	0.0
	女性50～59歳	232	75.4	42.2	72.8	54.7	55.6	40.9	44.0	7.3	0.0
	女性60～69歳	280	71.8	36.4	72.5	69.6	64.3	51.1	45.7	9.6	0.0
	女性70～79歳	256	73.0	35.5	82.4	76.6	74.6	56.3	48.8	4.3	0.0
	女性80歳以上	7	100.0	71.4	100.0	85.7	85.7	57.1	57.1	0.0	0.0
性別不明		4	75.0	75.0	75.0	100.0	100.0	100.0	75.0	0.0	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(2) がん予防の啓発時期

問7 がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるために、何歳ごろから啓発すべきだと思いますか？

- ・啓発時期について、全体の約半数(48.2%)が「小学校」、「中学校」を合わせた義務教育期間となっており、「成人してから」の回答が21.5%で続いている。
- ・年代別に見ると男女とも年代が若くなるほど義務教育期間の割合が高くなっている。

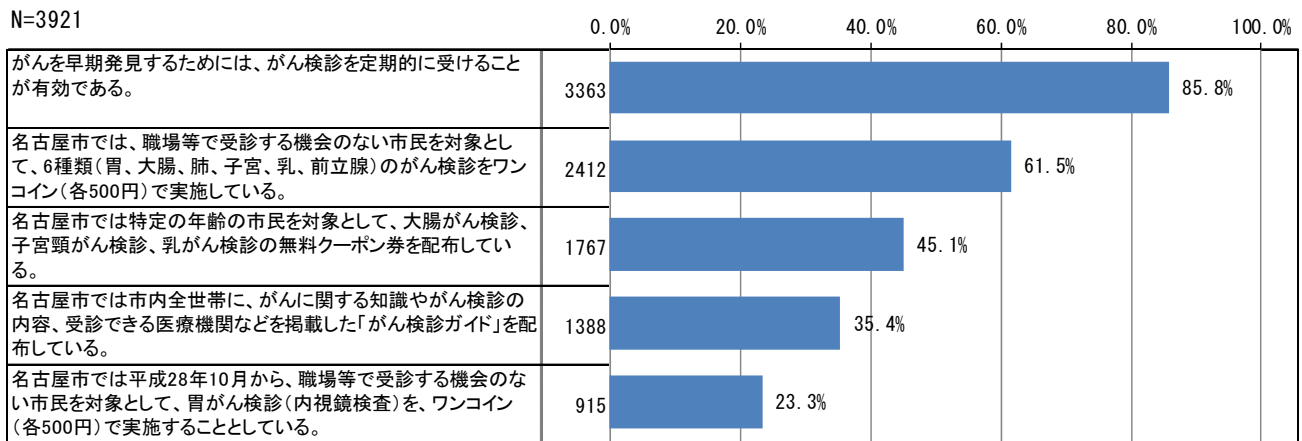


4:がん検診について

(1) がん検診に対する知識

問8 がん検診について知っていることを教えてください。【複数回答】

- ・名古屋市で行っているがん検診施策の認知において「ワンコイン検診の実施」(61.5%)、「検診無料クーポン券配布」(45.1%)と比べ、「がん検診ガイドの配布」は35.4%と低い。
- ・「ワンコイン検診の実施」、「検診無料クーポン券配布」、「がん検診ガイドの配布」の認知は男性よりも女性の方が高い。
- ・がん検診の有効性は男女ともに8割以上が認知している。



性年代別表

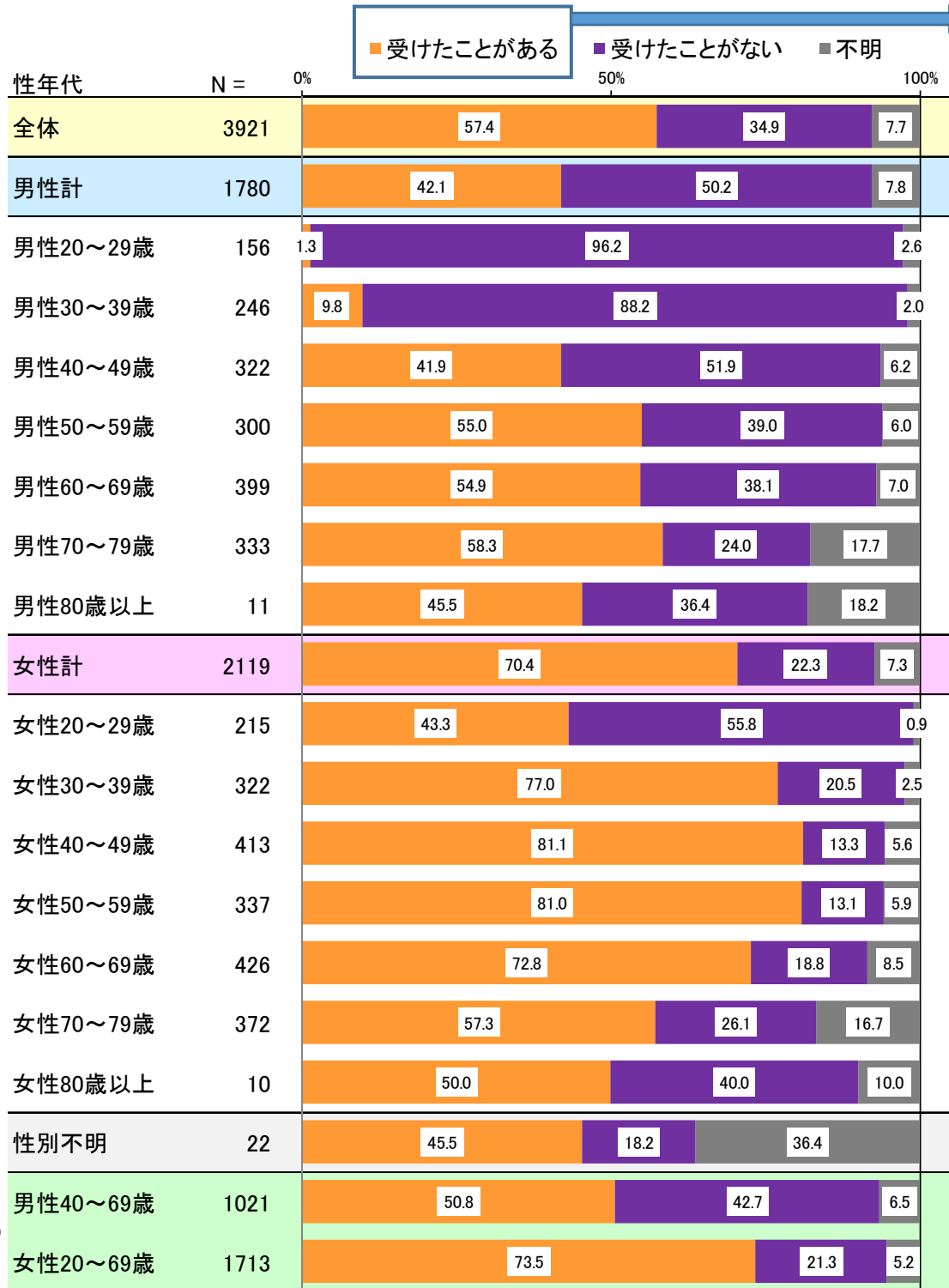
	調査数	1番高い数値	2番目の数値	3番目の数値	4番目の数値	5番目の数値	不明
全体	3921	85.8	61.5	23.3	35.4	45.1	4.3
男性計	1780	84.7	48.9	21.5	22.9	25.3	5.6
男性20～29歳	156	88.5	16.7	5.8	7.7	7.7	8.3
男性30～39歳	246	88.2	22.0	6.9	7.3	13.4	6.1
男性40～49歳	322	86.6	46.3	15.8	13.7	32.3	5.9
男性50～59歳	300	86.7	54.0	26.7	25.0	38.0	4.0
男性60～69歳	399	84.7	64.2	25.8	31.6	27.3	3.5
男性70～79歳	333	78.1	64.0	35.4	37.5	21.6	6.3
男性80歳以上	11	54.5	45.5	18.2	36.4	9.1	27.3
女性計	2119	86.9	72.3	25.0	46.0	61.9	3.0
女性20～29歳	215	93.0	39.1	7.9	17.7	50.2	2.8
女性30～39歳	322	91.3	62.1	6.5	32.6	73.9	2.5
女性40～49歳	413	89.1	78.9	19.9	49.2	76.5	1.7
女性50～59歳	337	89.6	81.9	27.3	50.4	77.4	2.7
女性60～69歳	426	83.6	83.8	40.8	56.8	57.5	2.6
女性70～79歳	372	79.3	71.8	36.8	54.6	34.7	5.4
女性80歳以上	10	70.0	70.0	40.0	40.0	10.0	10.0
性別不明	22	59.1	40.9	9.1	22.7	27.3	36.4

1番高い数値 2番目の数値

(2) がん検診の受診経験

問9 あなたは今までに、がん検診を受けたことがありますか？

- ・がん検診の受診経験は、全体で「受けたことがある」57.4%と半数以上が受診している。
- ・がん検診の受診経験は男性（42.1%）よりも女性（70.4%）の方が高くなっている。

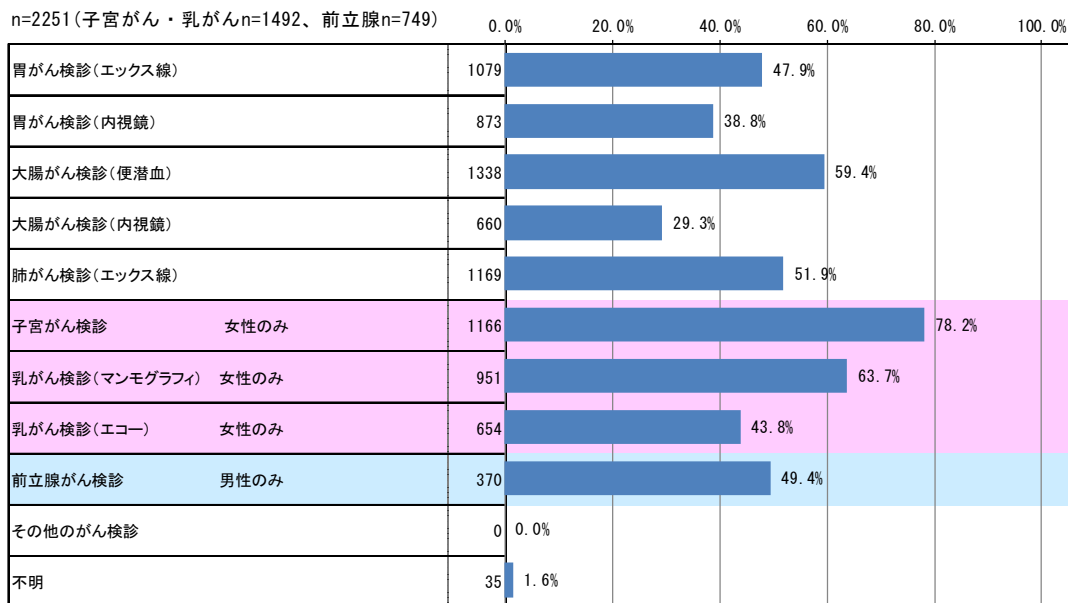


(再掲)

(3) 今までに受診したがん検診の種類

(問9で受けたことがある」と回答の方) 今までに受けたがん検診【複数回答】

- ・今までに受診したがん検診の種類としては「子宮がん」や「乳がん(マンモグラフィ)」といった女性に関係するがんの検診の受診経験の割合が高い。



性年代別表

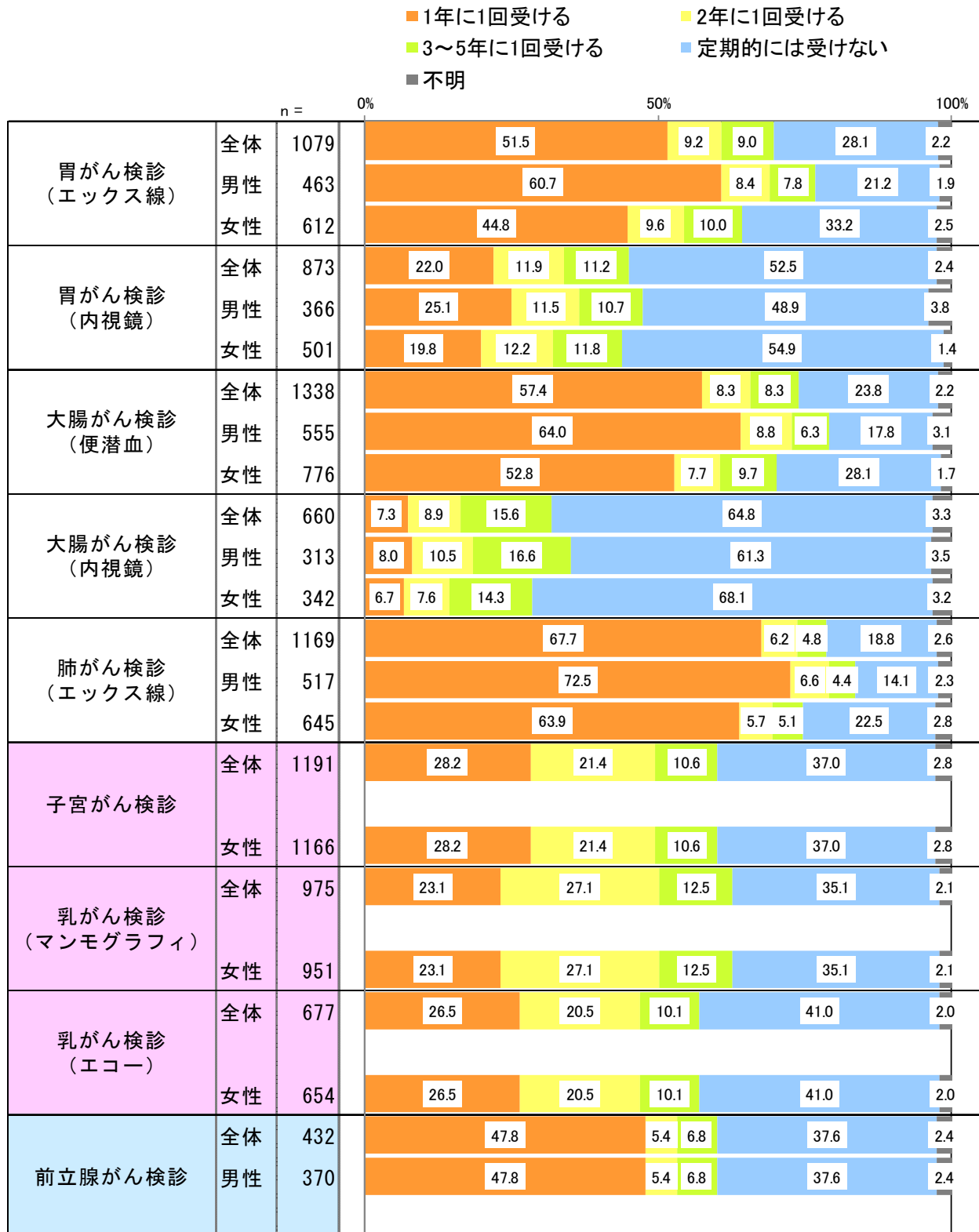
		調査数	胃がん検診(エックス線)	胃がん検診(内視鏡)	大腸がん検診(便潜血)	大腸がん検診(内視鏡)	肺がん検診(エックス線)	子宮がん検診	乳がん検診(マンモグラフィ)	乳がん検診(エコー)	前立腺がん検診	その他のがん検診	不明
								女性のみ			男性のみ		
全体		2251	47.9	38.8	59.4	29.3	51.9	78.2	63.7	43.8	49.4	0.0	1.6
性年代	男性計	749	61.8	48.9	74.1	41.8	69.0	0.0	0.0	0.0	49.4	0.0	1.6
	男性20～29歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性30～39歳	24	41.7	25.0	45.8	25.0	58.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	12.5
	男性40～49歳	135	74.8	39.3	82.2	31.9	71.1	0.0	0.0	0.0	27.4	0.0	0.7
	男性50～59歳	165	70.9	45.5	82.4	35.2	72.1	0.0	0.0	0.0	43.6	0.0	0.6
	男性60～69歳	219	60.7	54.3	73.1	47.0	71.2	0.0	0.0	0.0	56.2	0.0	1.8
	男性70～79歳	194	48.5	56.2	66.0	50.5	64.4	0.0	0.0	0.0	67.0	0.0	1.5
	男性80歳以上	5	60.0	40.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	女性計	1492	41.0	33.6	52.0	22.9	43.2	78.2	63.7	43.8	0.0	0.0	1.4
	女性20～29歳	93	5.4	2.2	2.2	0.0	6.5	86.0	12.9	14.0	0.0	0.0	6.5
	女性30～39歳	248	10.5	9.7	11.3	6.5	9.7	90.7	34.3	40.3	0.0	0.0	4.0
	女性40～49歳	335	43.6	26.3	57.9	19.1	44.2	86.9	81.5	60.3	0.0	0.0	0.0
	女性50～59歳	273	52.4	39.2	63.4	24.2	55.3	82.1	86.1	52.7	0.0	0.0	0.4
	女性60～69歳	310	57.1	48.4	71.3	35.5	60.6	65.2	70.6	36.5	0.0	0.0	1.0
	女性70～79歳	213	48.4	58.7	69.0	38.0	55.4	58.7	54.9	34.7	0.0	0.0	0.5
	女性80歳以上	5	100.0	40.0	80.0	60.0	60.0	80.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
性別不明		10	40.0	60.0	70.0	50.0	70.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

1番高い数値

2番目の数値

各がん検診の受診頻度

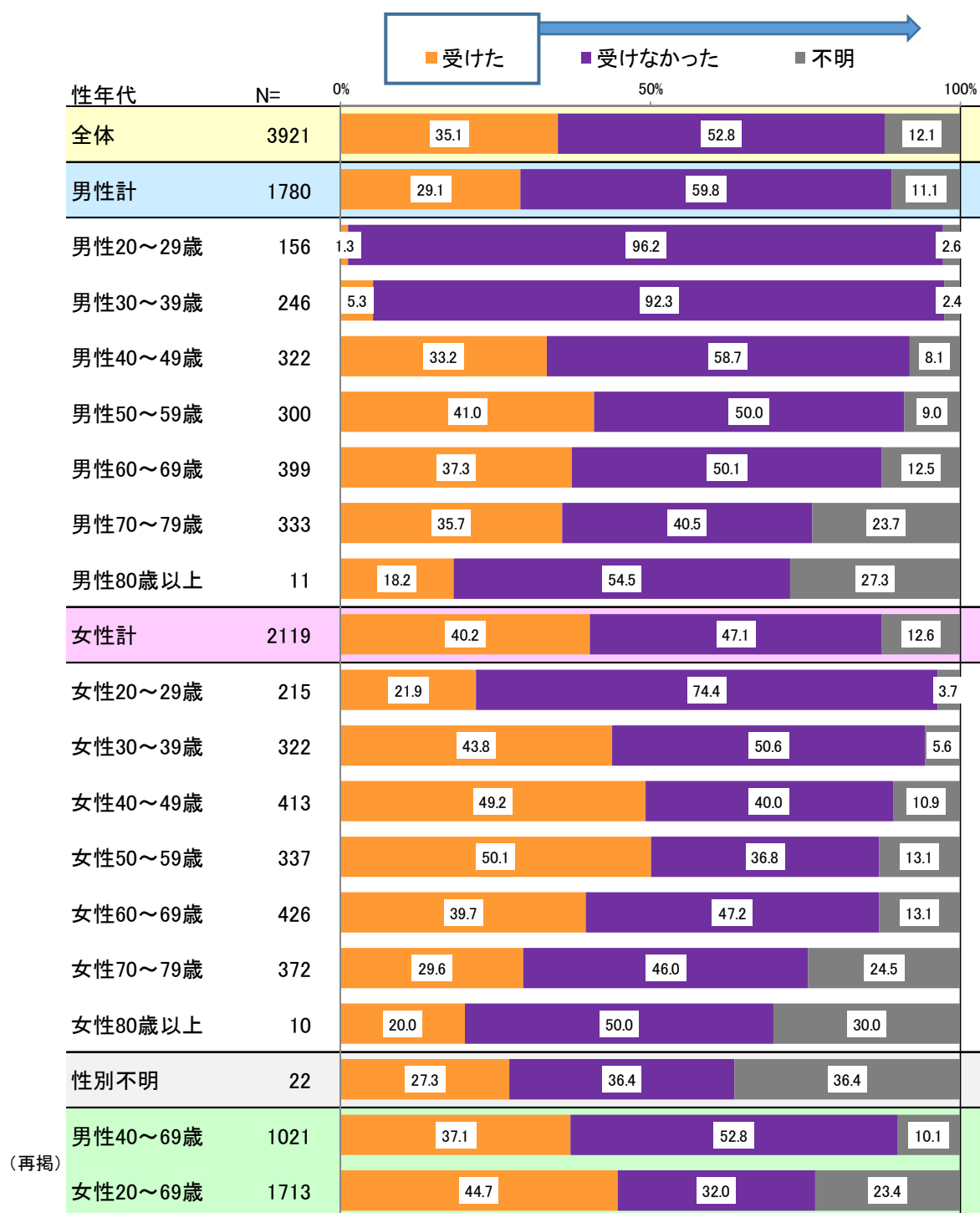
- ・「胃がん（エックス線）」、「大腸がん（便潜血）」、「肺がん（エックス線）」の各検診は半数以上が毎年検診を受けている。



(4) 昨年度のがん検診受診状況

問 10 あなたは昨年度(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)にがん検診を受けましたか

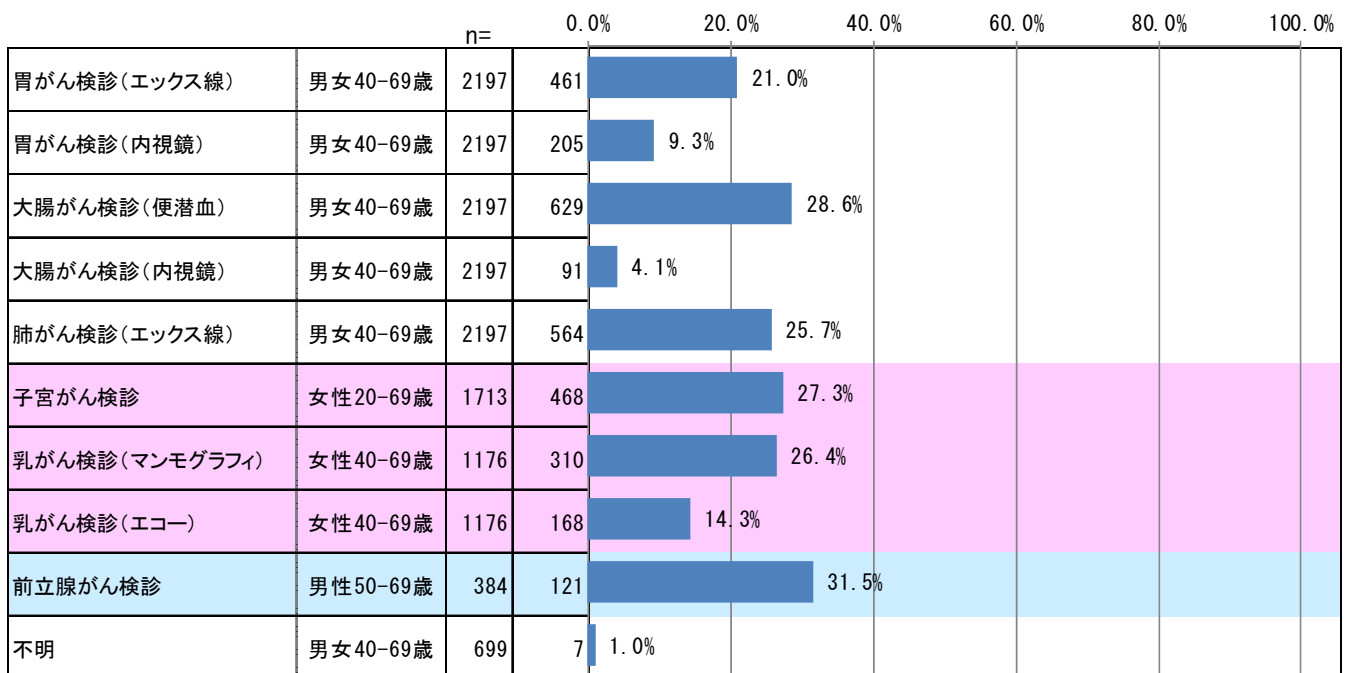
- ・昨年度がん検診を受診したのは全体の 35.1%で、男性 (29.1%) より女性 (40.2%) の方が受診した割合が高い。



（問１０で受けたことがある」と回答の方）昨年度受けたがん検診【複数回答】

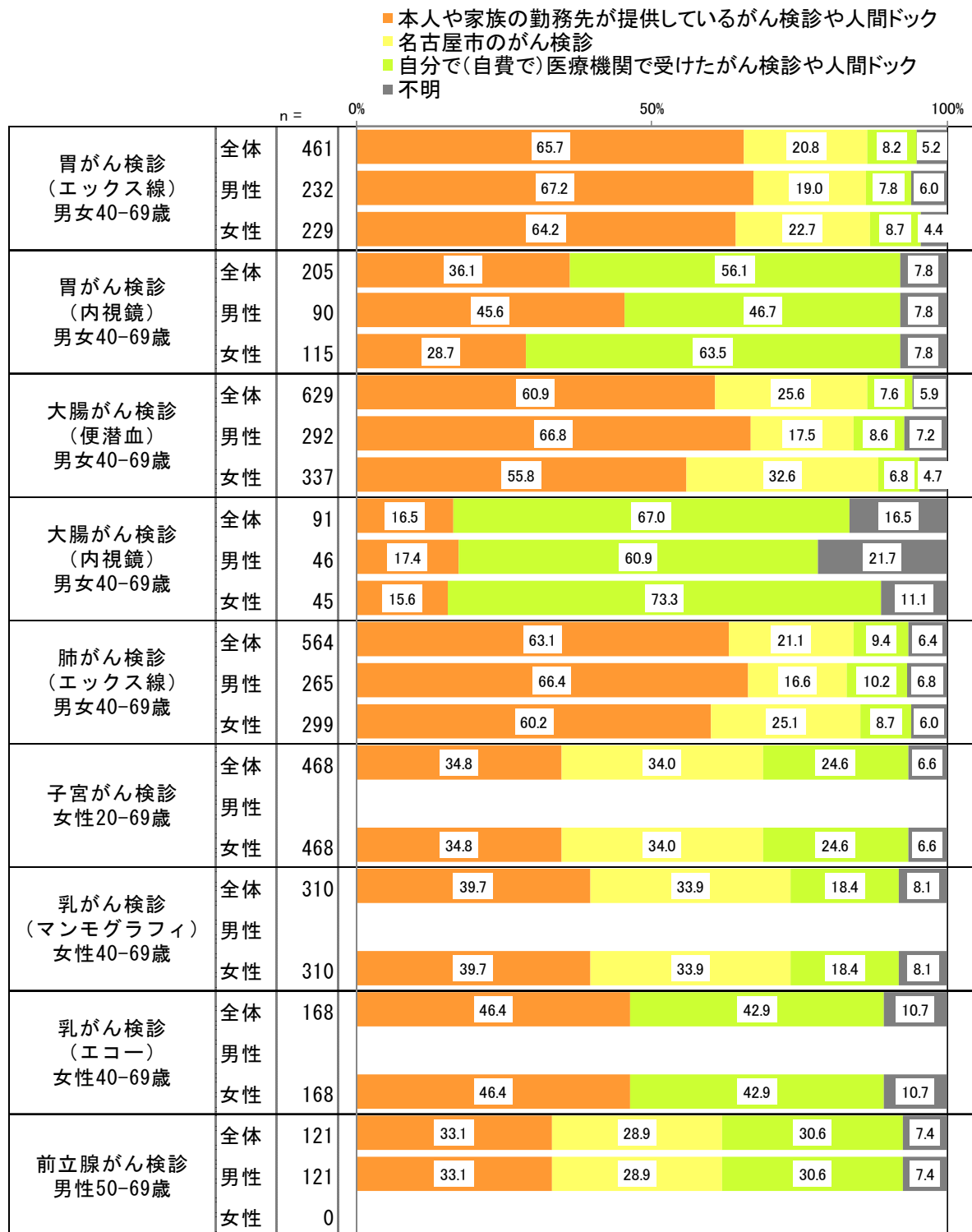
- ・昨年度の各がん検診について、受診対象者の受診率は、前立腺がんが 31.5%と最も高く、胃がん（エックス線）、大腸がん（便潜血）、肺がん（エックス線）、子宮がん、乳がん（マンモグラフィ）といった、ワンコイン検診やクーポン配布など名古屋市が受診支援しているがん検診は 2～3 割の受診率であった。

昨年度の各がん検診の受診率（母数：受診対象の性年齢全体）



各がん検診の種類

- ・「胃がん（エックス線）」や「大腸がん（便潜血）」、「肺がん（エックス線）」といった受診率が高いがん検診は、「勤務先の提供しているがん検診や人間ドック」で受けるのが半数以上かつ、名古屋市でも検診を受けている。
- ・「胃がん（内視鏡）」や「大腸がん（内視鏡）」といった内視鏡の検診は勤務先の提供が少ない上、名古屋市でも実施していないため、半数以上が自費での受診をしている。

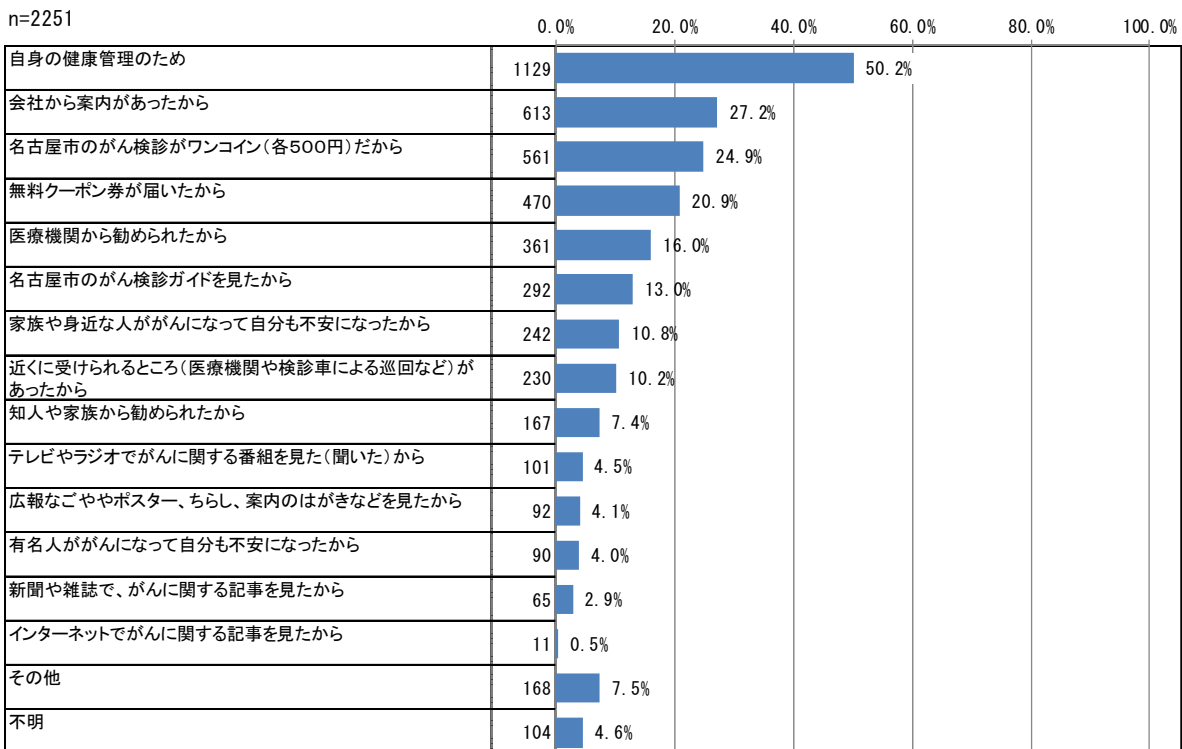


(5) がん検診受診のきっかけ

(問9で「受けたことがある」と回答の方)

問11 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。【複数回答】

- ・がん検診の受診のきっかけとして、「健康管理」が50.2%で最も高い。
- ・性別で見ると「健康管理」に続き、女性は「クーポン」、「ワンコイン」、男性は「会社からの案内」、「ワンコイン」の順に多い。
- ・「有名人」、「テレビやラジオ」、「新聞や雑誌」などのマスコミの影響は少ない。



性年代別表

	調査数	自身の健康管理のため	名古屋市のがん検診ガイドを見たから	ワンコイン(各500円)だから	無料クーポン券が届いたから	はがきなどを見たから	タレント、有名人、政治家、スポーツ選手など、案内の	あつたから	近くに受けられるところ(医療機関や検診車による巡回など)があったから	知人や家族から勧められたから	医療機関から勧められたから	会社から案内があったから	自分もがんになったから	有名人ががんになったから	家族や身近な人ががんになったから	テレビやラジオでがんに関する番組を見た(聞いた)から	新聞や雑誌で、がんに関する記事を見たから	らにインターネットを見たから	その他	不明
全体	2251	50.2	13.0	24.9	20.9	4.1	10.2	7.4	16.0	27.2	4.0	10.8	4.5	2.9	0.5	7.5	4.6			
男性計	749	49.5	12.3	20.3	7.2	3.3	7.9	5.3	16.4	35.2	1.1	7.7	2.4	2.0	0.5	6.1	5.6			
男性20～29歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0			
男性30～39歳	24	25.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	12.5	4.2	54.2	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2			
男性40～49歳	135	45.2	5.2	12.6	9.6	0.7	4.4	6.7	4.4	57.8	0.7	8.9	0.7	1.5	0.7	5.2	5.2			
男性50～59歳	165	50.3	7.3	12.1	6.7	1.2	2.4	3.6	8.5	52.1	0.6	7.3	1.8	0.6	0.0	7.3	2.4			
男性60～69歳	219	52.1	14.6	26.9	5.5	5.0	10.0	6.4	20.1	29.2	0.9	6.4	2.3	1.8	0.9	5.5	6.4			
男性70～79歳	194	52.6	20.1	27.3	9.3	5.7	13.9	4.1	28.9	9.8	1.5	8.8	3.6	3.1	0.0	5.2	7.7			
男性80歳以上	5	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0			
女性計	1492	50.3	13.4	27.3	27.8	4.4	11.5	8.5	15.8	23.3	5.5	12.3	5.6	3.4	0.5	8.2	4.0			
女性20～29歳	93	35.5	4.3	22.6	35.5	2.2	7.5	11.8	21.5	15.1	2.2	7.5	2.2	1.1	1.1	9.7	4.3			
女性30～39歳	248	41.1	3.2	16.1	36.3	1.2	7.7	6.5	15.3	22.2	9.7	9.7	5.2	1.6	0.0	15.7	2.0			
女性40～49歳	335	57.0	11.3	29.6	34.9	1.5	7.5	11.3	11.6	34.6	10.4	10.4	4.5	2.7	0.9	6.0	2.4			
女性50～59歳	273	53.8	15.8	30.0	33.3	3.7	11.4	9.2	13.6	33.3	4.0	12.8	6.2	3.3	0.4	7.7	2.6			
女性60～69歳	310	50.0	15.5	35.5	19.4	8.7	16.8	10.0	16.8	18.7	1.3	16.8	5.5	3.9	0.0	7.1	5.8			
女性70～79歳	213	53.1	27.2	24.9	9.4	8.0	16.9	2.3	21.1	5.2	2.3	14.6	8.5	5.6	0.5	5.2	8.5			
女性80歳以上	5	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
性別不明	10	70.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0			

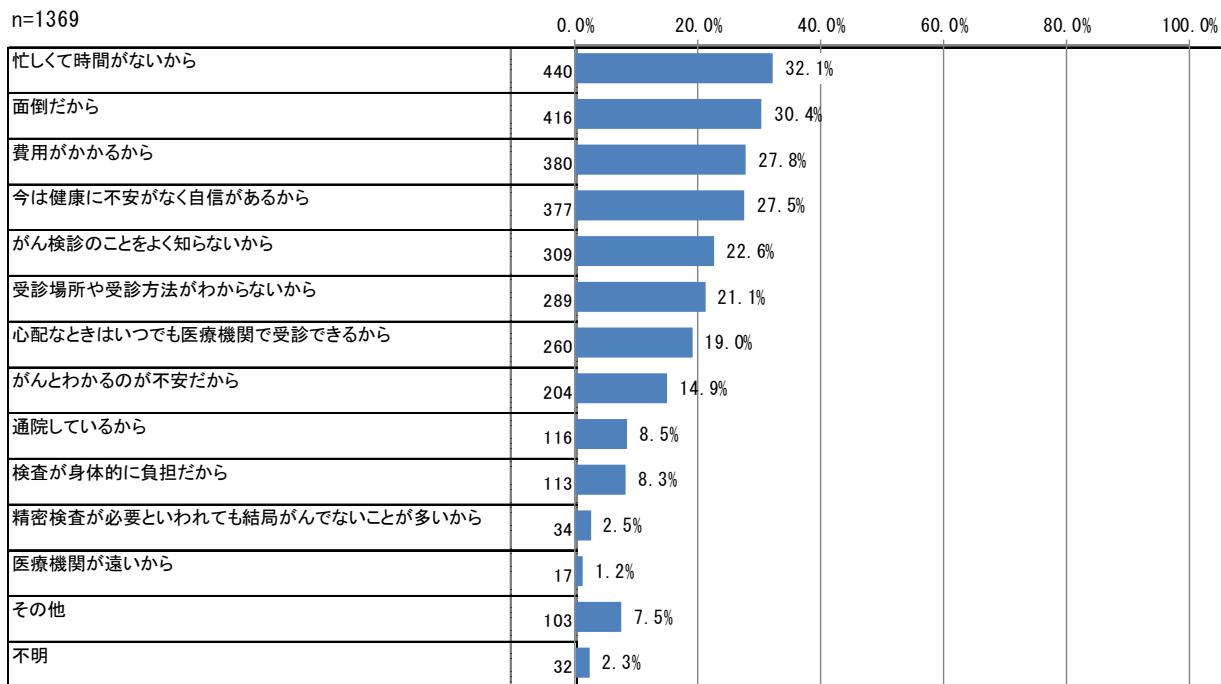
1番高い数値 2番目の数値

(6) がん検診を受診しない理由

(問9で「受けたことがない」と回答の方)

問12 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。【3MA】

- ・がん検診を受診しない理由としては「忙しい」(32.1%)、「面倒」(30.4%)、「費用がかかる」(27.8%)「健康に自信がある」(27.5%)が挙げられている。
- ・20代女性は「がん検診のことをよく知らない」、「受診方法がわからない」が高い。



性年代別表

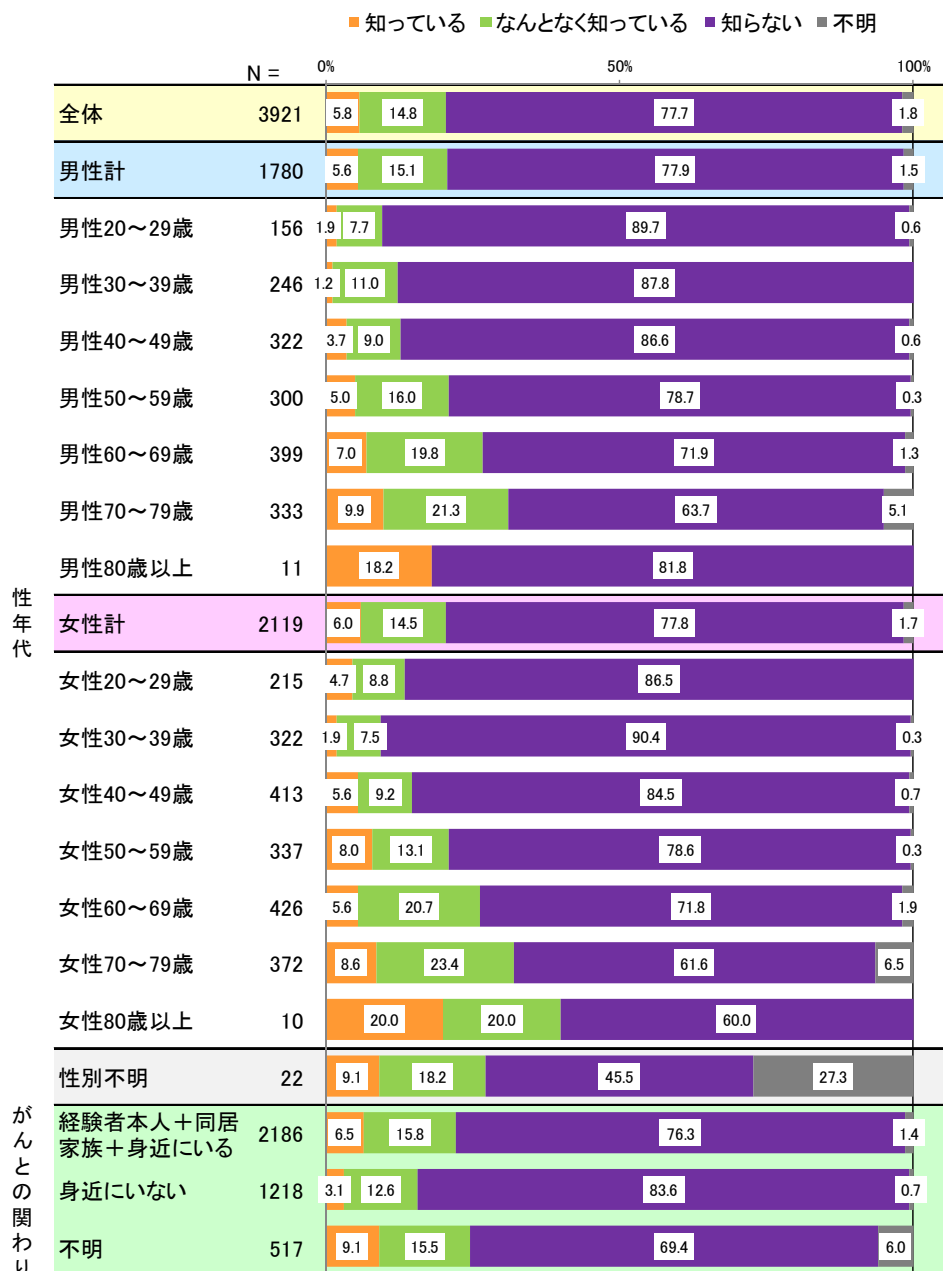
																%
	調査数	ら 忙しくて時間がないから	費用がかかるから	今は健康に不安がなく自信があるから	がんとかわかるのが不安だから	面倒だから	検査が身体的に負担だから	通院しているから	医療機関で受診できるから	心配なときはいつでも医療機関で受診できるから	精密検査が必要といわれても結局がんでないことが多いから	医療機関が遠いから	受診場所や受診方法がわからないから	がん検診のことをよく知らないから	その他	不明
全体	1369	32.1	27.8	27.5	14.9	30.4	8.3	8.5	19.0	2.5	1.2	21.1	22.6	7.5	2.3	
性年代	男性計	893	35.5	30.0	28.7	12.4	33.4	5.7	6.7	16.0	2.6	0.9	22.6	25.1	7.5	2.0
	男性20～29歳	150	29.3	22.7	36.0	4.0	37.3	1.3	0.7	8.7	0.7	0.7	29.3	36.0	8.0	2.0
	男性30～39歳	217	41.9	38.7	24.4	8.3	33.2	4.1	1.4	10.1	2.3	0.5	32.3	34.1	10.1	0.5
	男性40～49歳	167	51.5	38.3	19.8	14.4	29.3	6.6	1.8	10.2	0.6	2.4	20.4	21.0	7.8	3.0
	男性50～59歳	117	37.6	38.5	22.2	17.9	32.5	8.5	12.0	21.4	4.3	0.9	18.8	22.2	5.1	2.6
	男性60～69歳	152	27.0	22.4	30.3	20.4	36.2	9.2	13.8	25.0	3.3	0.7	15.8	15.1	3.3	1.3
	男性70～79歳	80	12.5	5.0	50.0	13.8	33.8	3.8	21.3	35.0	7.5	0.0	8.8	11.3	8.8	5.0
	男性80歳以上	4	0.0	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	女性計	472	25.8	23.5	25.0	19.7	25.0	12.9	11.9	24.4	2.3	1.9	18.4	17.8	7.6	3.0
	女性20～29歳	120	33.3	35.8	26.7	12.5	34.2	8.3	0.0	11.7	0.0	0.8	36.7	37.5	7.5	1.7
	女性30～39歳	66	33.3	34.8	13.6	15.2	33.3	9.1	0.0	7.6	1.5	6.1	28.8	25.8	3.0	3.0
	女性40～49歳	55	49.1	20.0	18.2	25.5	40.0	9.1	3.6	10.9	5.5	3.6	18.2	10.9	9.1	1.8
	女性50～59歳	44	20.5	15.9	20.5	27.3	6.8	27.3	11.4	25.0	4.5	4.5	9.1	4.5	11.4	4.5
	女性60～69歳	80	12.5	21.3	20.0	21.3	17.5	13.8	27.5	36.3	5.0	0.0	3.8	5.0	12.5	5.0
	女性70～79歳	97	10.3	8.2	40.2	23.7	13.4	16.5	27.8	48.5	0.0	0.0	5.2	9.3	5.2	3.1
	女性80歳以上	4	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
性別不明	4	25.0	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		1番高い数値		2番目の数値												

5:がんの情報について

(1) がん拠点病院の相談支援センターについて

問 1 3 「がん診療拠点病院」には、がんについての様々な相談に応じるための「相談支援センター」があり、どなたでも無料で相談できることを、あなたは知っていますか？

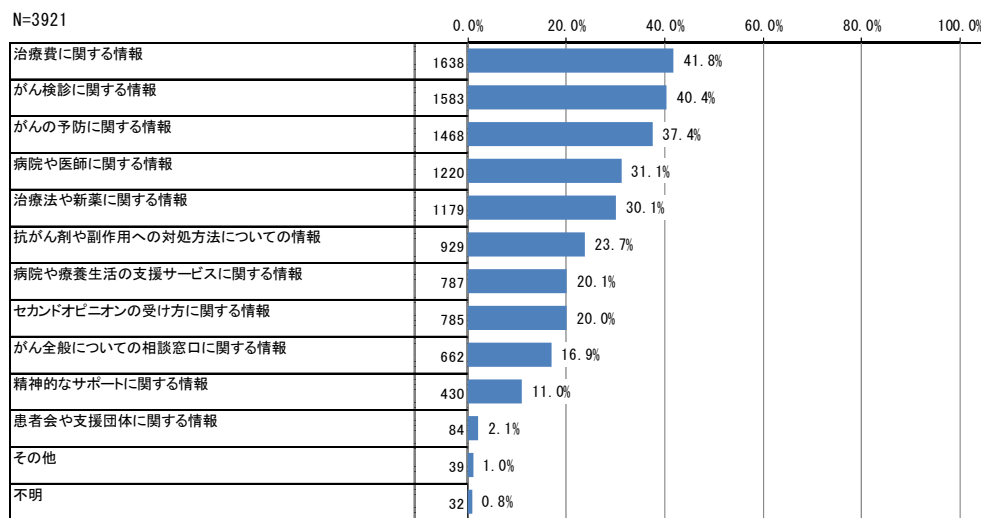
- ・がん診療拠点病院の相談支援センターの認知度については、全体で 77.7%が「知らない」としており、若い年代ほど「知らない」割合が高い。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも 76.3%が「知らない」としている。



(2) がんやがん治療で必要な情報

問14 あなたは、がんや、がんの治療について、どのような情報が必要だと思いますか？
【複数回答】

- ・がんやがん治療で必要な情報については、全体で「治療費」(41.8%)、「がん検診」(40.4%)、「がん予防」(37.4%)の順となっている。
- ・男性は「がん検診」(46.5%)、「がん予防」(43.3%)、「治療費」(42.4%)の順に高く、女性は「治療費」(41.5%)、「がん検診」(35.3%)、「がん予防」(32.6%)の順となっている。



性年代別表

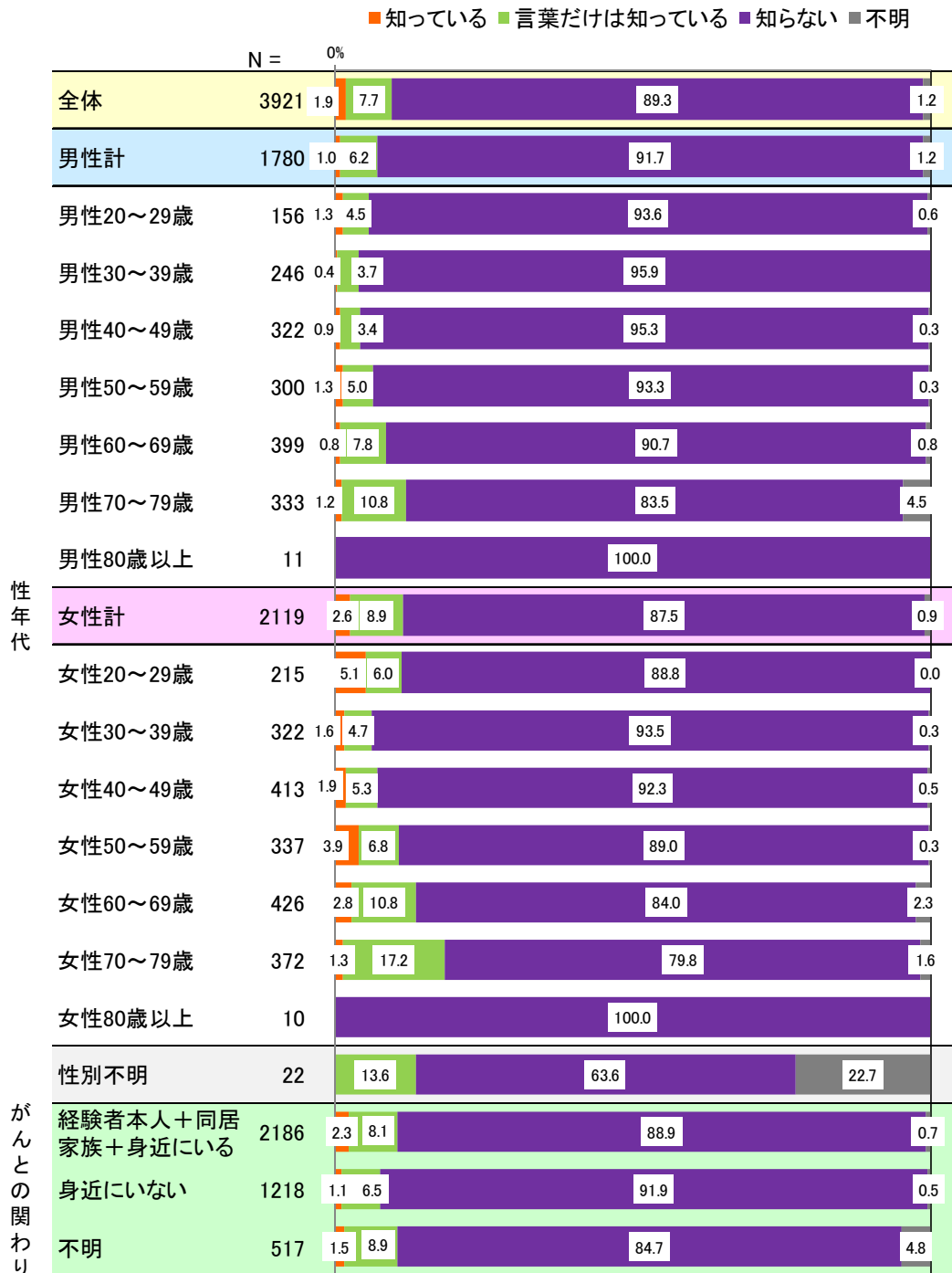
		調査数	がんの予防に関する情報	がん検診に関する情報	病院や医師に関する情報	セカンドオピニオンの受け方に関する情報	治療法や新薬に関する情報	抗がん剤や副作用への対処方法についての情報	治療費に関する情報	病院や療養生活の支援サービスに関する情報	精神的なサポートに関する情報	患者会や支援団体に関する情報	がん全般についての相談窓口に関する情報	その他	不明
全体		3921	37.4	40.4	31.1	20.0	30.1	23.7	41.8	20.1	11.0	2.1	16.9	1.0	3.9
性年代	男性計	1780	43.3	46.5	29.7	16.3	28.2	21.2	42.4	15.7	7.8	1.7	15.7	1.3	3.7
	男性20～29歳	156	58.3	60.9	21.8	5.1	26.3	19.9	42.9	14.7	7.1	1.9	16.7	2.6	1.9
	男性30～39歳	246	50.8	65.0	25.2	9.8	24.0	21.5	47.6	15.4	9.3	2.0	13.4	0.4	0.8
	男性40～49歳	322	48.1	46.6	31.4	15.2	28.6	21.7	50.3	17.4	9.3	0.9	15.2	2.2	1.2
	男性50～59歳	300	38.7	49.0	30.3	19.7	31.3	23.7	47.3	18.7	8.7	1.7	18.7	0.7	2.7
	男性60～69歳	399	37.8	38.6	30.3	22.8	34.3	20.8	35.8	15.0	7.3	1.3	14.3	1.8	3.5
	男性70～79歳	333	37.5	34.8	33.9	17.1	21.3	20.4	34.5	12.6	5.1	2.7	15.6	0.6	9.9
	男性80歳以上	11	45.5	27.3	54.5	9.1	18.2	9.1	36.4	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1
	女性計	2119	32.6	35.3	32.3	23.1	31.7	25.8	41.5	24.0	13.6	2.5	17.9	0.7	4.0
	女性20～29歳	215	54.4	65.1	22.3	9.8	27.9	22.8	49.8	15.3	10.7	2.3	13.5	0.5	1.4
	女性30～39歳	322	39.8	57.5	25.2	18.3	29.5	21.7	50.9	28.9	11.2	0.9	11.8	0.9	0.9
	女性40～49歳	413	27.6	34.6	33.9	22.3	38.5	26.6	48.2	28.6	15.3	3.4	17.2	0.7	0.7
	女性50～59歳	337	23.7	27.3	37.1	26.1	43.3	27.6	39.2	28.5	18.4	4.5	23.4	0.6	1.5
	女性60～69歳	426	28.2	21.8	34.7	31.0	27.5	25.8	38.3	23.2	13.1	2.6	21.1	1.2	4.5
	女性70～79歳	372	32.8	23.7	35.8	24.2	22.0	28.5	27.4	16.7	12.1	1.3	17.5	0.0	13.2
	女性80歳以上	10	50.0	30.0	30.0	10.0	40.0	30.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	性別不明	22	27.3	36.4	31.8	22.7	27.3	22.7	18.2	0.0	13.6	0.0	13.6	0.0	22.7
関わり	経験者本人＋同居家族＋身近にいる	2186	34.6	39.6	33.3	22.2	31.9	26.3	41.6	21.6	12.3	2.2	16.9	0.7	2.7
	身近にいない	1218	41.3	44.1	28.9	17.3	29.0	20.8	44.5	18.6	8.8	1.9	16.3	1.2	2.5
	不明	517	40.4	34.8	27.3	17.0	24.8	19.5	36.0	17.0	10.4	2.7	18.4	1.5	12.6

1番高い数値 2番目の数値

(3) がんのピアサポートについて

問15 あなたは、がんの「ピアサポート」を知っていますか？

- ・ピアサポートの認知度については全体の 89.3%が「知らない」としている。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも「知らない」が 88.9%と認知度が低い。



(4) ピアネットについて

問 16 あなたは、がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？

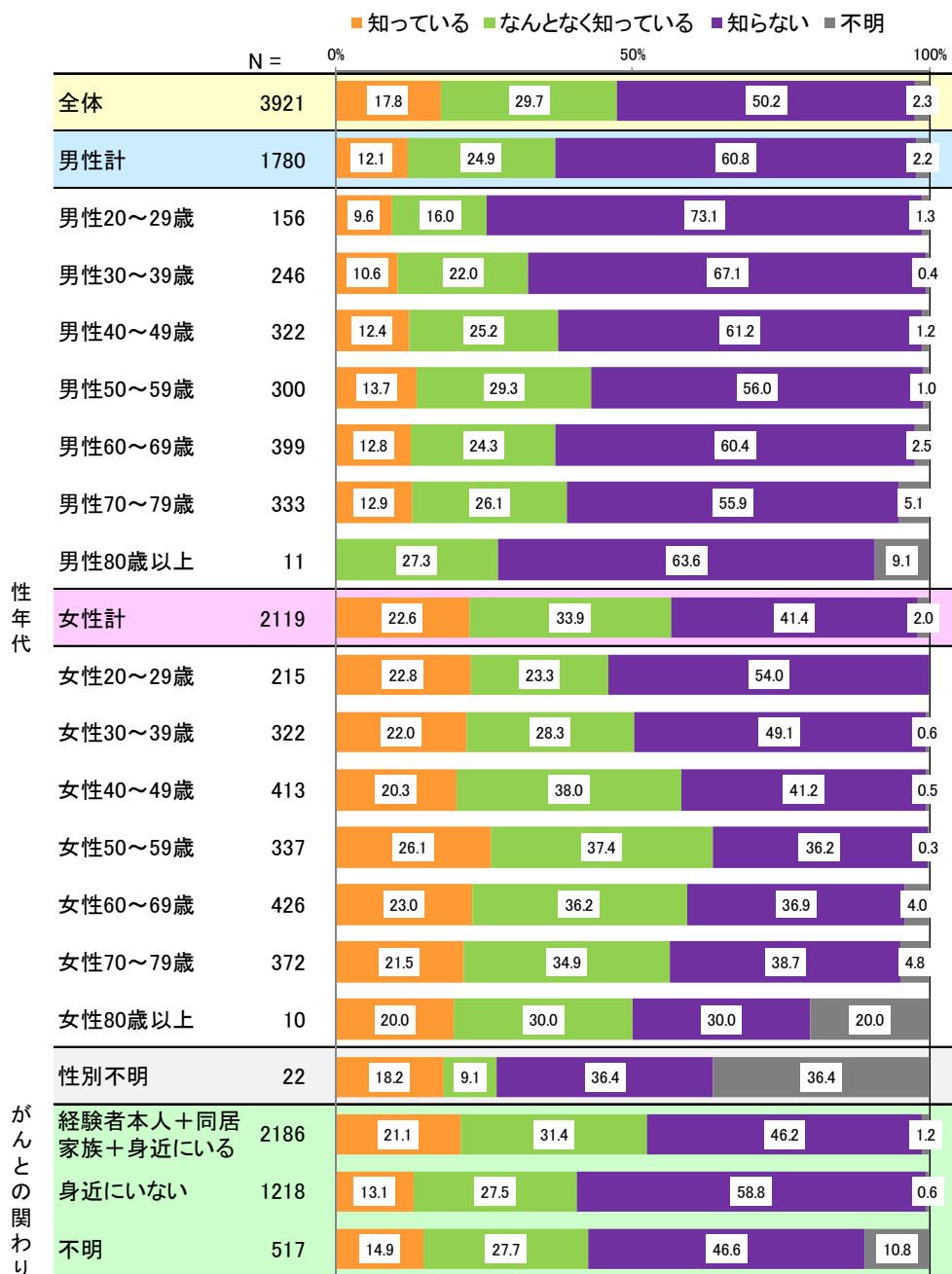
- ・ピアネットの認知度については全体の 91.9%が「知らない」としている。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人でも「知らない」が 91.9%と認知度が低い。



(5) 緩和ケアについて

問 17 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？

- ・緩和ケアについては全体で「知っている」、「なんとなく知っている」をあわせた認知度は47.5%だった。
- ・男性の認知度は37.0%と女性の56.5%とくらべて低い。
- ・がん経験者本人や身近にがん経験者がいる人の認知度は52.5%と約半数であった。

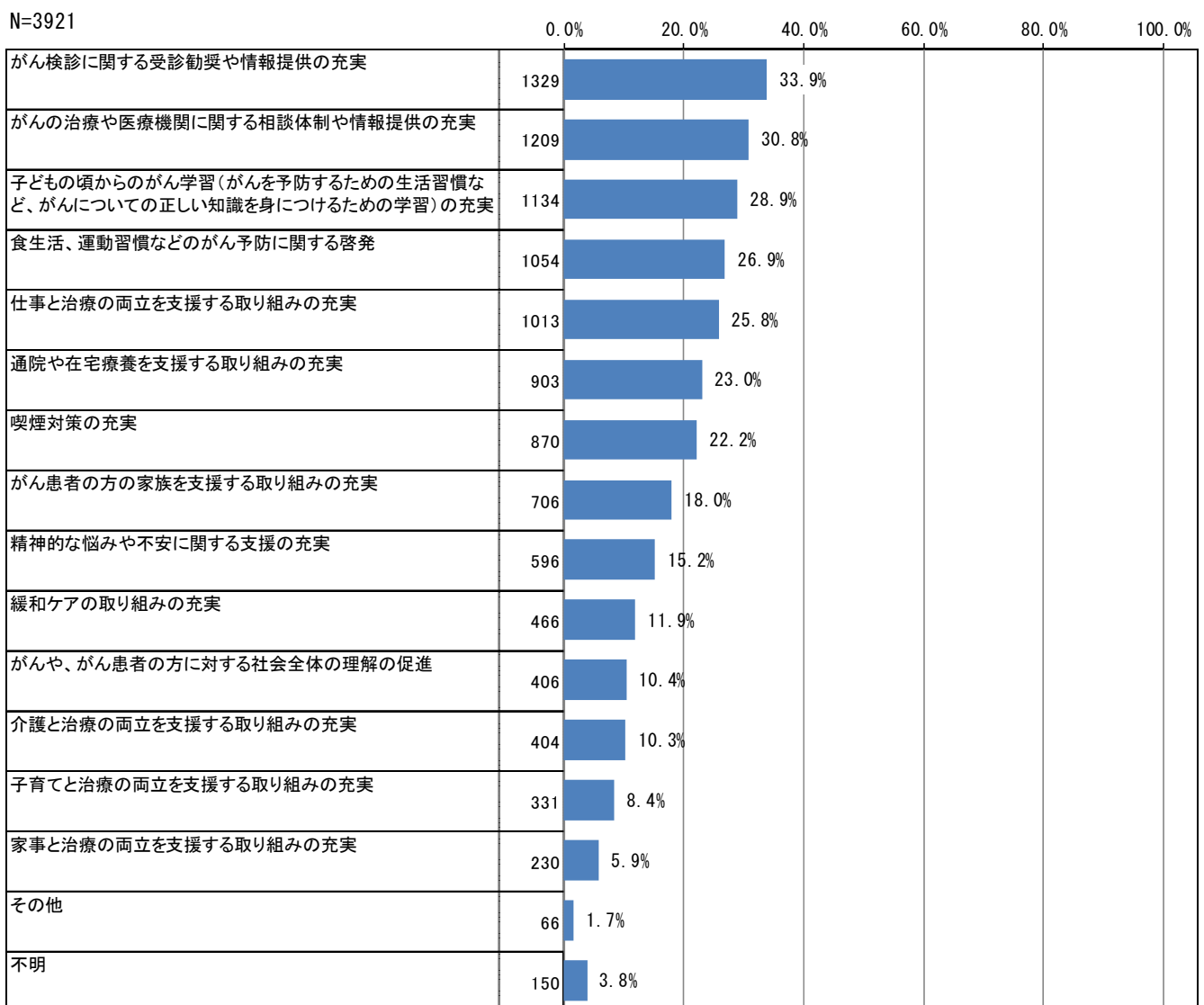


6: 名古屋市のがん対策について

問 18 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。

【3MA】

・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」が 33.9%と最も高く、次いで「がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実」(30.8%)、「子供の頃からのがん学習の充実」(28.9%)の順となっている。



・年代別に見ると20代～40代の若年層では「仕事と治療の両立」、「がん学習の充実」の割合が高い。

		調査数	発 生 生 活 、 運 動 習 慣 な ど の が ん 予 防 に 関 する 啓	子 ど も の 頃 か ら の が ん 学 習 へ が ん を 予 防 す る た め に つ け る た め の 学 習 の 充 実	喫 煙 対 策 の 充 実	が ん 検 診 に 関 する 受 診 勧 奨 や 情 報 提 供 の 充 実	が ん の 治 療 や 医 療 機 関 に 関 する 相 談 体 制 や 情 報 提 供 の 充 実	緩 和 ケ ア の 取 り 組 み の 充 実	精 神 的 な 悩 み や 不 安 に 関 する 支 援 の 充 実	通 院 や 在 宅 療 養 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	仕 事 と 治 療 の 両 立 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	実 子 育 て と 治 療 の 両 立 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	介 護 と 治 療 の 両 立 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	家 事 と 治 療 の 両 立 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	実 が ん 患 者 の 方 の 家 族 を 支 援 す る 取 り 組 み の 充 実	解 の 促 進 が ん や 、 が ん 患 者 の 方 に 対 する 社 会 全 体 の 理	そ の 他	不 明
全体		3921	26.9	28.9	22.2	33.9	30.8	11.9	15.2	23.0	25.8	8.4	10.3	5.9	18.0	10.4	1.7	3.8
性 年 代	男性計	1780	30.0	28.4	23.7	35.3	29.2	8.5	12.5	20.1	28.8	6.0	10.1	4.6	17.2	8.8	2.1	3.9
	男性20～29歳	156	30.1	42.9	23.7	39.7	21.8	8.3	11.5	15.4	35.3	7.1	1.9	0.6	16.0	14.7	3.2	1.3
	男性30～39歳	246	29.3	30.5	20.7	43.5	28.5	4.9	9.8	11.0	43.1	13.8	7.7	4.1	21.1	13.4	4.1	0.8
	男性40～49歳	322	25.2	30.1	20.8	34.5	24.5	7.8	14.3	21.1	43.8	9.9	7.1	7.5	20.2	8.4	3.7	1.9
	男性50～59歳	300	26.7	29.0	24.7	38.0	28.7	11.7	11.3	22.0	37.0	4.3	11.0	3.0	22.0	9.3	0.7	1.7
	男性60～69歳	399	33.3	24.6	25.6	33.1	35.8	9.5	13.3	22.6	17.0	2.0	12.5	4.0	12.3	4.3	1.5	5.0
	男性70～79歳	333	33.9	23.4	25.5	28.8	30.9	8.1	13.8	23.4	8.7	1.8	14.7	6.0	13.2	8.1	0.9	9.6
	男性80歳以上	11	36.4	9.1	18.2	36.4	18.2	18.2	9.1	27.3	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性計	2119	24.3	29.5	20.9	32.9	32.3	14.8	17.4	25.5	23.5	10.6	10.5	6.9	18.7	11.7	1.3	3.4
	女性20～29歳	215	28.4	36.7	29.8	51.2	24.2	8.4	12.1	12.1	30.2	16.3	4.7	3.7	14.9	14.0	2.3	2.3
	女性30～39歳	322	21.4	34.5	23.0	50.0	25.5	9.6	14.0	21.4	28.9	28.6	6.5	5.9	23.9	8.4	1.6	1.2
	女性40～49歳	413	21.3	31.0	17.4	33.4	33.2	12.6	17.2	27.1	33.2	13.6	8.2	8.5	22.8	14.8	1.9	1.0
	女性50～59歳	337	19.6	27.9	14.8	27.0	43.6	20.5	18.1	29.1	30.6	5.3	11.6	7.1	22.3	11.6	0.6	0.9
	女性60～69歳	426	25.8	25.8	19.0	24.9	35.4	19.0	21.6	32.9	13.1	3.1	13.4	6.8	15.7	13.4	1.2	4.7
	女性70～79歳	372	30.4	24.5	23.4	22.3	28.0	16.1	19.4	24.5	9.4	2.2	15.6	7.5	12.1	9.1	0.5	9.1
	女性80歳以上	10	50.0	40.0	30.0	30.0	20.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0
	性別不明	22	22.7	13.6	31.8	18.2	22.7	0.0	18.2	18.2	13.6	0.0	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	36.4
が ん と の 関 わ り	経験者本人＋同居家族＋身近にいる	2186	25.7	28.9	22.0	34.6	33.3	13.4	15.5	25.3	25.8	9.1	11.2	6.3	18.5	10.1	1.6	2.5
	身近にいない	1218	29.0	32.2	23.2	36.5	28.8	9.2	14.4	21.3	26.8	8.0	8.8	5.3	18.1	11.2	1.8	1.7
	不明	517	26.9	21.5	20.5	24.8	25.0	11.8	15.7	17.6	23.6	6.6	10.3	5.2	15.5	9.5	1.7	14.3
(再 掲) 年 代 (男 女 合 算)	20～29歳	371	29.1	39.4	27.2	46.4	23.2	8.4	11.9	13.5	32.3	12.4	3.5	2.4	15.4	14.3	2.7	1.9
	30～39歳	568	24.8	32.7	22.0	47.2	26.8	7.6	12.1	16.9	35.0	22.2	7.0	5.1	22.7	10.6	2.6	1.1
	40～49歳	735	23.0	30.6	18.9	33.9	29.4	10.5	15.9	24.5	37.8	12.0	7.8	8.0	21.6	12.0	2.7	1.4
	50～59歳	637	22.9	28.4	19.5	32.2	36.6	16.3	14.9	25.7	33.6	4.9	11.3	5.2	22.1	10.5	0.6	1.3
	60～69歳	825	29.5	25.2	22.2	28.8	35.6	14.4	17.6	27.9	15.0	2.5	13.0	5.5	14.1	9.0	1.3	4.8
	70～79歳	706	32.0	23.9	24.4	25.4	29.3	12.3	16.7	23.9	9.1	2.0	15.2	6.8	12.6	8.6	0.7	9.5
	80歳以上	21	42.9	23.8	23.8	33.3	19.0	9.5	9.5	14.3	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	9.5
	不明	58	20.7	24.1	36.2	19.0	29.3	5.2	10.3	19.0	22.4	5.2	12.1	8.6	24.1	5.2	1.7	17.2

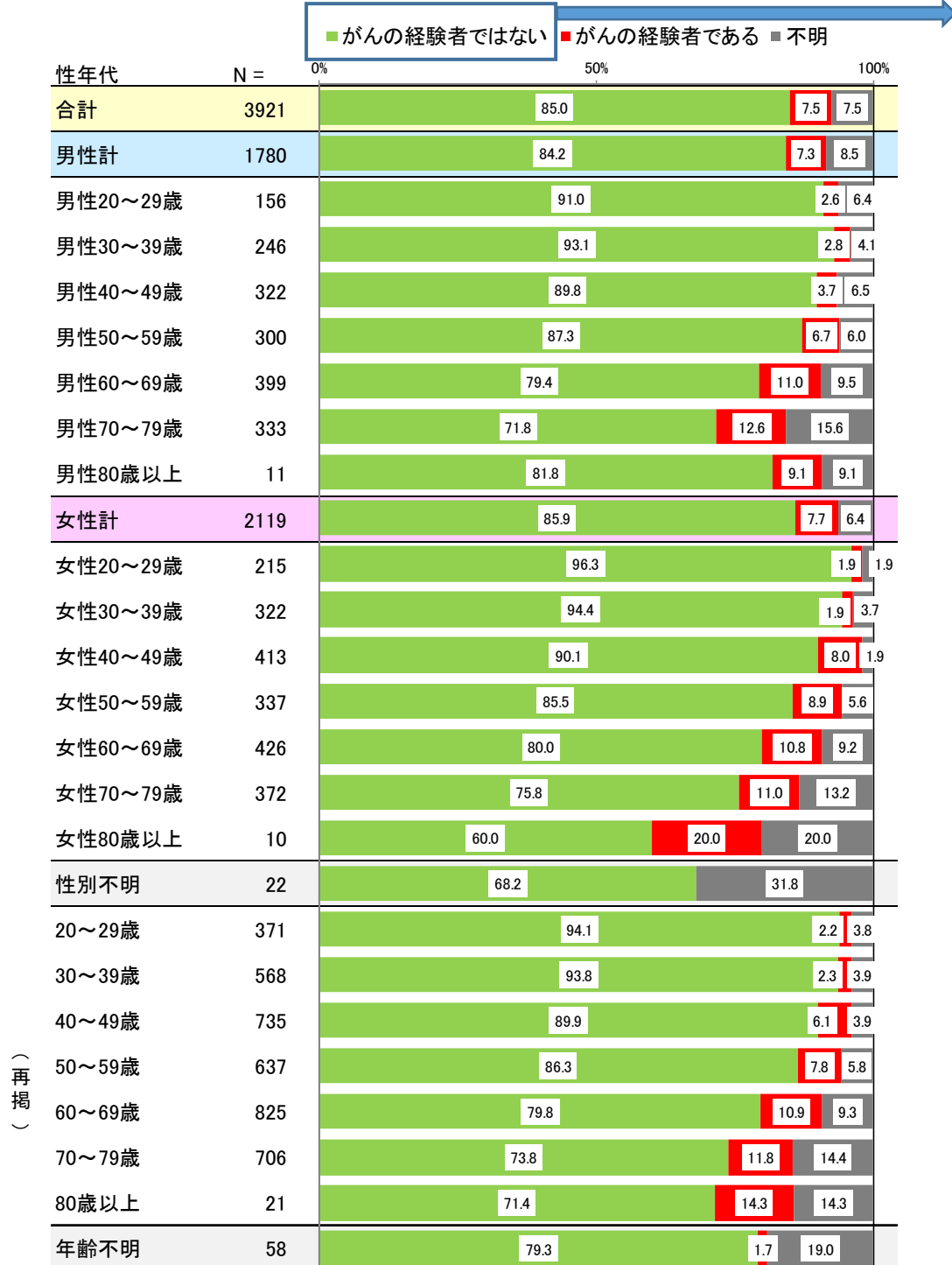
1番高い数値 2番目の数値 3番目の数値

7:がんの経験

(1) 本人のがん罹患経験

問 1 9 あなたの状況を教えてください。

・男女とも年齢が上がるにつれ、罹患経験が高くなる傾向にある。

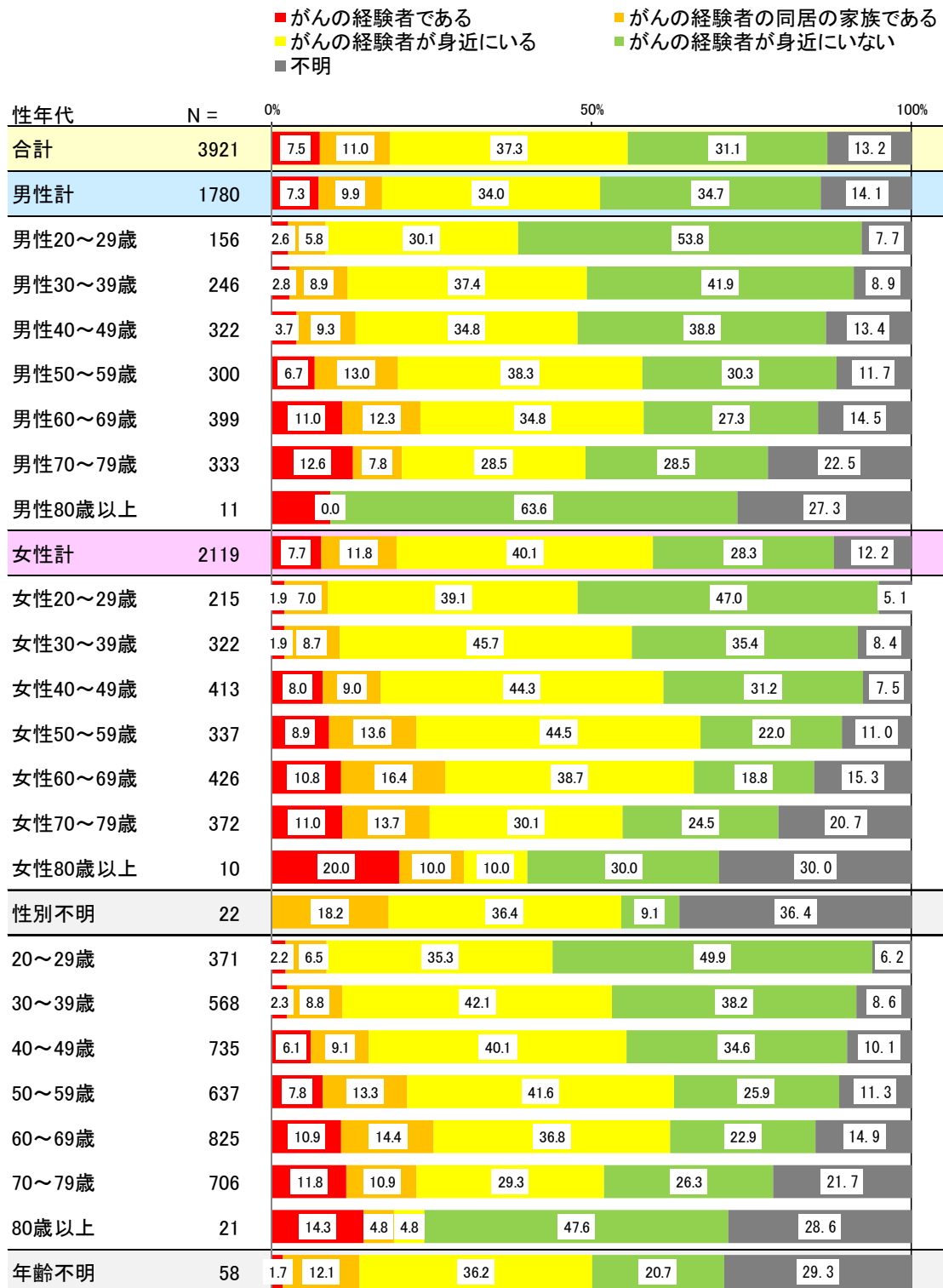


(2) 身近な人のがん罹患経験

(問19で「がんの経験者ではない」と回答した方)

がんの経験者ではない場合、身近にがんの経験者がいますか？

- ・「がん経験者」、「がん経験者の同居家族」、「がん経験者が身近にいる」をあわせた、がん経験が身近な人の割合は全体（3921人）の55.8%となった。



(再掲)

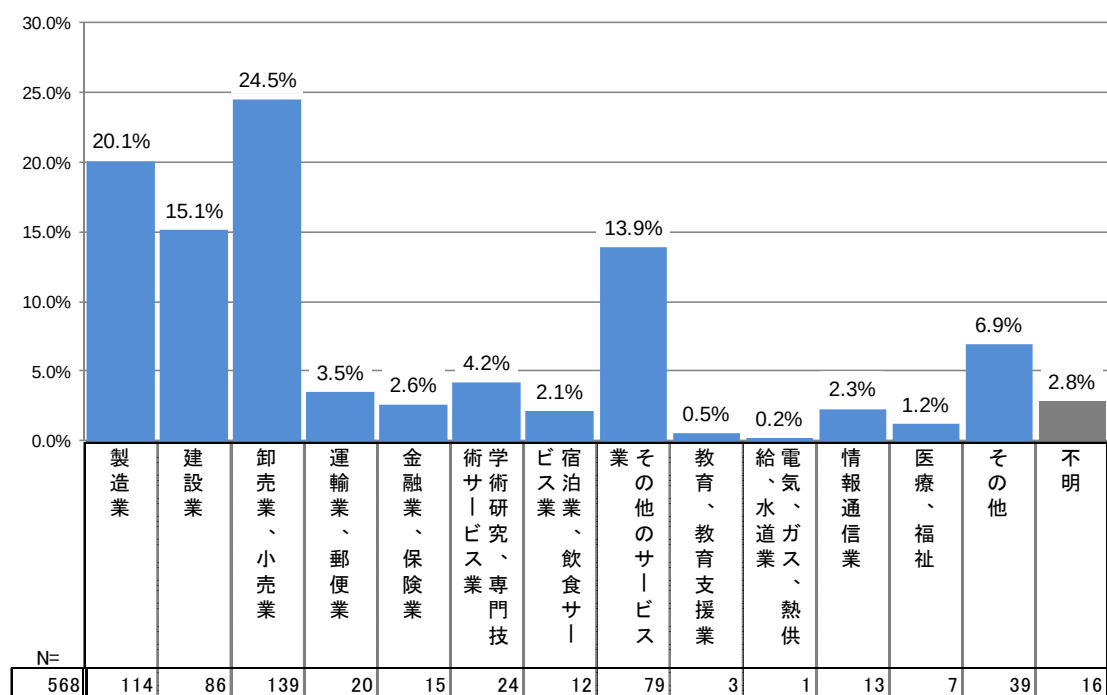
Ⅱ：調査結果

②企業

1:回答者のプロフィール

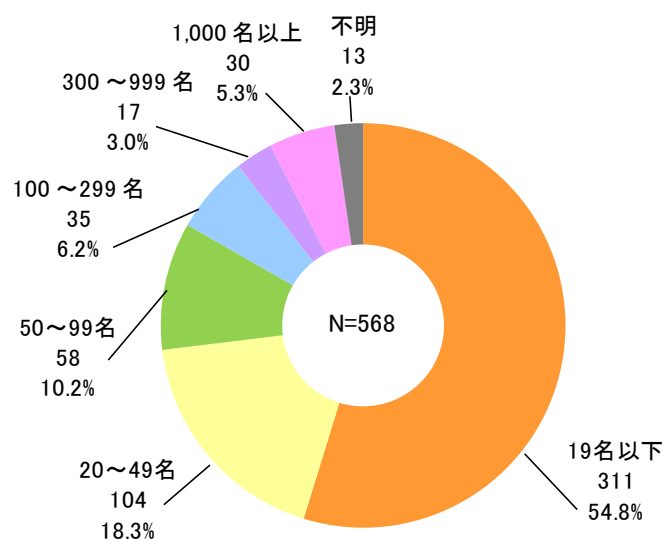
(1) 業種

問 1 業種



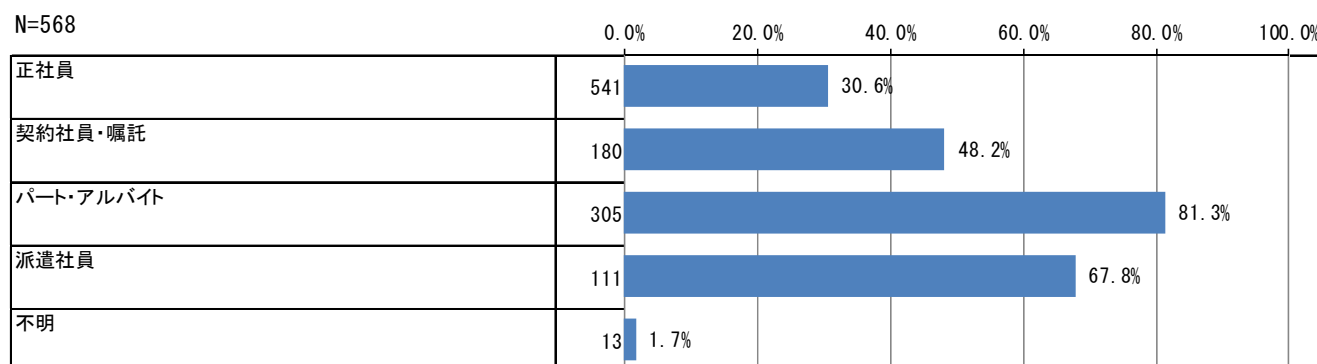
(2) 従業員数

問 2 従業員数



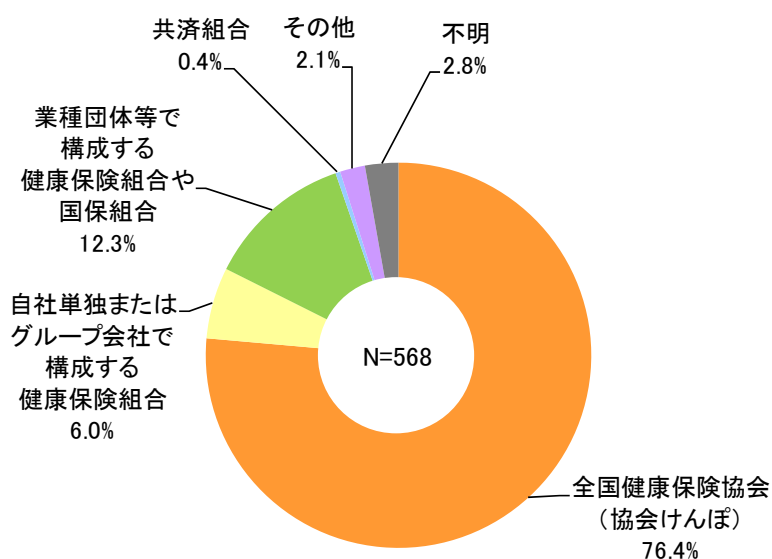
(3) 従業員の構成

問3 従業員の構成【複数回答】



(4) 医療保険制度

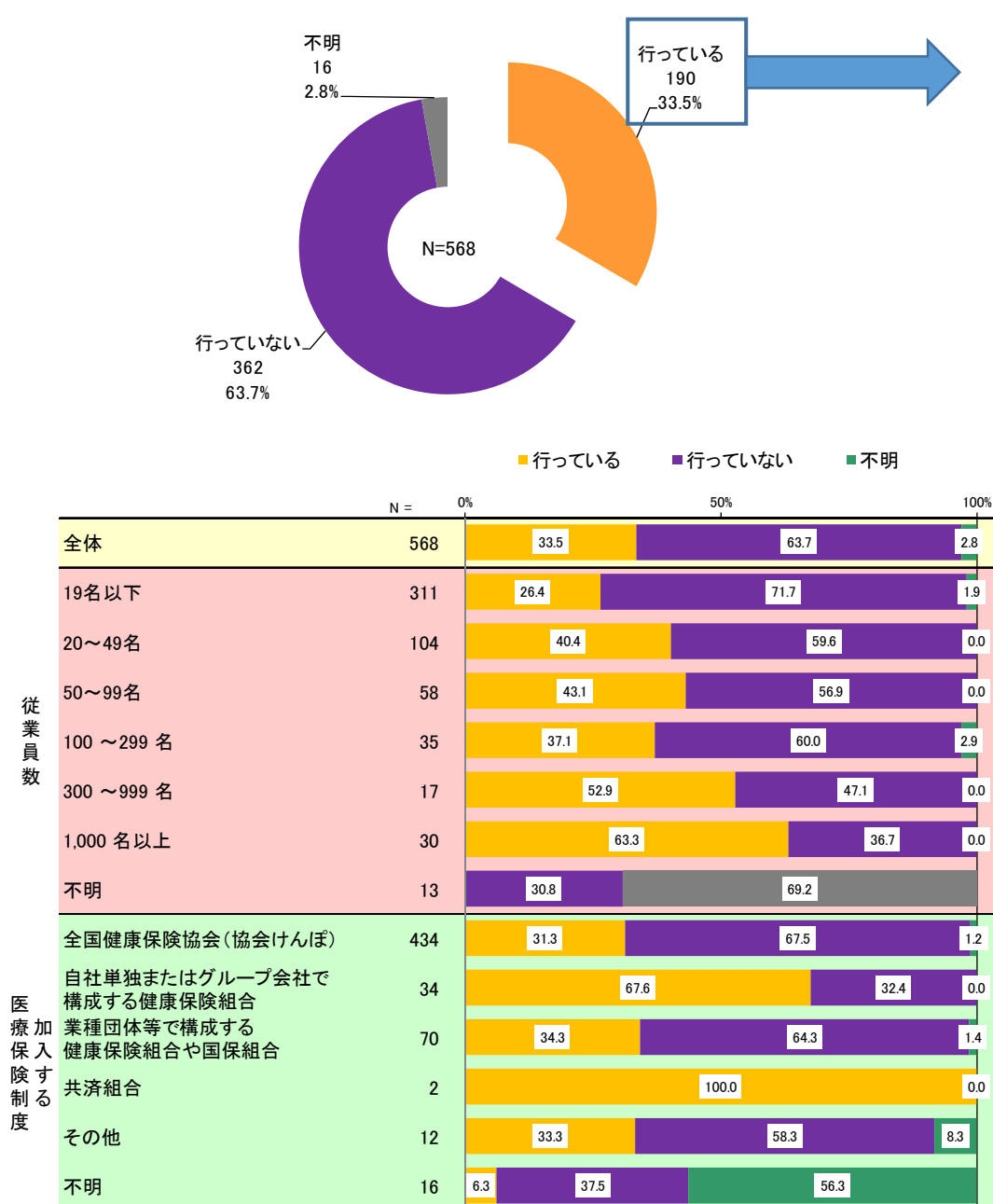
問4 加入する医療保険制度



2:がん予防の取り組み

問5 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん予防の働きかけを行っていますか？

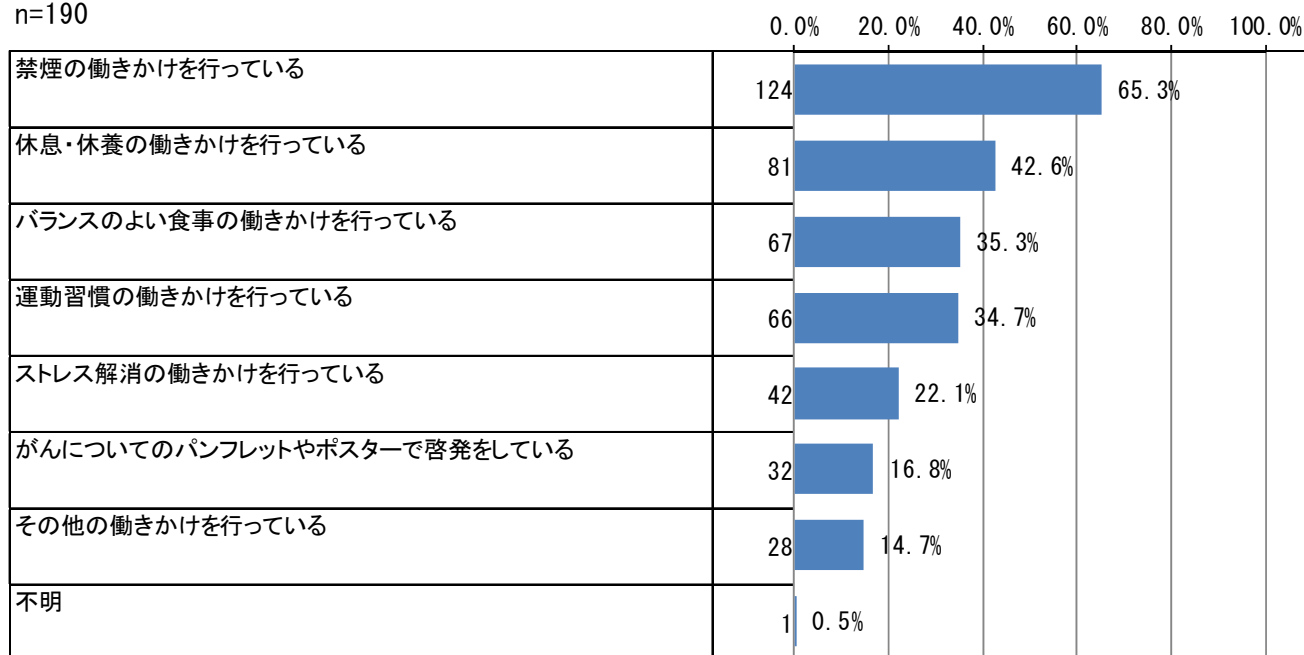
- ・社員に対してがん予防の働きかけを行っている企業は、全体の約3分の1であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど働きかけを行っている割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」や「業界団体等で構成する健康保険組合や国保組合」で働きかけを行っている割合が低い。



（問5で「行っている」と回答の方）それはどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な働きかけの内容としては「禁煙」が65.3%と最も高く、次いで「休息・休養」（42.6%）、「バランスのよい食事」（35.3%）、「運動習慣」（34.7%）と続いている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、「1,000名以上」の企業は多くの種類の働きかけを行っている。

n=190



%

		調査数	禁煙の働きかけを行っている	バランスのよい食事の働きかけを行っている	運動習慣の働きかけを行っている	休息・休養の働きかけを行っている	ストレス解消の働きかけを行っている	がんについてのパンフレットやポスターで啓発をしている	その他の働きかけを行っている	不明
全体		190	65.3	35.3	34.7	42.6	22.1	16.8	14.7	0.5
従業員数	19名以下	82	62.2	30.5	30.5	47.6	20.7	11.0	17.1	0.0
	20～49名	42	59.5	38.1	35.7	45.2	14.3	16.7	9.5	2.4
	50～99名	25	84.0	44.0	36.0	24.0	16.0	32.0	12.0	0.0
	100～299名	13	61.5	15.4	23.1	30.8	23.1	30.8	23.1	0.0
	300～999名	9	77.8	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0
	1,000名以上	19	63.2	57.9	68.4	57.9	57.9	15.8	15.8	0.0
	不明	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療加入保険制度	全国健康保険協会（協会けんぽ）	136	66.9	34.6	30.9	41.2	14.7	13.2	14.0	0.7
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	23	73.9	39.1	47.8	43.5	47.8	30.4	8.7	0.0
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	24	45.8	29.2	41.7	41.7	37.5	29.2	29.2	0.0
	共済組合	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	4	75.0	50.0	50.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	不明	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

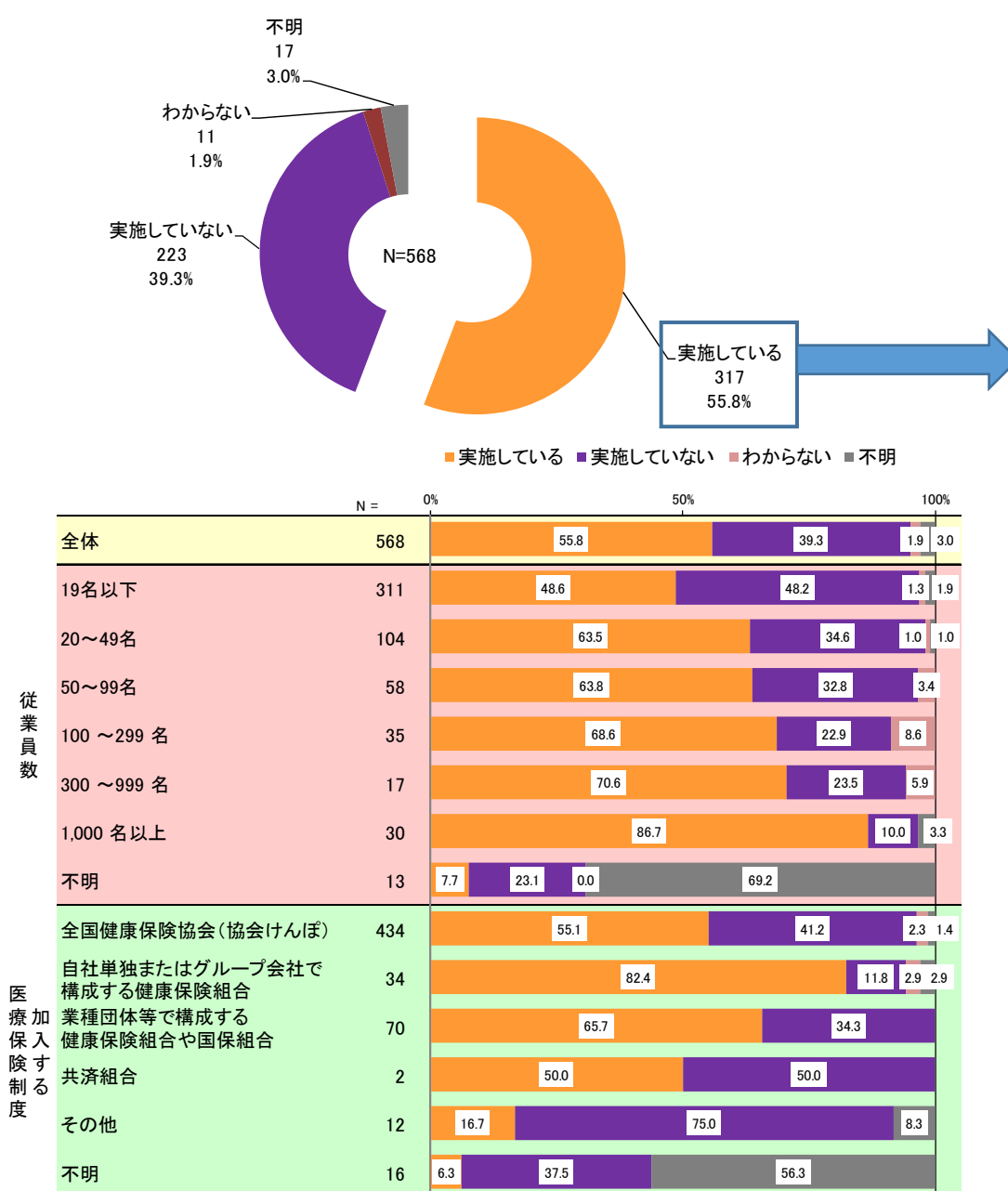
1番高い数値 2番目の数値

3:がん検診について

(1) 社員に対するがん検診の実施

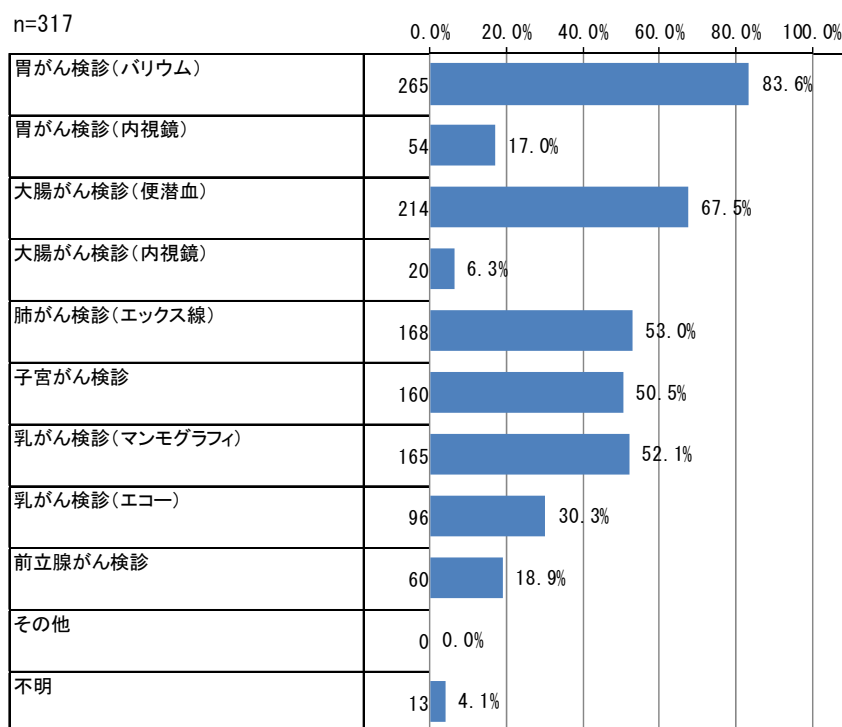
問6 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん検診（自己負担の一部助成を含む）を実施していますか？

- ・社員に対してがん検診を実施している企業は、全体の 55.8%であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど実施している割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」加入企業の実施が低い。



（問6で「実施している」と回答の方）それはどのような検診ですか【複数回答】

- ・具体的な検診の内容としては「胃がん（バリウム）」が83.6%と最も高く、次いで「大腸がん（便潜血）」（67.5%）、「肺がん（エックス線）」（53.0%）と続いている。
- ・企業の従業員規模別には大きな差は見られない。



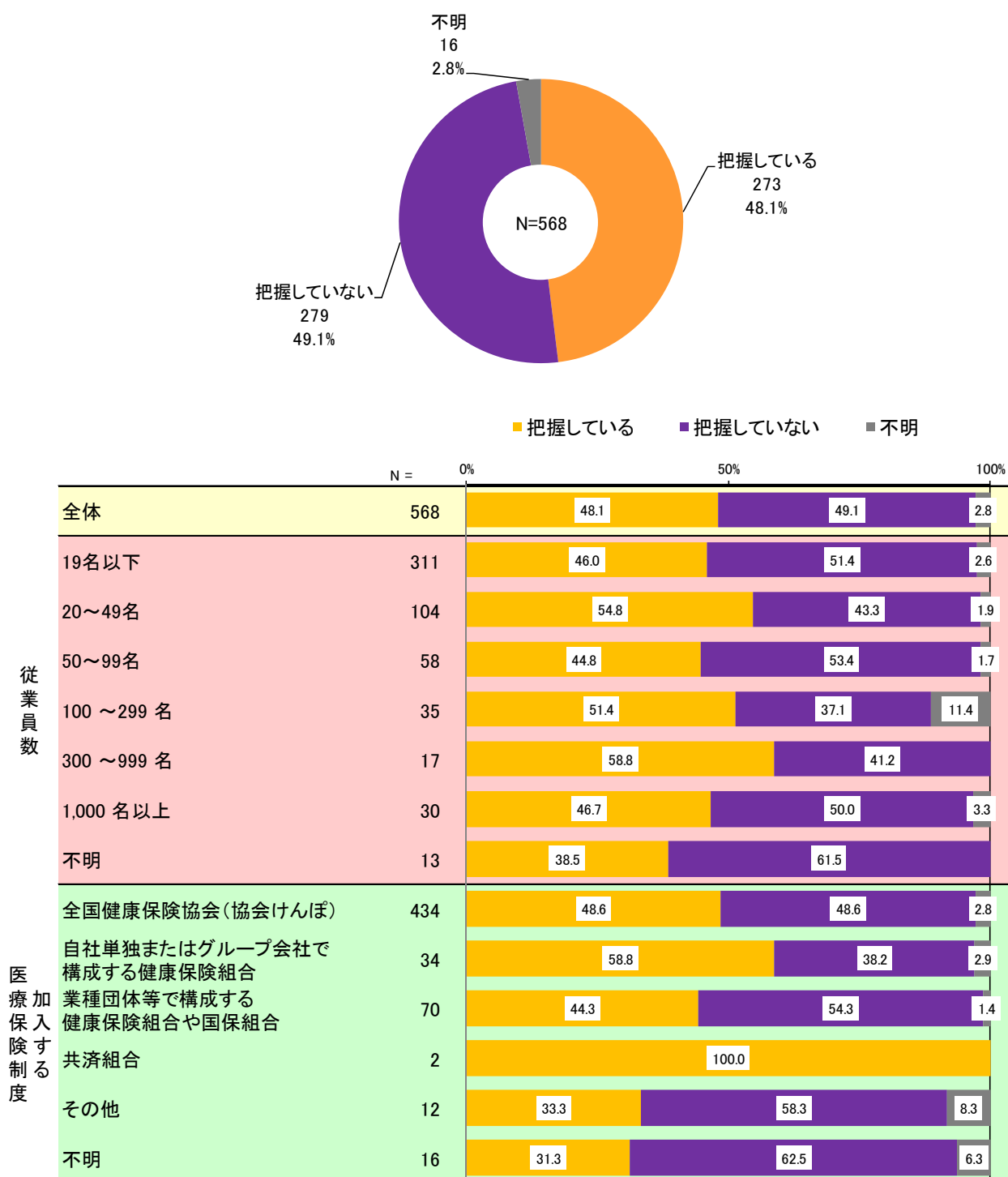
		調査数	胃がん検診(バリウム)	胃がん検診(内視鏡)	大腸がん検診(便潜血)	大腸がん検診(内視鏡)	肺がん検診(エックス線)	子宮がん検診	乳がん検診(マンモグラフィ)	乳がん検診(エコー)	前立腺がん検診	その他	不明
全体		317	83.6	17.0	67.5	6.3	53.0	50.5	52.1	30.3	18.9	0.0	4.1
従業員数	19名以下	151	82.8	13.9	65.6	6.0	55.0	42.4	45.0	24.5	14.6	0.0	4.0
	20～49名	66	86.4	21.2	74.2	7.6	53.0	72.7	69.7	39.4	15.2	0.0	1.5
	50～99名	37	86.5	21.6	59.5	8.1	56.8	45.9	54.1	37.8	27.0	0.0	2.7
	100～299名	24	79.2	12.5	62.5	4.2	50.0	37.5	50.0	25.0	20.8	0.0	4.2
	300～999名	12	91.7	16.7	83.3	0.0	41.7	66.7	58.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	1,000名以上	26	76.9	23.1	69.2	7.7	46.2	50.0	42.3	34.6	34.6	0.0	15.4
	不明	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医療加入保険制度	全国健康保険協会(協会けんぽ)	239	85.8	14.2	66.1	4.2	51.0	51.0	51.0	28.0	13.0	0.0	3.8
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	28	71.4	25.0	64.3	10.7	57.1	50.0	60.7	35.7	39.3	0.0	7.1
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	46	82.6	26.1	76.1	13.0	58.7	52.2	54.3	41.3	37.0	0.0	4.3
	共済組合	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他	2	0.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不明	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(2) がん検診受診状況の把握

問7 社員のがん検診受診状況を把握していますか？

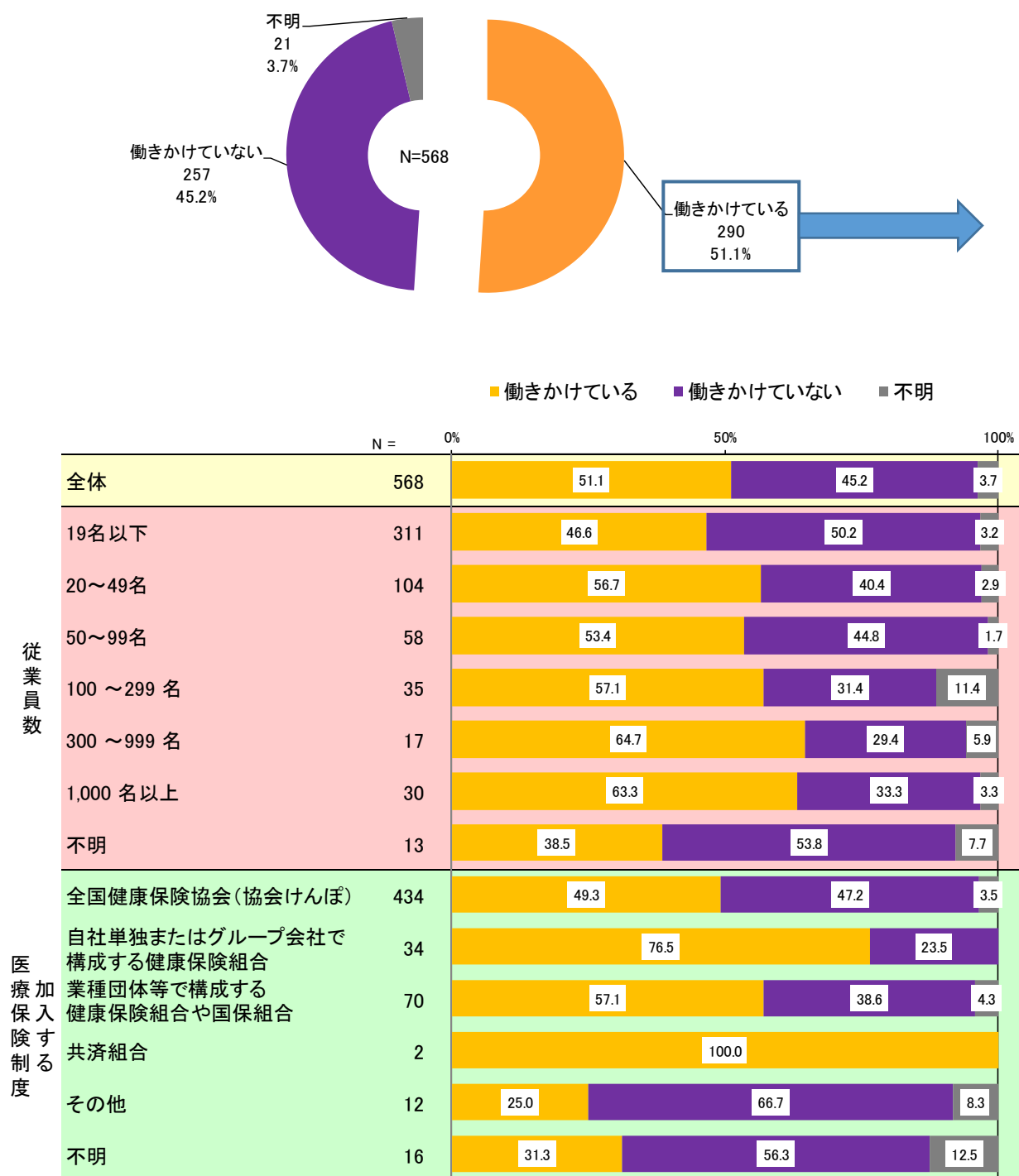
- ・社員のがん検診受診状況を把握している企業は、全体の 48.1%であった。
- ・企業の従業員規模別には大きな差は見られない。



(3) がん検診受診の働きかけ

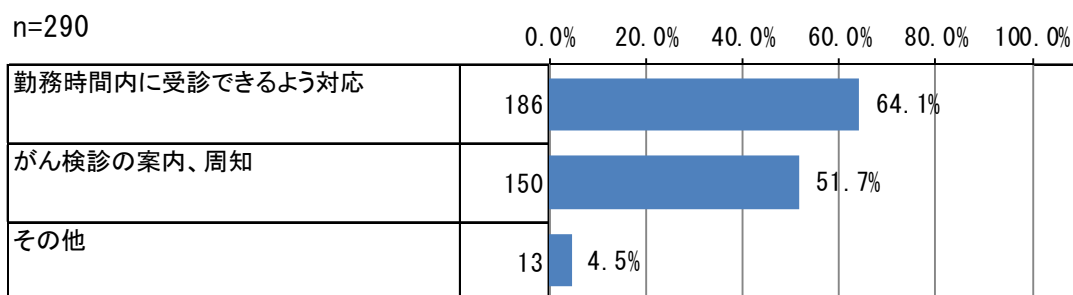
問8 社員に対してがん検診の受診を働きかけていますか？

- ・社員に対してがん検診の受診を働きかけている企業は、全体の 51.1%であった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど働きかけている割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」、「業界団体等で構成する健康保険組合や国保組合」加入企業の働きかけている割合が低い。



（問8で「働きかけている」と回答の方）それはどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な働きかけの内容としては「勤務時間内に受診できるよう対応」が64.1%、次いで「がん検診の案内、周知」が51.7%となった。



		調査数	勤務時間内に受診できるよう対応 (%)	がん検診の案内、周知 (%)	その他 (%)	不明 (%)
全体		290	64.1	51.7	4.5	0.0
従業員数	19名以下	145	71.7	45.5	2.8	0.0
	20～49名	59	69.5	49.2	5.1	0.0
	50～99名	31	51.6	54.8	9.7	0.0
	100～299名	20	35.0	70.0	0.0	0.0
	300～999名	11	90.9	45.5	0.0	0.0
	1,000名以上	19	36.8	73.7	15.8	0.0
	不明	5	20.0	100.0	0.0	0.0
医療加入保険制度	全国健康保険協会（協会けんぽ）	214	67.8	48.1	3.7	0.0
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	26	50.0	65.4	15.4	0.0
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	40	62.5	57.5	0.0	0.0
	共済組合	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	その他	3	66.7	33.3	0.0	0.0
	不明	5	0.0	100.0	20.0	0.0

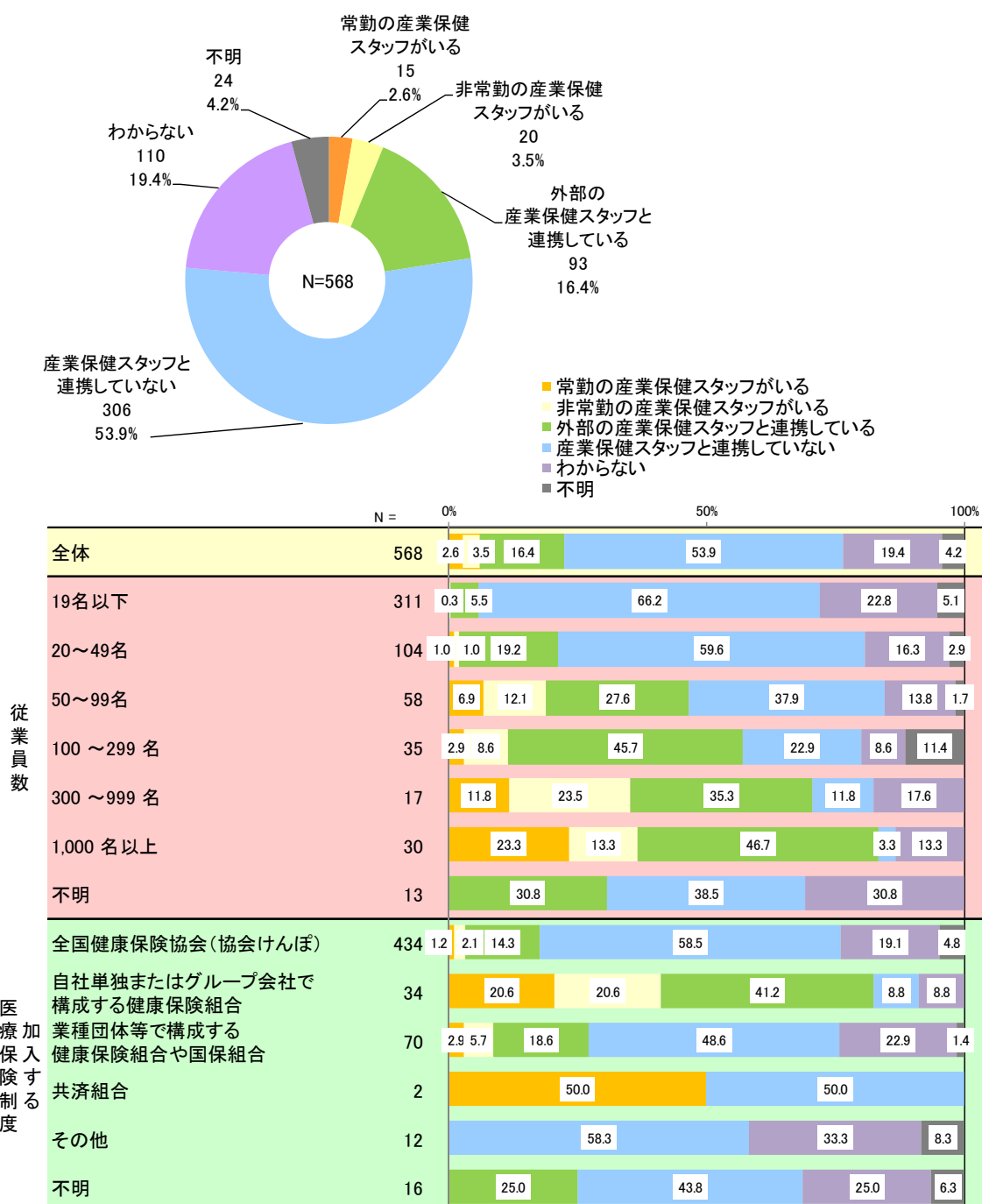
1番高い数値 2番目の数値

4:がん患者への支援体制

(1) 産業保健スタッフの配置

問9 産業保健スタッフ（産業医を含む）の状況を教えてください。

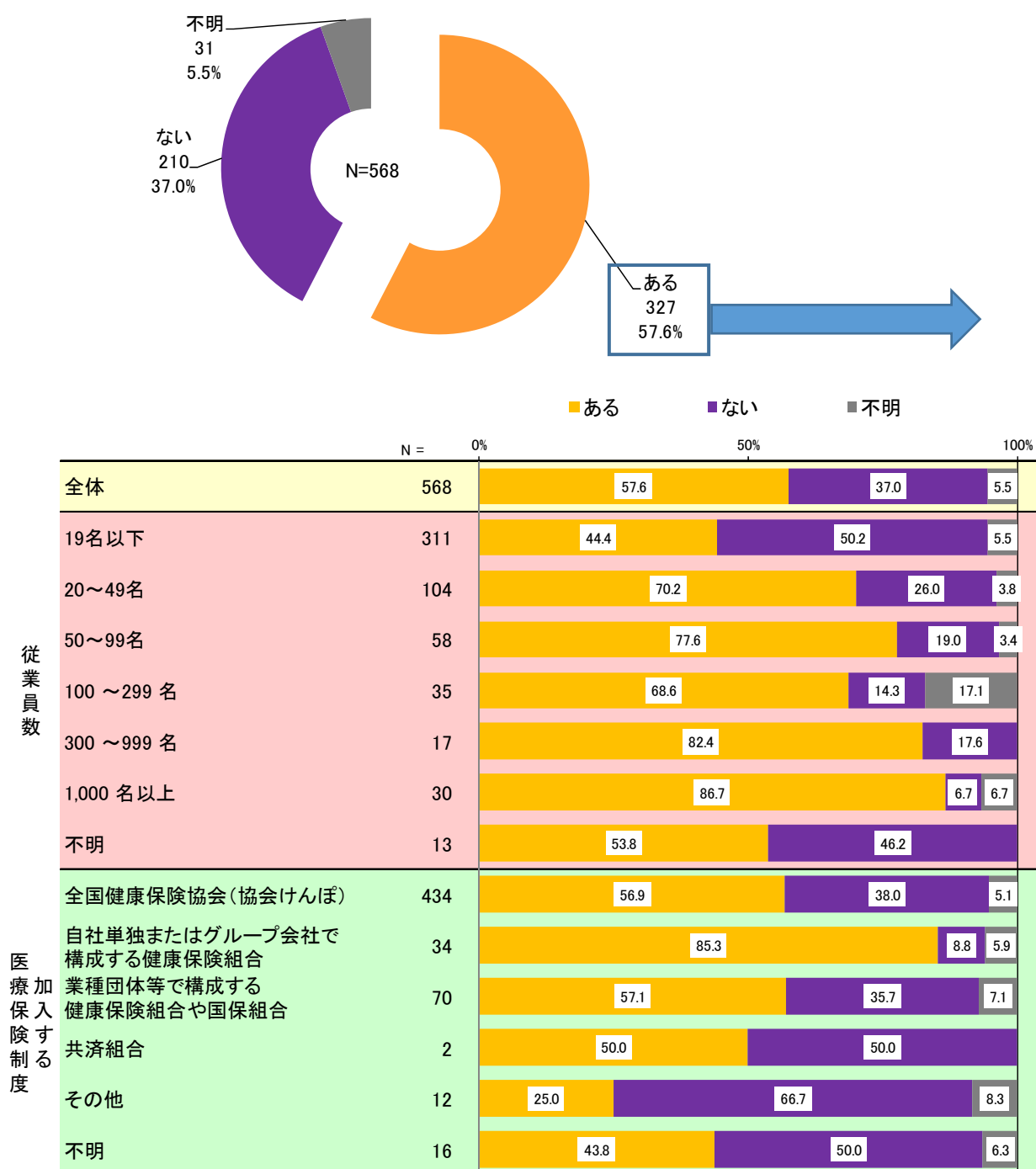
- ・「常勤」、「非常勤」、「外部と連携」を合わせた産業保健スタッフ配置状況は全体の22.5%であった
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど産業保健スタッフを配置している割合が低い。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」で産業保健スタッフを配置している割合が低い。



(2) 罹患した社員の社内相談窓口

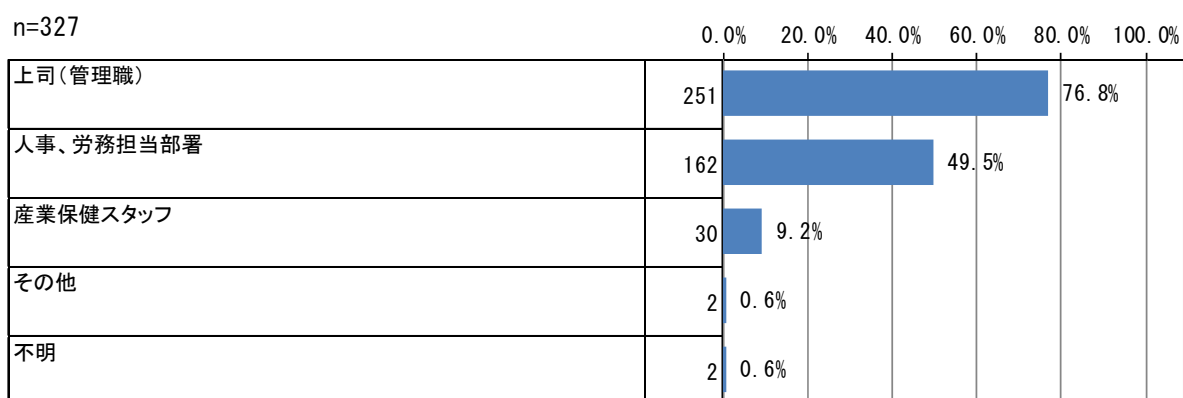
問 10 社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、労務管理上の社内での報告先や相談窓口はありますか？

- ・がんを含めた私傷病に罹患にした場合の相談窓口の有無について、57.6%の企業が「ある」と回答した。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど相談窓口が「ある」とする割合が低い。



(問10で「ある」と回答の方) それはどこですか【複数回答】

- ・具体的な相談窓口としては「上司（管理職）」が76.8%、次いで「人事、労務担当部署」が49.5%、「産業保健スタッフ」が9.2%となった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「上司（管理職）」と回答する割合が高くなっている。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」は「人事、労務担当部署」、「産業保健スタッフ」を窓口としている割合が低い。



		調査数	産業保健スタッフ	人事、労務担当部署	上司（管理職）	その他	不明
全体		327	9.2	49.5	76.8	0.6	0.6
従業員数	19名以下	138	2.2	23.2	82.6	1.4	0.7
	20～49名	73	4.1	53.4	82.2	0.0	0.0
	50～99名	45	13.3	75.6	73.3	0.0	0.0
	100～299名	24	16.7	75.0	58.3	0.0	0.0
	300～999名	14	14.3	92.9	50.0	0.0	0.0
	1,000名以上	26	46.2	84.6	69.2	0.0	0.0
	不明	7	0.0	57.1	71.4	0.0	14.3
医療加入保険制度	全国健康保険協会（協会けんぽ）	247	4.5	43.3	79.8	0.8	0.4
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	29	41.4	79.3	69.0	0.0	3.4
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	40	17.5	67.5	65.0	0.0	0.0
	共済組合	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	不明	7	0.0	57.1	71.4	0.0	0.0

1番高い数値	2番目の数値
--------	--------

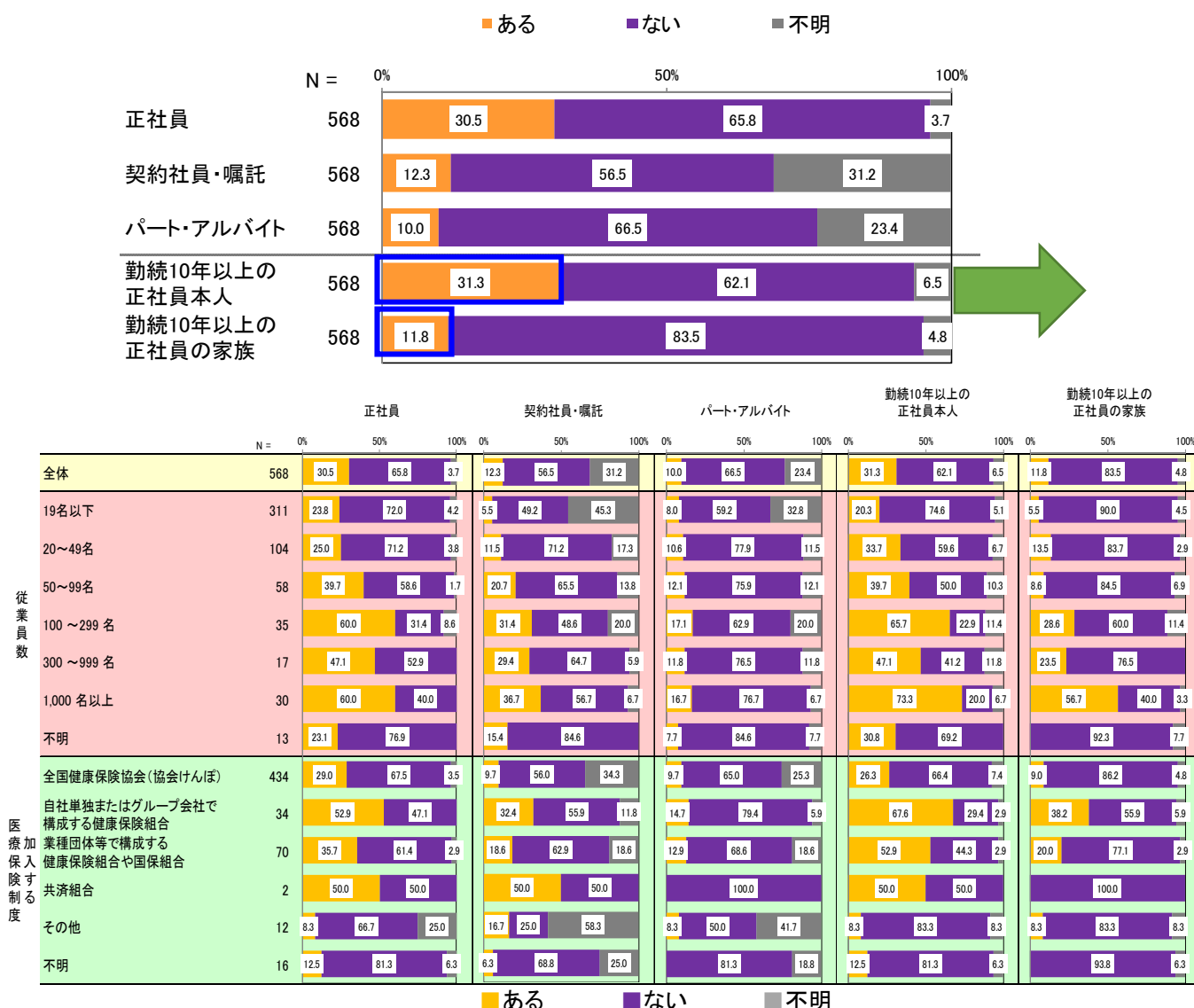
(3) 私傷病による休暇制度

問 1 1 労働基準法に基づく有給休暇以外に、がんを含めた私傷病による休暇が取得できる制度はありますか？

問 1 2 勤続年数が 10 年以上の正社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

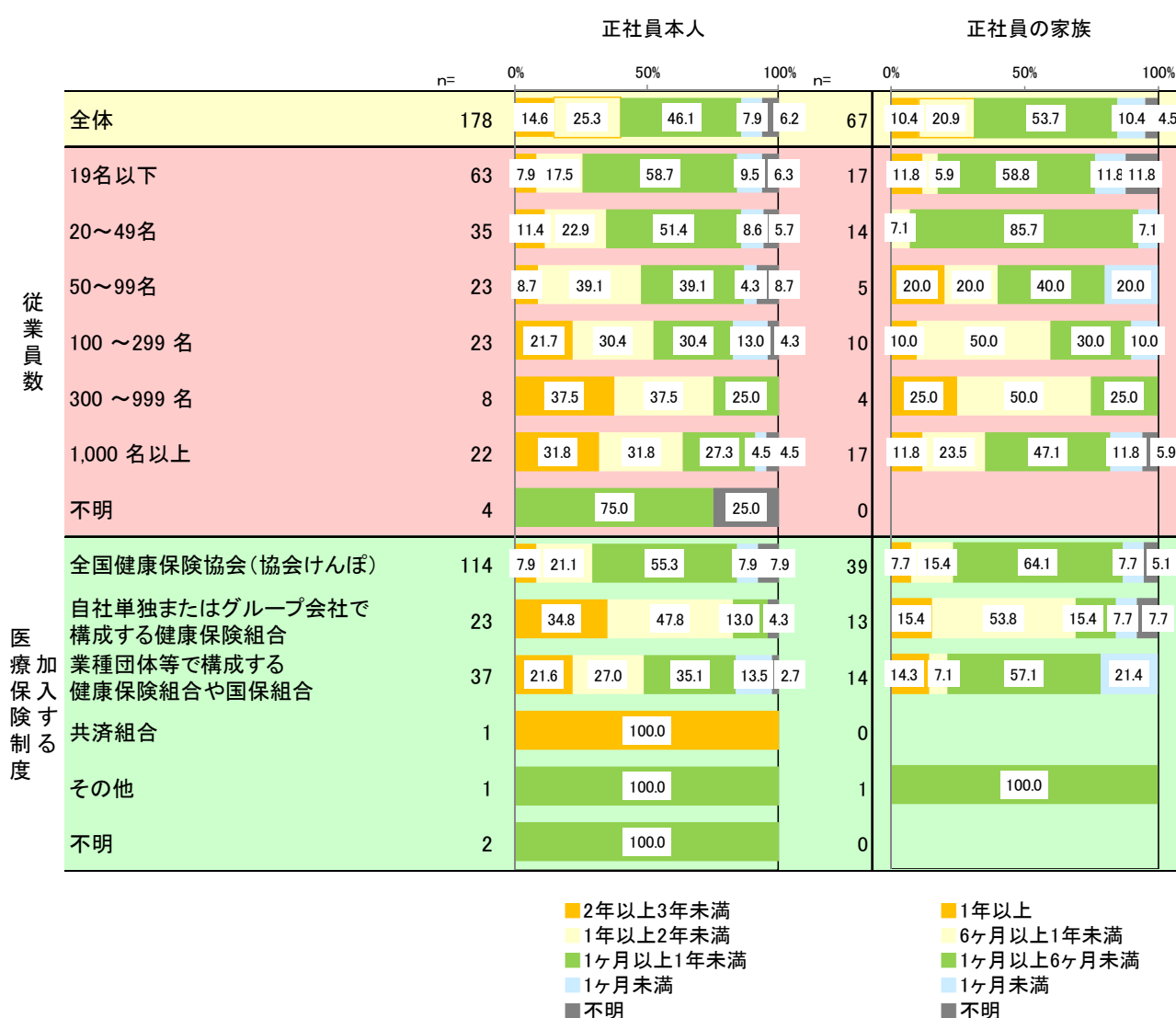
問 1 3 勤続年数が 10 年以上の正社員の家族が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

- ・がんを含めた私傷病による休暇制度について、正社員は 30.5%が「ある」としているのに対し、「契約社員・嘱託」(12.3%)、「パート・アルバイト」(10.0%) の非正規雇用では低い。
- ・企業の従業員規模別に見ると、どの雇用形態も規模が小さくなるほど低くなっている。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」はどの雇用形態も低くなっている。
- ・勤続 10 年以上の正社員の家族ががんに罹患した場合の休暇制度は 11.8%の企業が「ある」としている。



(問12、13で「ある」と回答の方) その期間はどのくらいですか

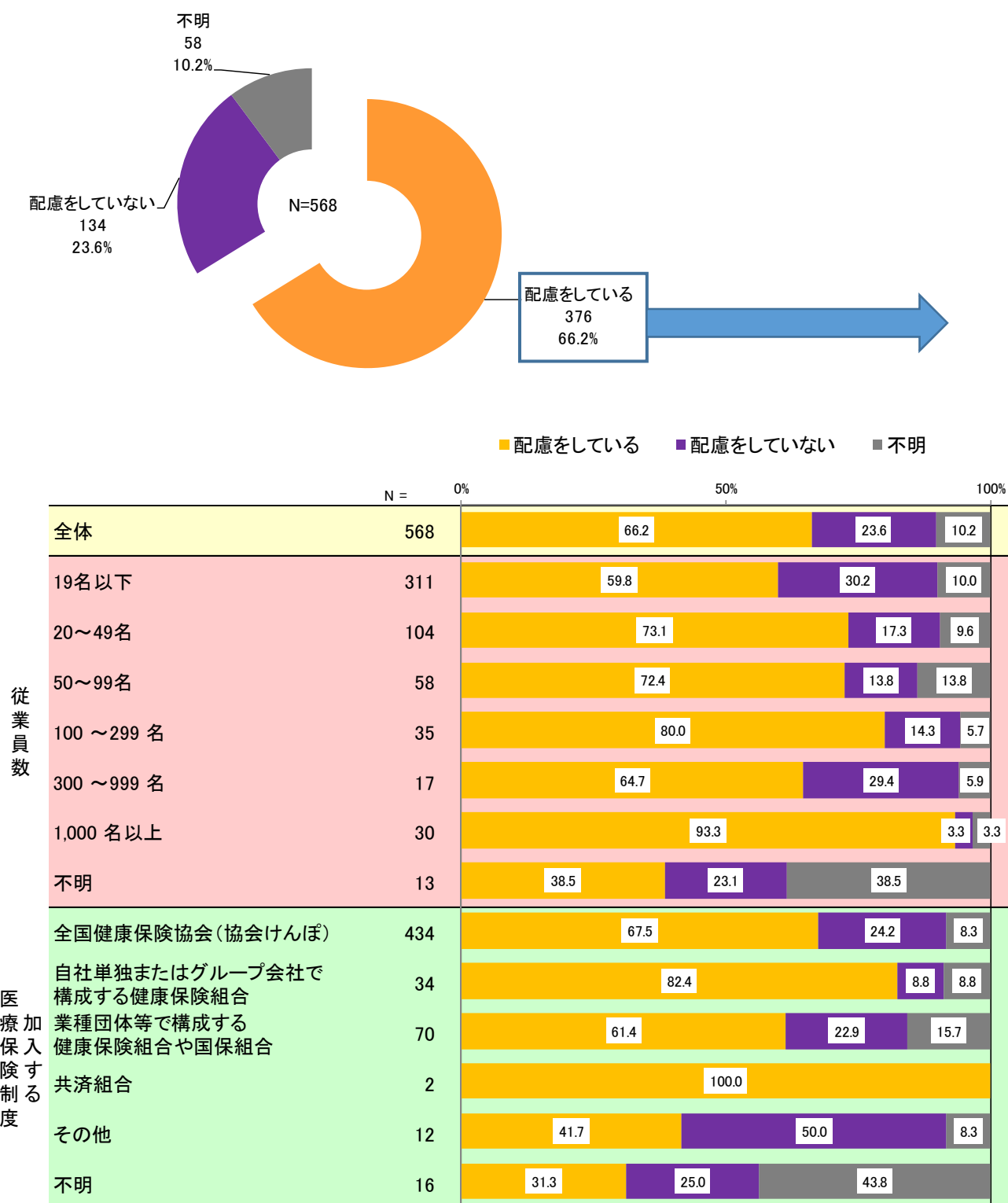
- ・勤続10年以上の正社員及び家族ががんに罹患した場合の休暇制度の期間について、正社員本人が罹患した場合の46.1%が「1ヶ月以上1年未満」、正社員の家族が罹患した場合の53.7%が「1ヶ月以上6ヶ月未満」とそれぞれ最も高くなっている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど休暇期間が短くなっている。
- ・加入している医療保険別に見ると、「協会けんぽ」の休暇期間は短い。



(4) 罹患した社員に対する仕事上の配慮

問 1 4 がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、仕事上の配慮をしていますか？

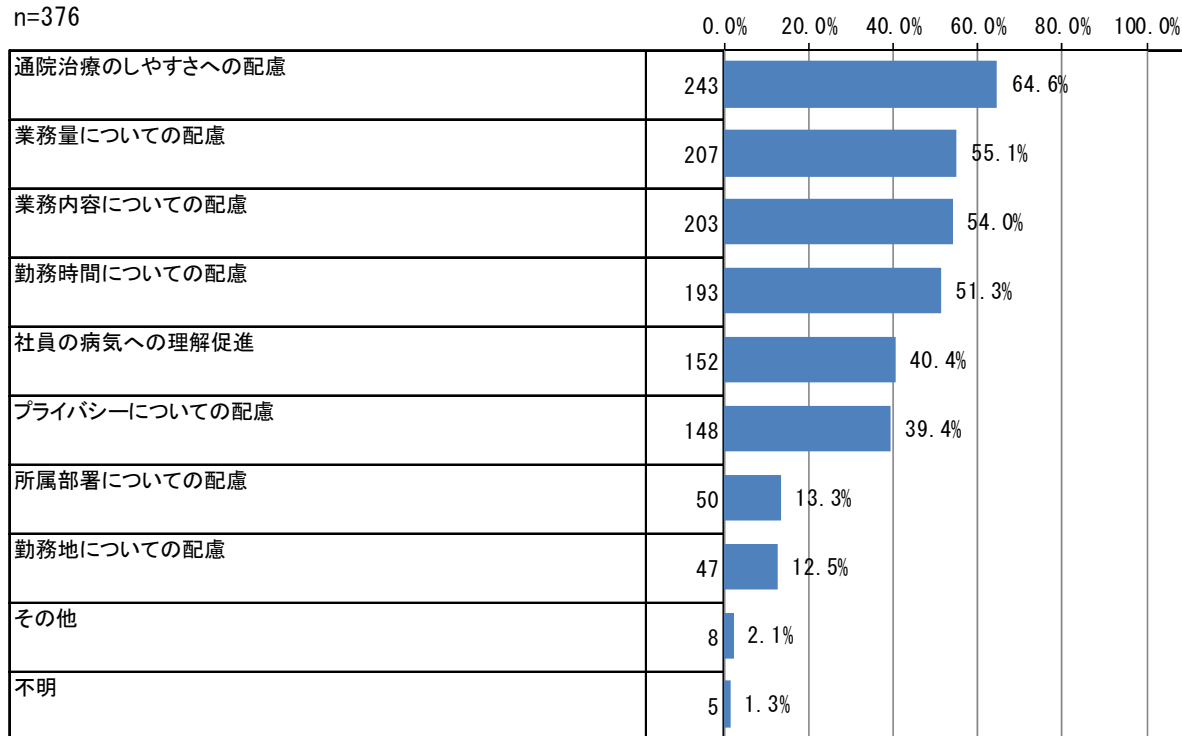
- ・がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、66.2%の企業が「配慮している」と回答した。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「配慮している」割合が低い。



(問14で「配慮をしている」と回答の方) それはどのようなことですか【複数回答】

- ・具体的な配慮の内容としては「通院治療のしやすさ」が64.6%、次いで「業務量」(55.1%)、「業務内容」(54.0%)の順となっている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「通院治療のしやすさ」と回答する割合が高くなり、「業務量」と回答する割合が低くなっている。

n=376



			%										
			調 査 数	進 社 員 の 病 気 へ の 理 解 促	プ ラ イ バ シ ー に つ い て の 配 慮	通 院 治 療 の し や す さ へ の 配 慮	業 務 量 に つ い て の 配 慮	慮 業 務 内 容 に つ い て の 配	慮 勤 務 時 間 に つ い て の 配	勤 務 地 に つ い て の 配 慮	所 属 部 署 に つ い て の 配	そ の 他	不 明
全体			376	40.4	39.4	64.6	55.1	54.0	51.3	12.5	13.3	2.1	1.3
従 業 員 数	19名以下	186	43.5	31.2	73.7	47.8	40.3	52.7	6.5	4.3	1.6	1.6	
	20～49名	76	38.2	44.7	60.5	55.3	68.4	55.3	14.5	10.5	2.6	0.0	
	50～99名	42	33.3	47.6	52.4	64.3	76.2	42.9	19.0	14.3	2.4	2.4	
	100 ～299 名	28	32.1	53.6	50.0	50.0	42.9	39.3	14.3	25.0	0.0	0.0	
	300 ～999 名	11	36.4	36.4	54.5	90.9	90.9	54.5	18.2	45.5	0.0	0.0	
	1,000 名以上	28	39.3	57.1	50.0	78.6	71.4	53.6	35.7	50.0	7.1	3.6	
	不明	5	80.0	20.0	80.0	60.0	40.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0	
医 療 加 入 制 度	全国健康保険協会（協会けんぽ）	293	38.6	37.2	66.9	49.5	49.8	47.1	9.2	9.9	2.0	1.7	
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	28	50.0	60.7	71.4	78.6	78.6	75.0	35.7	32.1	3.6	0.0	
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	43	41.9	41.9	46.5	76.7	67.4	62.8	20.9	20.9	2.3	0.0	
	共済組合	2	0.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	その他	5	100.0	40.0	40.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	不明	5	40.0	20.0	80.0	40.0	40.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	

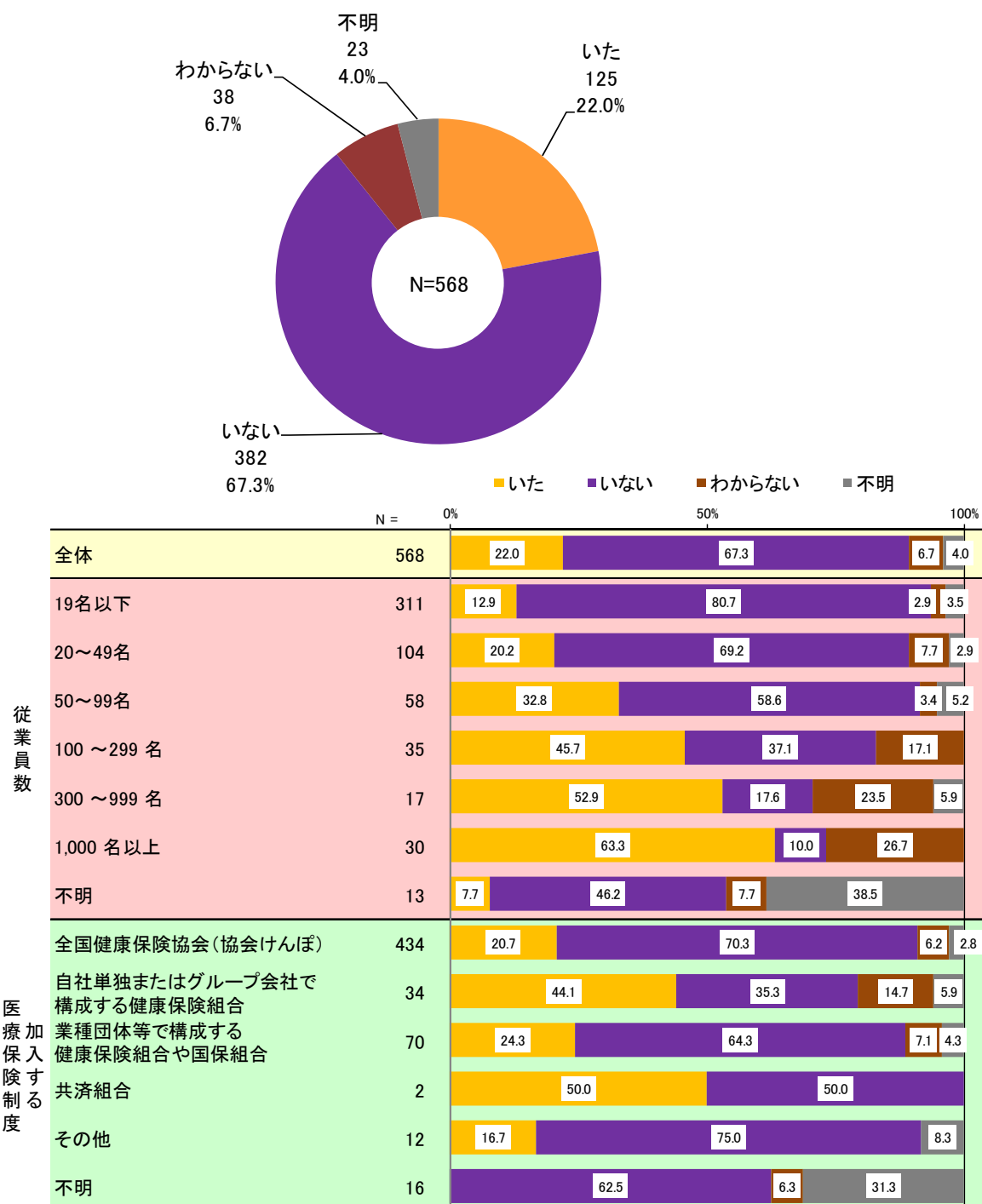
1番高い数値 2番目の数値

5:社内におけるがん罹患状況の実態

(1) がんと診断された社員の有無

問 1 5 過去3年間に、がんと診断された社員がいましたか？

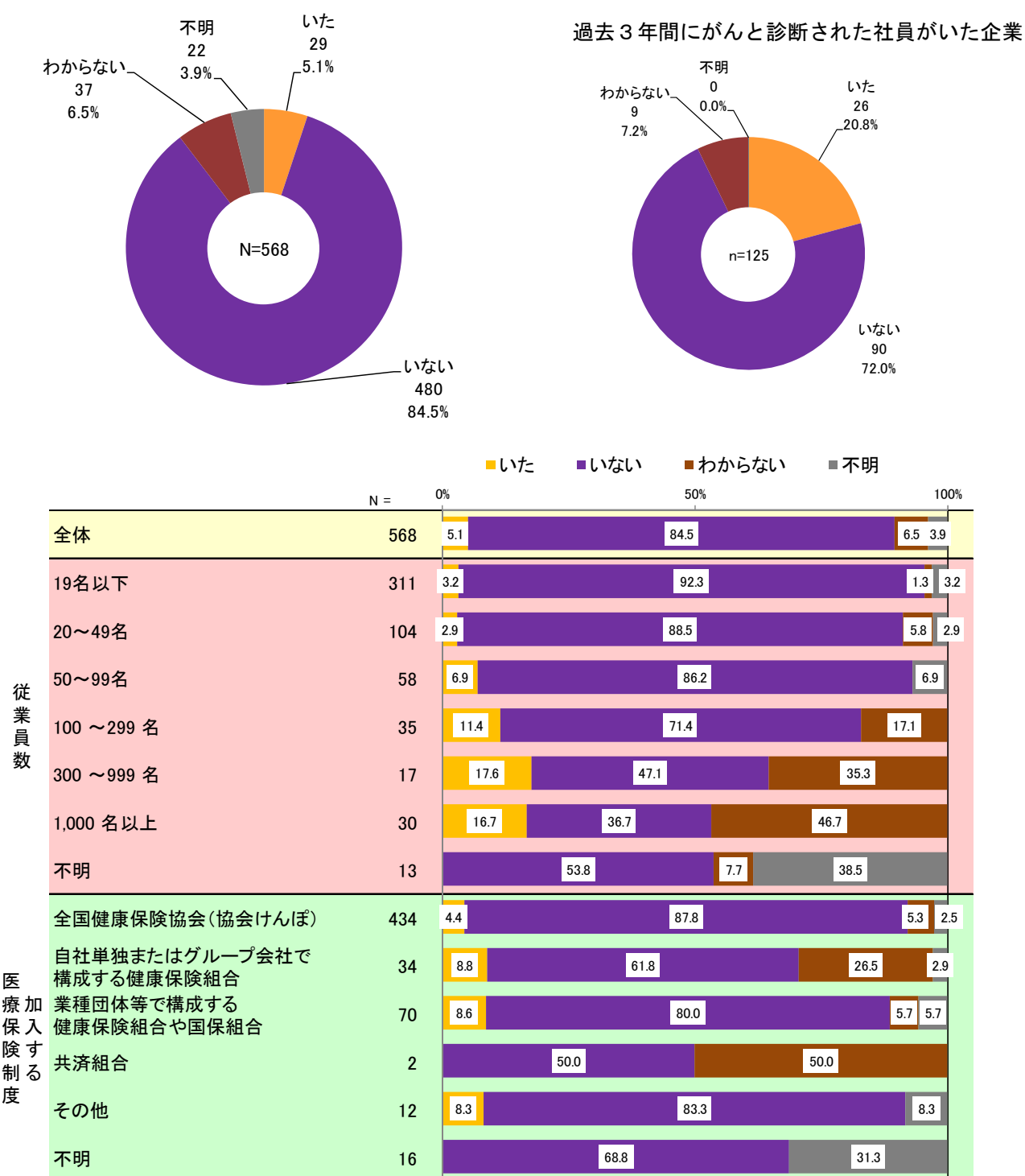
・過去3年間に、がんと診断された社員がいた企業は、全体の4分の1弱にあたる22.0%であった。



(2) がんと診断され離職した社員の有無

問 1 6 過去3年間に、がんと診断され、離職した社員がいましたか？

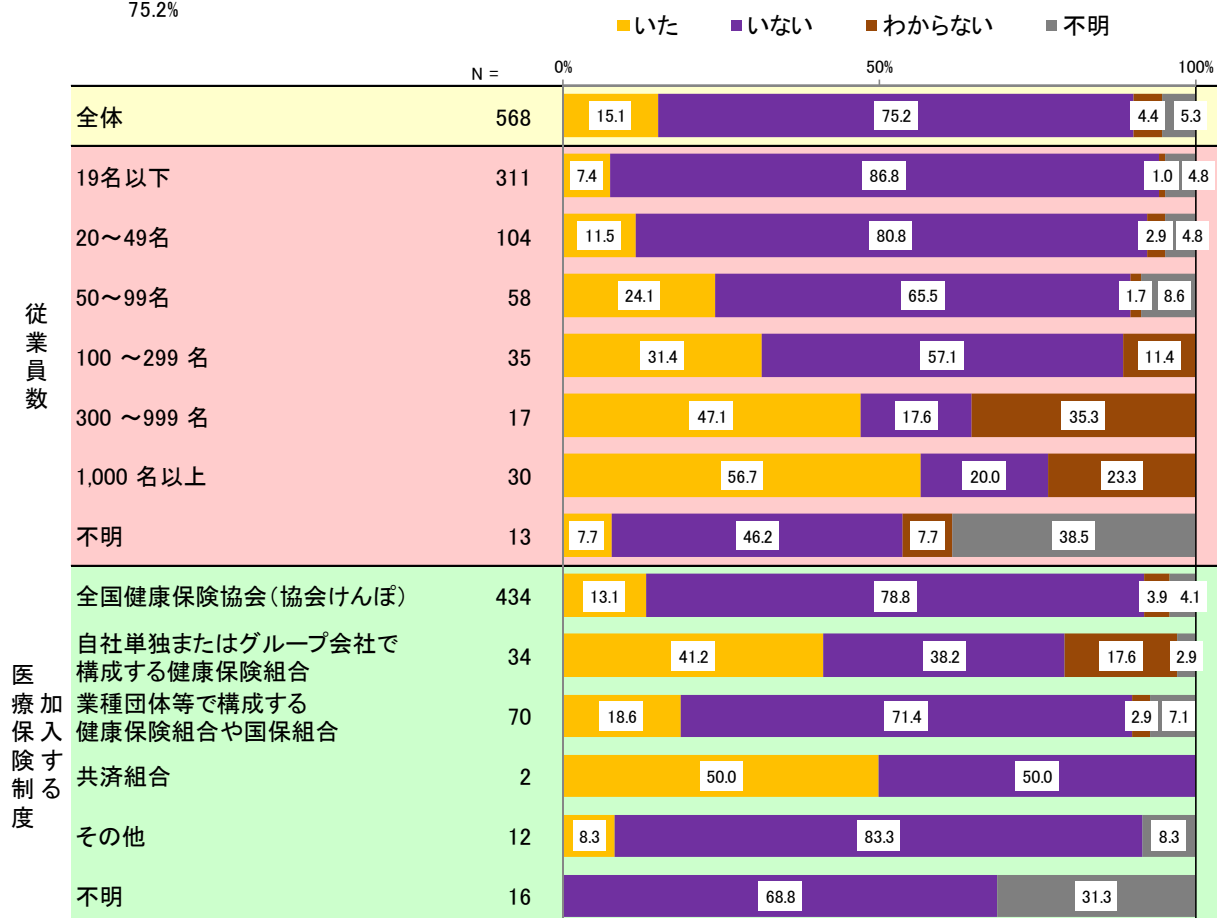
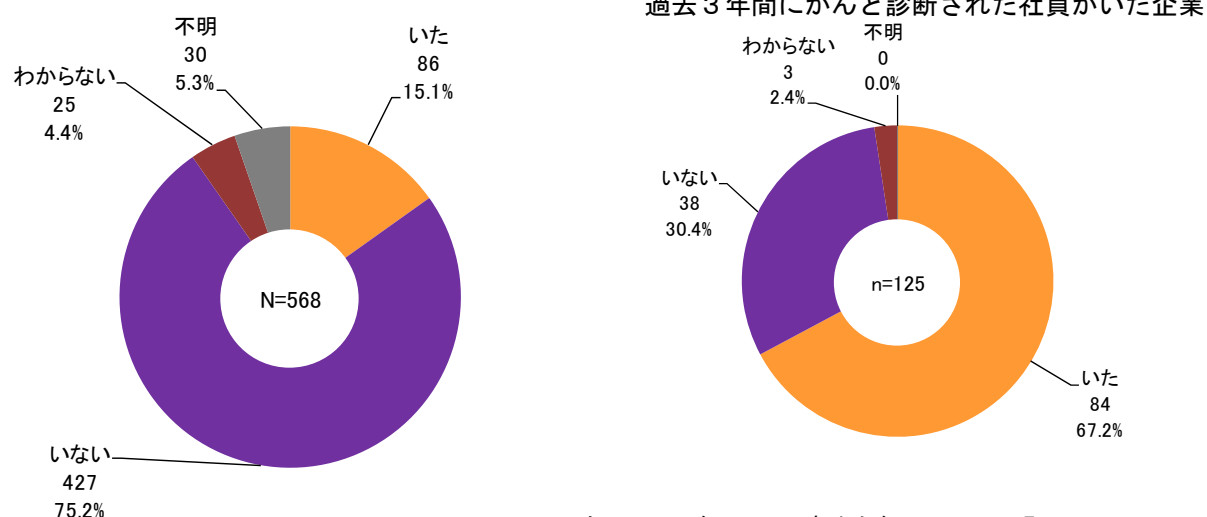
- ・過去3年間にがんと診断され、離職した社員がいた企業は、全体の5.1%であった。
- ・過去3年間にがんと診断された社員がいる企業の中で、離職した社員がいた企業は、20.8%であった。



(3) がんに罹患した社員の休業・休職状況

問 17 過去3年間のがん罹患者のうち、1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいましたか？

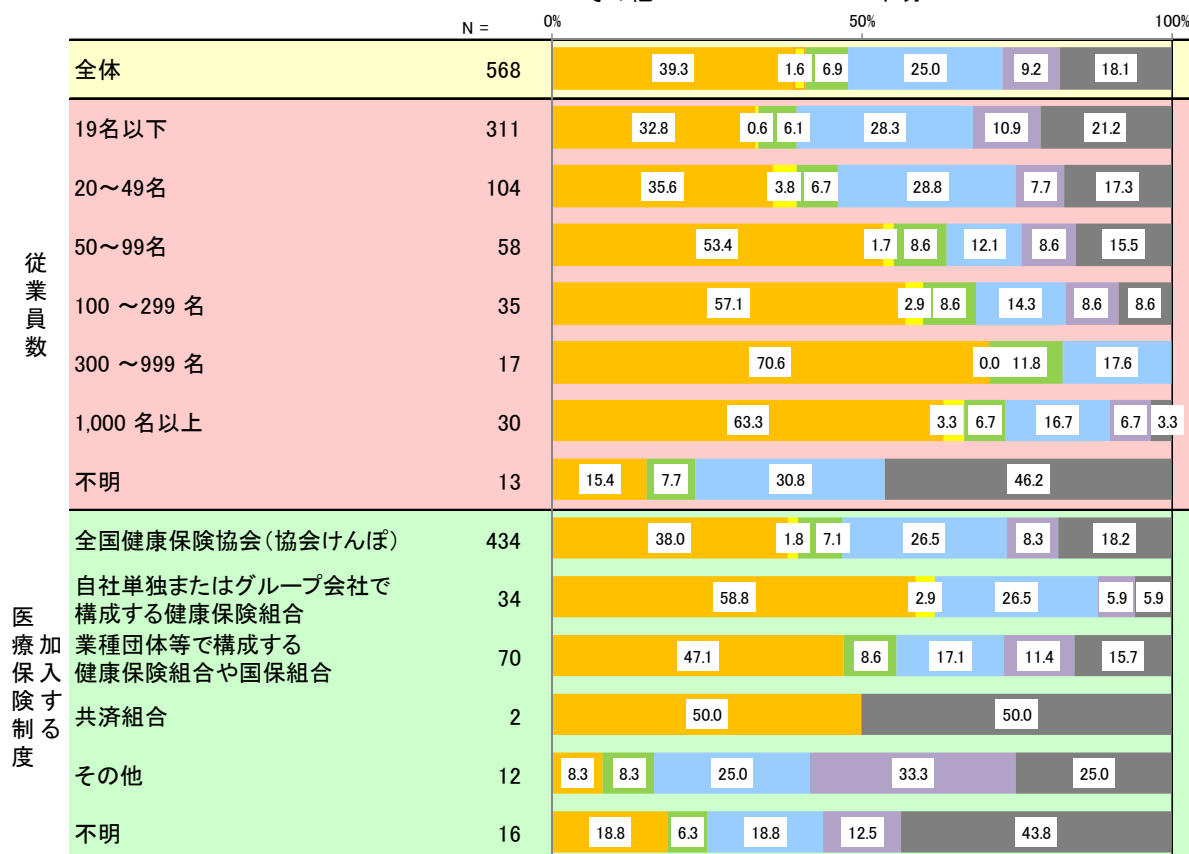
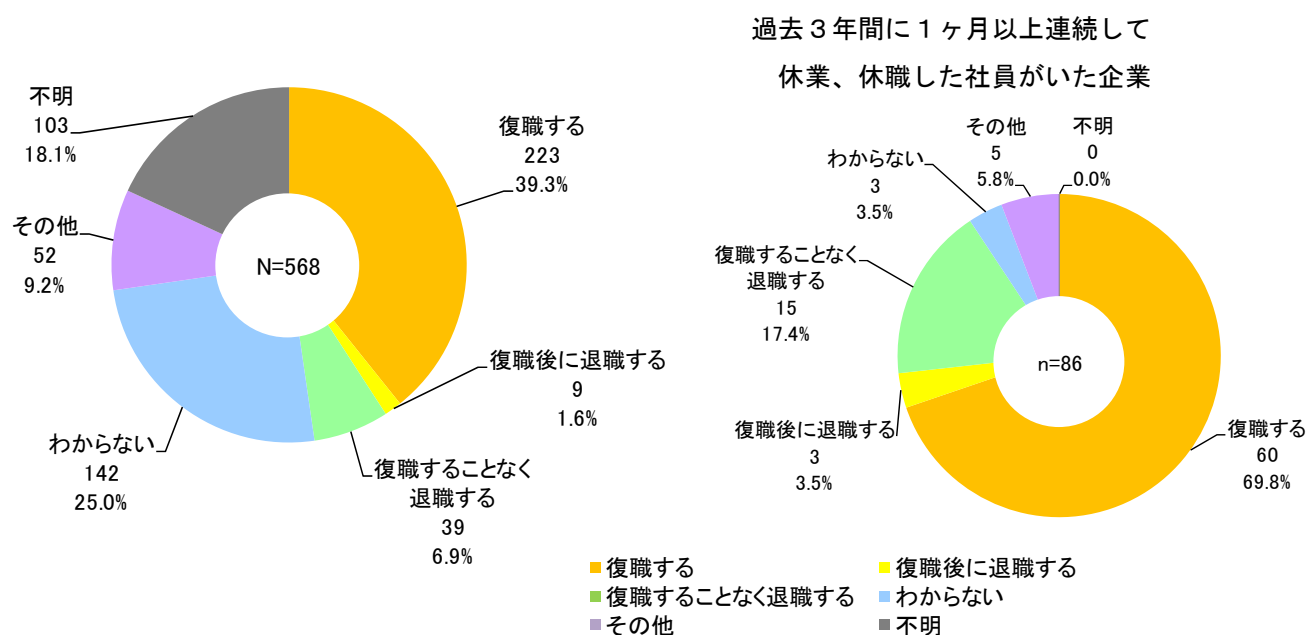
- ・過去3年間のがん罹患者のうち1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいた企業は全体の15.1%であった。
- ・過去3年間にがんと診断された社員がいる企業の中で、1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいた企業は、67.2%であった。



(4) 休業・休職した社員の復職状況

問 1 8 1ヶ月以上連続して休業、休職した社員の復職の状況を教えてください。

- ・1ヶ月以上連続して休業、休職した社員の復職の状況について、「復職する」のは全体の39.3%であるのに対し「復職することなく退職する」は6.9%であった。
- ・過去3年間に1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいる企業の中では、「復職する」のは69.8%、「復職することなく退職する」は17.4%であった



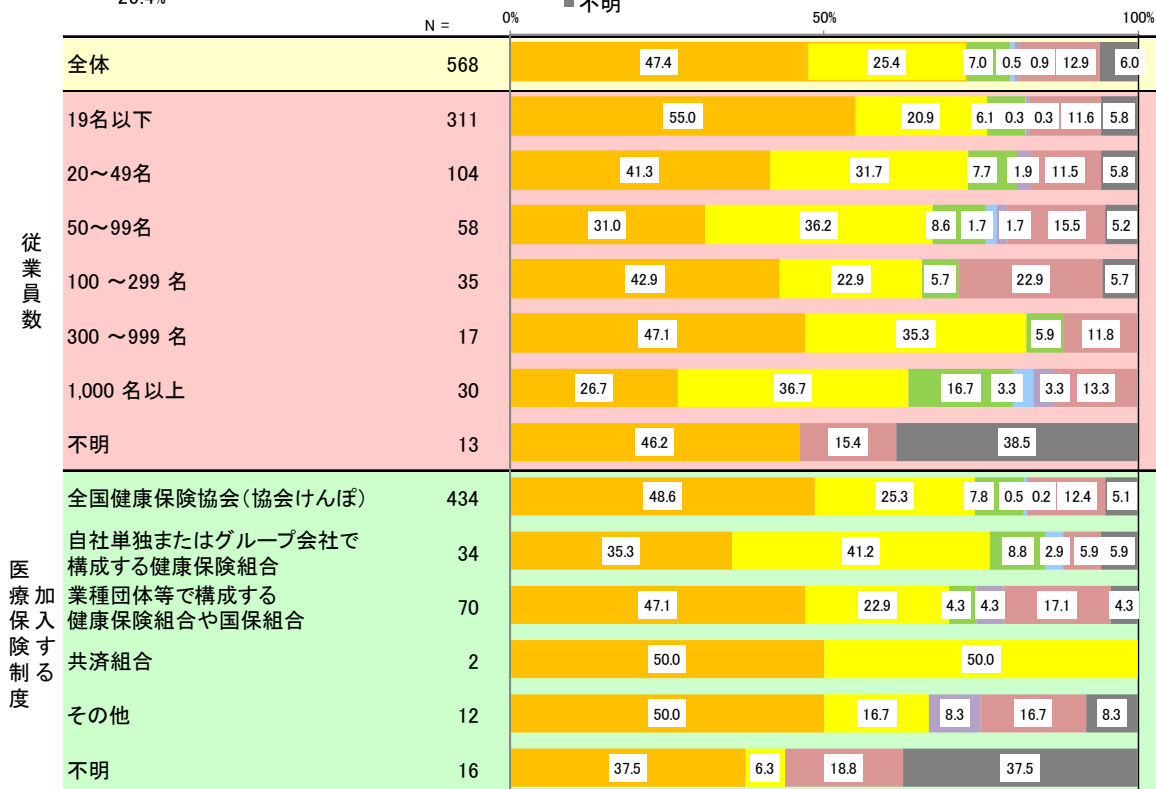
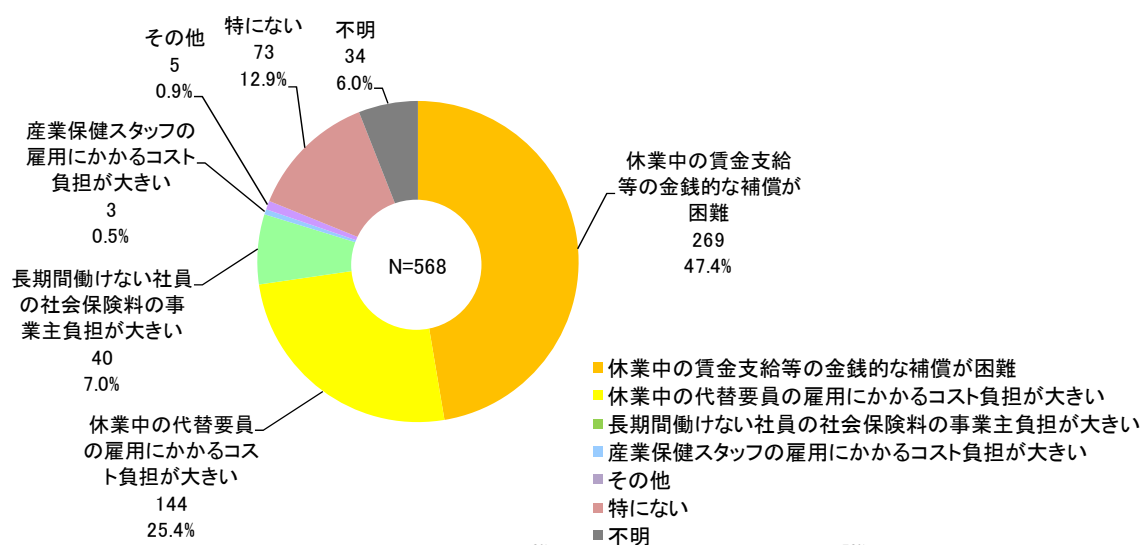
6:がん対策の課題

(1) 仕事と治療の両立のための課題

問 19 仕事と治療の両立を実現するために課題となることは何だと考えますか？

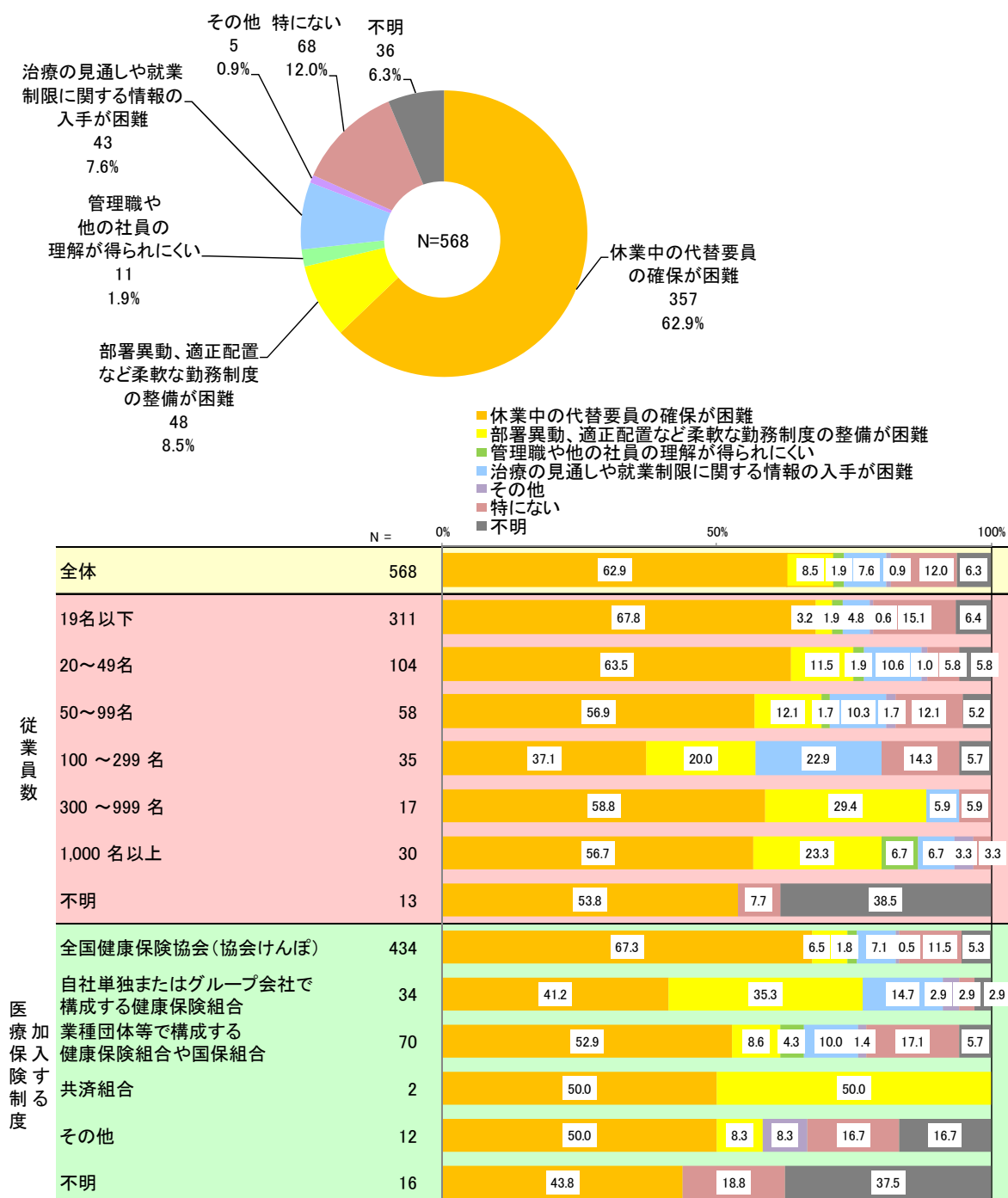
<コスト面の負担>

・仕事と治療の両立を実現するためのコスト面の負担の課題については、「休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難」の回答が 47.4%と約半数にのぼった。



＜人事管理上や情報把握の負担＞

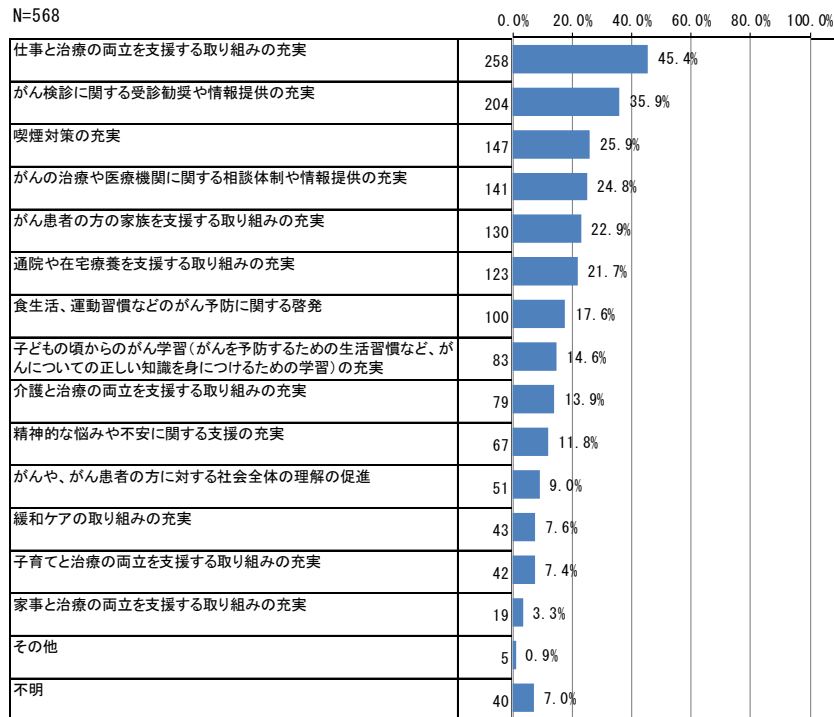
- ・仕事と治療の両立を実現するための人事管理や情報把握の負担の課題については、「代替要員の確保が困難」の回答が 62.9%となった。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模が小さくなるほど「代替要員の確保が困難」と回答する割合が高くなり、「部署異動、適正配置など柔軟な勤務制度の整備が困難」と回答する割合が低くなっている。



(2) 名古屋市のがん対策について

問 20 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。【3MA】

- ・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実」が45.4%と最も高く、次いで「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」(35.9%)、「喫煙対策の充実」(25.9%)の順となっている。
- ・企業の従業員規模別に見ると、規模の小さい企業は「仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実」が高く、規模の大きい企業は「がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実」が高い。



		調査数	食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発	子どもの頃からのがん学習(がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習)の充実	喫煙対策の充実	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	緩和ケアの取り組みの充実	精神的な悩みや不安に関する支援の充実	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	その他	不明
全体		568	17.6	14.6	25.9	35.9	24.8	7.6	11.8	21.7	45.4	7.4	13.9	3.3	22.9	9.0	0.9	7.0
従業員数	19名以下	311	17.4	14.8	22.8	33.4	23.5	9.3	11.3	22.2	41.8	7.4	14.5	3.2	21.2	10.3	1.3	7.1
	20～49名	104	22.1	18.3	28.8	39.4	25.0	4.8	11.5	23.1	52.9	9.6	12.5	3.8	23.1	5.8	1.0	4.8
	50～99名	58	12.1	12.1	29.3	39.7	27.6	6.9	6.9	27.6	58.6	3.4	10.3	3.4	27.6	3.4	0.0	1.7
	100～299名	35	11.4	8.6	37.1	25.7	22.9	0.0	17.1	17.1	54.3	11.4	14.3	2.9	25.7	14.3	0.0	8.6
	300～999名	17	29.4	11.8	35.3	52.9	29.4	0.0	23.5	5.9	35.3	0.0	17.6	5.9	23.5	5.9	0.0	11.8
	1,000名以上	30	16.7	20.0	23.3	46.7	23.3	16.7	13.3	16.7	36.7	10.0	13.3	3.3	26.7	13.3	0.0	16.7
	不明	13	15.4	0.0	23.1	30.8	46.2	0.0	15.4	15.4	23.1	0.0	23.1	0.0	23.1	7.7	0.0	15.4
医療加入保険制度	全国健康保険協会(協会けんぽ)	434	16.8	15.4	26.3	35.3	23.7	6.7	12.4	20.5	48.6	7.6	12.7	3.5	23.7	7.6	0.9	6.2
	自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合	34	26.5	17.6	26.5	41.2	26.5	11.8	11.8	20.6	32.4	8.8	23.5	2.9	20.6	8.8	0.0	14.7
	業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合	70	15.7	12.9	24.3	38.6	25.7	8.6	10.0	27.1	38.6	7.1	17.1	2.9	21.4	18.6	0.0	10.0
	共済組合	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	その他	12	16.7	0.0	16.7	41.7	33.3	16.7	0.0	16.7	25.0	8.3	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0
	不明	16	31.3	6.3	25.0	31.3	37.5	6.3	12.5	31.3	31.3	0.0	12.5	0.0	18.8	6.3	0.0	6.3

1番高い数値 2番目の数値

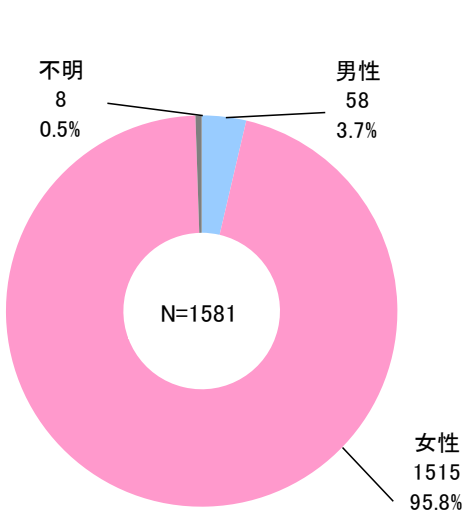
Ⅱ：調査結果

③協会けんぽ被扶養者

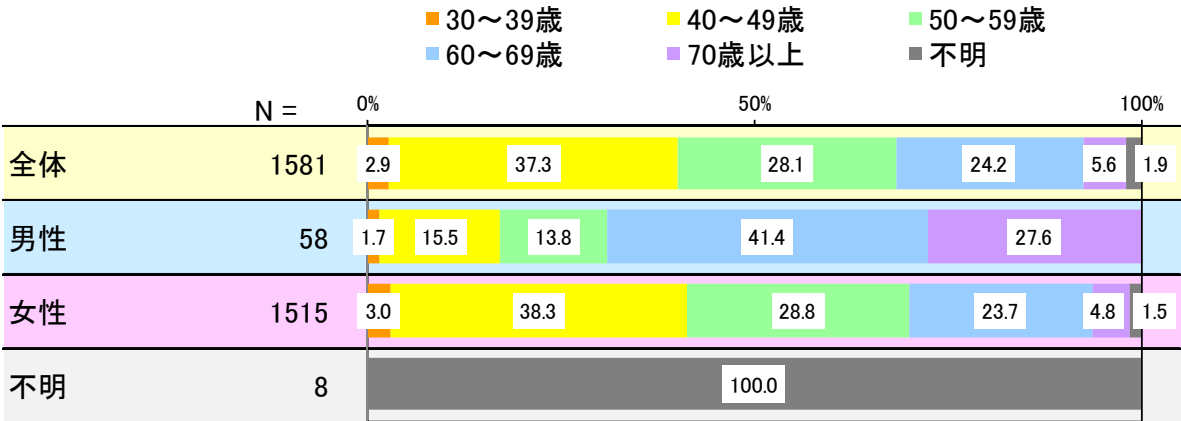
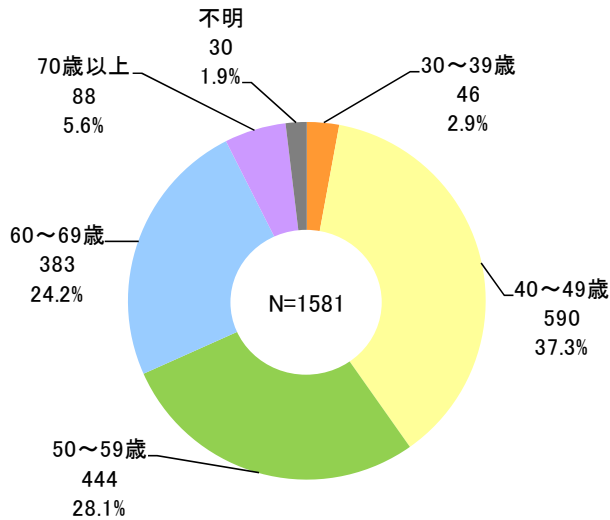
1:回答者のプロフィール

(1) 性別と年齢

問 1 性別



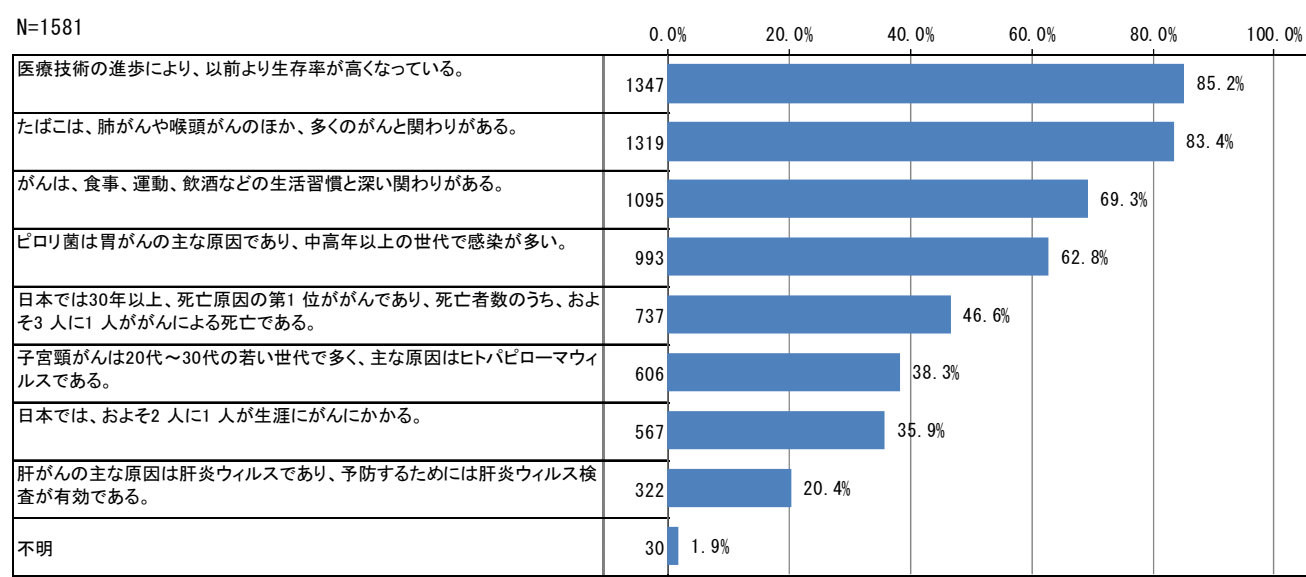
問 2 年齢



2:がんの知識

問3 がんについて知っていることを教えてください。【複数回答】

- ・がんについて知っている知識について、全体で「医療技術の進歩により生存率が高くなっている」が85.2%、「たばこは多くのがんと関わりがある」が83.4%でそれぞれが8割以上と高くなっている。
- ・「日本では、およそ2人に1人が生涯にがんにかかる。」の認知度が35.9%と低かった。
- ・子宮頸がんの知識については、女性でも39.6%と低い。
- ・肝がんの知識については20.4%と認知度が一番低い。



		調査数	が日本では、およそ2人に1人	る1万人のうち、およそ3人に1人ががんによる死亡である	るより医療技術の進歩により、以前	あどがんの生活習慣と深い関わりがある	がたばこは、多くのがんと関わりがある	感染ピロリ菌は胃がんの主な原因であり、中高年以上の世代で感染が多い	あは子宮頸がんは20代～30代の若い世代で多く、主な原因はヒトパピローマウイルスである	あは肝がんの主な原因は肝炎ウイルスであり、予防するためには肝炎ウイルス検査が有効である	不明
全体		1581	35.9	46.6	85.2	69.3	83.4	62.8	38.3	20.4	1.9
性年代	男性計	58	31.0	46.6	79.3	50.0	82.8	46.6	10.3	20.7	3.4
	女性計	1515	36.2	46.9	85.9	70.4	83.8	63.7	39.6	20.5	1.4
	女性30代	45	35.6	42.2	75.6	73.3	75.6	53.3	42.2	17.8	6.7
	女性40代	581	31.2	43.5	84.7	71.9	82.8	60.8	45.8	17.7	1.0
	女性50代	436	41.7	49.3	88.5	70.6	84.9	66.7	41.3	21.1	1.6
	女性60代	359	37.9	50.1	87.2	68.0	84.4	66.6	29.0	23.7	0.8
	女性70歳以上	72	31.9	47.2	79.2	59.7	88.9	58.3	26.4	22.2	2.8
	性別不明	8	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	87.5

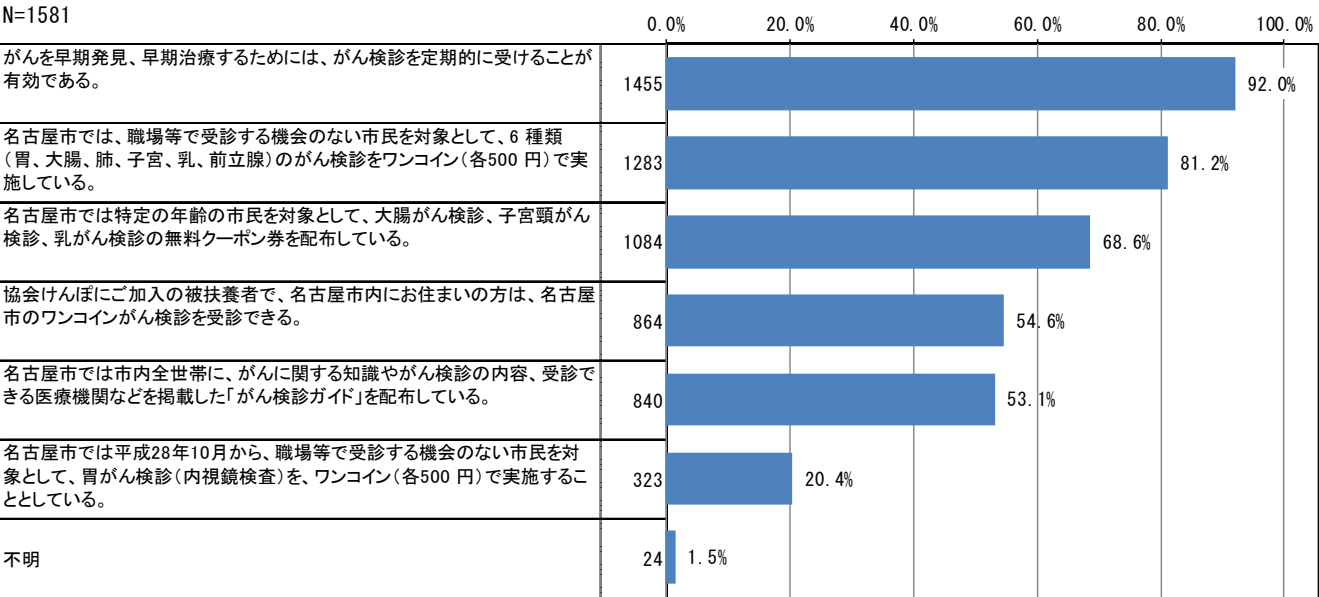
1番高い数値	2番目の数値
--------	--------

3:がん検診について

(1)がん検診の知識

問 4 がん検診について知っていることを教えてください【複数回答】

- ・がん検診に対する知識について、「がんを早期発見するためには、がん検診を定期的に受けることが有効」の回答が全体の 92.0%と最も高くなっている。
- ・「名古屋市でワンコイン検診を実施している」の認知度は 81.2%であるが、「協会けんぽ加入の被扶養者は名古屋市のワンコイン検診を受診できる」ことを認知しているのは 54.6%であった。



%

	調査数	がん検診を定期的に受けることが有効である	名古屋市では、職場等で受診する機会のない市民を対象として、6種類（胃、大腸、肺、子宮、乳、前立腺）のがん検診をワンコイン（各500円）で実施している	名古屋市では特定の年齢の市民を対象として、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポン券を配布している	協会けんぽにご加入の被扶養者で、名古屋市内にお住まいの方は、名古屋市のワンコインがん検診を受診できる	名古屋市では市内全世帯に、がんに関する知識やがん検診の内容、受診できる医療機関などを掲載した「がん検診ガイド」を配布している	名古屋市では平成28年10月から、職場等で受診する機会のない市民を対象として、胃がん検診（内視鏡検査）を、ワンコイン（各500円）で実施することとしている	不明
全体	1581	92.0	81.2	68.6	54.6	53.1	20.4	1.5
性別								
男性計	58	87.9	69.0	25.9	50.0	22.4	19.0	5.2
女性計	1515	92.5	81.8	70.5	55.0	54.5	20.5	1.2
年代								
女性30代	45	88.9	82.2	75.6	37.8	53.3	11.1	0.0
女性40代	581	93.5	83.1	79.2	52.8	54.6	16.7	1.2
女性50代	436	93.3	84.4	77.8	56.4	57.8	22.9	0.7
女性60代	359	90.8	78.3	53.2	59.1	52.6	25.9	1.4
女性70歳以上	72	91.7	73.6	40.3	56.9	45.8	16.7	4.2
性別不明	8	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5

1番高い数値	2番目の数値
--------	--------

(2) 昨年度受診したがん検診

問5 あなたが昨年度（平成27年4月～平成28年3月）に受けたがん検診を教えてください。
【複数回答】

- ・昨年度受診したがん検診について、がん検診無料クーポン券の対象のがん検診は、全体と比べ受診率が高かった。
- ・昨年度「受診しなかった」のは全体では47.6%に対し、無料クーポン券対象者は37.3%と10ポイント以上低く、無料クーポン券配布によって受診促進の効果があったと考えられる。

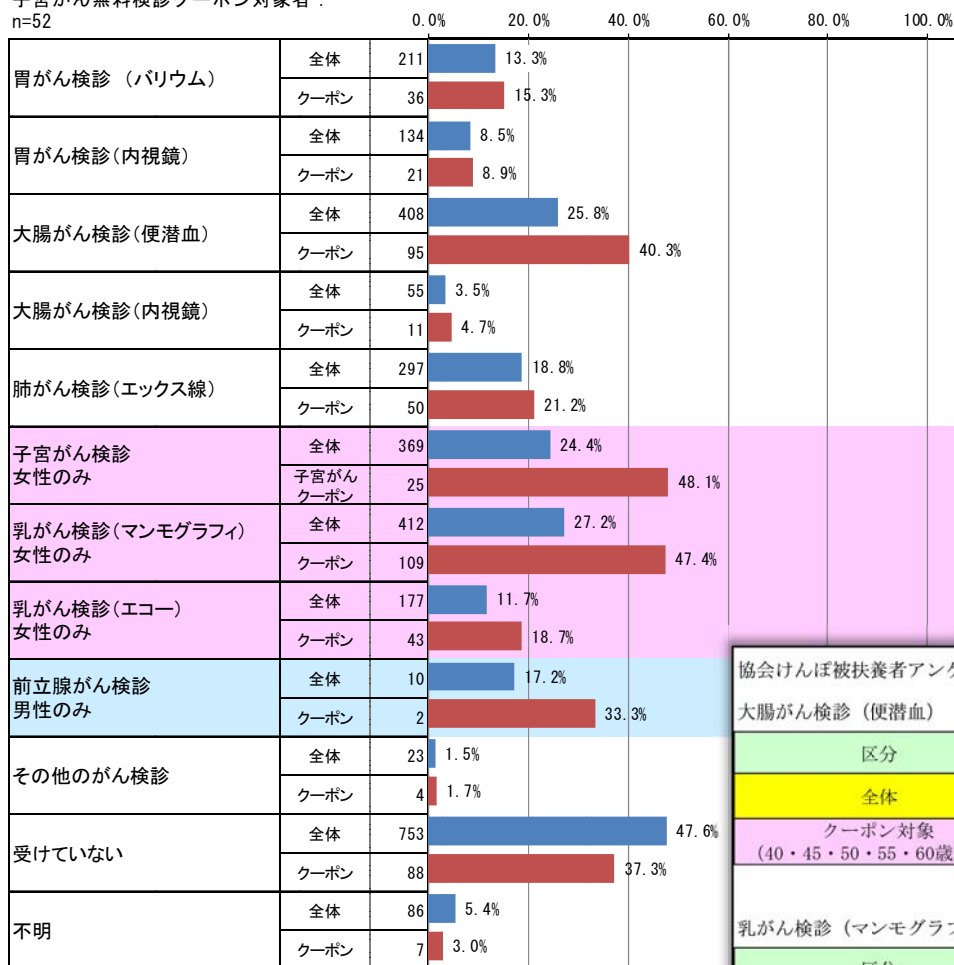
全体：N=1581

(女性n=1515, 男性n=58)

がん無料検診クーポン：n=236

(女性n=230, 男性n=6)

子宮がん無料検診クーポン対象者：
n=52



協会けんぽ被扶養者アンケート 昨年度の受診状況

大腸がん検診（便潜血）

区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1581	408	25.81%
クーポン対象 (40・45・50・55・60歳男女)	236	95	40.25%

乳がん検診（マンモグラフィ）

区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1515	412	27.19%
クーポン対象 (40・45・50・55・60歳女性)	230	109	47.39%

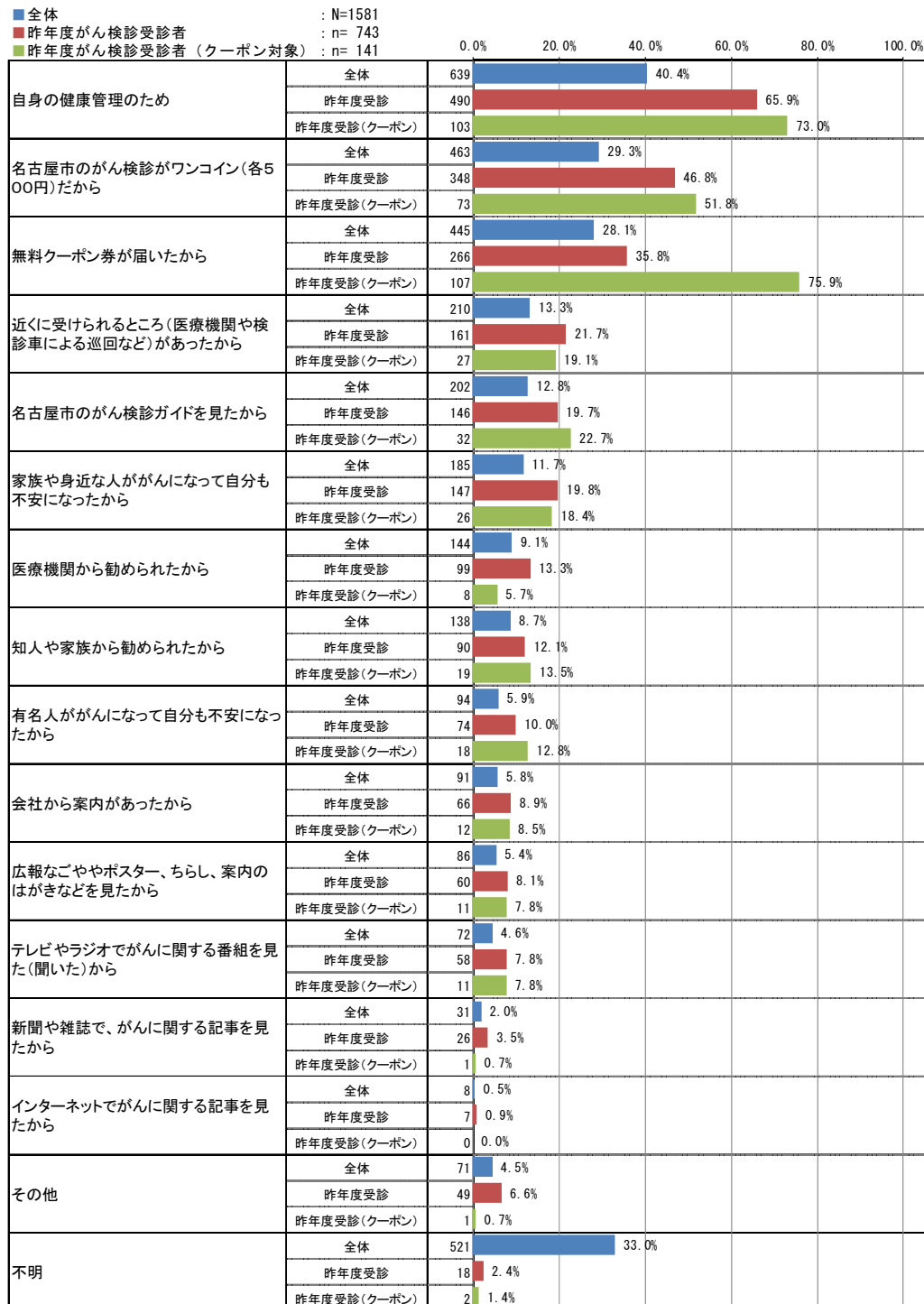
子宮がん検診

区分	対象者数	受診者数	割合
全体	1515	369	24.36%
クーポン対象 (20・25・30・35・40歳女性)	52	25	48.08%

(3) がん検診受診のきっかけ

問6 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。【複数回答】

- ・がん検診を受診したことがある方が、がん検診を受診したきっかけとしては全体では「自身の健康管理のため」が40.4%と最も高く、以下「名古屋市のがん検診がワンコインだから」(29.3%)、「無料クーポン券が届いたから」(28.1%)の順となった。
- ・昨年度がん検診を受診した無料クーポン券対象者の75.9%が、がん検診受診のきっかけとして「無料クーポン券が届いたから」と回答している。



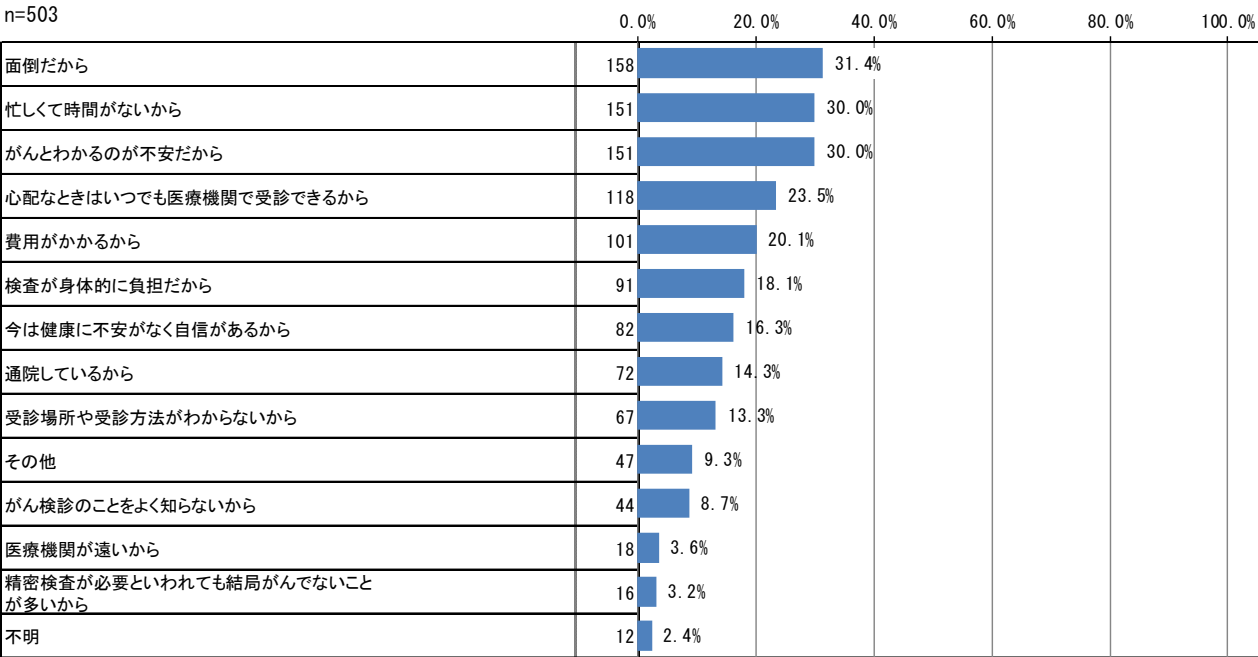
(4) がん検診を受診しない理由

問7 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。【3MA】

※がん検診を受診したことがない方…問5昨年度いずれのがん検診も受診せず、

問6がん検診受診のきっかけの回答が不明のサンプル(503 サンプル)

- ・がん検診を受診しない理由としては「面倒だから」(31.4%)、「忙しくて時間がないから」(30.0%)、「がんとわかるのが不安だから」(30.0%)の順で高かった。
- ・年代別に見ると、若い年代では「面倒だから」、「忙しくて時間がないから」が高く、高年代では、「心配なときはいつでも医療機関で受診できるから」が高かった。



		調査数	忙しくて時間がないから	費用がかかるから	今は健康に不安がなく自信があるから	がんとわかるのが不安だから	面倒だから	検査が身体的に負担だから	通院しているから	心配なときはいつでも医療機関で受診できるから	精密検査が必要といわれても結局がんでないことが多いから	医療機関が遠いから	受診場所や受診方法がわからないから	がん検診のことをよく知らないから	その他	不明	%
全体		503	30.0	20.1	16.3	30.0	31.4	18.1	14.3	23.5	3.2	3.6	13.3	8.7	9.3	2.4	
性年代	男性計	32	25.0	28.1	6.3	21.9	25.0	9.4	21.9	12.5	3.1	0.0	21.9	25.0	6.3	6.3	
	女性計	466	30.5	19.5	17.0	30.7	32.0	18.9	13.9	24.2	3.0	3.9	12.9	7.7	9.7	1.7	
	女性30代	16	56.3	37.5	18.8	25.0	31.3	12.5	0.0	18.8	0.0	6.3	18.8	6.3	12.5	0.0	
	女性40代	174	45.4	23.0	12.6	32.2	37.9	14.9	4.6	10.9	1.7	5.2	20.7	6.9	10.3	1.1	
	女性50代	111	26.1	18.0	14.4	26.1	30.6	20.7	21.6	26.1	3.6	2.7	7.2	8.1	8.1	3.6	
	女性60代	124	16.9	17.7	20.2	39.5	29.8	23.4	19.4	38.7	3.2	0.8	5.6	7.3	7.3	0.8	
	女性70歳以上	31	9.7	9.7	35.5	16.1	12.9	12.9	22.6	45.2	9.7	9.7	16.1	9.7	16.1	3.2	
	性別不明	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	

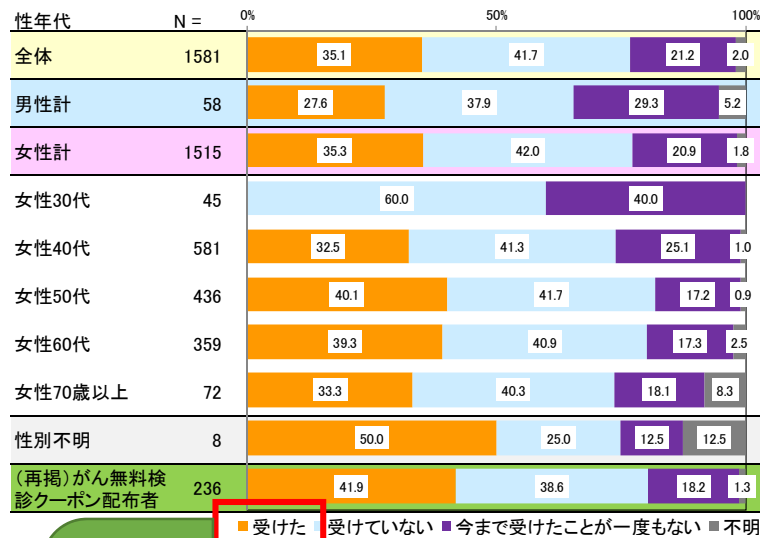
1番高い数値 2番目の数値

4: 特定健康診査について

(1) 昨年度の特定健康診査の受診状況

問8 あなたは昨年度（平成27年4月～平成28年3月）に、特定健康診査を受けましたか？

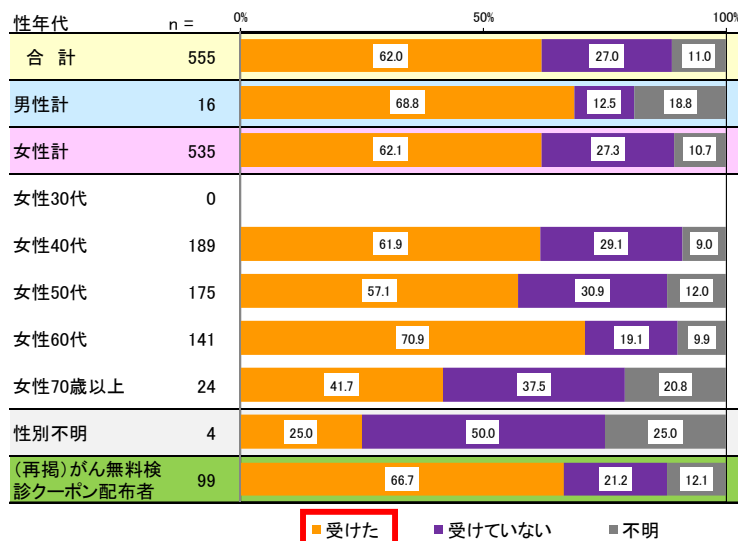
・特定健康診査の受診率は全体で35.1%であった。



(2) 特定健康診査と同時のがん検診の受診状況

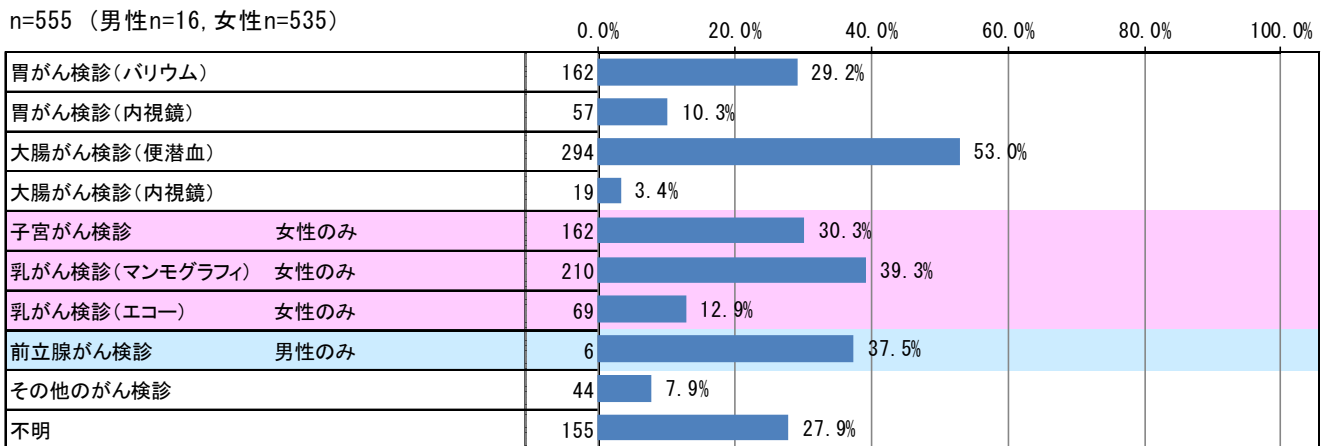
問9 昨年度に特定健康診査を受けた方にお尋ねします。特定健康診査と同時のがん検診を受けましたか？

・特定健康診査の受診者が同時のがん検診を受診したのは62.0%であった。



（問9で「受けた」と回答の方）それはどのようながん検診ですか【複数回答】

- ・特定健康診査の受診者が同時に受診したがん検診の内容としては「大腸（便潜血）」（53.0%）、
「乳がん（マンモグラフィ）」（女性のみ 39.3%）、「前立腺」（男性のみ 37.5%）、の順で高く、
無料クーポン券を配布したり、ワンコイン検診を実施しているがん検診の受診率が高かった。



		調査数	胃がん検診 (バリウム検診)	胃がん検診 (内視鏡)	大腸がん検診 (便潜血)	大腸がん検診 (内視鏡)	子宮がん検診	乳がん検診 (マンモグラフィ)	乳がん検診 (エコー)	前立腺がん検診	その他のがん検診	不明
全体		555	29.2	10.3	53.0	3.4	30.3	39.3	12.9	37.5	7.9	27.9
性年代	男性計	16	50.0	12.5	68.8	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	18.8
	女性計	535	28.8	10.3	52.7	3.4	30.3	39.3	12.9	0.0	8.2	28.0
	女性30代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性40代	189	31.2	2.6	47.1	2.1	36.0	41.3	15.3	0.0	9.0	30.7
	女性50代	175	28.0	9.1	53.1	2.3	25.1	37.1	11.4	0.0	9.7	30.9
	女性60代	141	27.7	20.6	60.3	6.4	31.2	44.0	12.8	0.0	7.1	18.4
	女性70歳以上	24	25.0	12.5	45.8	4.2	12.5	12.5	8.3	0.0	0.0	45.8
	性別不明	4	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

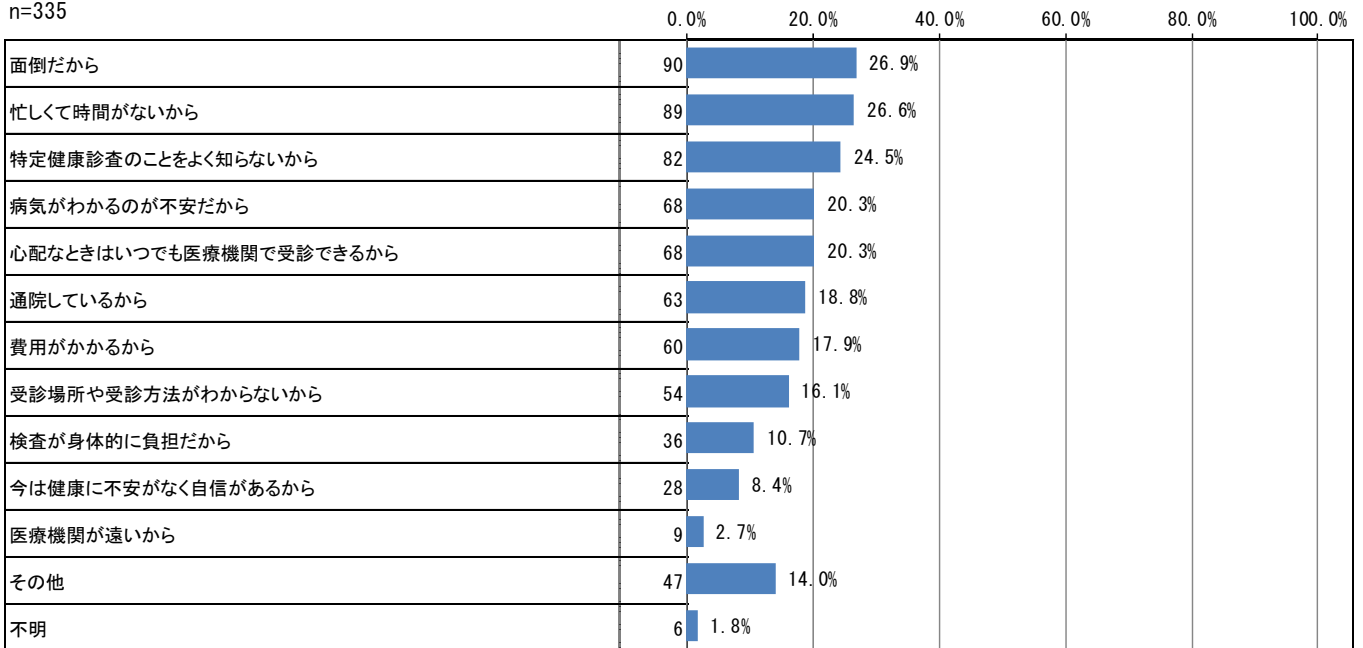
1番高い数値 2番目の数値

(3) 特定健康診査を受診しない理由

問 10 特定健康診査を受診したことがない方にお尋ねします。特定健康診査を受診しない理由を教えてください。

- ・特定健康診査を受診しない理由としては「面倒だから」(26.9%)、「忙しくて時間がないから」(26.6%)、「特定健康診査のことをよく知らないから」(24.5%)の順で高かった。
- ・年代別に見ると、若い年代では「面倒だから」、「忙しくて時間がないから」が高く、高年代では、「通院しているから」「心配なときはいつでも医療機関で受診できるから」が高かった。

n=335



%

	調査数	忙しくて時間がないから	費用がかかるから	今は健康に不安がなく自信があるから	病気がわかるのが不安だから	面倒だから	検査が身体的に負担だから	通院しているから	心配なときはいつでも医療機関で受診できるから	医療機関が遠いから	受診場所や受診方法がわからないから	特定健康診査のことをよく知らないから	その他	不明
全体	335	26.6	17.9	8.4	20.3	26.9	10.7	18.8	20.3	2.7	16.1	24.5	14.0	1.8
男性計	17	5.9	11.8	5.9	17.6	23.5	17.6	29.4	23.5	0.0	29.4	29.4	0.0	5.9
女性計	317	27.8	18.3	8.5	20.5	26.8	10.4	18.3	20.2	2.8	15.5	24.3	14.8	1.6
女性30代	18	50.0	33.3	5.6	22.2	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	16.7	33.3	27.8	0.0
女性40代	146	32.9	20.5	7.5	19.9	29.5	8.9	4.8	10.3	4.8	22.6	27.4	15.8	2.1
女性50代	75	29.3	17.3	8.0	14.7	36.0	9.3	29.3	24.0	1.3	10.7	20.0	10.7	1.3
女性60代	62	12.9	11.3	9.7	25.8	21.0	19.4	40.3	40.3	0.0	4.8	17.7	16.1	0.0
女性70歳以上	13	7.7	15.4	15.4	38.5	0.0	7.7	30.8	38.5	0.0	15.4	30.8	7.7	0.0
性別不明	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

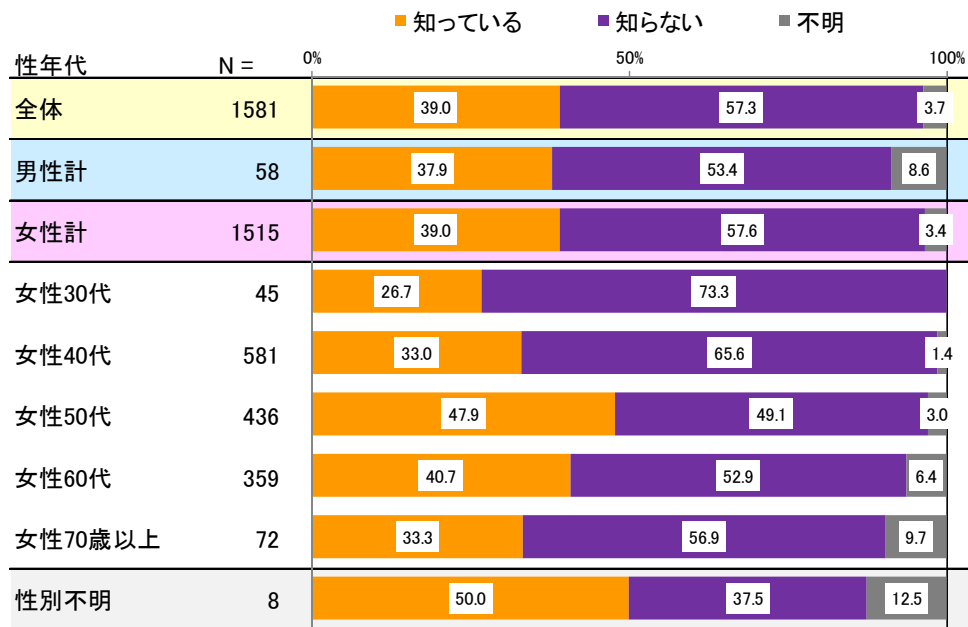
1番高い数値

2番目の数値

5:特定保健指導について

問 1 1 「特定保健指導」がどのようなものか知っていますか

・特定保健指導を「知っている」のは全体の 39.0%であった



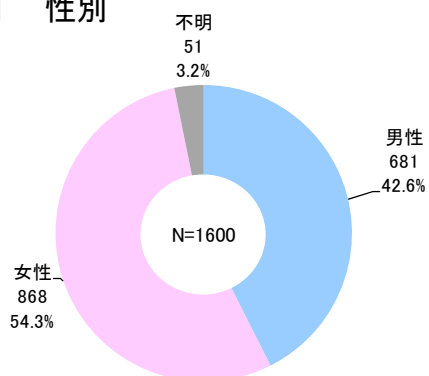
Ⅱ：調査結果

④がん患者

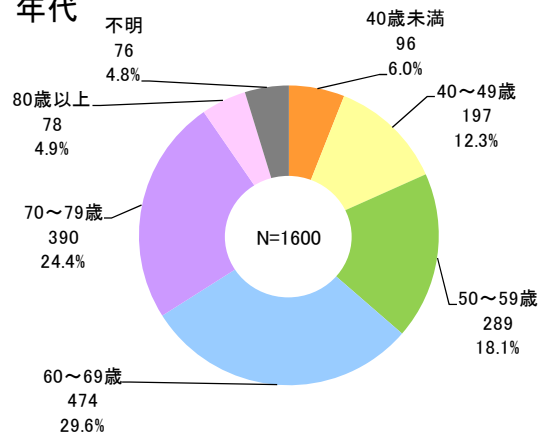
1:回答者のプロフィール

(1) 性別と年代

問1 性別

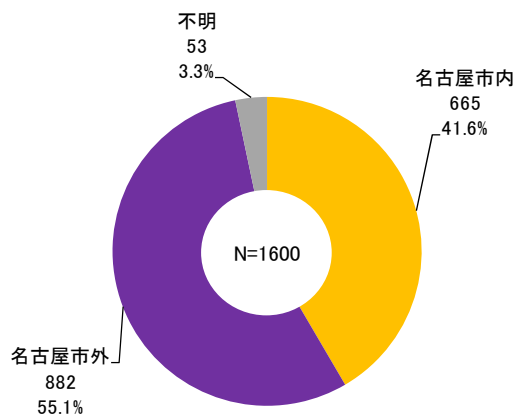


問3 年代



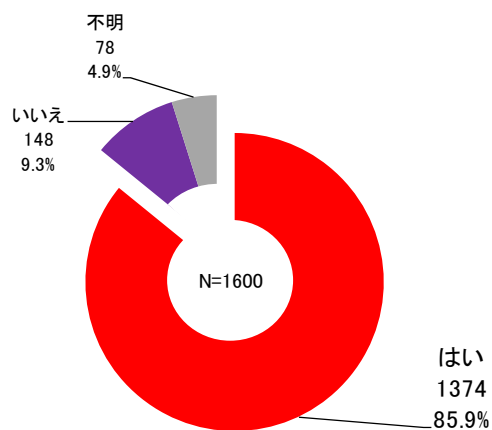
(2) 居住地

問2 居住地



(3) がんの罹患状況

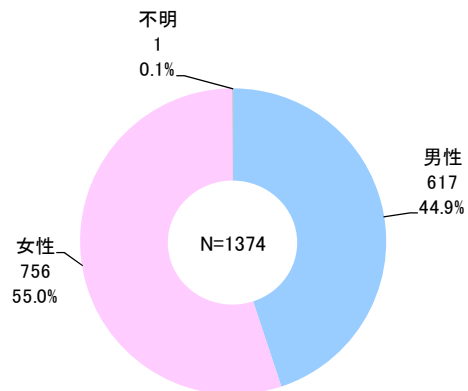
問4 あなたはがんと診断されていますか



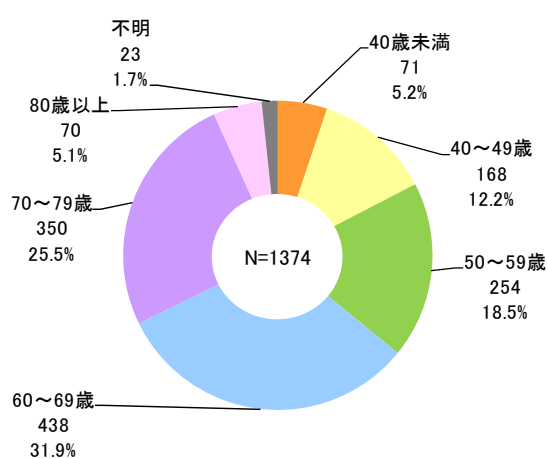
2:回答者(がん患者)のプロフィール

(1) 性別と年代

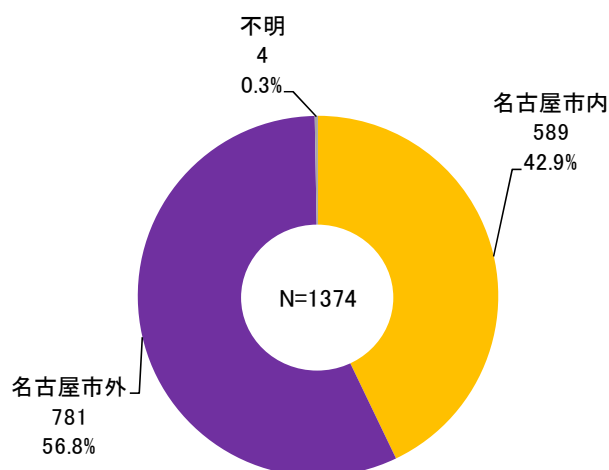
性別



年代



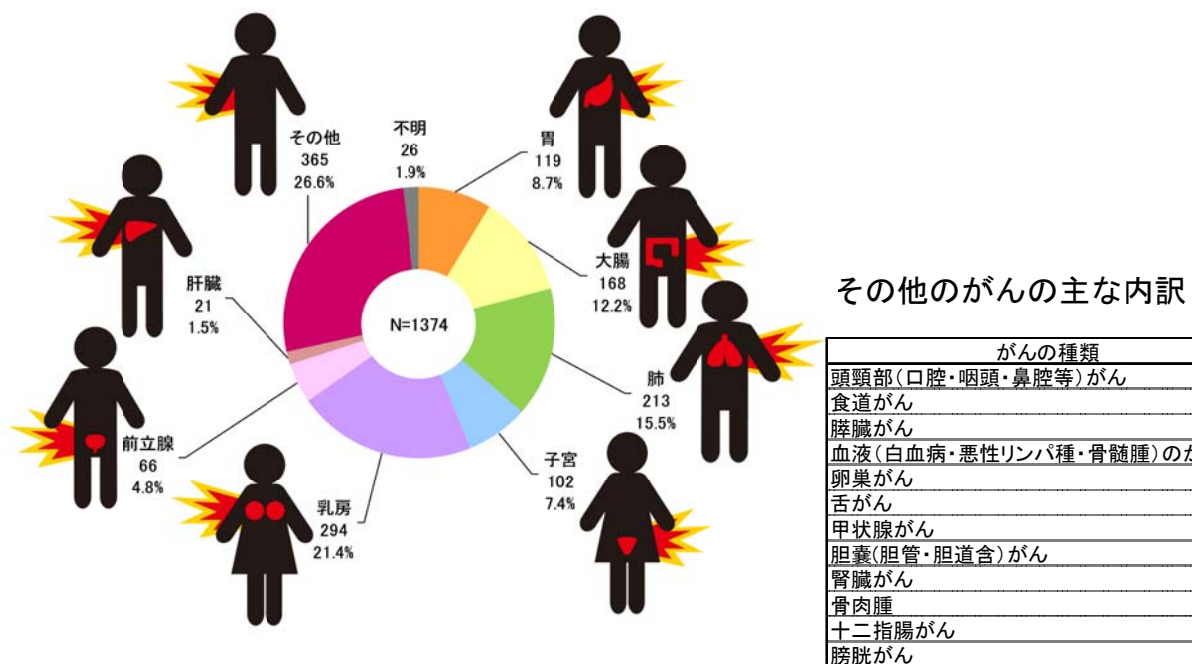
(2) 居住地



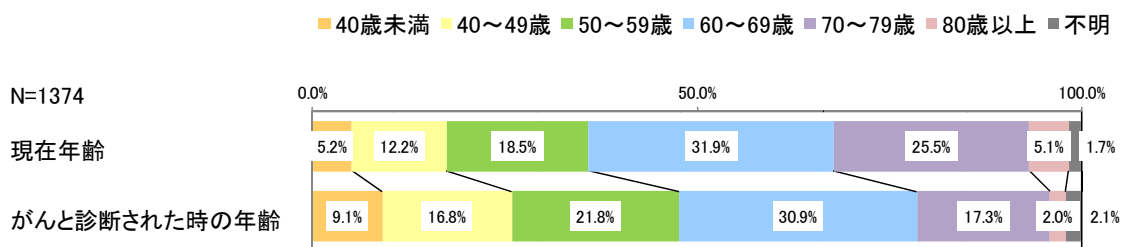
(3) がんの状況

- 問5 診断されたがんの種類（原発巣）を教えてください。
- 問6 最初にがんと診断された時の年齢を教えてください。
- 問7 診断されたときの進行度（ステージ）を教えてください。
- 複数回かかったときは、直近のがんについて教えてください。

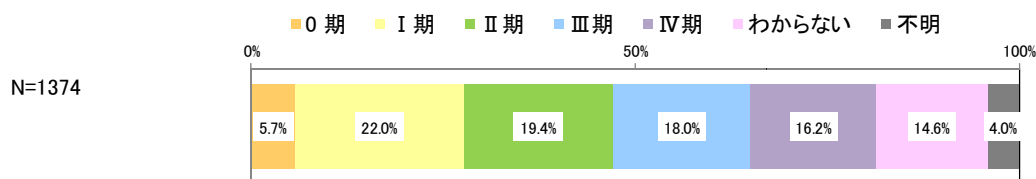
原発巣



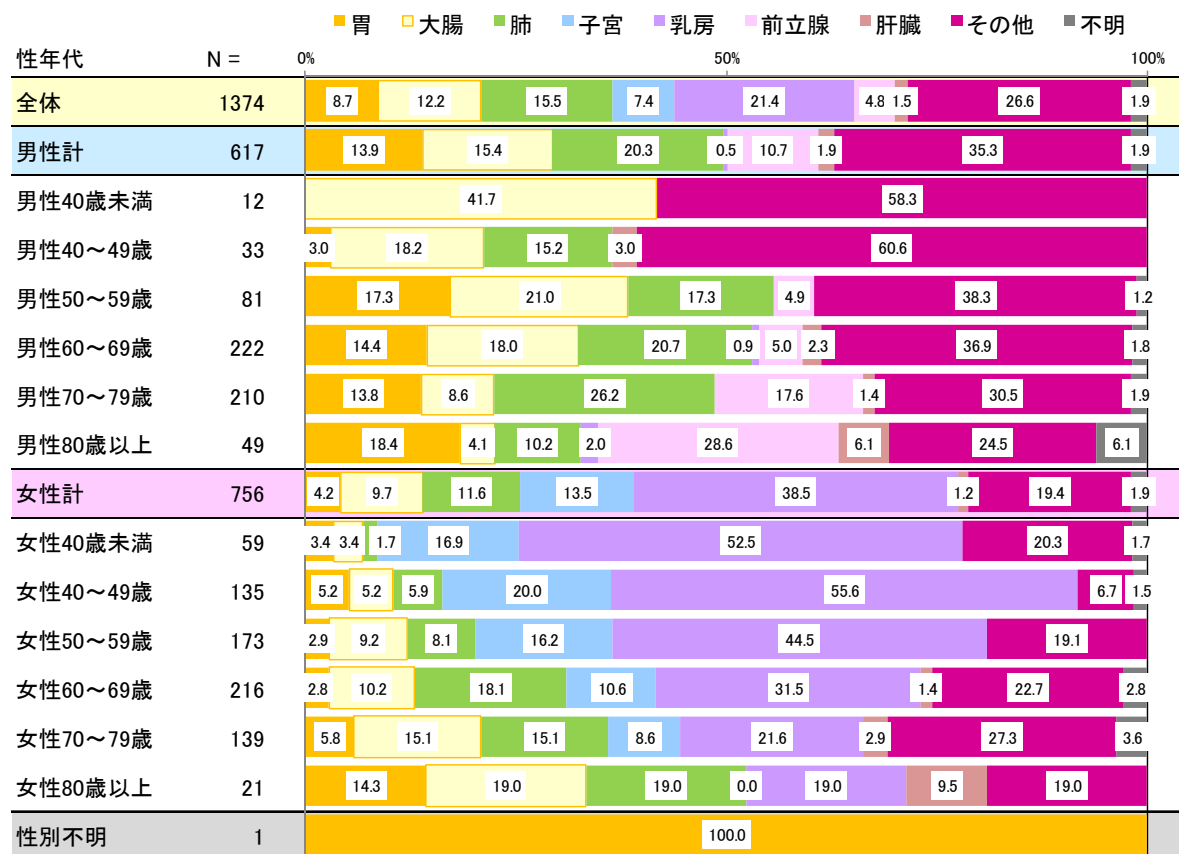
がんと診断された時の年齢



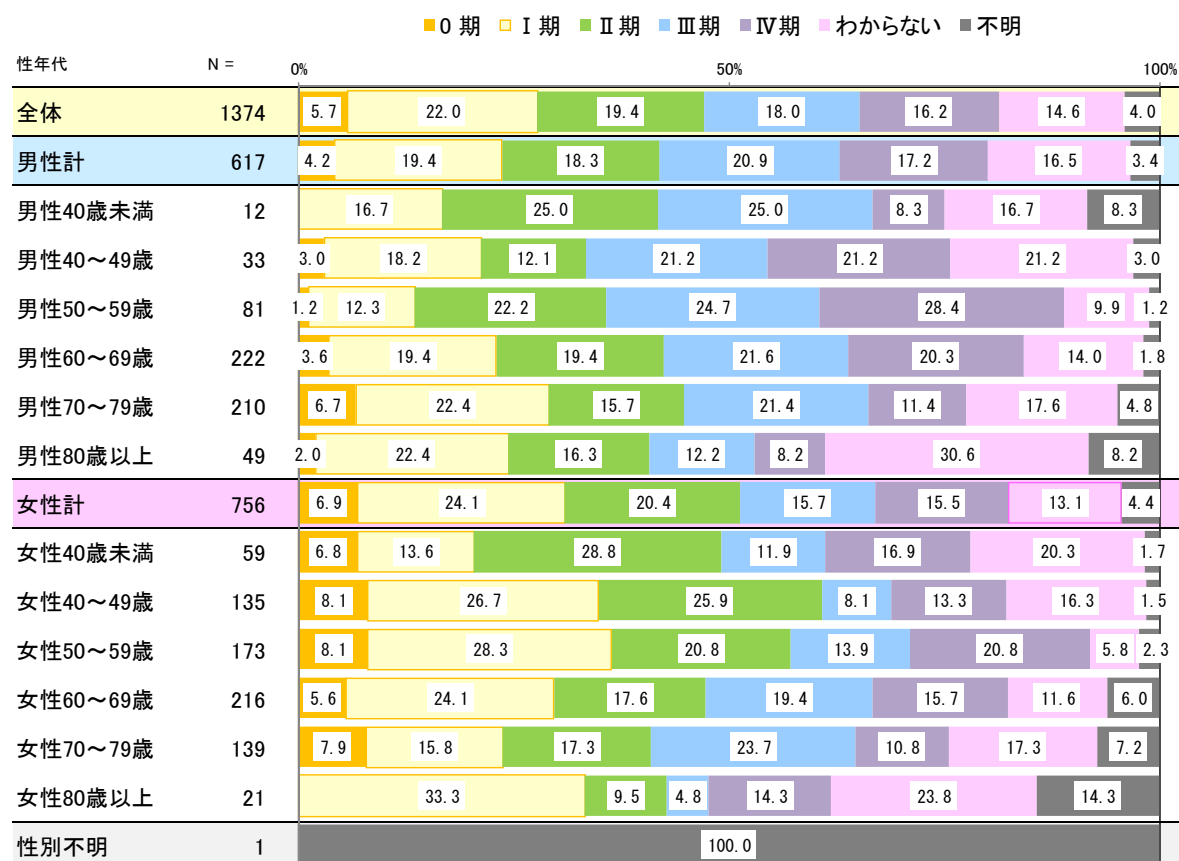
がんと診断された時の進行度



性年代別原発巣



性年代別進行度

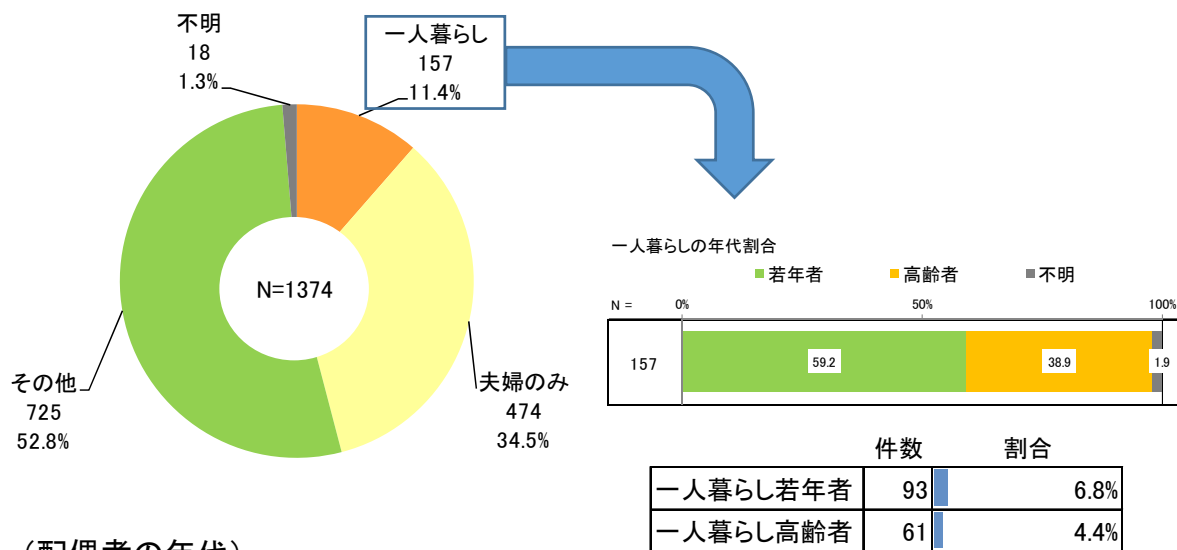


(4) がん診断時の世帯の状況

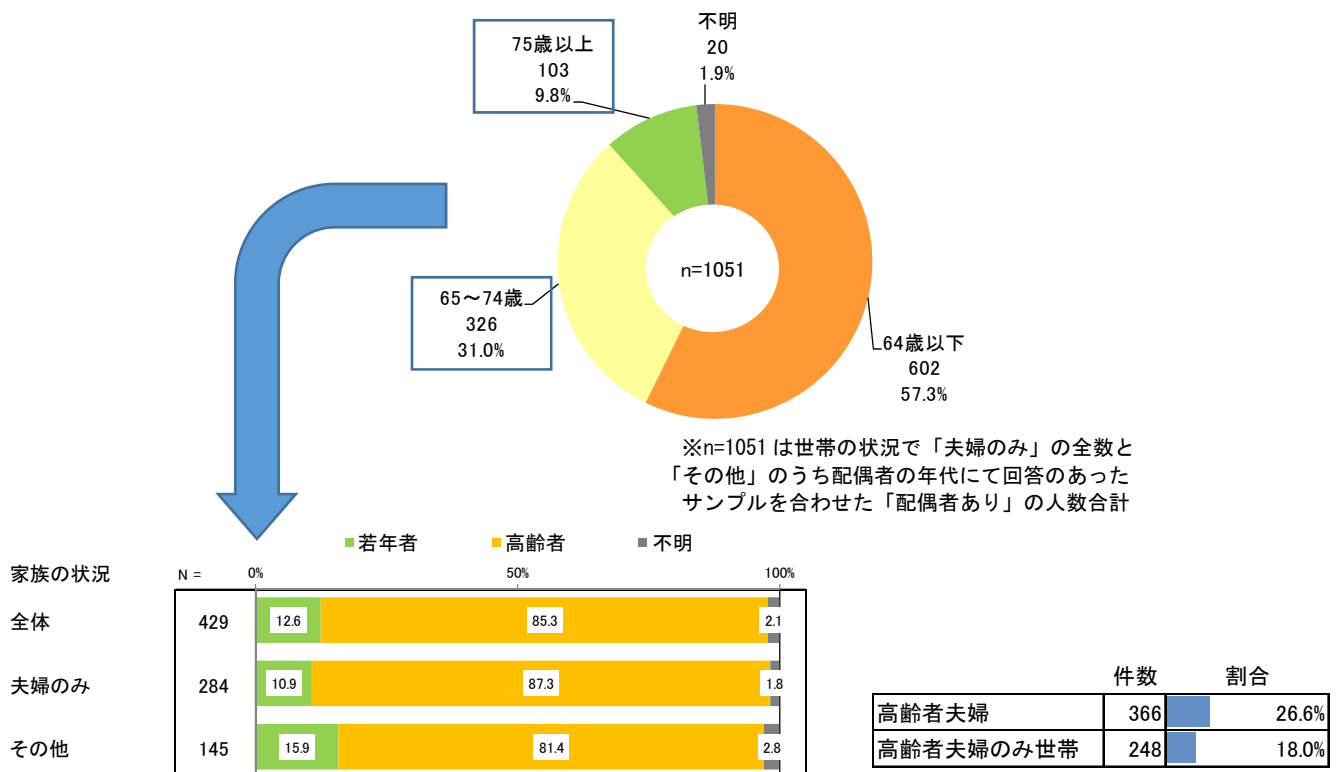
- ・がん診断時の世帯の状況として、若年者の独居世帯は全体の6.8%、高齢者の独居世帯は4.4%で高齢者夫婦のみ世帯は18.0%であった。
- ・家族の状況として、中学生以下の子どもがいたのは12.6%、介護や介助が必要な者がいたのは18.2%、がん患者自身が介護や介助をしていたのが5.7%であった。

問8 がんを診断されたときの世帯の状況を教えてください。

(世帯の状況)



(配偶者の年代)

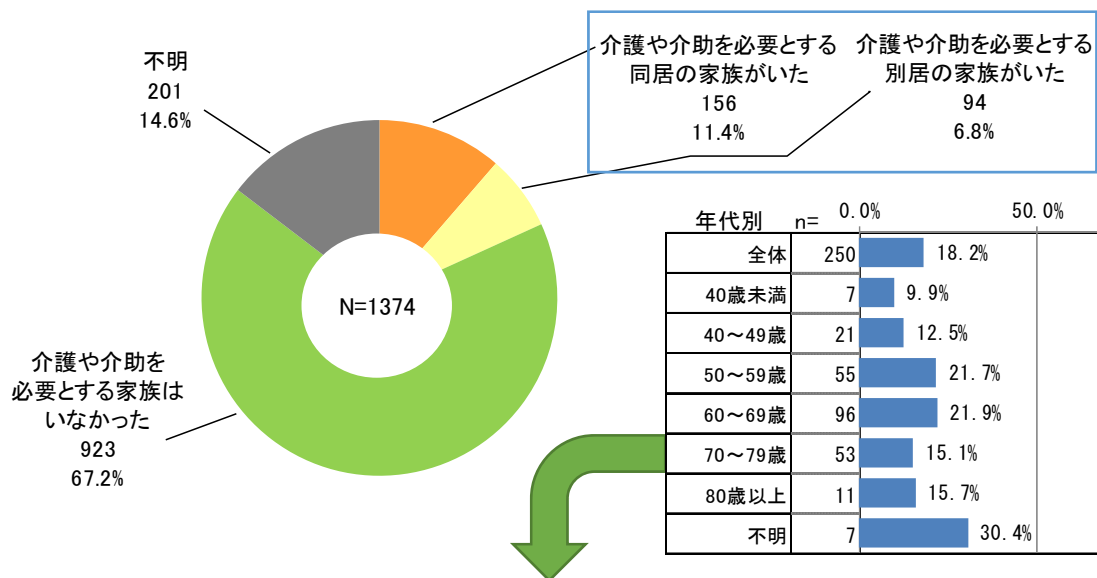


(子供の人数)

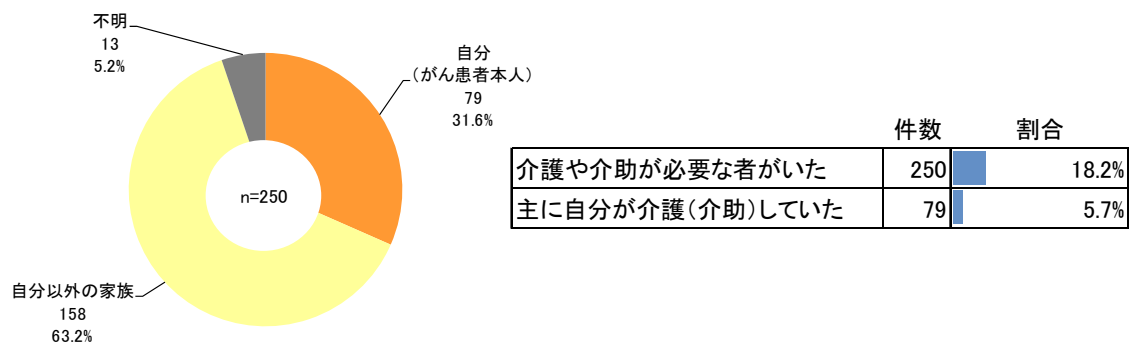
N=1374	1人	2人	3人以上	いない	子供がいた割合
0歳～2歳	33	4	0	1337	2.7%
3歳～就学前	31	5	0	1338	2.6%
小学生・中学生	79	47	5	1243	9.5%
子供全体	87	75	11	1201	12.6%

年代別	n=	0.0%	50.0%	100.0%
全体	173	12.6%		
40歳未満	31	43.7%		
40～49歳	75	44.6%		
50～59歳	48	18.9%		
60～69歳	6	1.4%		
70～79歳	7	2.0%		
80歳以上	1	1.4%		
不明	5	21.7%		

(介護や介助を必要とする、高齢者や障害者・児等の家族の有無)



主に介護（介助）していたのは誰ですか



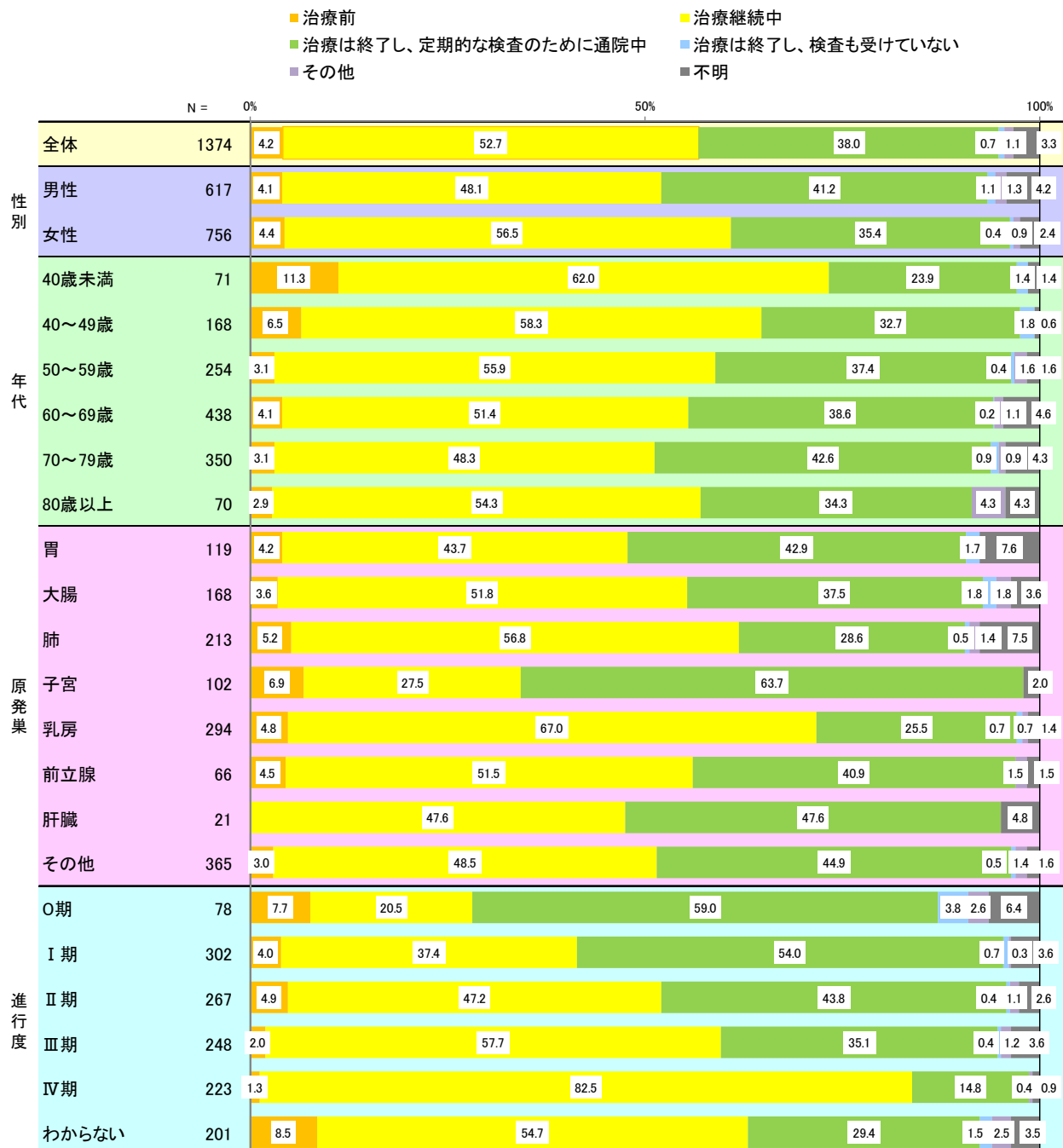
	N	若年単身世帯	高齢者単身世帯	高齢者夫婦のみ世帯	子どものいる世帯	要介護・要介助者のいる世帯
全体	1374	93 (6.8%)	61 (4.4%)	248 (18.0%)	173 (12.6%)	250 (18.2%)
居住地						
名古屋市内	589	52 (8.8%)	37 (6.3%)	121 (20.5%)	74 (12.6%)	98 (16.6%)
名古屋市外	781	41 (5.2%)	22 (2.8%)	126 (16.1%)	99 (12.7%)	151 (19.3%)
不明	4	0 (0.0%)	50.0%	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)

3：がん医療・がん患者の支援について

(1) がんの治療状況

問9 現在の状況を教えてください。

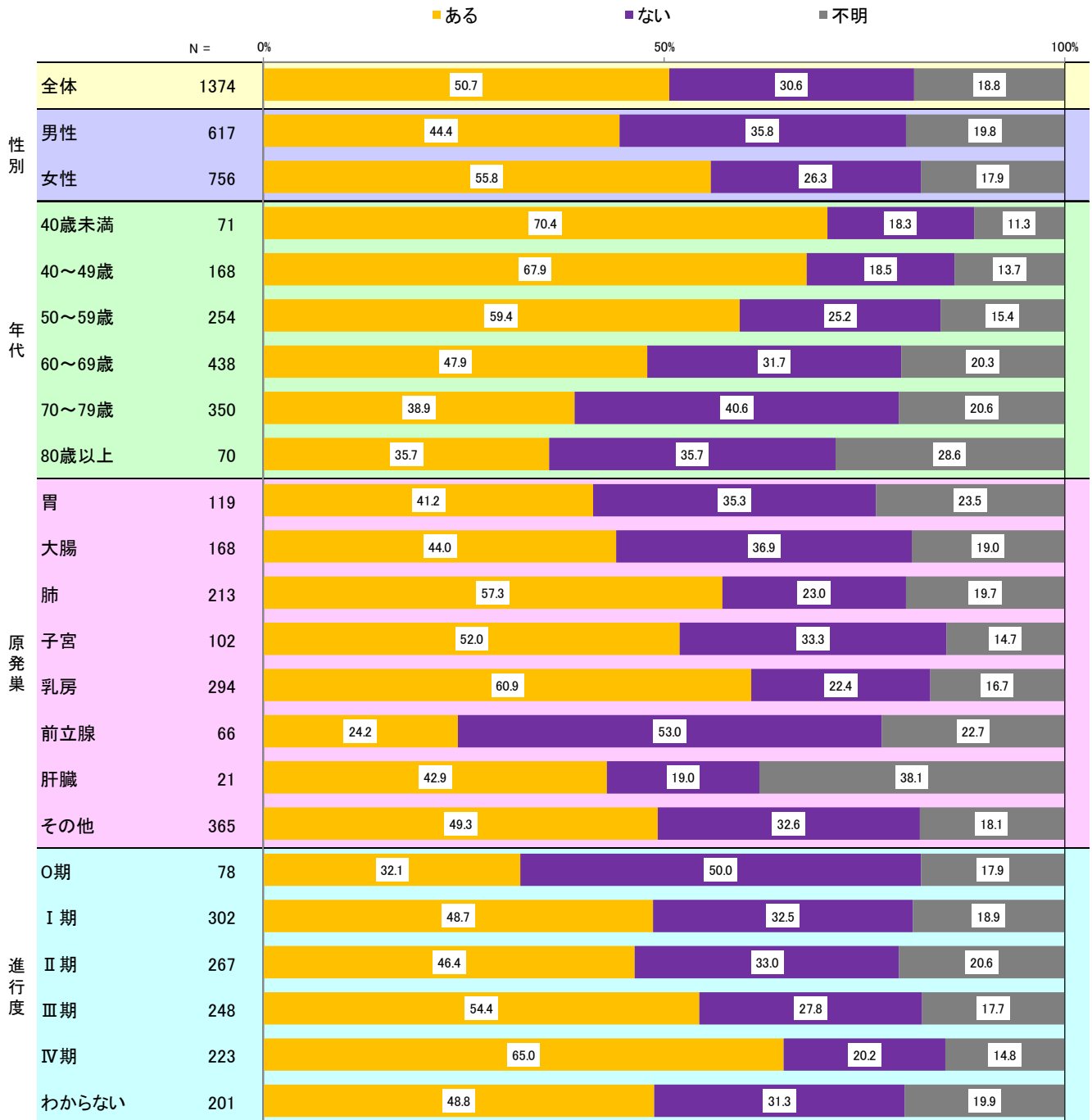
・現在の治療状況としては全体で「治療継続中」は52.7%で、「治療は終了し、定期的な検査のために通院中」は38.0%であった。

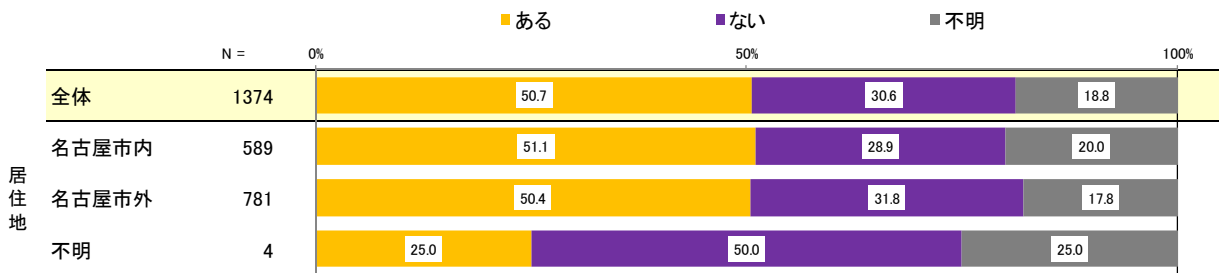
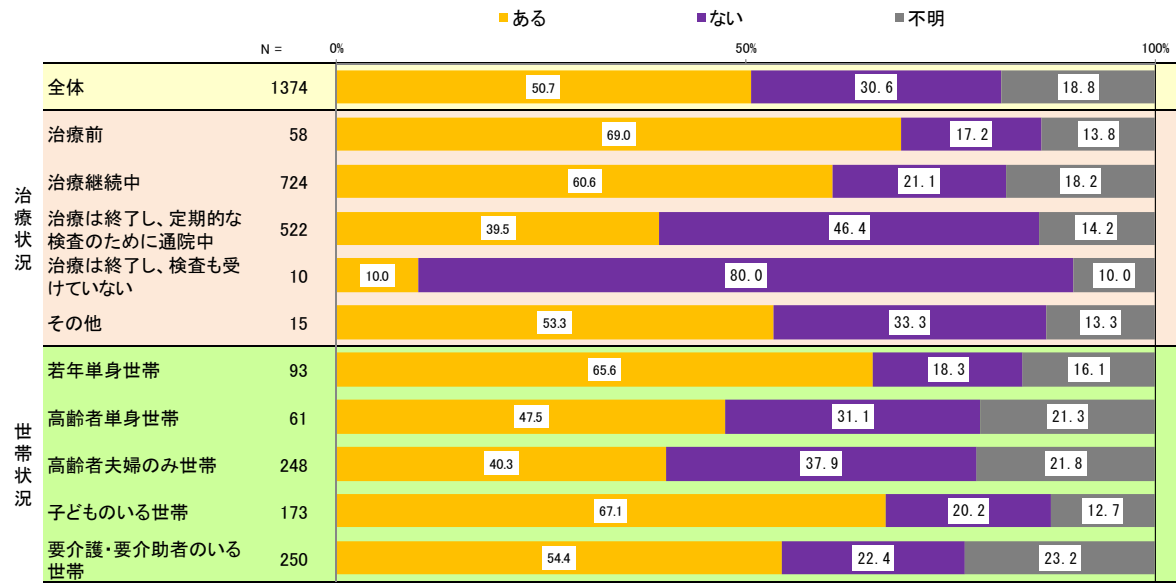


(2) がんについての悩み

問 10 がんについて、現在、悩みがありますか？

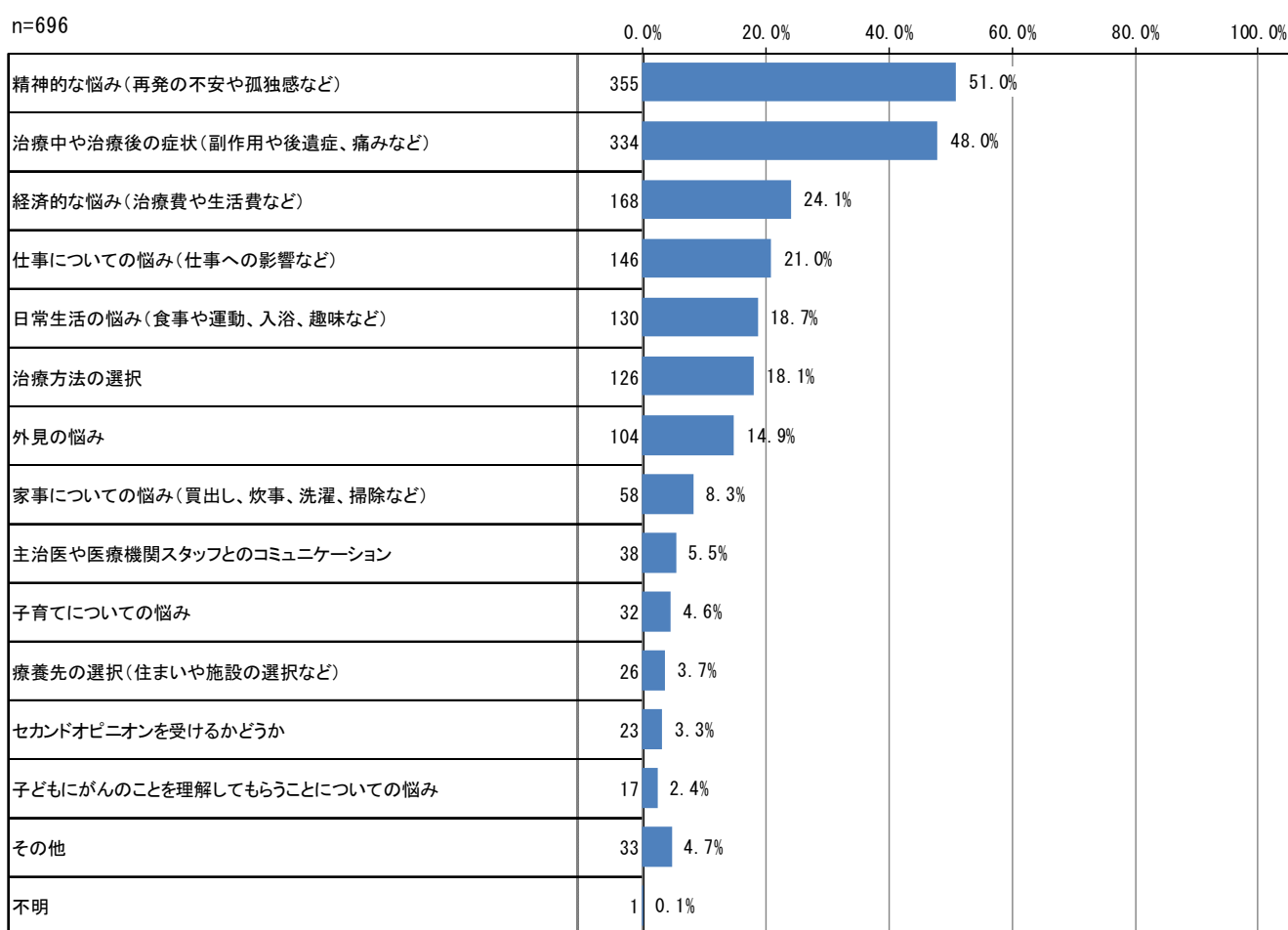
- ・現在、がんについての悩みがあるのは全体で 50.7%と約半数であった。
- ・年代別では若い年代ほど、進行度別では進行しているほど、悩みがあるとする回答の割合が高い。
- ・世帯の状況別では、若年単身世帯と子どものいる世帯が悩みがある割合が高い。





(問10で「はい」と回答の方) それはどのような悩みですか

- ・具体的な悩みの内容としては、「精神的な悩み」(51.0%)、「治療中や治療後の症状」(48.0%)が高い。
- ・若年層や、若年単身世帯、子供のいる世帯は「経済的な悩み」、「仕事についての悩み」が高くなっている。特に40歳未満では、「精神的な悩み」、「治療中や治療後の症状」に次いで「経済的な悩み」、「外見の悩み」、「仕事についての悩み」の順に多い。



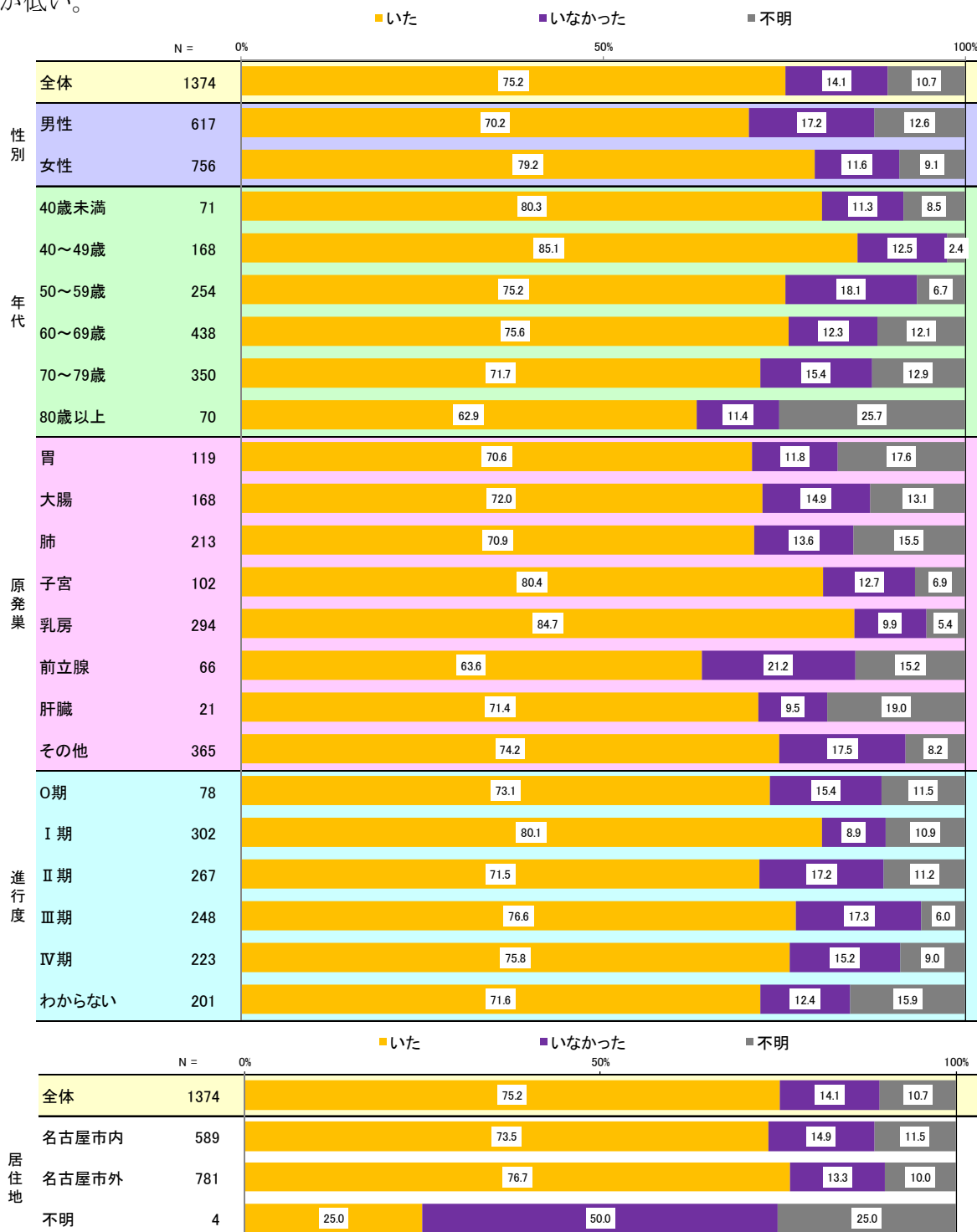
		調査数	セカンドオピニオンを受けるかどうか	治療方法の選択	治療中や治療後の症状（副作用や後遺症、痛みなど）	外見の悩み	療養先の選択（住まいや施設の選択など）	主治医や医療機関スタッフとのコミュニケーション	経済的な悩み（治療費や生活費など）	仕事についての悩み（仕事への影響など）	家事、洗濯、掃除など（買出し、炊事など）	子育てについての悩み	子どもにがんのことを理解してもらっているかどうか	日常生活の悩み（食事や運動、入浴、趣味など）	精神的な悩み（再発の不安や孤独感など）	その他	不明
全体		696	3.3	18.1	48.0	14.9	3.7	5.5	24.1	21.0	8.3	4.6	2.4	18.7	51.0	4.7	0.1
性別	男性	274	3.6	21.9	50.4	7.3	3.6	3.3	21.2	21.2	3.6	1.1	1.5	26.3	42.7	4.7	0.4
	女性	422	3.1	15.6	46.4	19.9	3.8	6.9	26.1	20.9	11.4	6.9	3.1	13.7	56.4	4.7	0.0
年代	40歳未満	50	2.0	12.0	46.0	34.0	4.0	2.0	38.0	26.0	12.0	20.0	8.0	20.0	58.0	4.0	0.0
	40～49歳	114	3.5	17.5	44.7	21.9	5.3	6.1	34.2	31.6	8.8	14.0	7.9	9.6	53.5	4.4	0.0
	50～59歳	151	3.3	17.9	48.3	15.9	2.0	5.3	28.5	35.8	9.3	3.3	0.7	15.9	53.6	3.3	0.0
	60～69歳	210	3.3	19.0	49.5	13.3	2.9	6.2	22.9	14.8	5.2	0.5	0.5	24.8	52.4	4.8	0.5
	70～79歳	136	3.7	15.4	48.5	4.4	4.4	4.4	9.6	5.1	10.3	0.0	1.5	18.4	50.8	5.9	0.0
	80歳以上	25	4.0	36.0	56.0	4.0	12.0	8.0	8.0	8.0	12.0	0.0	0.0	28.0	20.0	8.0	0.0
原発巣	胃	49	6.1	26.5	46.9	10.2	4.1	4.1	8.2	26.5	6.1	6.1	4.1	30.6	34.7	6.1	0.0
	大腸	74	2.7	16.2	54.1	8.1	6.8	4.1	32.4	25.7	8.1	4.1	2.7	23.0	48.6	6.8	0.0
	肺	122	4.9	23.8	48.4	5.7	4.9	3.3	23.8	14.8	5.7	2.5	1.6	16.4	50.8	1.6	0.8
	子宮	53	0.0	18.9	52.8	5.7	3.8	5.7	20.8	18.9	5.7	5.7	1.9	7.5	64.2	5.7	0.0
	乳房	179	2.2	11.2	46.4	30.7	1.1	5.6	31.8	26.3	14.0	8.4	3.4	11.7	57.5	5.0	0.0
	前立腺	16	12.5	31.3	50.0	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8	18.8	6.3	0.0
	肝臓	9	0.0	33.3	55.6	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	44.4	33.3	0.0	0.0
	その他	180	2.2	17.8	45.6	14.4	4.4	6.1	18.9	19.4	6.1	2.8	1.7	23.9	51.1	5.0	0.0
進行度	0期	25	4.0	8.0	44.0	12.0	0.0	8.0	20.0	20.0	16.0	0.0	4.0	12.0	56.0	4.0	0.0
	I期	147	3.4	10.9	35.4	14.3	2.0	6.1	16.3	19.0	5.4	2.7	0.7	9.5	64.6	6.1	0.0
	II期	124	1.6	12.9	52.4	18.5	0.8	4.8	26.6	24.2	7.3	5.6	0.8	23.4	54.8	7.3	0.0
	III期	135	3.7	18.5	48.1	14.8	4.4	5.9	21.5	18.5	8.9	4.4	3.0	20.7	45.9	2.2	0.7
	IV期	145	5.5	26.2	60.0	11.0	8.3	6.2	29.0	21.4	6.2	5.5	3.4	24.1	39.3	4.1	0.0
治療状況	わからない	98	1.0	26.5	43.9	18.4	4.1	3.1	30.6	26.5	13.3	6.1	3.1	16.3	50.0	3.1	0.0
	治療前	40	7.5	47.5	57.5	15.0	0.0	5.0	32.5	37.5	10.0	15.0	2.5	10.0	42.5	2.5	0.0
	治療継続中	439	4.1	21.2	55.4	15.3	4.8	6.8	27.3	22.3	10.7	5.0	2.7	20.3	45.8	4.3	0.0
	治療は終了し、定期的な検査のために通院中	206	0.5	5.8	31.6	15.0	2.4	2.4	15.0	14.6	3.4	1.9	1.9	16.5	65.5	5.3	0.0
	治療は終了し、検査も受けていない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
世帯状況	その他	8	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	25.0	0.0
	若年単身世帯	61	3.3	8.2	39.3	29.5	6.6	6.6	36.1	52.5	8.2	1.6	1.6	19.7	52.5	0.0	0.0
	高齢者単身世帯	29	3.4	13.8	55.2	3.4	13.8	6.9	13.8	0.0	17.2	0.0	0.0	27.6	27.6	6.9	0.0
	高齢者夫婦のみ世帯	100	7.0	25.0	49.0	8.0	2.0	8.0	12.0	3.0	9.0	0.0	0.0	20.0	51.0	10.0	0.0
	子どものいる世帯	116	2.6	15.5	42.2	18.1	3.4	2.6	32.8	29.3	12.9	25.9	10.3	11.2	57.8	4.3	0.0
要介護・要介助者のいる世帯		136	2.9	21.3	52.9	11.0	2.9	5.9	23.5	19.1	8.8	5.9	1.5	18.4	48.5	4.4	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(3) がん診断時の相談先

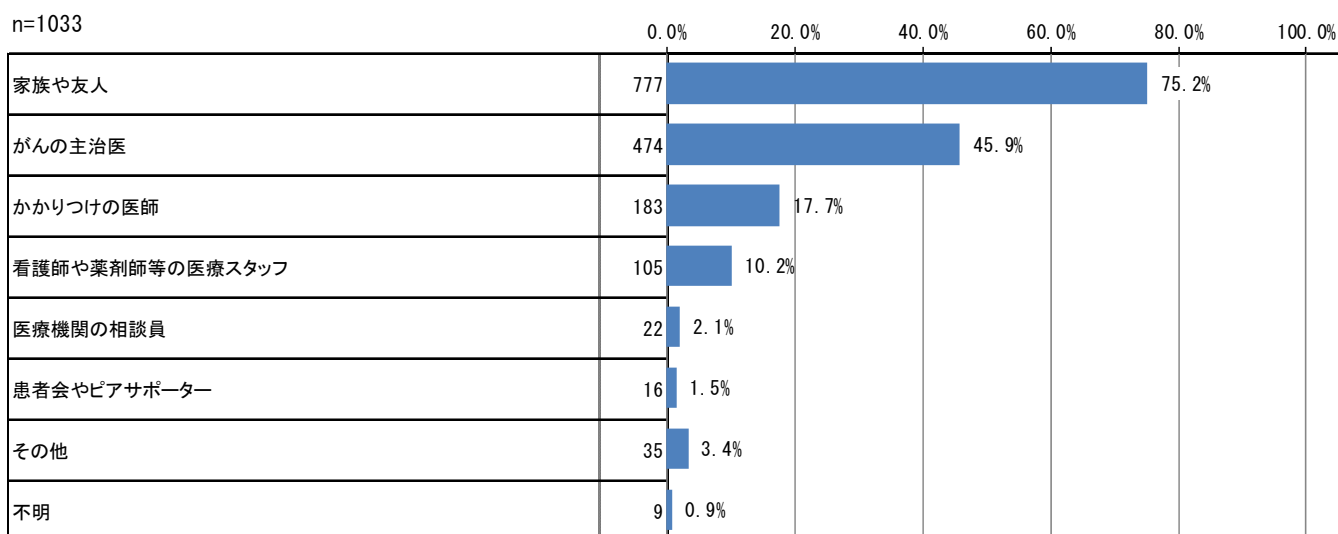
問 1 1 がんと診断されたとき、がんや、がんの治療などに関する様々な疑問や不安について、相談できる人がいましたか？

- ・がんと診断されたときに相談できる人がいたかについて、全体の 75.2%が「いた」と回答した。
- ・年代別で見ると 40 代以下の若年層が若干高く、70 代以上の高齢層が若干低い。
- ・がんの原発巣別では子宮がん、乳がんといった女性に関するがんが高く、男性に関わる前立腺がんが低い。



(問 11で「いた」と回答の方) それはどのような人ですか

- ・具体的な相談先としては、「家族や友人」(75.2%)、「がんの主治医」(45.9%) の2つが高く、性別、年代別や原発巣別、進行度別に見ても大きな隔たりはなかった。



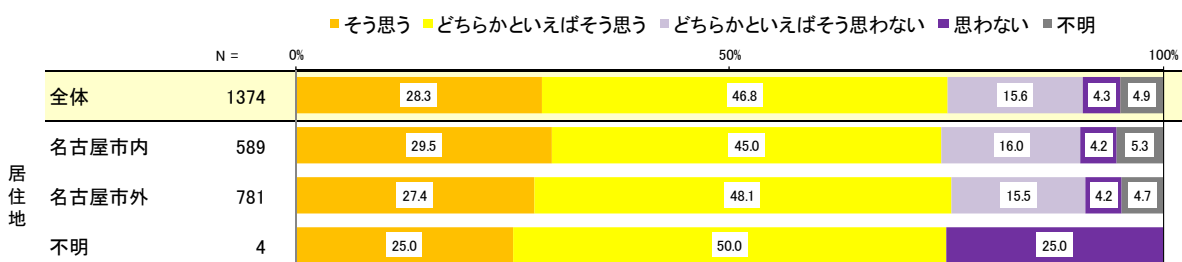
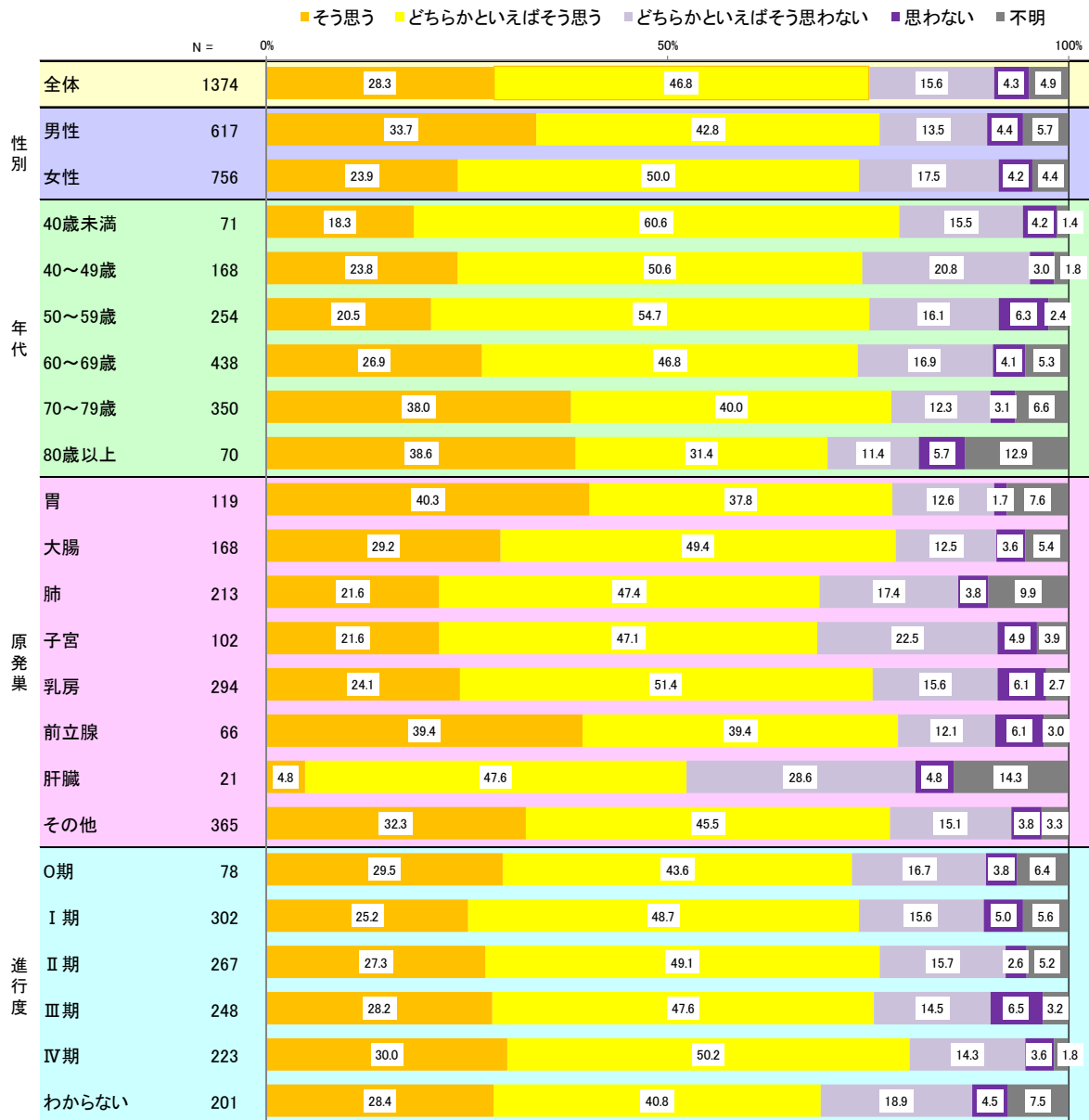
		調査数	%							
			がんの主治医	かかりつけの医師	看護師や薬剤師等の医療スタッフ	医療機関の相談員	患者会やピアサポーター	家族や友人	その他	不明
全体		1033	45.9	17.7	10.2	2.1	1.5	75.2	3.4	0.9
性別	男性	433	45.3	23.1	8.1	2.1	0.9	64.9	4.4	0.2
	女性	599	46.2	13.9	11.7	2.2	2.0	82.6	2.7	1.3
年代	40歳未満	57	36.8	8.8	15.8	1.8	0.0	87.7	3.5	0.0
	40～49歳	143	45.5	7.7	18.9	1.4	4.2	88.8	2.1	1.4
	50～59歳	191	49.7	13.1	12.0	1.6	1.0	78.5	3.7	1.0
	60～69歳	331	45.6	15.4	8.5	3.0	0.6	77.6	3.3	0.6
	70～79歳	251	45.8	29.5	5.6	1.6	2.0	62.9	3.2	0.8
	80歳以上	44	43.2	31.8	9.1	2.3	2.3	50.0	6.8	2.3
原発巣	胃	84	42.9	23.8	7.1	3.6	0.0	66.7	2.4	0.0
	大腸	121	46.3	19.0	16.5	1.7	0.8	73.6	5.0	0.0
	肺	151	45.7	23.2	7.3	2.0	0.7	70.2	4.6	0.7
	子宮	82	40.2	20.7	7.3	4.9	2.4	86.6	3.7	1.2
	乳房	249	43.8	10.4	15.7	0.4	2.8	85.9	3.2	1.2
	前立腺	42	52.4	35.7	7.1	2.4	0.0	57.1	7.1	0.0
	肝臓	15	40.0	33.3	6.7	6.7	0.0	73.3	6.7	0.0
	その他	271	50.6	14.0	6.6	2.6	1.8	72.3	1.8	0.7
進行度	0期	57	50.9	21.1	10.5	1.8	1.8	73.7	0.0	0.0
	I期	242	43.8	24.4	8.7	2.1	1.7	74.8	3.3	1.7
	II期	191	47.1	13.1	14.1	1.0	2.1	80.1	5.2	0.0
	III期	190	43.7	15.3	6.3	1.1	2.6	71.1	4.7	1.1
	IV期	169	49.1	16.0	16.0	3.6	0.0	76.3	1.8	0.0
	わからない	144	47.2	17.4	6.9	4.2	1.4	72.9	3.5	1.4

1番高い数値 2番目の数値

(4) がんやがんの治療について必要な情報

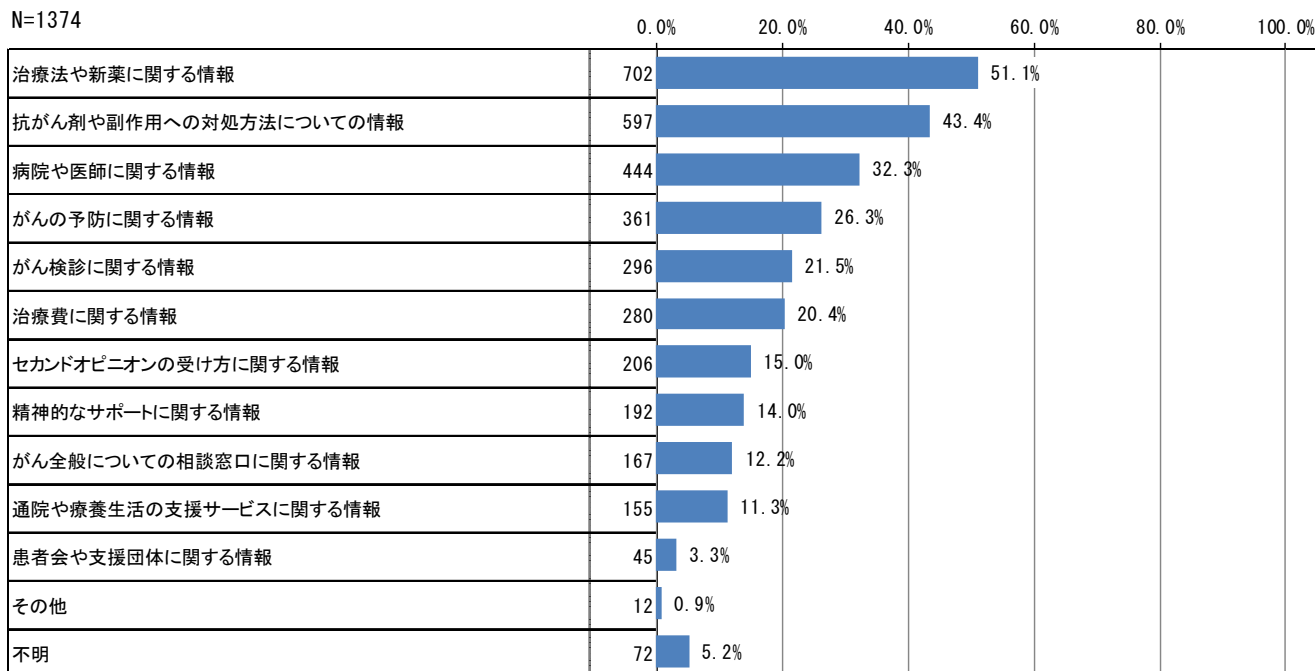
問 1 2 がんやがんの治療について必要な情報が得られていると思いますか？

- ・がんやがんの治療について必要な情報が得られていると思うかについて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」、「不明」を合わせると全体の 75.1%が得られているとしている。
- ・性別、年代別や原発巣別、進行度別に見ると、肝臓がんが特に少ない以外は大きな隔たりは無かった。



問13 あなたは、がんや、がんの治療について、特にどのような情報が必要だと思いますか？【3MA】

・がんやがんの治療について必要な情報の内容については、全体で「治療法や新薬」(51.1%)、「抗がん剤や副作用」(43.4%)の2つが多く、がんの進行度が低い0期、Ⅰ期では「抗がん剤や副作用」よりも「病院や医師」が多くなっている。



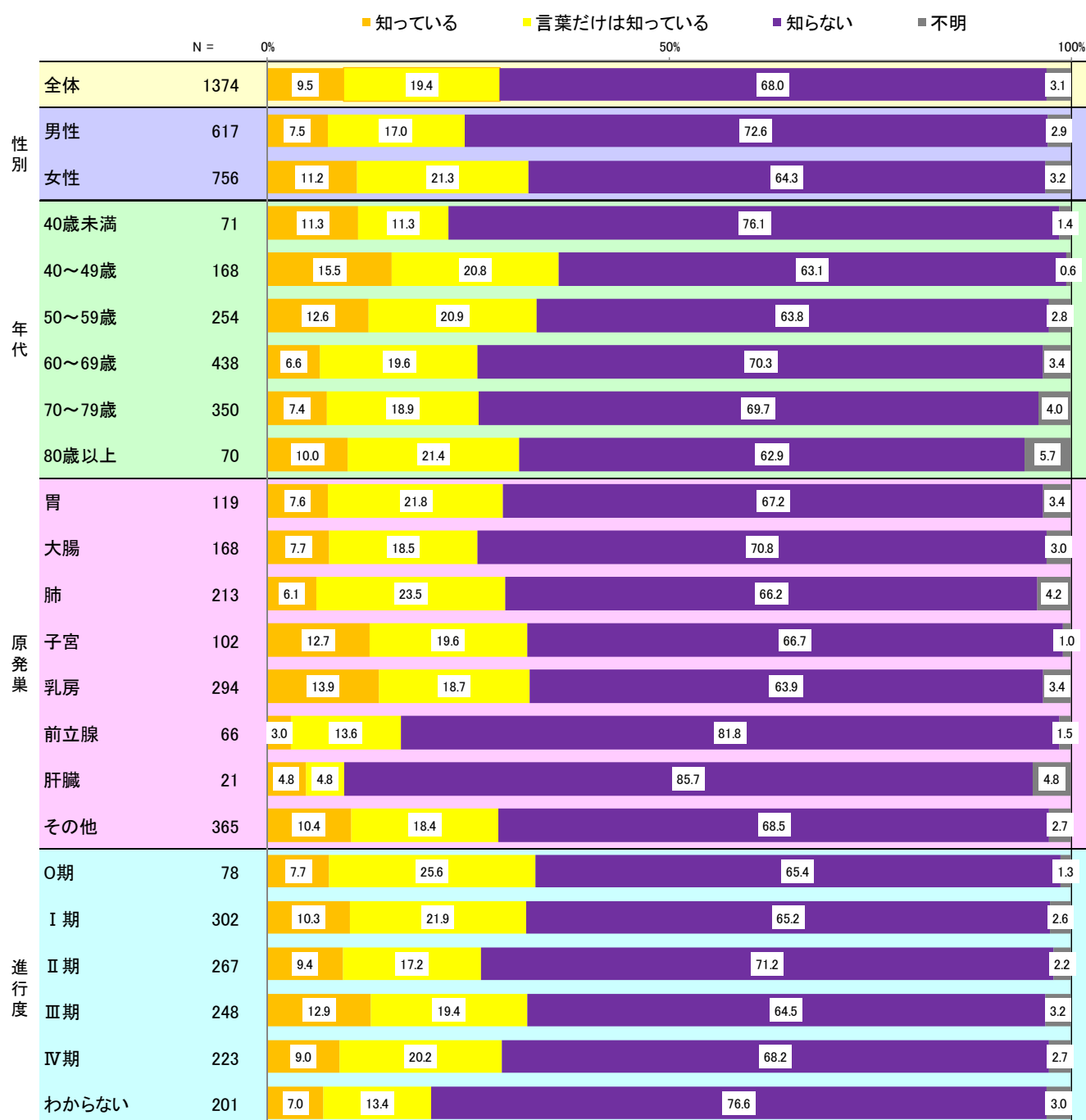
		調査数	がんの予防に関する情報	がん検診に関する情報	病院や医師に関する情報	セカンドオピニオンの受け方に関する情報	治療法や新薬に関する情報	治療費に関する情報	抗がん剤や副作用への対処方法に関する情報	通院や療養生活の支援サービスに関する情報	精神的なサポートに関する情報	患者会や支援団体に関する情報	がん全般についての相談窓口に関する情報	その他	不明
全体		1374	26.3	21.5	32.3	15.0	51.1	20.4	43.4	11.3	14.0	3.3	12.2	0.9	5.2
性別	男性	617	27.6	25.0	33.4	14.7	50.6	19.4	41.2	8.4	8.8	2.1	10.2	1.1	6.3
	女性	756	25.1	18.7	31.5	15.2	51.6	21.2	45.4	13.6	18.1	4.2	13.8	0.7	4.4
年代	40歳未満	71	29.6	25.4	18.3	16.9	49.3	25.4	45.1	16.9	31.0	7.0	11.3	2.8	2.8
	40～49歳	168	25.6	15.5	36.9	14.3	63.7	31.5	40.5	17.9	17.3	6.5	13.1	1.8	0.6
	50～59歳	254	22.4	24.0	39.0	15.4	56.3	27.2	42.9	11.8	17.7	3.5	15.4	1.2	2.0
	60～69歳	438	24.9	19.2	29.5	11.4	53.4	19.2	48.2	9.8	12.6	1.6	10.3	0.2	6.4
	70～79歳	350	30.0	23.7	31.7	18.3	42.6	10.9	42.0	10.0	9.7	3.1	12.3	0.0	7.4
	80歳以上	70	22.9	22.9	30.0	20.0	35.7	20.0	32.9	4.3	4.3	1.4	12.9	2.9	11.4
原発巣	胃	119	29.4	23.5	31.1	13.4	47.1	16.0	34.5	6.7	10.1	4.2	10.1	0.8	9.2
	大腸	168	32.1	25.0	33.9	10.7	48.2	19.6	38.7	11.9	14.9	2.4	13.1	1.8	5.4
	肺	213	21.6	16.0	29.1	16.0	53.5	20.7	41.8	8.5	11.3	3.3	9.4	0.9	9.4
	子宮	102	28.4	22.5	33.3	16.7	45.1	18.6	50.0	15.7	19.6	5.9	17.6	1.0	3.9
	乳房	294	23.8	19.4	37.1	15.6	50.3	26.2	46.6	12.2	18.0	3.7	13.3	0.7	2.0
	前立腺	66	28.8	31.8	37.9	21.2	53.0	19.7	37.9	6.1	0.0	0.0	6.1	0.0	6.1
	肝臓	21	28.6	33.3	33.3	4.8	47.6	19.0	57.1	4.8	4.8	0.0	9.5	0.0	4.8
	その他	365	26.8	21.9	28.8	15.3	54.2	18.4	44.9	13.4	14.2	3.3	12.9	0.5	4.1
進行度	0期	78	28.2	24.4	33.3	19.2	48.7	20.5	26.9	11.5	10.3	5.1	10.3	0.0	7.7
	Ⅰ期	302	31.8	26.8	40.1	19.2	45.7	18.2	29.5	8.3	16.6	3.3	17.2	1.0	5.3
	Ⅱ期	267	31.5	23.2	32.2	13.9	50.2	18.7	47.6	9.0	13.5	3.7	12.0	0.4	5.2
	Ⅲ期	248	24.6	19.4	27.4	13.3	52.0	19.4	48.0	9.3	12.9	2.0	10.5	1.6	4.8
	Ⅳ期	223	15.7	16.1	31.8	10.8	65.9	25.6	57.4	17.5	16.1	4.0	11.2	0.9	1.8
	わからない	201	25.4	18.4	28.4	15.9	47.3	22.9	43.3	15.4	10.9	3.0	8.5	0.0	7.0

1番高い数値 2番目の数値

(5) ピアサポート・ピアネットの認知

問 1 4 がんの「ピアサポート」を知っていますか？

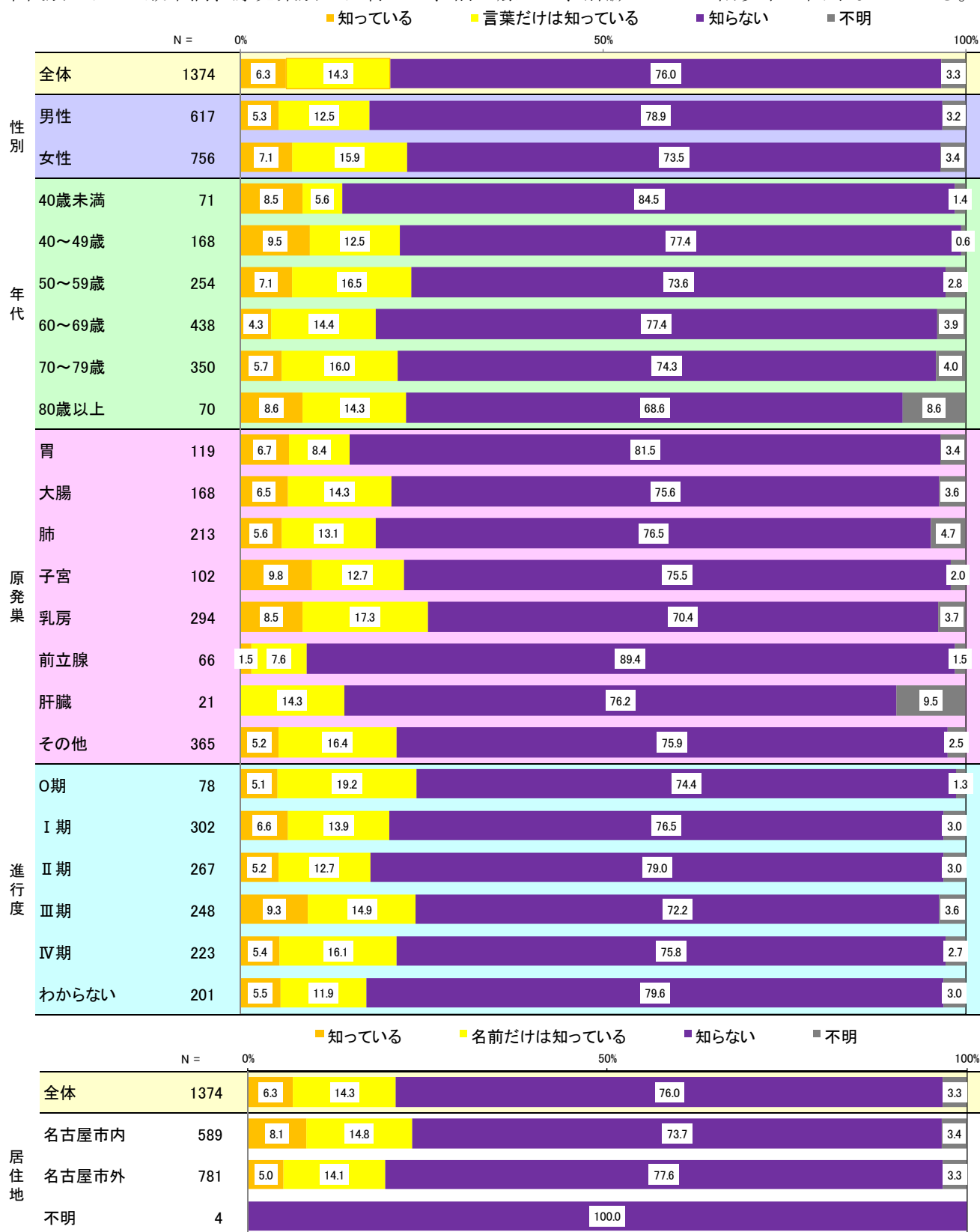
- ・ピアサポートについて、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体の 28.9% となった。
- ・年代別では 40 歳未満、60～79 歳の年代で 3 割に満たず、原発巣別では前立腺がん、肝臓がんが 2 割以下と低くなっている。



問15 がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？

・ピアネットについて、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体の20.6%となった。

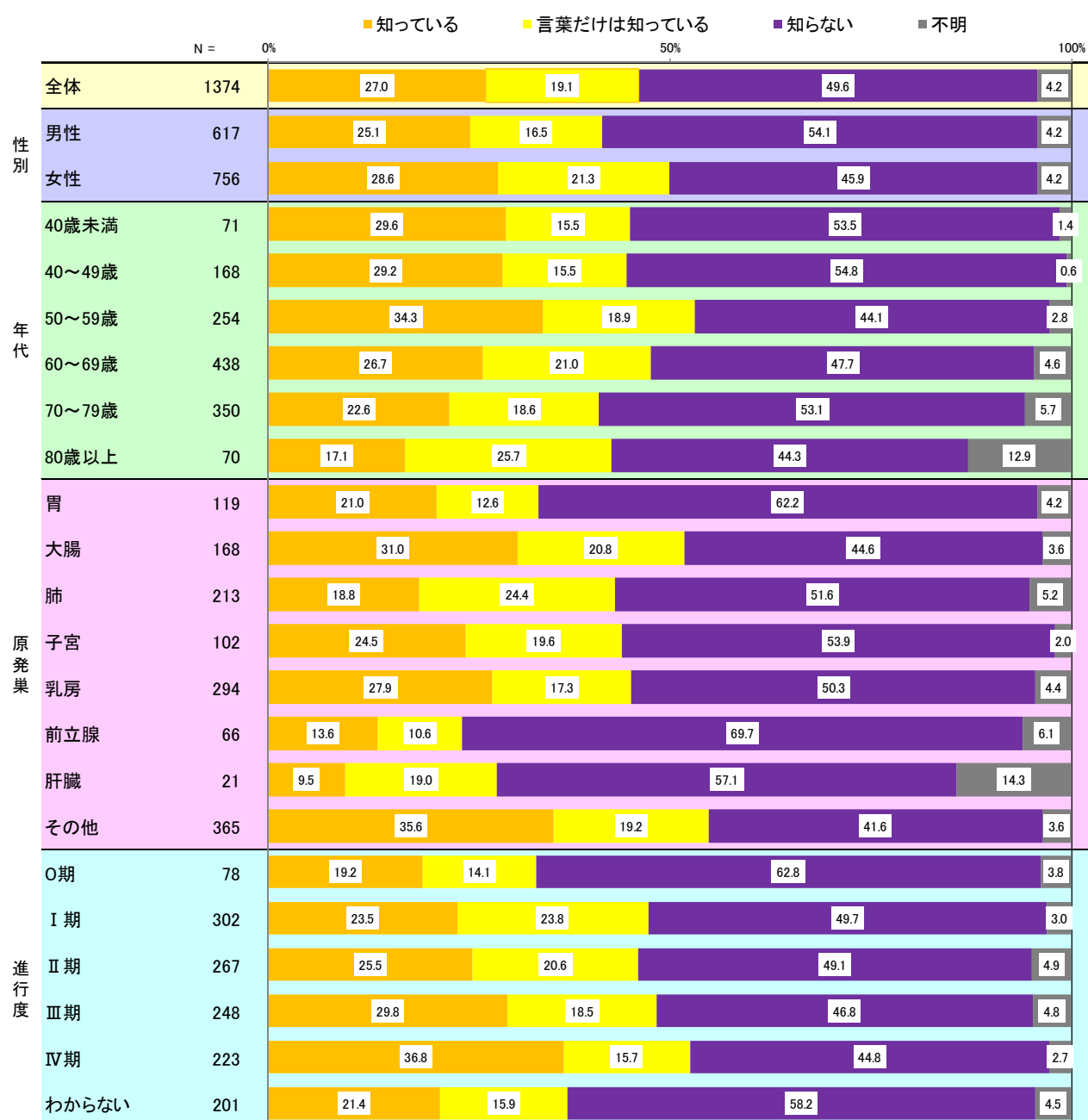
・年代別では40歳未満、原発巣別では胃がん、前立腺がん、肝臓がんが2割以下と低くなっている。



(6) 口腔ケアの必要性の認知

問 1 6 がん医療における「口腔ケア」の必要性について、知っていますか？

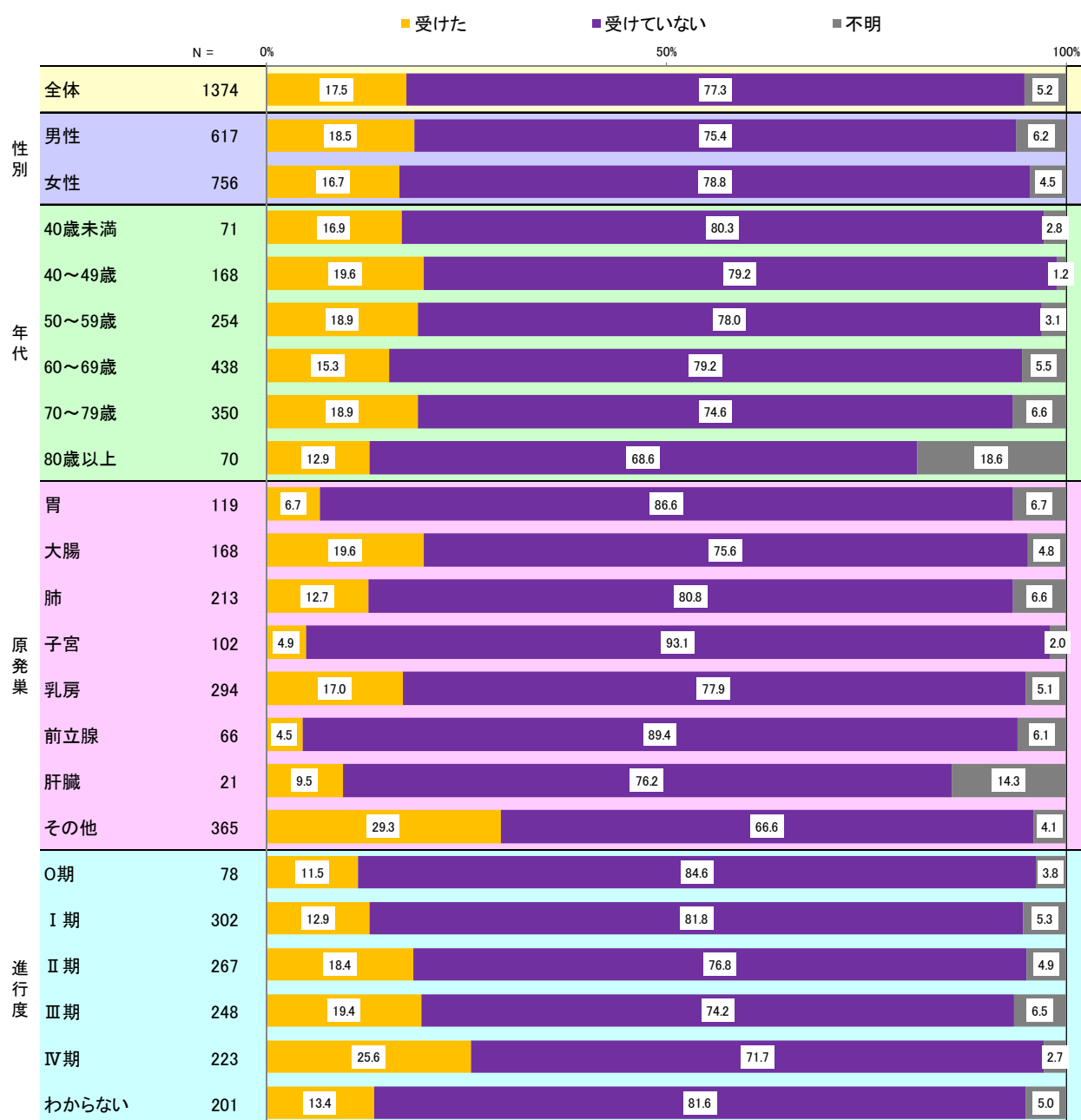
- ・口腔ケアの必要性について、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた認知度は全体で 46.1% となった。
- ・原発巣別では前立腺がん、肝臓がんの認知度が低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど認知率が高くなっている。



(7) 口腔ケアの受診経験

問 17 がん医療において、「口腔ケア」を受けていますか（受けましたか）？

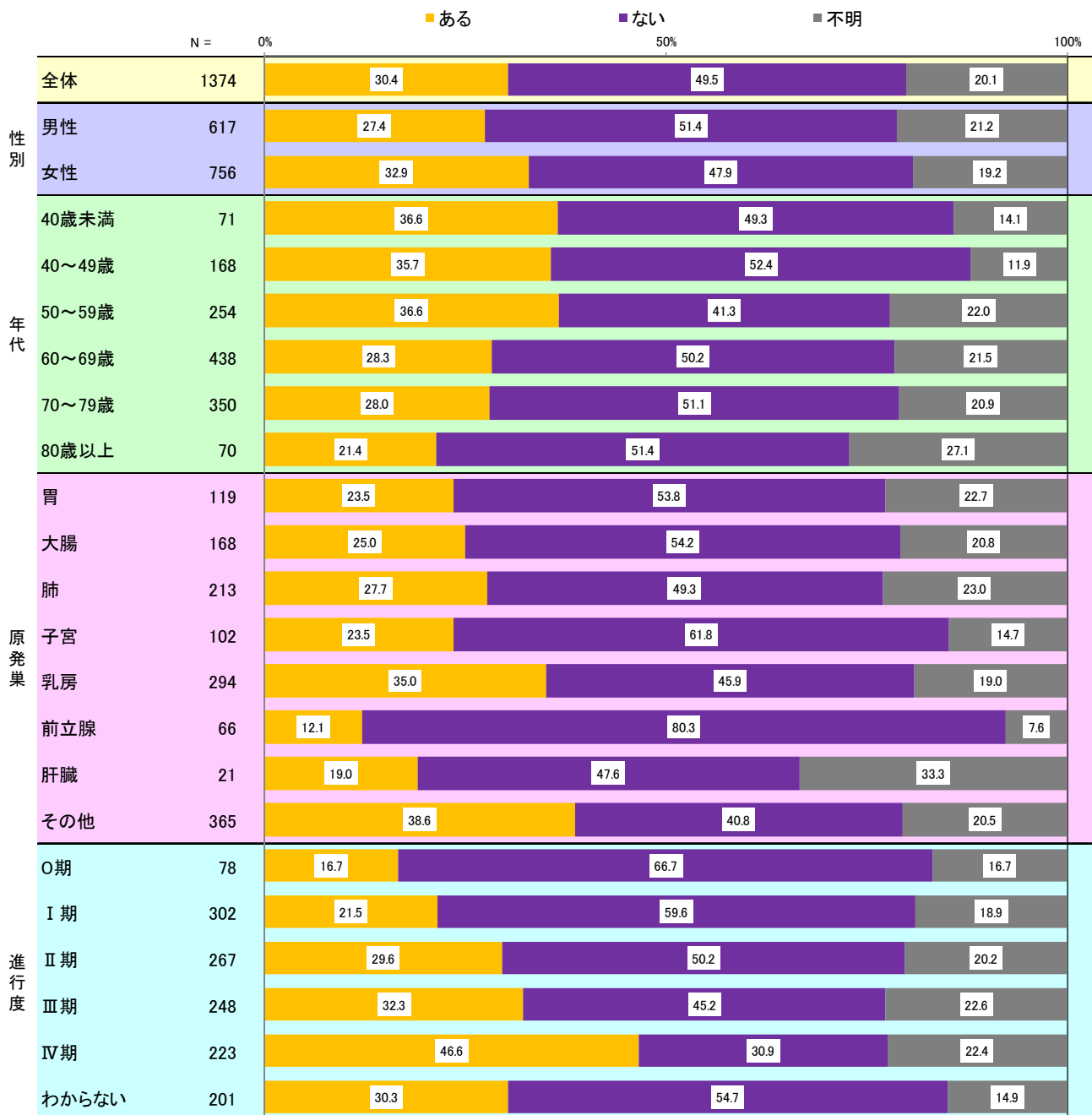
- ・口腔ケアの受診経験について、受診率は全体で 17.5% となった。
- ・原発巣別では胃、子宮、前立腺、肝臓がんで受診率が低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど受診率が高くなっている。



(8) がん治療時の口腔の悩み

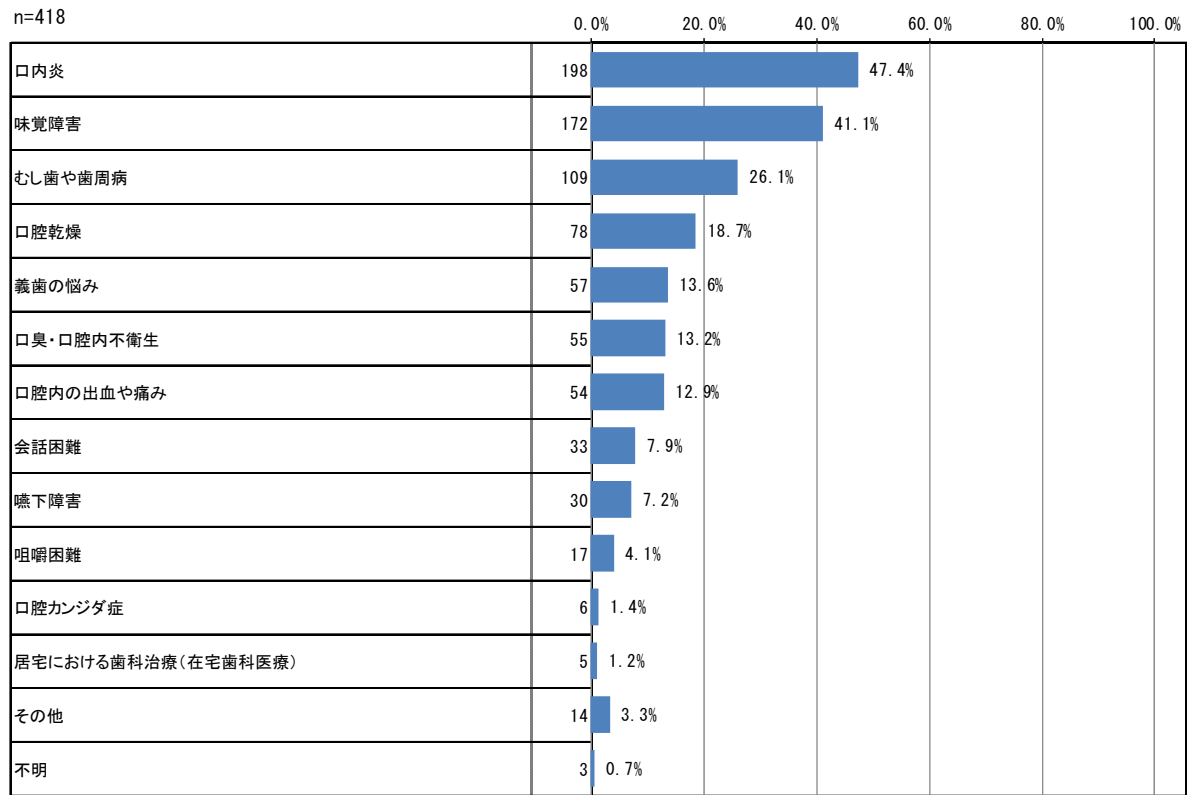
問18 がん治療において、お口の事で、困ることがありますか(ありましたか)？

- ・がん治療時において全体の 30.4%が口腔の悩みがあった。
- ・原発巣別では前立腺がん、肝臓がんで口腔の悩みが低くなっており、進行度別では、進行度が高いほど悩みが高くなっている。



（問１８で「ある」と回答の方）それはどのようなことですか【複数回答】

・がん治療時の具体的な口腔の悩みの内容としては、「口内炎」（47.4%）と「味覚障害」（41.1%）の2つが多かった。



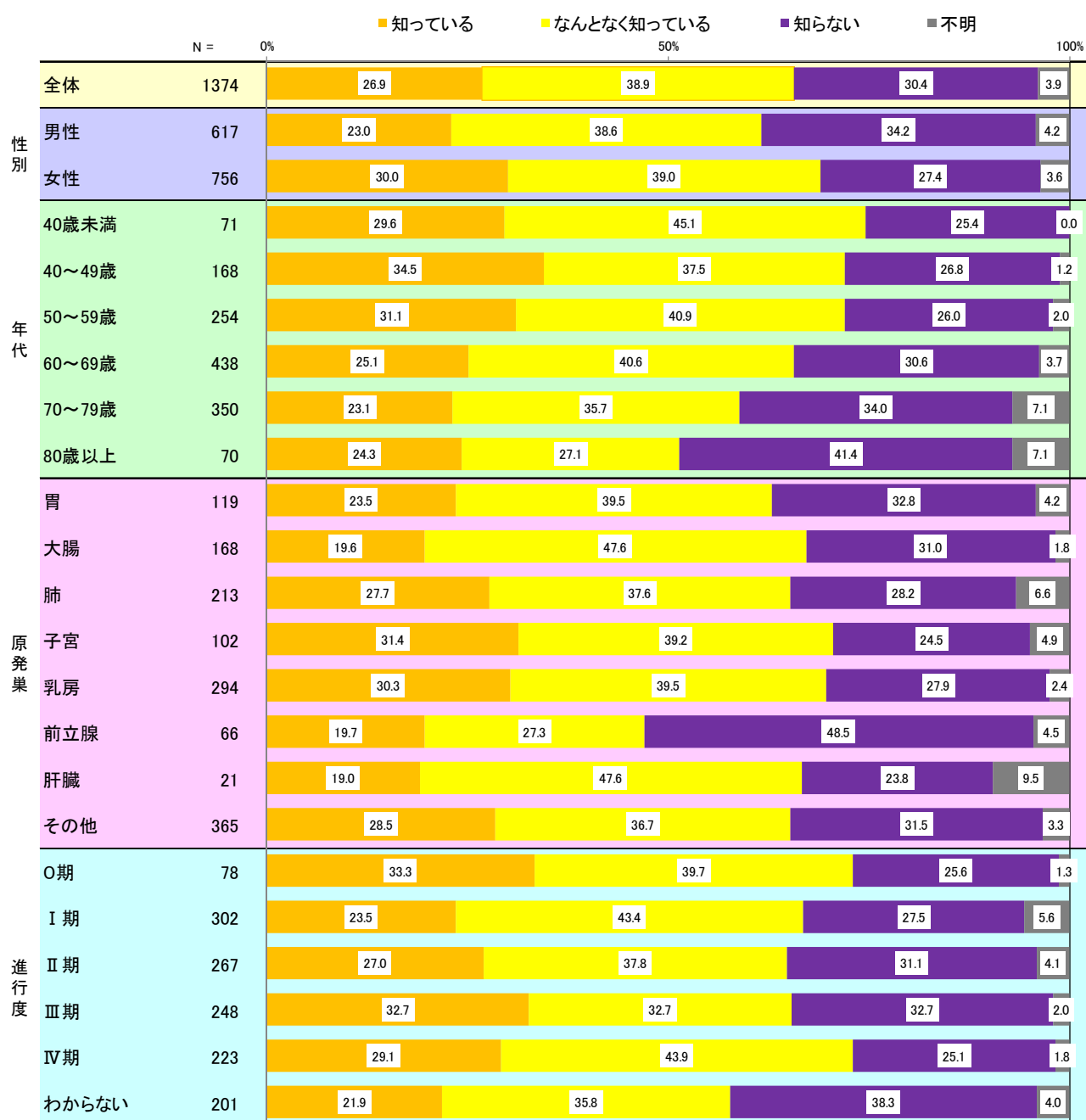
	調査数	口内炎	口腔乾燥	口腔カンジダ症	咀嚼困難	嚥下障害	味覚障害	口臭・口腔内不衛生	口腔内の出血や痛み	会話困難	むし歯や歯周病	義歯の悩み	科医療 居宅における 歯科治療（在宅 医療）	その他	不明
全体	418	47.4	18.7	1.4	4.1	7.2	41.1	13.2	12.9	7.9	26.1	13.6	1.2	3.3	0.7
性別															
男性	169	45.0	21.9	1.2	5.9	12.4	40.8	14.8	10.7	12.4	22.5	16.0	0.0	3.0	1.2
女性	249	49.0	16.5	1.6	2.8	3.6	41.4	12.0	14.5	4.8	28.5	12.0	2.0	3.6	0.4
年代															
40歳未満	26	53.8	19.2	0.0	7.7	7.7	50.0	15.4	23.1	3.8	23.1	3.8	0.0	7.7	0.0
40～49歳	60	53.3	18.3	3.3	0.0	3.3	56.7	11.7	13.3	6.7	23.3	1.7	1.7	5.0	0.0
50～59歳	93	45.2	10.8	0.0	4.3	9.7	46.2	11.8	5.4	6.5	25.8	6.5	0.0	3.2	1.1
60～69歳	124	44.4	20.2	3.2	4.8	7.3	46.8	12.9	12.9	6.5	29.8	11.3	3.2	1.6	0.8
70～79歳	98	49.0	22.4	0.0	4.1	7.1	18.4	13.3	14.3	9.2	25.5	31.6	0.0	2.0	1.0
80歳以上	15	33.3	33.3	0.0	6.7	6.7	40.0	26.7	33.3	33.3	20.0	26.7	0.0	6.7	0.0
原発巣															
胃	28	42.9	10.7	0.0	7.1	3.6	42.9	14.3	14.3	0.0	25.0	21.4	0.0	0.0	0.0
大腸	42	59.5	11.9	0.0	4.8	0.0	50.0	9.5	9.5	2.4	28.6	9.5	0.0	2.4	0.0
肺	59	54.2	16.9	0.0	0.0	1.7	30.5	20.3	11.9	10.2	20.3	23.7	0.0	1.7	1.7
子宮	24	33.3	12.5	4.2	4.2	8.3	37.5	16.7	8.3	0.0	45.8	12.5	4.2	0.0	0.0
乳房	103	53.4	15.5	1.0	1.0	2.9	48.5	11.7	16.5	3.9	25.2	4.9	1.9	5.8	0.0
前立腺	8	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0
肝臓	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
その他	141	44.0	27.7	2.8	7.8	15.6	39.7	10.6	14.2	14.2	23.4	14.9	1.4	3.5	1.4
進行度															
0期	13	38.5	15.4	7.7	0.0	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7	15.4	15.4	0.0	15.4	0.0
I期	65	43.1	13.8	0.0	1.5	10.8	27.7	16.9	13.8	7.7	18.5	23.1	0.0	4.6	3.1
II期	79	45.6	26.6	1.3	1.3	5.1	39.2	15.2	15.2	1.3	31.6	7.6	1.3	3.8	0.0
III期	80	53.8	13.8	2.5	5.0	6.3	45.0	8.8	15.0	12.5	28.8	15.0	1.3	2.5	1.3
IV期	104	56.7	16.3	1.9	3.8	6.7	49.0	11.5	8.7	8.7	26.0	13.5	2.9	2.9	0.0
わからない	61	37.7	24.6	0.0	9.8	4.9	41.0	13.1	16.4	8.2	23.0	9.8	0.0	1.6	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(9) 緩和ケアの認知

問19 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？

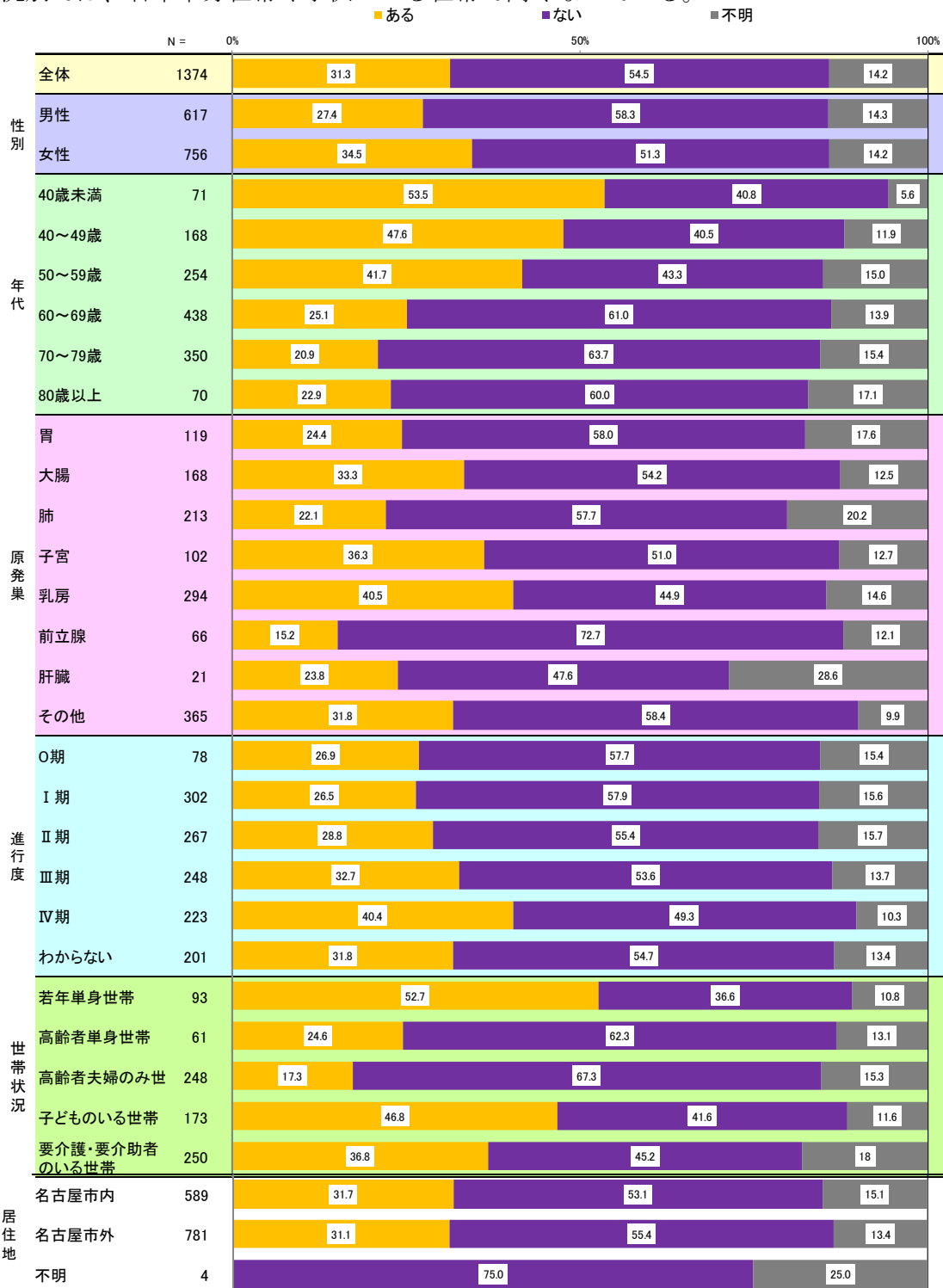
- ・緩和ケアについて、「知っている」、「なんとなく知っている」を合わせた認知度は全体で 65.8% となった。
- ・年代別では若い年代ほど認知率が高い。



(10) 通院治療や在宅療養について

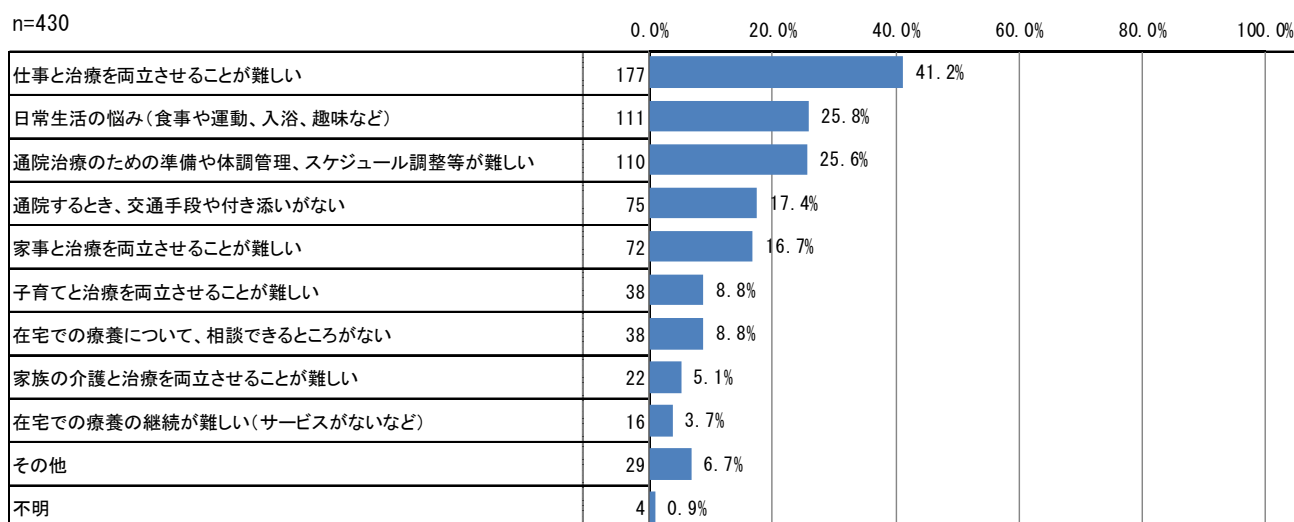
問20 治療の際に、困ることがありますか(ありましたか)？

- ・通院治療や在宅療養において全体の 31.3%が困ることがあると回答した。
- ・年代別では若年ほど、進行度別では進行度が進むに連れて困ることがある割合が高い。特に 40 歳未満では、5 割以上 (53.5%) が、困りごとがあると回答した。
- ・世帯状況別では、若年単身世帯や子供のいる世帯で高くなっている。



(問20で「ある」と回答の方)それはどのようなことですか【3MA】

- ・通院治療や在宅療養において困ることの内容としては「仕事と治療の両立」が41.2%と最も高く、次いで「日常生活」(25.8%)、「通院の準備、体調管理、スケジュール調整」(25.6%)の順となった。
- ・女性は「仕事と治療の両立」(37.9%)、「家事と治療の両立」(26.1%)、「日常生活」(23.4%)の順で、子供のいる世帯では、「仕事と治療の両立」(49.4%)、「子育てと治療の両立」(38.3%)、「家事と治療の両立」(33.3%)の順となっている。



													％
		調査数	通院する とき、交 通手段や 付き添 いが ない	通院治療 のための 準備や体 調管理 、スケジ ュール調 整等が難 しい	仕事と治 療を両立 させるこ とが難 しい	子育てと 治療を 両立させ ることが 難しい	家族の介 護と治療 を両立さ せるこ とが難 しい	家事と治 療を両立 させるこ とが難 しい	日常生活 の悩み（ 食事や運 動、入 浴、趣味 など）	在宅での 療養の継 続が難し い（サー ビスがな いなど）	在宅での 療養につ いて、相 談でき るところ がない	その他	不明
	全体	430	17.4	25.6	41.2	8.8	5.1	16.7	25.8	3.7	8.8	6.7	0.9
性別	男性	169	18.9	30.2	46.2	2.4	3.6	2.4	29.6	3.6	8.9	5.9	0.6
	女性	261	16.5	22.6	37.9	13.0	6.1	26.1	23.4	3.8	8.8	7.3	1.1
年代	40歳未満	38	15.8	28.9	60.5	39.5	0.0	23.7	18.4	2.6	7.9	10.5	0.0
	40～49歳	80	18.8	27.5	58.8	20.0	2.5	28.8	13.8	2.5	7.5	3.8	0.0
	50～59歳	106	16.0	31.1	47.2	3.8	8.5	15.1	22.6	2.8	5.7	6.6	0.9
	60～69歳	110	10.9	22.7	36.4	0.9	5.5	13.6	30.0	5.5	10.0	7.3	0.9
	70～79歳	73	23.3	19.2	17.8	1.4	6.8	9.6	42.5	2.7	9.6	8.2	2.7
	80歳以上	16	31.3	31.3	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	31.3	6.3	0.0
原発巣	胃	29	17.2	37.9	41.4	0.0	3.4	17.2	31.0	3.4	6.9	6.9	0.0
	大腸	56	17.9	28.6	50.0	5.4	3.6	10.7	25.0	3.6	10.7	5.4	0.0
	肺	47	19.1	23.4	31.9	0.0	6.4	4.3	29.8	6.4	17.0	2.1	0.0
	子宮	37	10.8	16.2	35.1	21.6	16.2	29.7	21.6	2.7	16.2	2.7	2.7
	乳房	119	16.8	21.8	42.9	16.0	5.9	31.1	19.3	4.2	4.2	6.7	0.8
	前立腺	10	10.0	30.0	40.0	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	10.0
	肝臓	5	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	116	19.8	28.4	43.1	6.0	1.7	8.6	31.0	2.6	7.8	10.3	0.9
	不明	21	33.3	19.0	19.0	14.3	14.3	14.3	33.3	4.8	0.0	0.0	0.0
進行度	I期	80	13.8	22.5	45.0	11.3	7.5	20.0	20.0	2.5	10.0	3.8	1.3
	II期	77	16.9	24.7	48.1	5.2	2.6	18.2	29.9	2.6	9.1	11.7	0.0
	III期	81	16.0	21.0	39.5	7.4	4.9	14.8	28.4	4.9	12.3	8.6	1.2
	IV期	90	18.9	30.0	37.8	8.9	5.6	13.3	30.0	3.3	5.6	5.6	1.1
	わからない	64	17.2	28.1	45.3	7.8	3.1	18.8	18.8	4.7	10.9	4.7	1.6
世帯状況	若年単身世帯	49	20.4	34.7	59.2	4.1	6.1	12.2	28.6	10.2	10.2	4.1	0.0
	高齢者単身世帯	15	40.0	40.0	13.3	0.0	13.3	6.7	46.7	13.3	6.7	6.7	0.0
	高齢者夫婦のみ世帯	43	18.6	11.6	7.0	2.3	2.3	14.0	46.5	4.7	9.3	4.7	4.7
	子どものいる世帯	81	17.3	19.8	49.4	38.3	2.5	33.3	16.0	2.5	4.9	3.7	0.0
	要介護・要介助者のいる世帯	92	17.4	21.7	31.5	10.9	16.3	13.0	18.5	3.3	6.5	7.6	1.1

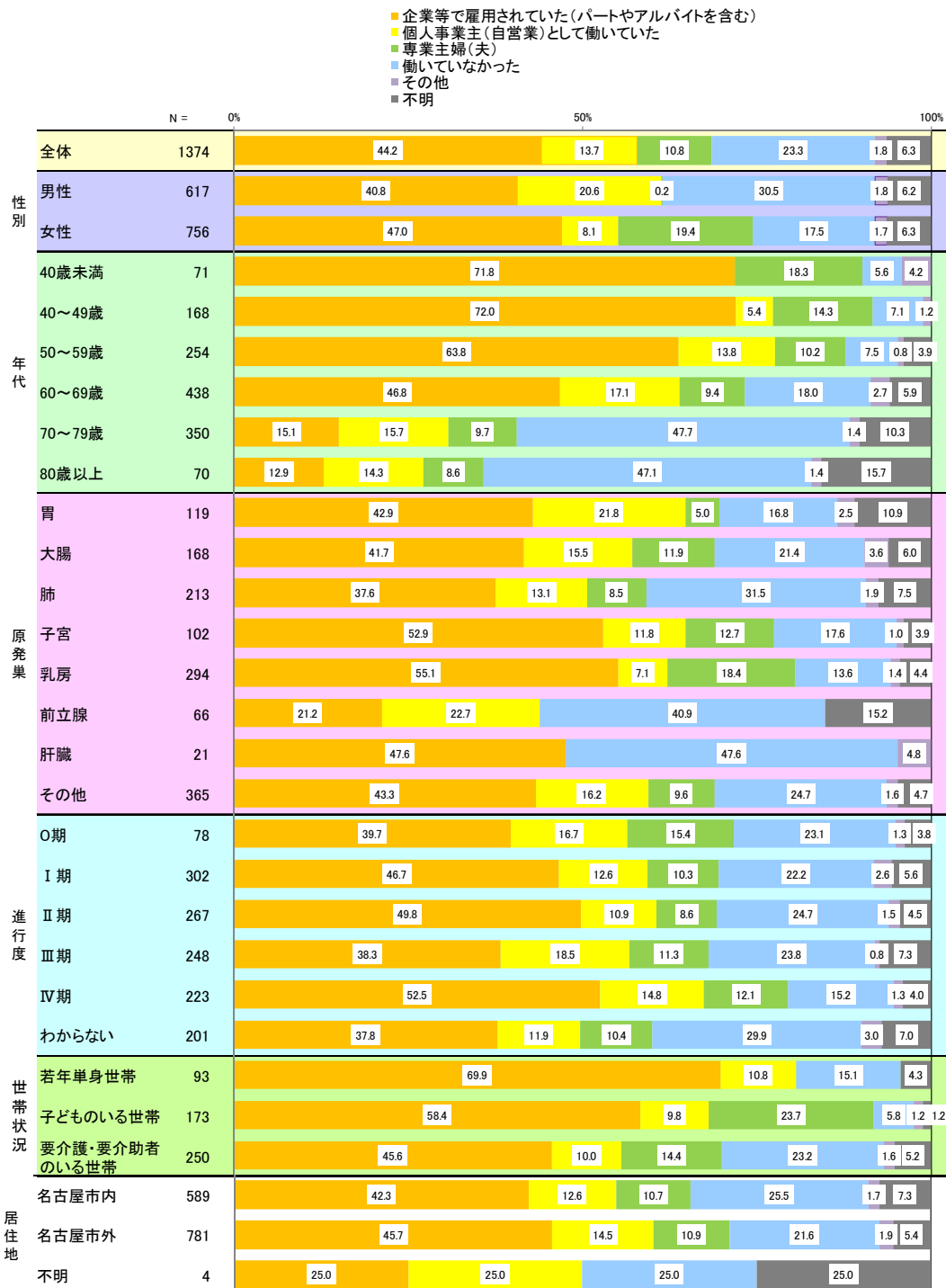
1番高い数値	2番目の数値
10	20
20	30
30	40
40	50
50	60
60	70
70	80
80	90
90	100

4:仕事と治療の両立について

(1) がんと診断された時の労働状況

問 2 1 がんと診断されたとき、働いていましたか？

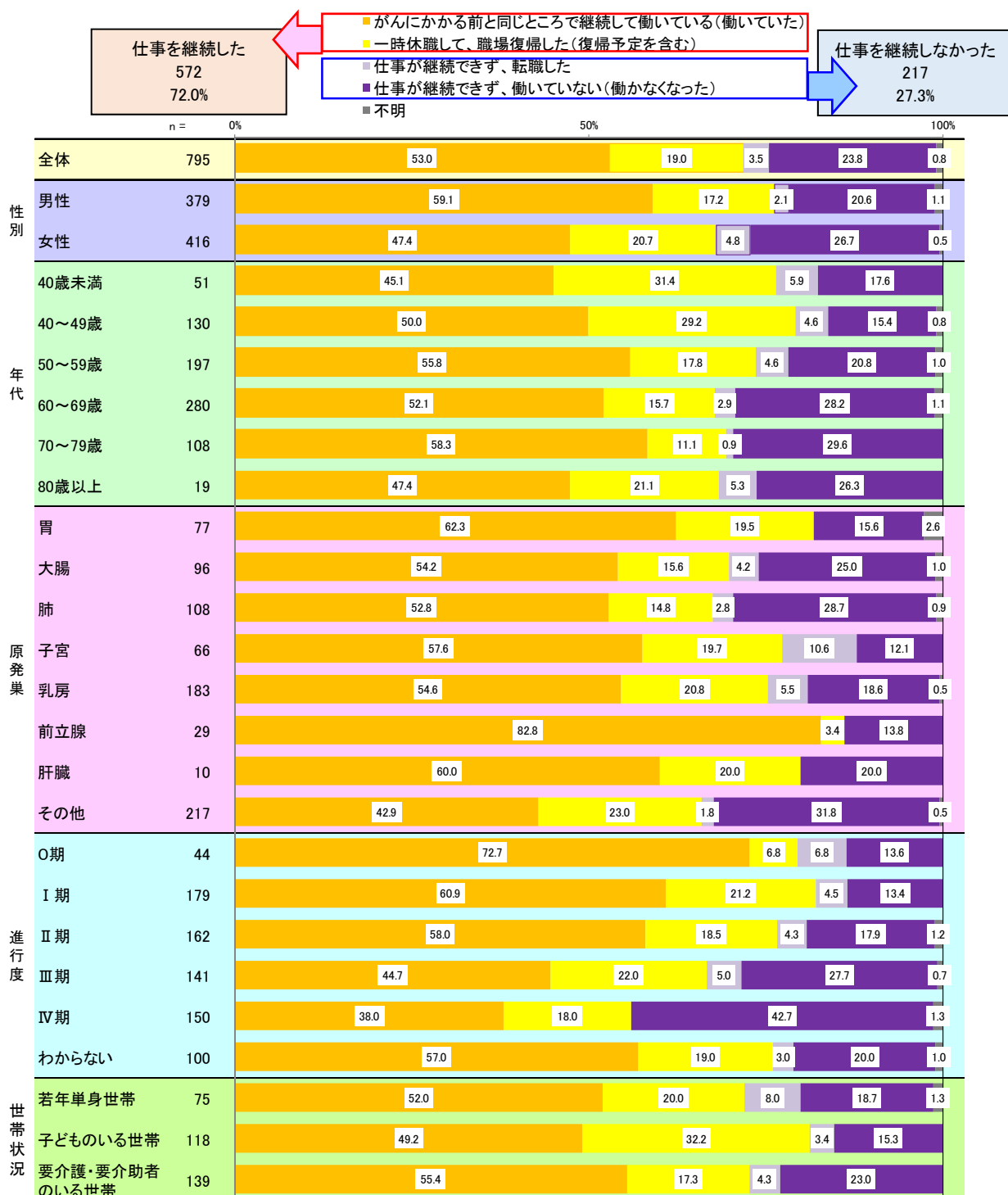
・がんと診断された時に働いていたのは、「企業等で雇用されていた」と「個人事業主（自営業）」を合わせ、全体で 57.9% となった。



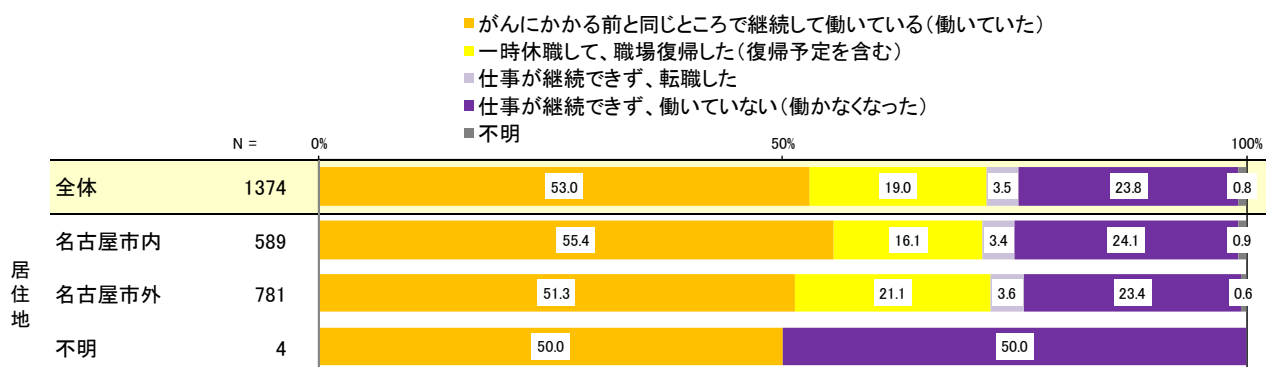
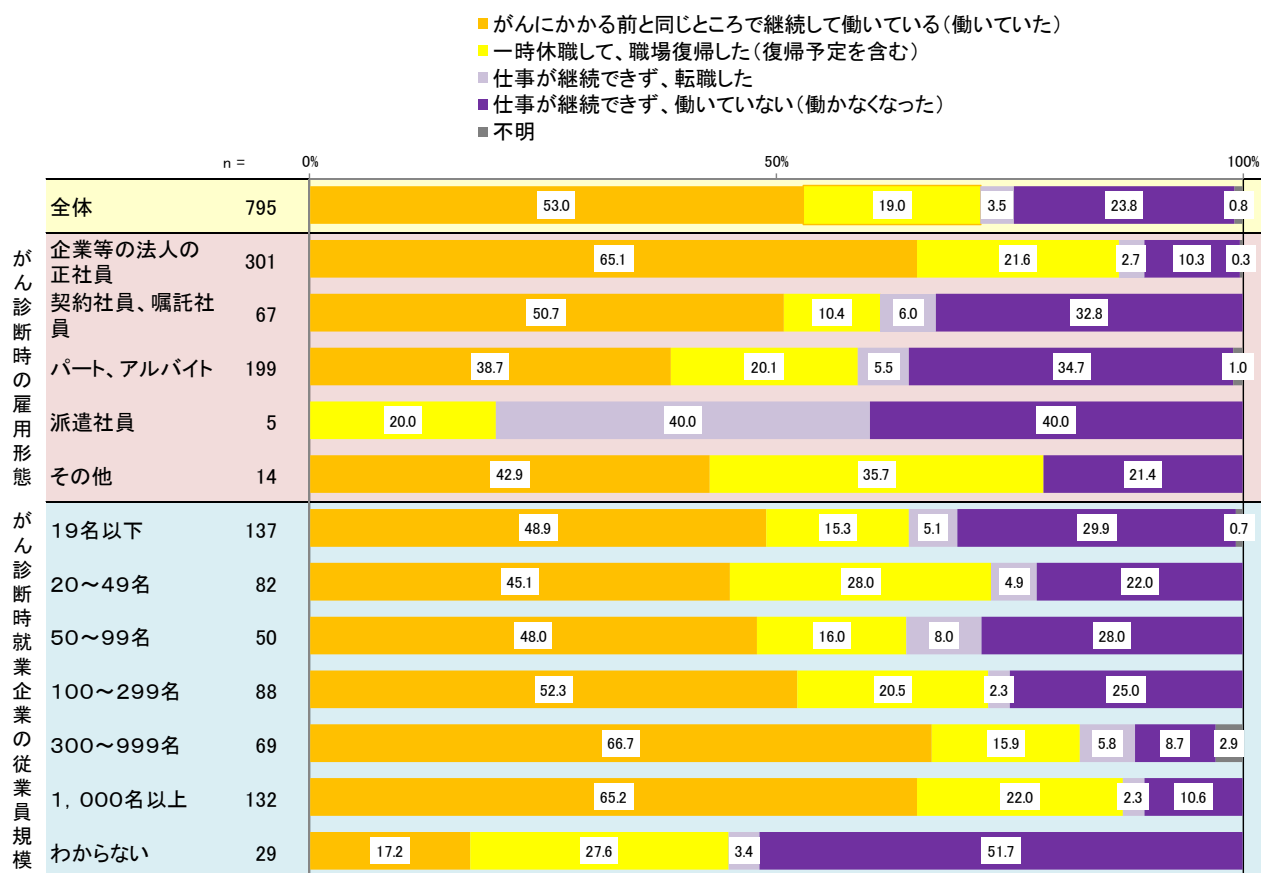
(2) がんと診断された後の労働状況

問 2 2 (問 2 1 で 1 (雇用されていた) または 2 (個人事業主として働いていた) と回答された方) がんと診断された後の状況について教えてください。

- ・がんと診断された後の労働状況として、仕事を継続できたのは全体の 72.0%で、仕事を継続しなかったのは 27.3%であった。
- ・がんと診断後、転職したのは 3.5%と低かった。
- ・男性に比べて女性の離職が高くなっている。



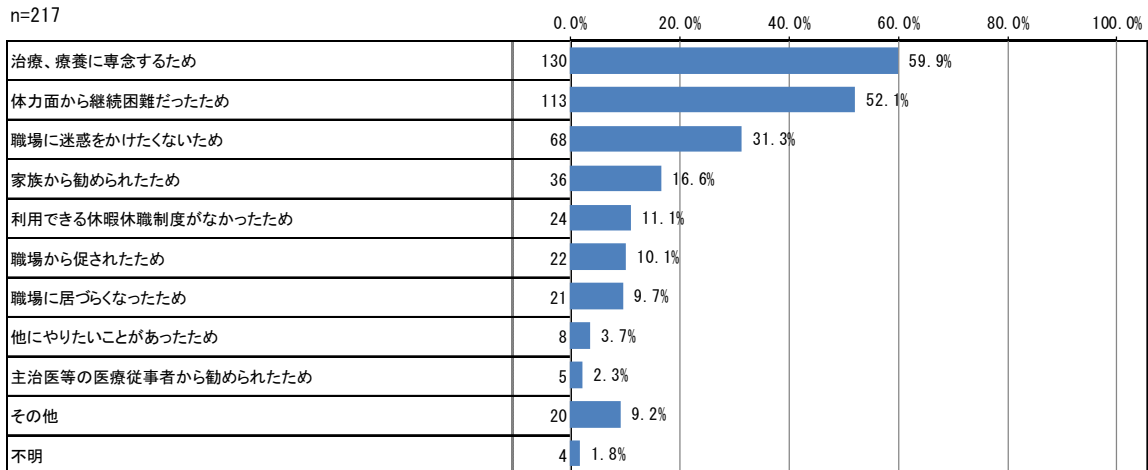
・雇用形態別でみると正規雇用より非正規雇用、大規模企業より小規模企業の方が離職率が高い。



(3) 仕事を継続しなかった理由

問 2 3 (問 2 2 で 3 (仕事が継続できず転職) または 4 (仕事が継続できず、働いていない) と回答された方) 仕事を継続しなかった理由を教えてください。

- ・仕事を継続しなかった理由としては「治療、療養に専念」が 59.9% で最も高く、次いで、「体力面」(52.1%)、「職場に迷惑をかけたくない」(31.3%) の順となった。



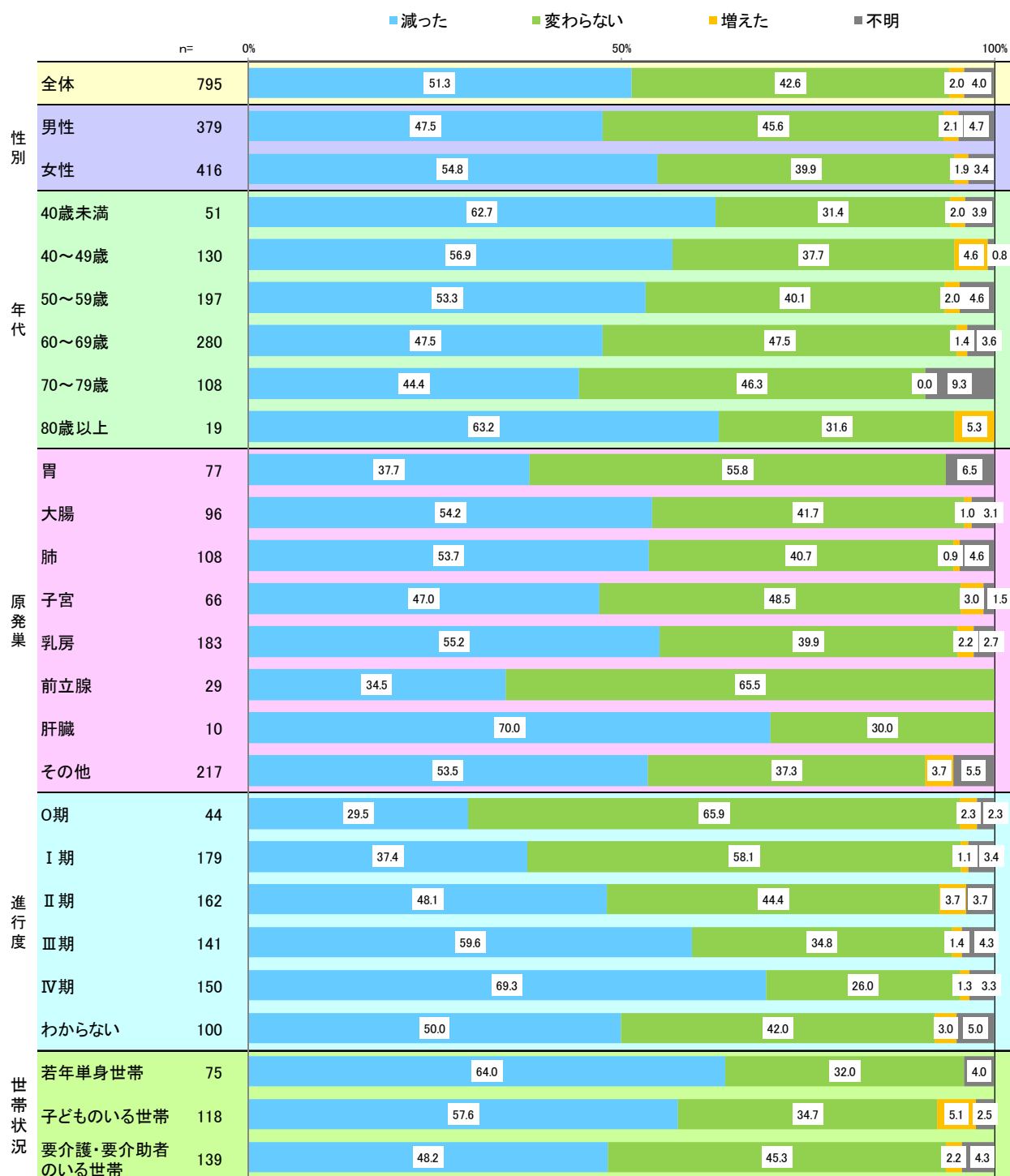
		調査数	治療、療養に専念する	体力面から継続困難	度利用できなかったため	職場に迷惑をかけたくない	主治医等の医療従事者から勧められたため	職場から促されたため	家族から勧められたため	職場に居づらくなったため	他にやりたいことがあったため	その他	不明
全体		217	59.9	52.1	11.1	31.3	2.3	10.1	16.6	9.7	3.7	9.2	1.8
性別	男性	86	54.7	46.5	12.8	25.6	2.3	9.3	14.0	5.8	7.0	7.0	3.5
	女性	131	63.4	55.7	9.9	35.1	2.3	10.7	18.3	12.2	1.5	10.7	0.8
年代	40歳未満	12	58.3	58.3	8.3	41.7	8.3	33.3	16.7	16.7	8.3	8.3	0.0
	40～49歳	26	65.4	53.8	7.7	38.5	0.0	11.5	19.2	15.4	3.8	23.1	0.0
	50～59歳	50	46.0	50.0	16.0	42.0	2.0	12.0	10.0	18.0	6.0	10.0	0.0
	60～69歳	87	63.2	52.9	8.0	21.8	2.3	8.0	14.9	3.4	2.3	6.9	3.4
	70～79歳	33	69.7	51.5	12.1	30.3	3.0	3.0	27.3	3.0	0.0	6.1	3.0
	80歳以上	6	50.0	66.7	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
原発巣	胃	12	41.7	66.7	16.7	8.3	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	8.3
	大腸	28	60.7	50.0	14.3	32.1	0.0	10.7	10.7	10.7	3.6	7.1	3.6
	肺	34	73.5	35.3	8.8	35.3	2.9	17.6	14.7	14.7	0.0	11.8	0.0
	子宮	15	60.0	40.0	13.3	33.3	0.0	13.3	26.7	6.7	6.7	6.7	0.0
	乳房	44	50.0	52.3	6.8	31.8	2.3	11.4	18.2	15.9	0.0	18.2	0.0
	前立腺	4	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肝臓	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
進行度	その他	73	60.3	63.0	13.7	31.5	4.1	8.2	13.7	5.5	5.5	6.8	2.7
	0期	9	44.4	44.4	0.0	33.3	0.0	22.2	33.3	22.2	0.0	22.2	0.0
	I期	32	53.1	46.9	12.5	25.0	3.1	9.4	18.8	9.4	6.3	21.9	0.0
	II期	36	55.6	58.3	13.9	38.9	2.8	11.1	16.7	8.3	0.0	5.6	5.6
	III期	46	50.0	45.7	10.9	26.1	0.0	6.5	6.5	10.9	4.3	2.2	4.3
	IV期	64	68.8	59.4	7.8	28.1	1.6	6.3	20.3	7.8	6.3	10.9	0.0
	わからない	23	73.9	47.8	17.4	52.2	8.7	26.1	17.4	13.0	0.0	4.3	0.0
雇用形態	がん企業の正社員	39	64.1	43.6	2.6	28.2	5.1	23.1	20.5	10.3	5.1	10.3	0.0
	契約社員、嘱託社員	26	42.3	57.7	19.2	38.5	0.0	15.4	11.5	15.4	3.8	11.5	3.8
	パート、アルバイト	80	61.3	61.3	11.3	45.0	2.5	8.8	15.0	11.3	0.0	8.8	0.0
	派遣社員	4	50.0	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	その他	3	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0
企業の従業員規模	19名以下	48	68.8	62.5	8.3	39.6	4.2	22.9	20.8	12.5	0.0	12.5	0.0
	20～49名	22	40.9	50.0	9.1	40.9	4.5	13.6	4.5	9.1	0.0	9.1	0.0
	50～99名	18	50.0	61.1	5.6	38.9	0.0	5.6	22.2	11.1	5.6	5.6	0.0
	100～299名	24	62.5	58.3	12.5	37.5	4.2	8.3	25.0	12.5	4.2	4.2	4.2
	300～999名	10	60.0	50.0	0.0	40.0	0.0	20.0	10.0	20.0	0.0	30.0	0.0
	1,000名以上	17	58.8	35.3	29.4	35.3	0.0	5.9	5.9	23.5	5.9	17.6	0.0
	わからない	16	56.3	62.5	12.5	37.5	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0

1番高い数値 2番目の数値

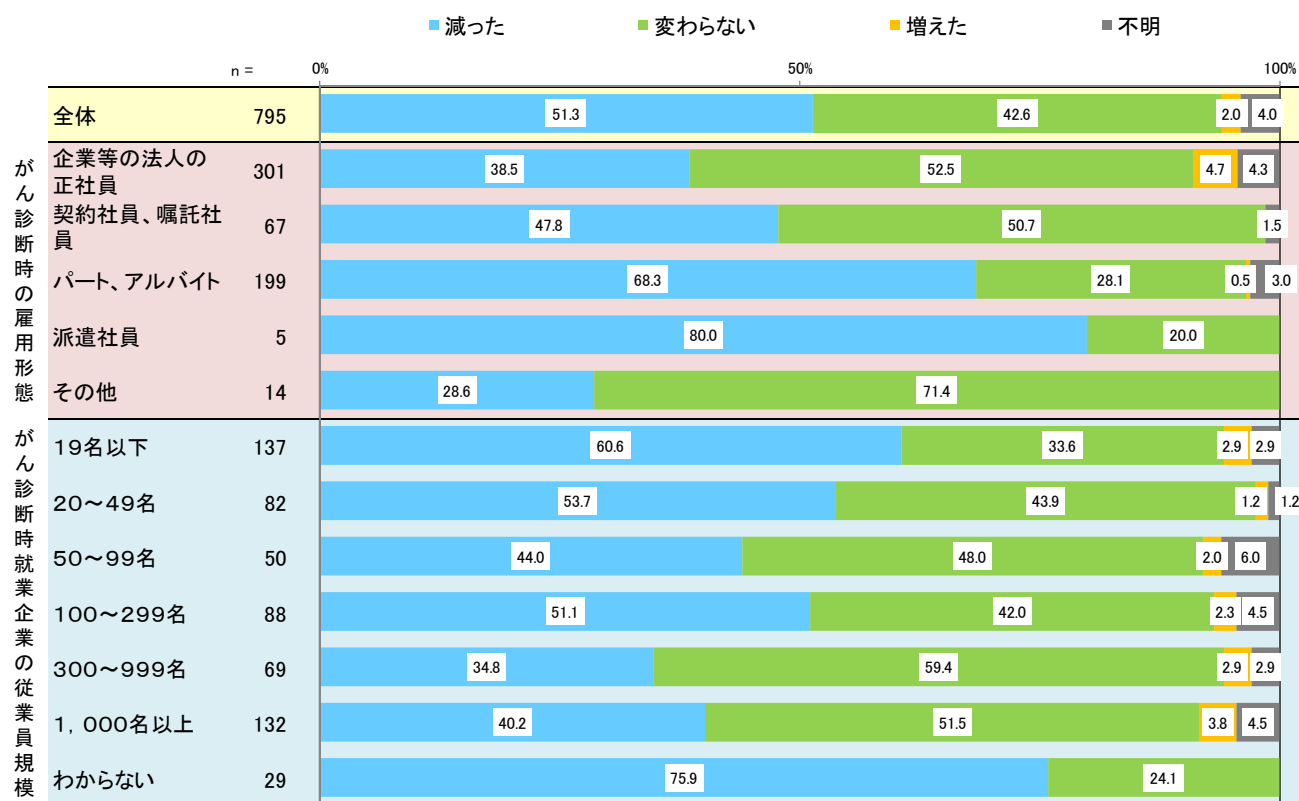
(4) がん罹患後の収入の変化

問 2 4 がん罹患した後、収入は減りましたか？

- ・がん罹患後の収入の変化は、全体の 51.3%と約半数が減収となった。
- ・年代別では、若い人ほど減収の割合が高く、進行度別ではステージが上がるほど減収が高くなっていく。
- ・世帯状況別では、若年単身世帯で減収の割合が高い。



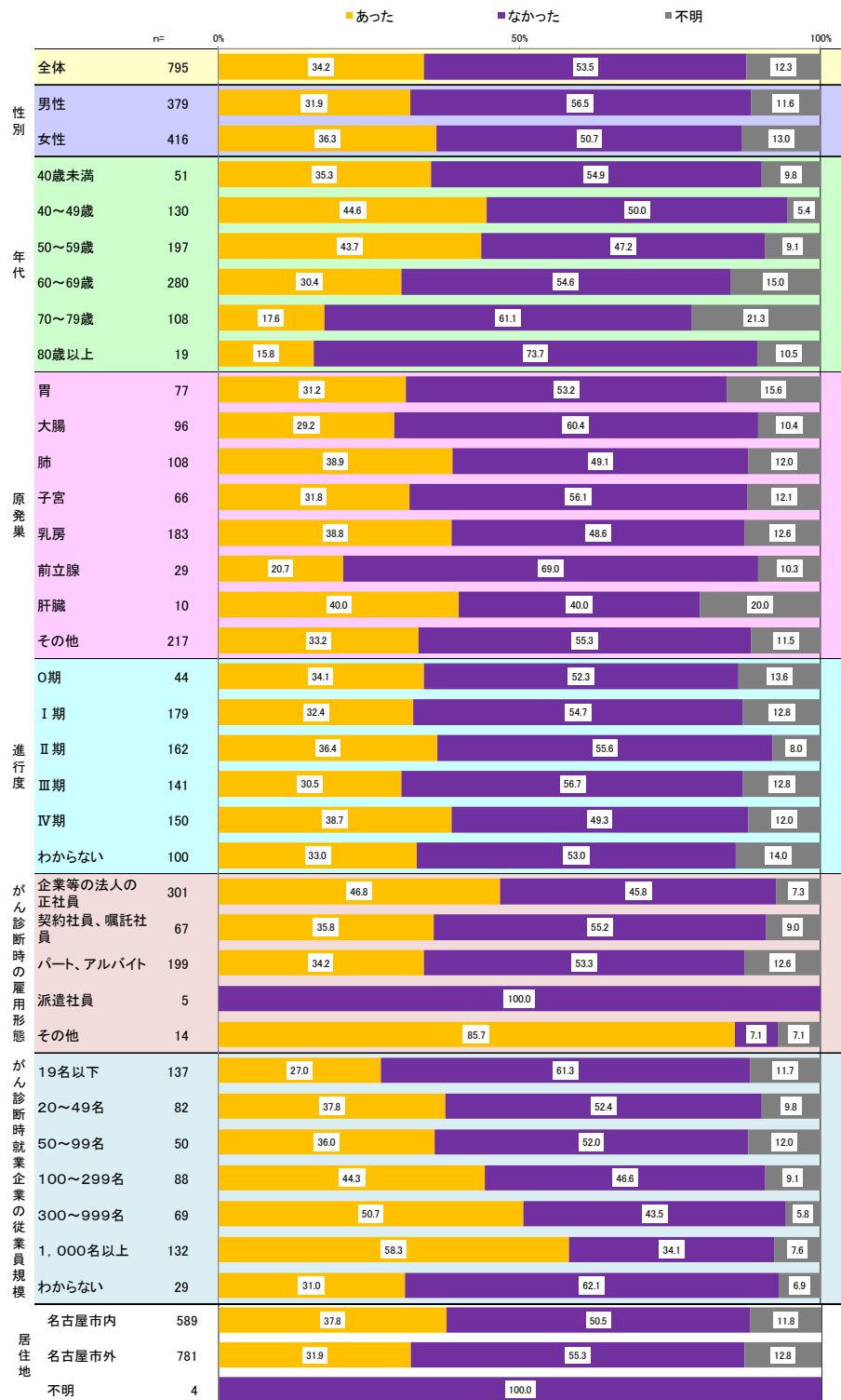
・雇用形態別では非正規雇用が、企業規模別では規模が小さい企業ほど減収が高い傾向が見られる。



(5) がん罹患後の仕事と治療の両立についての相談窓口

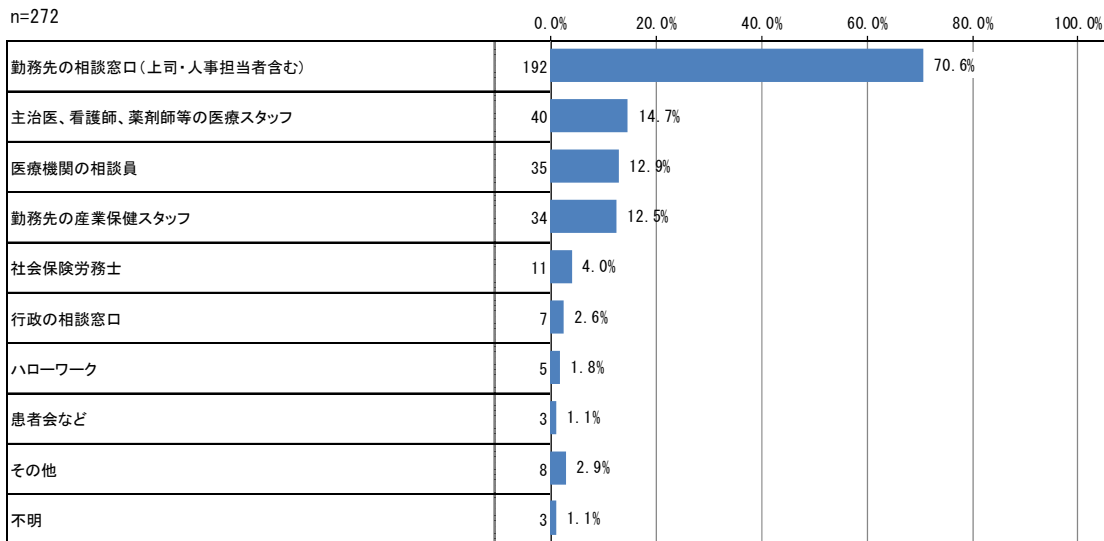
問 2 5 がん罹患した後、仕事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

- ・がん罹患後の仕事と治療の両立についての相談窓口については、全体の 34.2%が「あった」と回答した。
- ・雇用形態別では非正規雇用で、企業規模別では規模が小さい企業ほど相談窓口が少ない傾向が見られる。



(問25で「あった」と回答の方) それはどのようなところですか

- ・具体的な相談先としては「勤務先の相談窓口」が70.6%と突出して高かった。
- ・正規雇用や規模の大きい企業では「産業保健スタッフ」が相談窓口になっている回答も多かった。



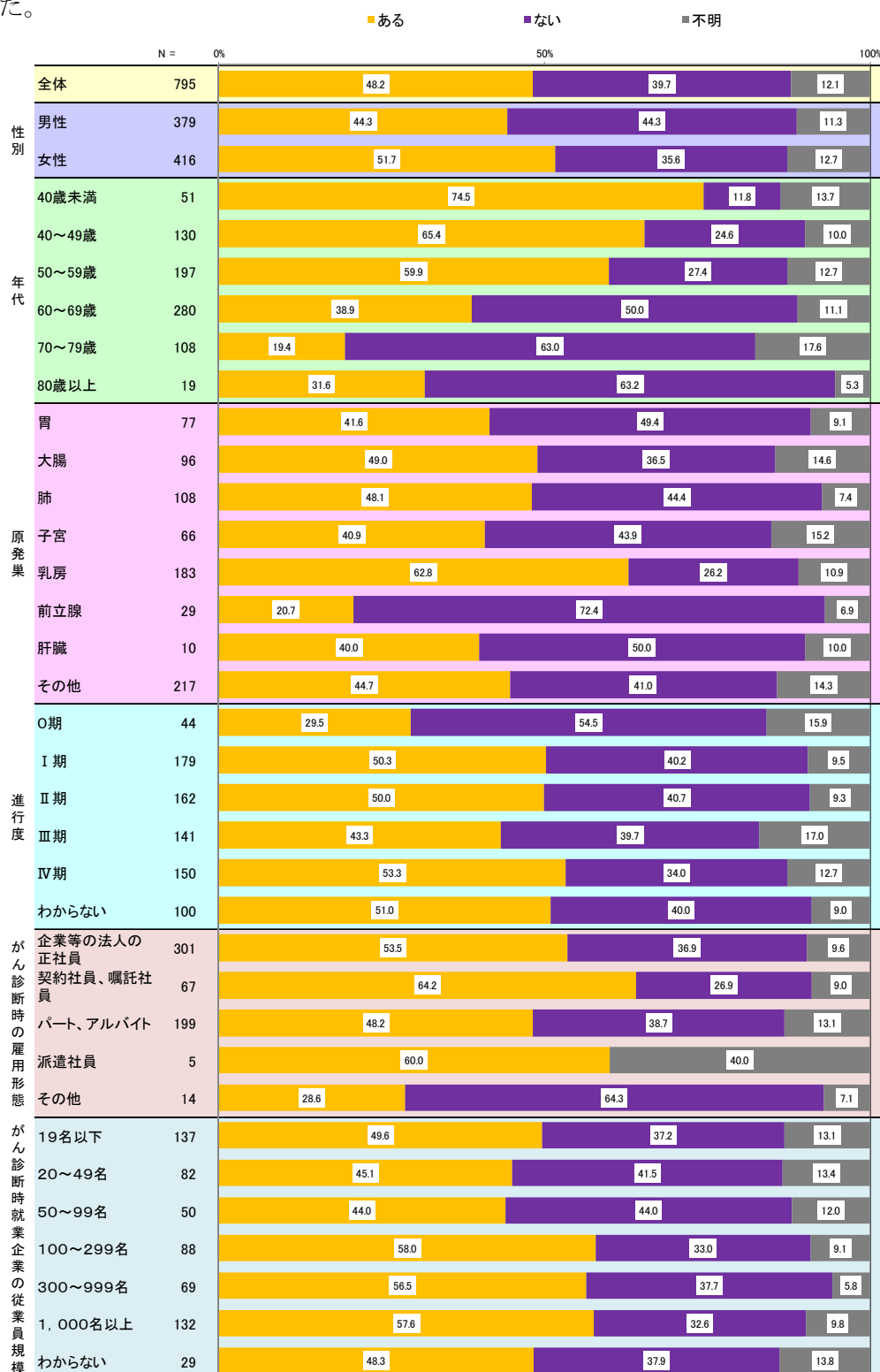
		調査数	勤務先の相談窓口(含上司・人事担当者含む)	勤務先の産業保健スタッフ	医療機関の相談員	主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ	患者会など	ハローワーク	社会保険労務士	行政の相談窓口	その他	不明
全体		272	70.6	12.5	12.9	14.7	1.1	1.8	4.0	2.6	2.9	1.1
性別	男性	121	68.6	17.4	9.9	12.4	1.7	0.0	5.8	3.3	2.5	1.7
	女性	151	72.2	8.6	15.2	16.6	0.7	3.3	2.6	2.0	3.3	0.7
年代	40歳未満	18	83.3	5.6	16.7	22.2	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0
	40～49歳	58	81.0	17.2	12.1	17.2	0.0	3.4	3.4	1.7	1.7	0.0
	50～59歳	86	68.6	14.0	12.8	10.5	1.2	2.3	1.2	3.5	4.7	0.0
	60～69歳	85	70.6	11.8	11.8	14.1	1.2	1.2	7.1	3.5	1.2	2.4
	70～79歳	19	42.1	5.3	15.8	26.3	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3
	80歳以上	3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
原発巣	胃	24	66.7	33.3	4.2	20.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0
	大腸	28	64.3	21.4	14.3	10.7	0.0	3.6	3.6	7.1	3.6	0.0
	肺	42	66.7	7.1	9.5	11.9	0.0	0.0	7.1	4.8	4.8	2.4
	子宮	21	95.2	14.3	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	乳房	71	67.6	7.0	16.9	21.1	0.0	4.2	4.2	2.8	4.2	0.0
	前立腺	6	83.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肝臓	4	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	その他	72	72.2	11.1	13.9	11.1	2.8	1.4	5.6	1.4	1.4	1.4
進行度	0期	15	66.7	13.3	6.7	20.0	0.0	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0
	I期	58	63.8	20.7	12.1	15.5	1.7	1.7	5.2	1.7	3.4	3.4
	II期	59	74.6	15.3	11.9	15.3	1.7	5.1	1.7	1.7	1.7	0.0
	III期	43	55.8	9.3	20.9	18.6	0.0	0.0	7.0	4.7	2.3	0.0
	IV期	58	77.6	6.9	13.8	10.3	0.0	1.7	3.4	1.7	3.4	1.7
	わからない	33	81.8	9.1	9.1	15.2	0.0	0.0	3.0	3.0	3.0	0.0
がん診断時の雇用形態	企業等の法人の正社員	141	84.4	19.1	7.8	12.1	1.4	0.0	3.5	0.7	2.1	0.0
	契約社員、嘱託社員	24	70.8	12.5	8.3	12.5	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0
	パート、アルバイト	68	61.8	5.9	25.0	17.6	1.5	5.9	1.5	2.9	0.0	0.0
	派遣社員	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	12	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0
がん診断時就業規模	19名以下	37	86.5	0.0	16.2	2.7	0.0	0.0	5.4	2.7	2.7	0.0
	20～49名	31	58.1	3.2	22.6	25.8	3.2	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0
	50～99名	18	61.1	5.6	22.2	11.1	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0
	100～299名	39	87.2	0.0	5.1	12.8	2.6	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0
	300～999名	35	77.1	11.4	8.6	14.3	2.9	0.0	2.9	2.9	2.9	0.0
	1,000名以上	77	75.3	35.1	9.1	14.3	0.0	0.0	1.3	0.0	1.3	0.0
わからない		9	77.8	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(6) 仕事と治療を両立するための悩み・困難

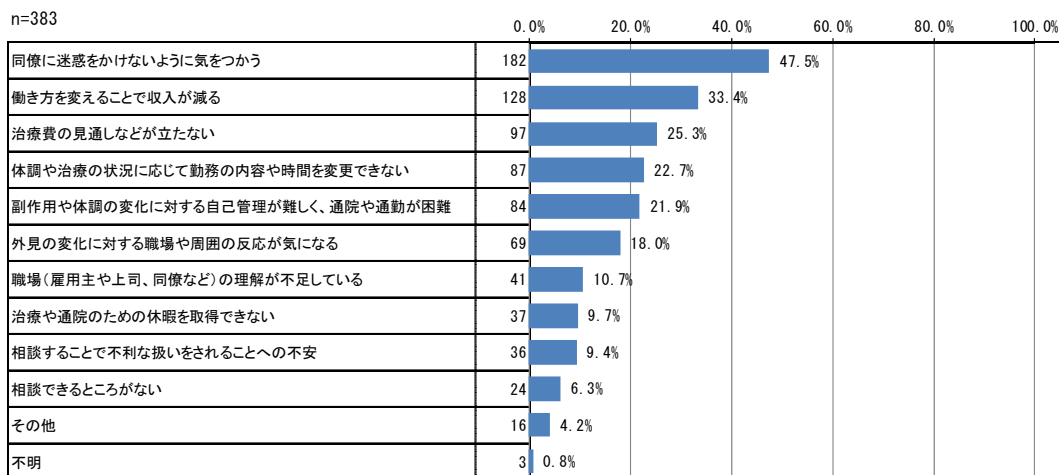
問 2 6 仕事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？

・仕事と治療を両立するための悩みや困難について、全体の 48.2%が「ある」と回答し、59 歳以下で半数以上と高くなっており、特に 40 歳未満では、7 割以上（74.5%）が、「ある」と回答した。



(問26で「ある」と回答の方) それはどのようなことですか

- ・仕事と治療を両立するための悩みや困難の内容については、「同僚への気遣い」が全体の47.5%と最も多く、「収入が減る」(33.4%)、「治療費の見通しが立たない」(25.3%)、「状況に応じて勤務内容や時間を変更できない」(22.7%)、「自己管理が難しく、通院や通勤が困難」(21.9%)の順となっている。
- ・「同僚への気遣い」に次いで、正規雇用や大規模企業では「状況に応じて勤務内容や時間を変更できない」が多く、非正規雇用や小規模企業では「治療費の見通しが立たない」、「働き方を変えることで収入が減る」といった金銭面での悩みや困難が多い。



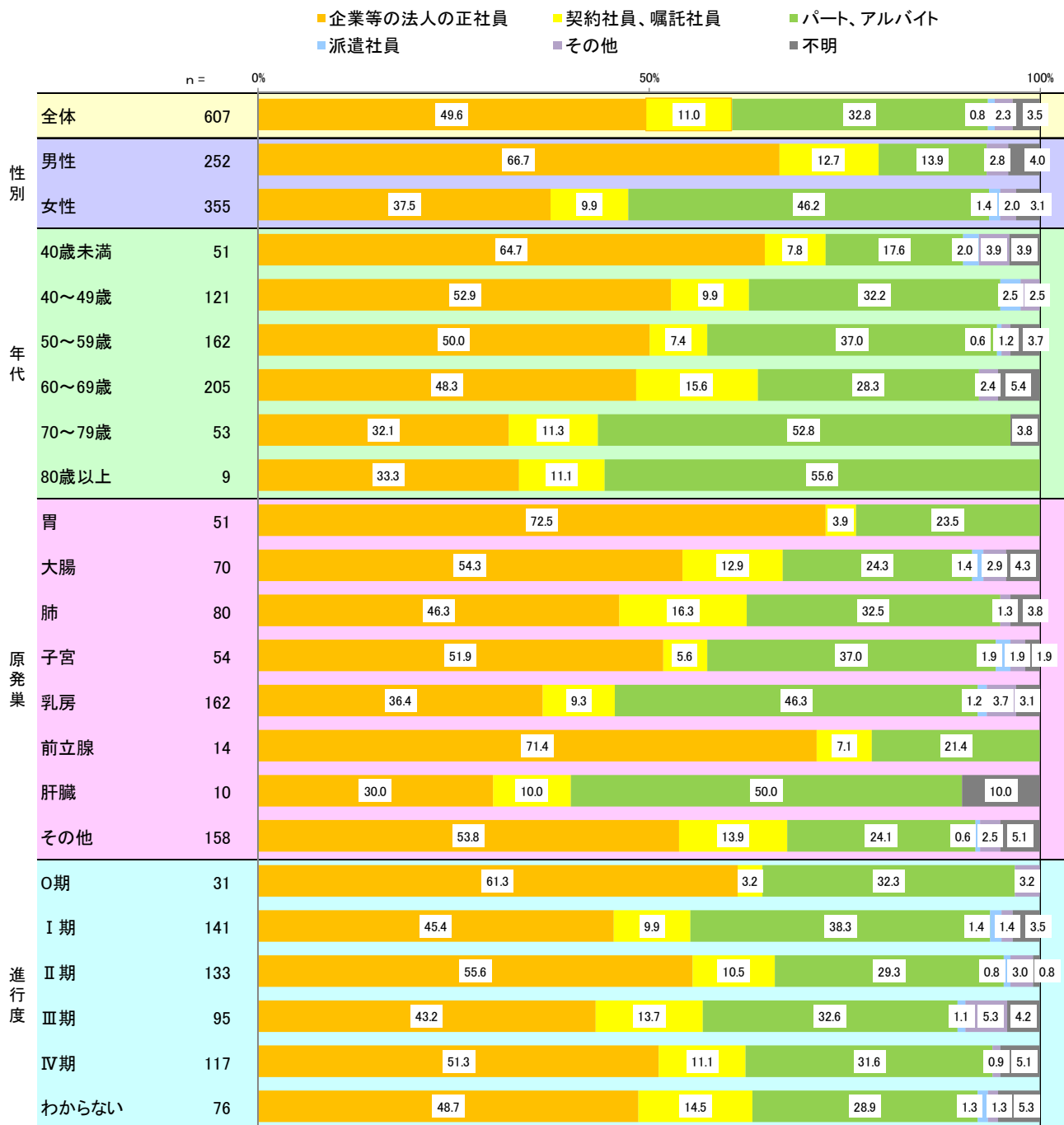
		調査数	立たない	治療費の見通しなどが	収入が減る	働き方を変えることで	更できない	体調や治療の状況に応じて勤務の内容や時間を	副作用や体調の変化に、自己管理が難しく、通院や通勤が困難	治療や通院のための休暇を取得できない	相談できるところがない	相談することで不利な扱いをされることが不安	相談することで不利な扱いをされることが不安	職場（雇用主や上司、同僚など）の理解が不足している	同僚に迷惑をかけないよう気をつかう	外見の変化に対する職場や周囲の反応が気になる	その他	不明	%
全体			383	25.3	33.4	22.7	21.9	9.7	6.3	9.4	10.7	47.5	18.0	4.2	0.8				
性別	男性	168	27.4	35.1	25.6	19.6	10.1	6.0	4.8	10.7	39.9	9.5	3.6	1.2					
	女性	215	23.7	32.1	20.5	23.7	9.3	6.5	13.0	10.7	53.5	24.7	4.7	0.5					
年代	40歳未満	38	13.2	28.9	42.1	18.4	13.2	2.6	7.9	15.8	47.4	39.5	13.2	0.0					
	40～49歳	85	22.4	40.0	24.7	23.5	7.1	4.7	10.6	10.6	47.1	21.2	5.9	1.2					
	50～59歳	118	23.7	30.5	16.1	22.9	7.6	8.5	14.4	11.9	55.9	16.1	2.5	0.8					
	60～69歳	109	32.1	32.1	19.3	19.3	13.8	6.4	3.7	7.3	41.3	11.0	1.8	0.0					
	70～79歳	21	23.8	33.3	38.1	23.8	9.5	4.8	4.8	4.8	47.6	23.8	4.8	0.0					
原発巣	80歳以上	6	50.0	33.3	16.7	66.7	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0					
	胃	32	21.9	34.4	31.3	21.9	9.4	6.3	3.1	0.0	53.1	9.4	6.3	3.1					
	大腸	47	36.2	21.3	23.4	25.5	8.5	8.5	6.4	19.1	42.6	10.6	0.0	2.1					
	肺	52	34.6	32.7	21.2	23.1	9.6	1.9	5.8	9.6	50.0	9.6	1.9	0.0					
	子宮	27	14.8	37.0	18.5	11.1	7.4	3.7	18.5	11.1	44.4	11.1	11.1	3.7					
	乳房	115	20.9	33.0	20.9	20.0	11.3	7.0	15.7	10.4	51.3	29.6	3.5	0.0					
	前立腺	6	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0					
	肝臓	4	50.0	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0					
	その他	97	24.7	39.2	22.7	24.7	9.3	8.2	5.2	10.3	40.2	19.6	5.2	0.0					
	進行度	0期	13	30.8	23.1	30.8	0.0	15.4	7.7	15.4	23.1	61.5	15.4	7.7	0.0				
進行度	I期	90	11.1	31.1	18.9	14.4	13.3	6.7	11.1	12.2	60.0	17.8	1.1	1.1					
	II期	81	25.9	32.1	30.9	17.3	11.1	3.7	13.6	9.9	43.2	17.3	4.9	1.2					
	III期	61	34.4	37.7	19.7	18.0	4.9	6.6	6.6	6.6	42.6	19.7	3.3	1.6					
	IV期	80	36.3	28.8	20.0	43.8	6.3	6.3	5.0	8.8	38.8	8.8	5.0	0.0					
	わからない	51	23.5	43.1	21.6	21.6	7.8	7.8	7.8	13.7	45.1	33.3	5.9	0.0					
雇用形態	がん診断時の	企業等の法人の正社員	161	17.4	26.7	32.3	19.3	12.4	3.7	6.8	13.0	58.4	17.4	4.3	0.6				
	契約社員、嘱託社員	43	30.2	25.6	23.3	20.9	11.6	11.6	18.6	9.3	34.9	11.6	9.3	2.3					
	パート、アルバイト	96	28.1	41.7	11.5	22.9	7.3	6.3	13.5	10.4	56.3	26.0	1.0	0.0					
	派遣社員	3	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0					
	その他	4	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0					
企業の従業員規模	がん診断時就業	19名以下	68	22.1	33.8	20.6	30.9	10.3	4.4	4.4	11.8	55.9	17.6	0.0	0.0				
	20～49名	37	16.2	45.9	18.9	16.2	13.5	8.1	2.7	8.1	64.9	29.7	2.7	0.0					
	50～99名	22	18.2	36.4	22.7	9.1	9.1	4.5	13.6	13.6	50.0	13.6	4.5	0.0					
	100～299名	51	31.4	21.6	31.4	25.5	7.8	9.8	13.7	5.9	51.0	15.7	5.9	0.0					
	300～999名	39	20.5	20.5	23.1	15.4	10.3	10.3	12.8	10.3	59.0	17.9	2.6	2.6					
	1,000名以上	76	22.4	27.6	27.6	19.7	10.5	1.3	17.1	19.7	47.4	19.7	7.9	1.3					
	わからない	14	35.7	64.3	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1	50.0	21.4	7.1	0.0					

1番高い数値 2番目の数値

(7) がん診断時の雇用形態

問 2 7 がんと診断されたとき、どのような立場で働いていましたか？

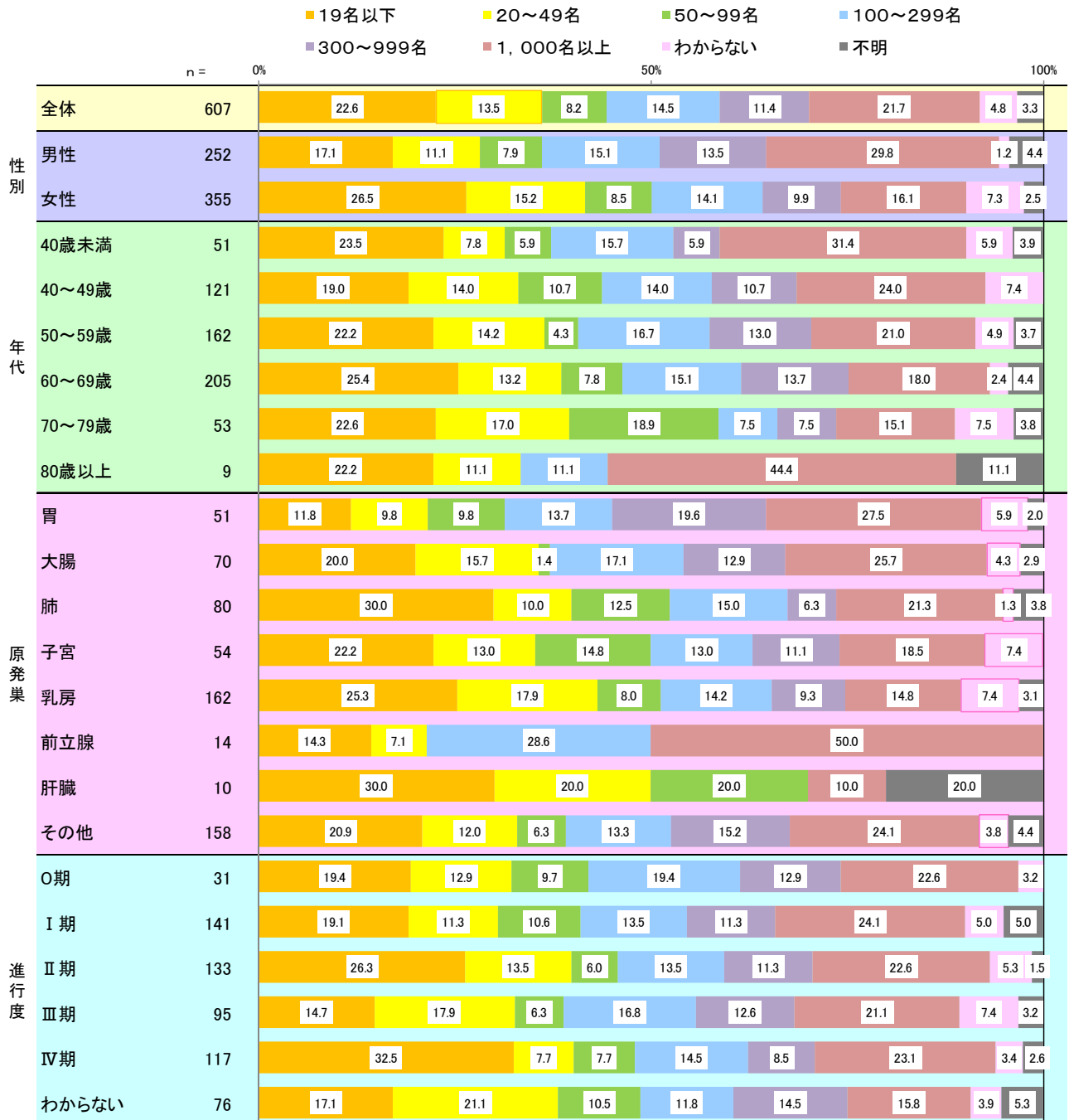
- ・がん診断時の雇用形態は、全体で「正社員」が 49.6%、「契約社員、嘱託社員」、「パート・アルバイト」、「派遣社員」を合わせた非正規雇用は 44.6%であった。
- ・男性より女性の方が非正規雇用の割合が高い。
- ・年代別では高年齢ほど非正規雇用の割合が高い。



(8) がん診断時の雇用企業の従業員規模

問 2 8 がんを診断されたときに働いていた企業等の従業員規模を教えてください。

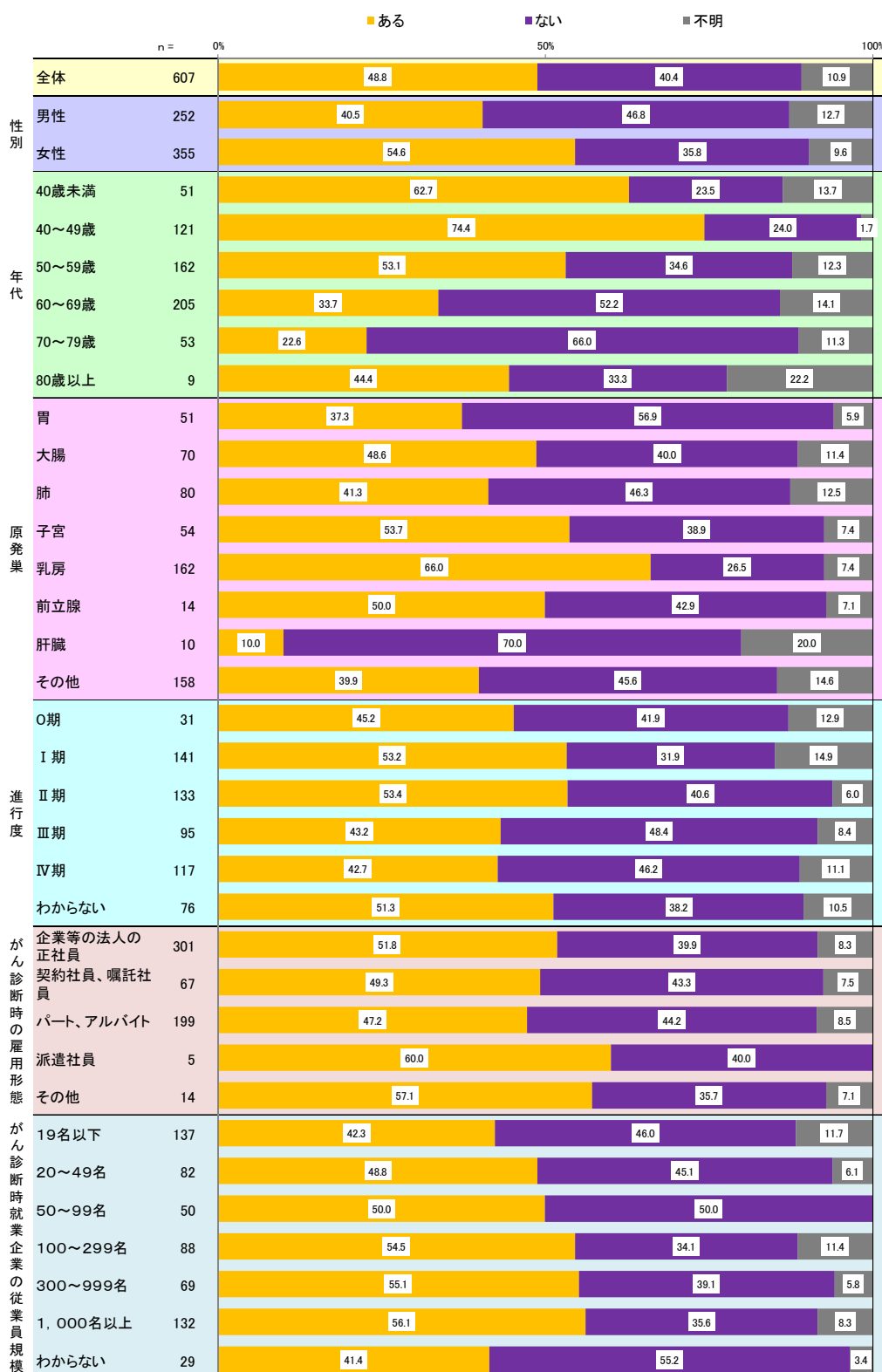
・性別に見ると女性の方が小規模企業の割合が高い。



(9) がん罹患後勤務先に求める配慮

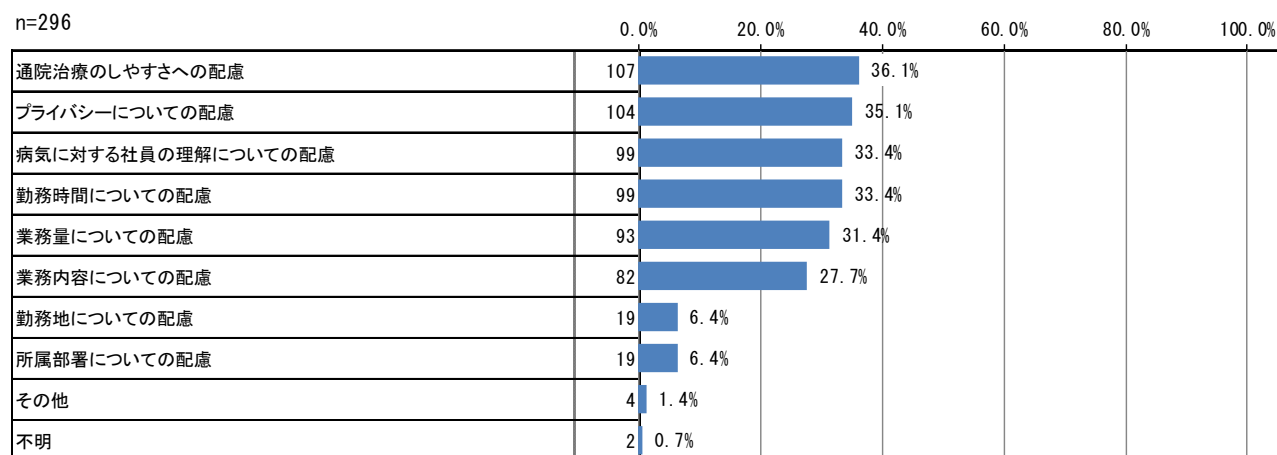
問 2 9 がんにかかった後、勤務先で配慮してほしいことはありましたか？

- ・がん罹患後、勤務先に配慮を求めることが「ある」と回答したのは全体の 48.8%と約半数であった。
- ・性別では女性の方が高く、年代別では 59 歳以下で半数以上と高くなっている。



(問29で「ある」と回答の方) それはどのようなことですか【3MA】

- ・求める配慮の具体的な内容としては、「通院治療のしやすさ」(36.1%)、「プライバシー」(35.1%)、「病気に対する社員の理解」(33.4%)、「勤務時間」(33.4%)、「業務量」(31.4%)、「業務内容」(27.7%)が、いずれも3割前後で大きな差は無かった。
- ・性別で見ると男性は「業務量」(38.2%)、「病気に対する社員の理解」(36.3%)が多いのに対し、女性は、「プライバシー」(41.8%)、「通院治療のしやすさ」(37.6%)が多かった。



		調査数	病 気 に 対 す る 配 慮	フ ラ イ バ シ ー に つ い て の 配 慮	通 院 治 療 の し や さ さ へ の 配 慮	業 務 量 に つ い て の 配 慮	處 務 内 容 に つ い て の 配 慮	處 務 時 間 に つ い て の 配 慮	勤 務 地 に つ い て の 配 慮	所 属 部 署 に つ い て の 配 慮	そ の 他	不 明	%
全体			296	33.4	35.1	36.1	31.4	27.7	33.4	6.4	6.4	1.4	0.7
性別	男性	102	36.3	22.5	33.3	38.2	33.3	31.4	13.7	10.8	1.0	0.0	
	女性	194	32.0	41.8	37.6	27.8	24.7	34.5	2.6	4.1	1.5	1.0	
年代	40歳未満	32	37.5	46.9	46.9	21.9	12.5	46.9	9.4	12.5	0.0	0.0	
	40～49歳	90	31.1	40.0	36.7	34.4	27.8	33.3	4.4	6.7	1.1	0.0	
	50～59歳	86	33.7	36.0	34.9	32.6	31.4	27.9	8.1	4.7	2.3	1.2	
	60～69歳	69	33.3	24.6	29.0	26.1	29.0	34.8	4.3	5.8	1.4	1.4	
	70～79歳	12	25.0	16.7	58.3	50.0	25.0	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	
	80歳以上	4	75.0	25.0	25.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
原発巣	胃	19	36.8	26.3	36.8	21.1	26.3	31.6	5.3	0.0	10.5	0.0	
	大腸	34	38.2	26.5	35.3	23.5	47.1	38.2	8.8	14.7	2.9	0.0	
	肺	33	27.3	30.3	33.3	33.3	27.3	30.3	6.1	3.0	0.0	0.0	
	子宮	29	37.9	41.4	34.5	27.6	13.8	37.9	0.0	3.4	3.4	3.4	
	乳房	107	30.8	39.3	39.3	31.8	24.3	35.5	4.7	3.7	0.0	0.9	
	前立腺	7	14.3	42.9	42.9	57.1	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	
	肝臓	1	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	その他	63	38.1	34.9	31.7	34.9	33.3	25.4	11.1	12.7	0.0	0.0	
進行度	0期	14	42.9	14.3	35.7	35.7	21.4	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	
	I期	75	33.3	46.7	33.3	34.7	26.7	29.3	2.7	5.3	1.3	1.3	
	II期	71	36.6	29.6	33.8	38.0	22.5	36.6	7.0	4.2	1.4	0.0	
	III期	41	29.3	39.0	29.3	26.8	24.4	29.3	9.8	12.2	2.4	0.0	
	IV期	50	44.0	36.0	42.0	20.0	38.0	42.0	4.0	4.0	0.0	0.0	
	わからない	39	20.5	28.2	43.6	33.3	35.9	30.8	12.8	12.8	2.6	0.0	
雇用形態	がん診断時の 企業等の法人の正社員	156	34.6	32.7	39.1	34.0	23.7	31.4	10.3	9.0	0.0	0.6	
	契約社員、嘱託社員	33	36.4	33.3	27.3	21.2	33.3	18.2	3.0	3.0	6.1	0.0	
	パート、アルバイト	94	33.0	39.4	35.1	31.9	33.0	42.6	1.1	1.1	2.1	1.1	
	派遣社員	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	
	その他	8	12.5	25.0	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0	
企業の従業員規模	がん診断時就業 19名以下	58	36.2	24.1	41.4	34.5	27.6	39.7	0.0	3.4	0.0	0.0	
	20～49名	40	30.0	35.0	37.5	30.0	32.5	32.5	0.0	5.0	0.0	5.0	
	50～99名	25	44.0	36.0	24.0	32.0	28.0	32.0	0.0	8.0	0.0	0.0	
	100～299名	48	35.4	27.1	37.5	35.4	25.0	33.3	2.1	2.1	2.1	0.0	
	300～999名	38	34.2	42.1	34.2	34.2	21.1	15.8	15.8	7.9	5.3	0.0	
	1,000名以上	74	29.7	41.9	32.4	25.7	28.4	35.1	14.9	10.8	0.0	0.0	
	わからない	12	25.0	50.0	50.0	33.3	41.7	50.0	8.3	8.3	8.3	0.0	

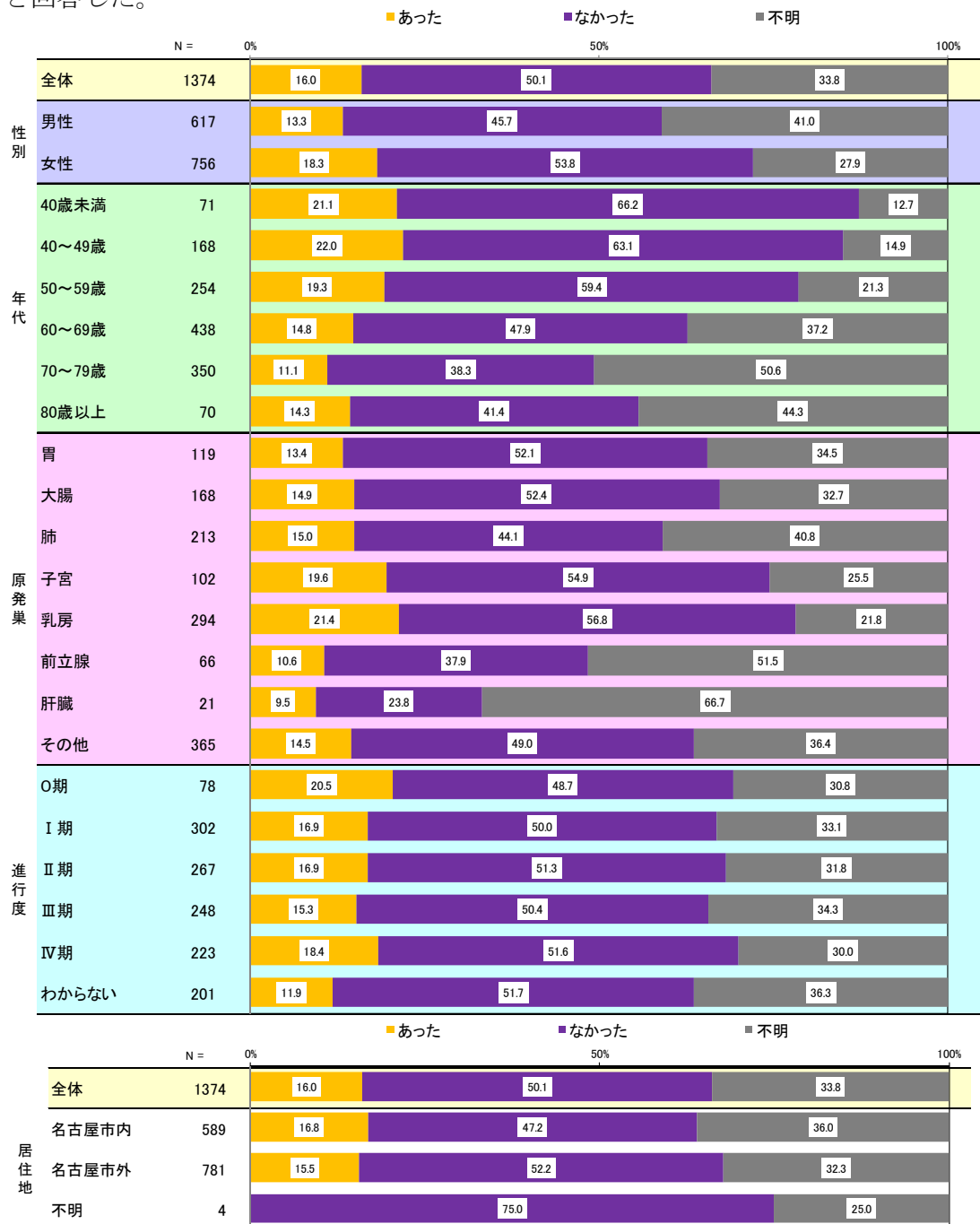
1番高い数値	2番目の数値
--------	--------

5：子育て・介護・家事と治療の両立について

（１）がん診断後の子育て・介護・家事と治療の両立についての相談窓口

問 3 0 がんに罹患した後、子育てや介護、家事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

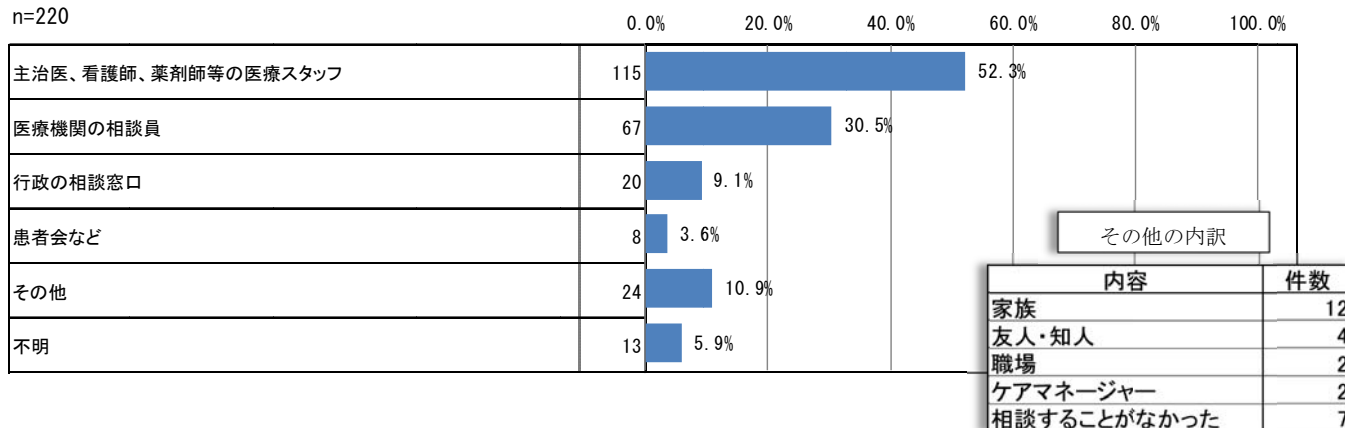
・がん罹患後の子育て・介護・家事と治療の両立の相談窓口については、全体の約 5 割（50.1%）が「なかった」と回答した。



（問30で「あった」と回答の方）それはどのようなところですか【複数回答】

・がん罹患後の子育て・介護・家事と治療の両立の具体的な相談窓口については、「主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ」が52.3%で最も高く、次いで「医療機関の相談員」が30.5%であった。

n=220



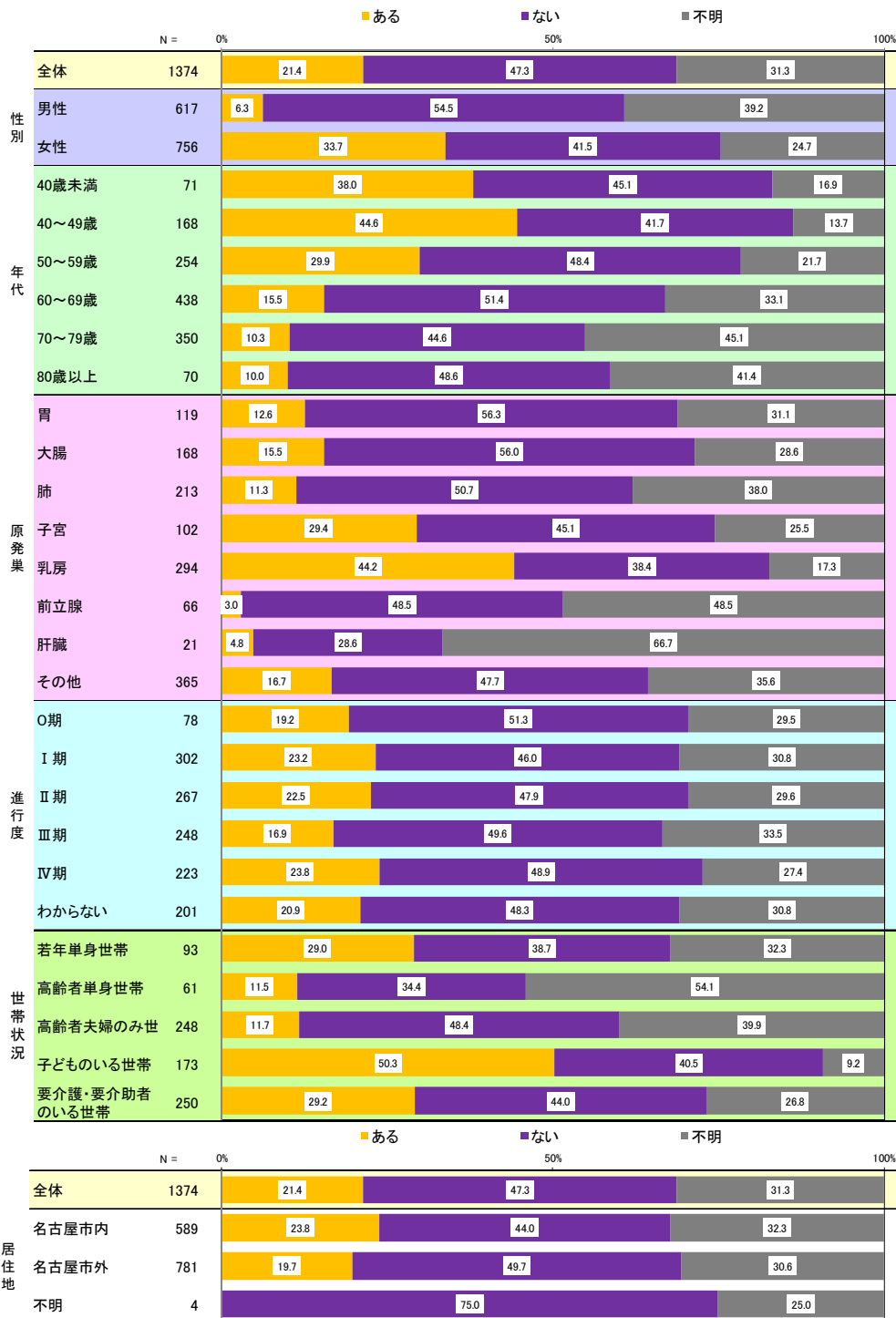
		調査数	医療機関の相談員	主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ	患者会など	行政の相談窓口	その他	不明
全体		220	30.5	52.3	3.6	9.1	10.9	5.9
性別	男性	82	31.7	57.3	1.2	11.0	11.0	1.2
	女性	138	29.7	49.3	5.1	8.0	10.9	8.7
年代	40歳未満	15	26.7	60.0	0.0	0.0	13.3	0.0
	40～49歳	37	29.7	62.2	8.1	8.1	10.8	5.4
	50～59歳	49	36.7	40.8	2.0	14.3	10.2	4.1
	60～69歳	65	32.3	41.5	3.1	15.4	10.8	10.8
	70～79歳	39	25.6	59.0	5.1	0.0	12.8	5.1
	80歳以上	10	10.0	90.0	0.0	0.0	10.0	0.0
原発巣	胃	16	37.5	50.0	0.0	6.3	31.3	0.0
	大腸	25	36.0	52.0	0.0	12.0	0.0	12.0
	肺	32	18.8	62.5	0.0	15.6	9.4	6.3
	子宮	20	25.0	55.0	10.0	5.0	5.0	5.0
	乳房	63	30.2	49.2	7.9	4.8	12.7	4.8
	前立腺	7	28.6	71.4	0.0	14.3	14.3	0.0
	肝臓	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	53	34.0	47.2	1.9	11.3	11.3	5.7
進行度	0期	16	18.8	56.3	6.3	12.5	12.5	0.0
	I期	51	33.3	52.9	7.8	5.9	7.8	3.9
	II期	45	26.7	55.6	2.2	4.4	15.6	6.7
	III期	38	31.6	57.9	5.3	7.9	13.2	2.6
	IV期	41	19.5	53.7	0.0	22.0	9.8	12.2
	わからない	24	54.2	37.5	0.0	4.2	8.3	0.0

1番高い数値 2番目の数値

(2) 子育て・介護・家事と治療を両立するための悩み・困難

問3 1 子育て・介護・家事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？

- ・子育て・介護・家事と治療を両立するための悩みや困難については、全体の 21.4%が「ある」と回答した。
- ・性別で見ると女性の 33.7%が「ある」としているのに対し、男性は 6.3%にとどまる。
- ・年代別では 49 歳以下で高く、子供のいる世帯では 50.3%となった。

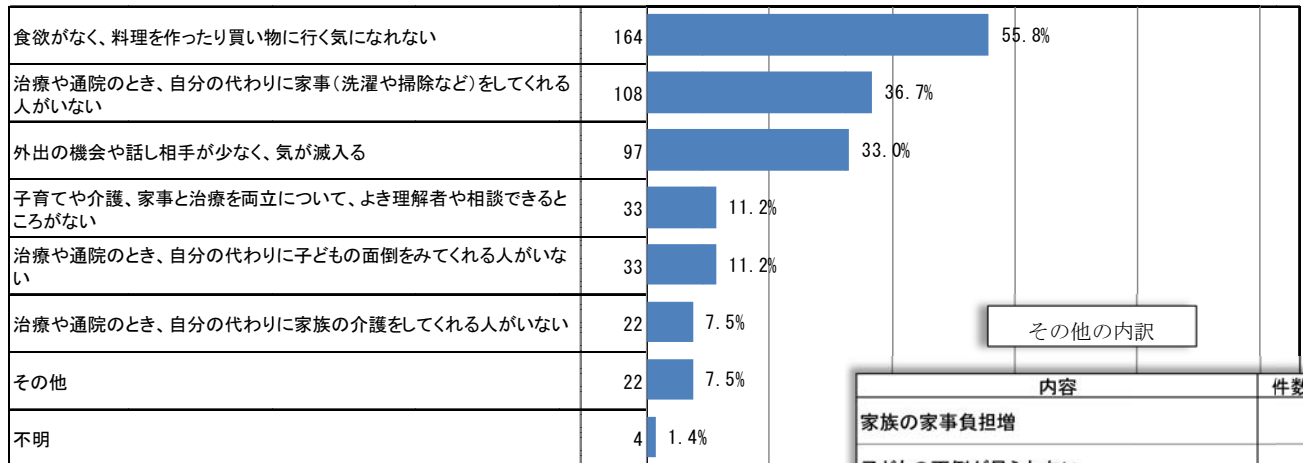


（問31で「ある」と回答の方）それはどのようなことですか【3MA】

- ・子育て・介護・家事と治療を両立するための悩みや困難の内容については、「食欲がなく、料理や買い物をする気になれない」が55.8%と最も高く、次いで「自分の代わりに家事をしてくれる人がいない」が36.7%であった。
- ・子供のいる世帯では「自分の代わりに子どもの面倒をみってくれる人がいない」（31.0%）も高かった。

n=294

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%



その他の内訳

内容	件数
家族の家事負担増	3
子どもの面倒が見られない	2
サポートしてくれる人がいない	2
今までどおり仕事ができるかどうか	1
重いものが持てなくなり、一人で買い物に難しかった。	1
気分がめいる	1
近所の詮索が煩わしい	1
心のケア	1
子育てするための子供ほしいのだが、こんな身体じゃ結婚できない	1
今後も周囲がサポートを継続していけるか	1
仕事を辞めた	1
食生活の相談	1
職場の理解が足りない	1
治療のため親と同居したら保育所をやめさせられた	1
配偶者も身障者の為日常生活が大変	1

	調査数	1番高い数値	2番目の数値	その他	不明
全体	294	11.2	36.7	7.5	11.2
性別					
男性	39	15.4	28.2	12.8	5.1
女性	255	10.6	38.0	6.7	12.2
年代					
40歳未満	27	14.8	40.7	0.0	14.8
40～49歳	75	16.0	37.3	2.7	17.3
50～59歳	76	10.5	34.2	6.6	14.5
60～69歳	68	8.8	39.7	11.8	2.9
70～79歳	36	2.8	30.6	16.7	5.6
80歳以上	7	14.3	42.9	14.3	0.0
原発巣					
胃	15	6.7	46.7	6.7	13.3
大腸	26	11.5	26.9	3.8	7.7
肺	24	4.2	29.2	12.5	8.3
子宮	30	16.7	23.3	0.0	6.7
乳房	130	9.2	44.6	6.2	15.4
前立腺	2	100.0	50.0	0.0	0.0
肝臓	1	0.0	0.0	100.0	0.0
その他	61	14.8	34.4	11.5	8.2
進行度					
0期	15	6.7	60.0	6.7	26.7
I期	70	11.4	42.9	8.6	11.4
II期	60	8.3	31.7	8.3	6.7
III期	42	11.9	35.7	7.1	16.7
IV期	53	11.3	35.8	7.5	9.4
わからない	42	14.3	35.7	4.8	7.1
世帯状況					
若年単身世帯	27	7.4	59.3	0.0	3.7
高齢者単身世帯	7	0.0	57.1	42.9	0.0
高齢者夫婦のみ世帯	29	13.8	24.1	6.9	0.0
子どものいる世帯	87	14.9	37.9	2.3	31.0
要介護・要介護者のいる世帯	73	13.7	37.0	20.5	11.0

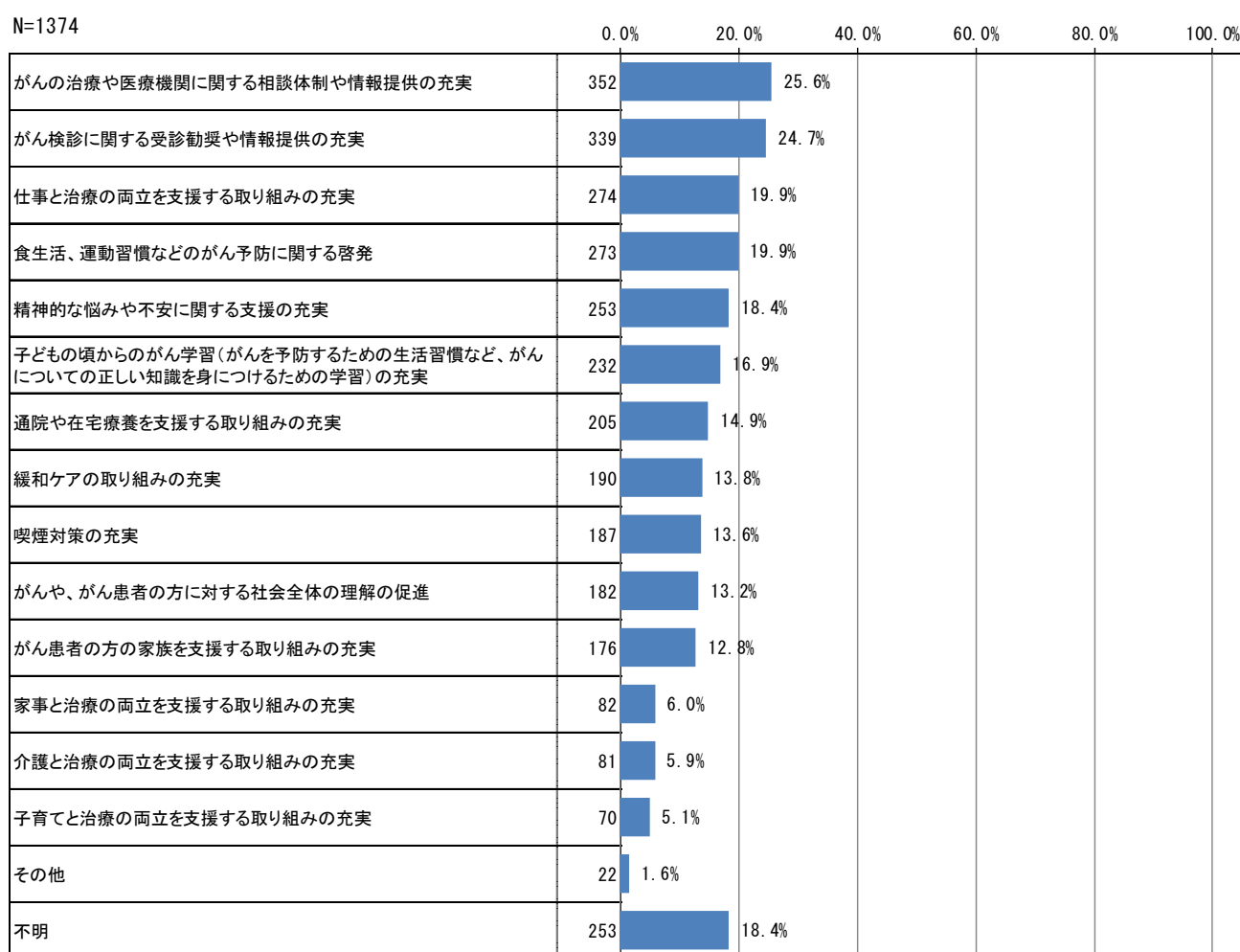
1番高い数値 2番目の数値

6: 名古屋市のがん対策について

問32 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。

【3MA】

・名古屋市のがん対策において充実すべきことについて、全体では「がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供」が25.6%と最も高く、次いで「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」(24.7%)、「仕事と治療の両立支援」(19.9%)、「がん予防に関する啓発」(19.9%)の順となった。



- ・年代別では40歳未満から49歳までが「仕事と治療の両立支援」が最も高い。
- ・世帯別では、若年単身世帯は「仕事と治療の両立支援」、「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」の順となっており、子どものいる世帯では「仕事と治療の両立支援」、「がん検診に関する受診勧奨や情報提供」、「子供の頃からのがん学習の充実」の順となっている。

%

		調査数	啓発生活、運動習慣などのがん予防に関する充実	子どもの頃からのがん学習（がんを予防するための生活習慣などの学習）の充実	喫煙対策の充実	がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実	がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	緩和ケアの取り組みの充実	精神的な悩みや不安に関する支援の充実	通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	その他	不明
	全体	1374	19.9	16.9	13.6	24.7	25.6	13.8	18.4	14.9	19.9	5.1	5.9	6.0	12.8	13.2	1.6	18.4
性別	男性	617	23.5	15.4	16.9	26.7	26.3	9.1	16.0	14.6	18.8	2.6	6.3	2.4	13.1	10.5	1.1	20.4
	女性	756	16.7	41.7	8.3	25.0	8.3	0.0	25.0	16.7	41.7	16.7	0.0	0.0	8.3	33.3	0.0	8.3
年代	40歳未満	71	27.3	15.2	12.1	18.2	12.1	6.1	18.2	21.2	30.3	9.1	3.0	9.1	18.2	15.2	0.0	15.2
	40～49歳	168	17.3	16.0	13.6	24.7	25.9	6.2	21.0	13.6	33.3	3.7	2.5	3.7	14.8	19.8	2.5	12.3
	50～59歳	254	22.1	13.1	17.1	27.9	31.5	8.1	13.5	15.8	20.3	1.4	9.0	1.8	15.8	12.2	1.4	18.0
	60～69歳	438	26.7	18.6	19.5	29.5	24.8	11.9	14.3	11.0	11.4	1.9	4.8	1.9	9.5	5.2	0.0	26.7
	70～79歳	350	26.5	6.1	14.3	18.4	24.5	8.2	20.4	16.3	8.2	2.0	10.2	2.0	14.3	4.1	4.1	22.4
	80歳以上	70	16.8	18.1	11.0	22.9	25.1	17.6	20.4	15.2	20.9	7.1	5.6	8.9	12.6	15.5	2.0	16.8
原発巣	胃	119	32.8	15.1	12.6	38.7	21.8	10.9	14.3	15.1	14.3	3.4	5.0	3.4	7.6	11.8	0.8	17.6
	大腸	168	24.4	18.5	8.3	27.4	26.8	7.7	17.9	16.1	20.8	4.8	6.5	6.0	14.9	13.1	2.4	17.9
	肺	213	13.6	16.4	21.1	19.2	26.8	14.1	16.4	10.8	16.0	2.8	6.1	6.1	14.1	10.3	0.9	23.0
	子宮	102	17.6	30.4	7.8	22.5	25.5	15.7	24.5	12.7	29.4	7.8	7.8	8.8	12.7	11.8	2.0	10.8
	乳房	294	19.4	17.7	12.6	22.8	28.2	15.3	23.5	14.3	25.2	8.2	4.4	9.9	14.3	18.0	2.0	13.6
	前立腺	66	28.8	19.7	18.2	36.4	28.8	9.1	16.7	10.6	12.1	0.0	6.1	1.5	4.5	3.0	0.0	19.7
	肝臓	21	23.8	9.5	14.3	14.3	23.8	9.5	4.8	14.3	9.5	0.0	4.8	0.0	9.5	0.0	0.0	42.9
	その他	365	15.9	13.4	13.7	22.2	23.6	15.3	16.7	18.4	19.5	5.2	6.3	4.1	13.4	14.2	1.6	20.8
進行度	0期	78	19.2	17.9	7.7	25.6	21.8	20.5	21.8	7.7	20.5	3.8	7.7	5.1	14.1	16.7	2.6	19.2
	I期	302	21.5	16.2	14.6	28.5	27.5	15.9	21.2	11.9	24.8	6.0	6.3	7.3	9.3	10.9	1.7	16.9
	II期	267	22.5	18.7	16.9	24.7	26.6	11.6	17.6	14.6	21.7	4.5	5.6	5.2	10.9	16.9	1.5	16.5
	III期	248	21.8	16.5	16.1	25.0	26.2	10.1	21.0	12.1	16.5	4.4	4.8	3.2	14.5	11.7	1.2	19.4
	IV期	223	13.5	16.1	7.2	24.2	27.8	16.6	18.4	20.6	17.5	6.7	6.7	7.2	18.4	13.9	1.3	16.6
	わからない	201	17.9	19.4	15.9	17.9	22.9	9.5	12.9	19.9	19.9	4.0	6.0	7.0	13.4	10.4	2.0	21.9
世帯状況	若年単身世帯	93	21.5	12.9	7.5	33.3	30.1	10.8	24.7	20.4	40.9	5.4	5.4	3.2	8.6	17.2	1.1	8.6
	高齢者単身世帯	61	13.1	4.9	4.9	13.1	23.0	18.0	18.0	16.4	9.8	0.0	6.6	3.3	6.6	8.2	1.6	39.3
	高齢者夫婦のみ世帯	248	26.6	17.3	19.0	23.4	22.6	13.3	15.7	14.5	8.5	1.6	5.6	4.0	9.3	6.9	1.6	23.4
	子どものいる世帯	173	16.8	24.3	11.6	24.9	18.5	14.5	23.1	16.8	25.4	24.3	2.9	12.1	17.9	15.6	2.9	7.5
	要介護・要介助者のいる世帯	250	17.2	16.8	15.6	18.8	24.0	16.0	19.6	12.8	18.8	5.6	15.6	7.2	17.2	13.2	1.2	16.8
居住地	名古屋市内	589	19.4	16.8	13.9	26.1	29.7	15.1	19.7	17.3	19.5	6.8	5.8	7.0	13.2	14.3	1.9	13.1
	名古屋市外	781	20.2	16.9	13.4	23.6	22.7	12.9	17.3	13.1	20.2	3.8	6.0	5.2	12.5	12.5	1.4	22.4
	不明	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

1番高い数値 2番目の数値 3番目の数値

Ⅱ：調査結果

⑤病院

1:患者からの悩み相談

- ・患者からの悩み相談の頻度と課題について、全体で頻度が「多い」悩みは、「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」、「通院治療や在宅療養」、「仕事と治療の両立や経済的なこと」の順となった。
- ・悩み相談全体の頻度としては平均点 3.2 と「普通(3点)」より若干多い頻度であった。

- ・悩みに対する課題として、

：「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」・「通院治療や在宅療養」については「関係機関との連携」

：「仕事と治療の両立や経済的なこと」・「子育てや家事と治療の両立」については「相談窓口の情報が不足している」、

：「治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなど」・「治療中・治療後の症状や日常生活」・「外見の変化」・「精神的な悩み」については

「悩みに関する知識や情報が不足している」、

が多かった。

全体(N=22) 件数表		頻度						平均
		多い (5)	やや多い (4)	普通 (3)	やや少ない (2)	少ない (1)	不明	
1	療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方などの悩み	12	3	5	1	1	0	4.1
2	通院治療や在宅療養についての悩み	12	3	5	1	1	0	4.1
3	仕事と治療の両立や経済的なことに関する悩み(治療費や生活費など)	6	3	9	3	0	1	3.6
4	精神的な悩み(再発の不安や漠然とした不安、孤独感など)	11	1	4	1	5	0	3.5
5	治療中・治療後の症状や、日常生活(食事や運動、入浴、趣味など)についての悩み	8	2	5	1	4	2	3.5
6	治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなどについての悩み	8	1	5	3	4	1	3.3
7	子育てや家事と治療の両立についての悩み	1	0	6	4	9	2	2.0
8	外見の変化についての悩み	1	0	5	3	12	1	1.8
9	その他(n=4)	1	0	0	0	3	0	2.0
平均(その他除く)		7.4	1.6	5.5	2.1	4.5	0.9	3.2

課題				
悩みに 関係する 情報が 不足して いる 知識や 情報	相談 窓口の 情報が 不足して いる	関係 機関と の連携	課題 はない	不明
3	2	8	6	3
4	5	8	6	3
5	7	4	5	4
9	5	3	4	3
11	2	5	4	2
8	1	7	4	2
4	8	4	6	2
8	5	5	4	2
0	1	1	1	1

一番多い
二番目に多い

※平均・・・頻度の回答を
「多い」5点、「やや多い」4点、「普通」3点、「やや少ない」2点、「少ない」1点
と点数化した時の平均点

- ・がん拠点病院では、頻度が「多い」悩みは、「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」、「通院治療や在宅療養」、「精神的な悩み」の順となっている。
- ・悩み相談全体の頻度としては平均点 3.5 と「普通(3点)」と「やや多い(4点)」の間の頻度であった。

・悩みに対する課題として、

：「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」・「通院治療や在宅療養」・「外見の変化」については「関係機関との連携」、

：「精神的な悩み」については

「悩みに関する知識や情報が不足している」、「課題はない」

：「治療中・治療後の症状や日常生活」・「仕事と治療の両立や経済的なこと」については、

「悩みに関する知識や情報が不足している」、

：「治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなど」については、

「悩みに関する知識や情報が不足している」・「関係機関との連携」、

：「子育てや家事と治療の両立」については

「相談窓口の情報が不足している」、

が多かった。

		頻度						平均
		多い (5)	やや多い (4)	普通 (3)	やや少ない (2)	少ない (1)	不明	
がん拠点病院(n=11) 件数表								
1	療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方などの悩み	7	2	1	0	1	0	4.3
2	通院治療や在宅療養についての悩み	6	2	3	0	0	0	4.3
3	精神的な悩み(再発の不安や漠然とした不安、孤独感など)	7	1	2	0	1	0	4.2
4	治療中・治療後の症状や、日常生活(食事や運動、入浴、趣味など)についての悩み	6	2	2	0	1	0	4.1
5	治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなどについての悩み	6	1	3	0	1	0	4.0
6	仕事と治療の両立や経済的なことに関する悩み(治療費や生活費など)	3	3	4	1	0	0	3.7
7	子育てや家事と治療の両立についての悩み	0	0	5	1	5	0	2.0
8	外見の変化についての悩み	0	0	4	1	6	0	1.8
9	その他(n=1)	0	0	0	0	1	0	1.0
平均(その他除く)		4.4	1.4	3.0	0.4	1.9	0.0	3.5

課題				
不明	課題はない	関係機関との連携	相談窓口の情報が不足している	悩みに関する知識や情報が不足している
2	3	5	0	1
2	3	4	1	1
2	3	2	2	3
2	1	3	0	6
2	1	4	0	4
3	1	2	2	3
2	3	3	4	0
1	1	4	3	3
0	0	1	0	0

一番多い
二番目に多い

※平均・・・頻度の回答を
「多い」5点、「やや多い」4点、「普通」3点、「やや少ない」2点、「少ない」1点
と点数化した時の平均点

- ・一般病院では、頻度が「多い」悩みは、「通院治療や在宅療養」、「療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方」、「仕事と治療の両立や経済的なこと」の順であった。
- ・悩み相談全体の頻度としては平均点 2.9 と「普通(3点)」を下回っており、がん拠点病院と比較すると相談頻度は少なかった。
- ・悩みに対する課題として、
 - ：「通院治療や在宅療養」については
「相談窓口の情報が不足している」、「関係機関との連携」
 - ：「治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなど」「治療中・治療後の症状や日常生活」・「外見の変化」、「精神的な悩み」については、
「悩みに関する知識や情報が不足している」、
 - ：「仕事と治療の両立や経済的なこと」については、
「相談窓口の情報が不足している」、
 - ：「子育てや家事と治療の両立」については
「悩みに関する知識や情報が不足している」、「相談窓口の情報が不足している」、
が多かった。

一般病院(n=11)
件数表

		頻度						平均
		多い (5)	やや多い (4)	普通 (3)	やや少ない (2)	少ない (1)	不明	
1	通院治療や在宅療養についての悩み	6	1	2	1	1	0	3.9
2	療養先の選択や、介護保険サービス等の使い方などの悩み	5	1	4	1	0	0	3.9
3	仕事と治療の両立や経済的なことに関する悩み(治療費や生活費など)	3	0	5	2	0	1	3.4
4	精神的な悩み(再発の不安や漠然とした不安、孤独感など)	4	0	2	1	4	0	2.9
5	治療中・治療後の症状や、日常生活(食事や運動、入浴、趣味など)についての悩み	2	0	3	1	3	2	2.7
6	治療方法の選択や医療機関スタッフとのコミュニケーションなどについての悩み	2	0	2	3	3	1	2.5
7	子育てや家事と治療の両立についての悩み	1	0	1	3	4	2	2.0
8	外見の変化についての悩み	1	0	1	2	6	1	1.8
9	その他(n=3)	1	0	0	0	2	0	2.3
平均(その他除く)		3.0	0.3	2.5	1.8	2.6	0.9	2.9

課題				
不明	課題はない	関係機関との連携	相談窓口の情報が不足している	悩みに関する知識や情報が不足している
1	3	4	4	3
1	3	3	2	2
1	4	2	5	2
1	1	1	3	6
0	3	2	2	5
0	3	3	1	4
0	3	1	4	4
1	3	1	2	5
1	1	0	1	0

2:患者会やサロンの開催

問2 がん患者の患者会やサロンの実施状況についてお尋ねします

(1) 病院において、がん患者の患者会やサロンを実施していますか

- ・病院におけるがん患者の患者会やサロンの実施状況について、全体では22件中14件が実施しており、そのうち11件の病院が主体的に企画、運営している。
- ・がん拠点病院では、11件全てが患者会やサロンを実施しており、そのうち10件の病院が主体的に企画、運営しているのに対し、一般病院では、実施しているのは11件中3件にとどまる。
- ・実施頻度としては、「月に1回」が6件で最も多い。

件数表	調査数	実施していない	実施している		
		実施していない (把握していない)	場所を貸しているのみ	病院が主催している が、企画、運営は参加 者が行っている	病院が主体的に企画、 運営している
全体	22	8	1	2	11
がん拠点病院	11	0	0	1	10
一般病院	11	8	1	1	1

頻度	3.4ヶ月に1回 1件		3ヶ月に1回 1件 不明 1件		月2回 1件 月1回 6件 2ヶ月に1回 2件 3ヶ月に1回 1件 不明 1件	

(2)（実施している場合）どのようながん種について実施していますか

- ・がん患者の患者会やサロンを、がん種別に実施しているのは全体では14件中5件であった。
- ・がん拠点病院では、がん種別に実施しているのは11件中2件で、一般病院では3件全てがん種別に実施している。
- ・がん種別の内容は、乳房が5件と最も多く、次いで大腸（3件）、胃・甲状腺（各1件）であった。

件数表	調査数	がん種別には実施していない	わからない（把握していない）	がん種別を実施している
全体	14	9	0	5
がん拠点病院	11	9	0	2
一般病院	3	0	0	3



		がん種別				
		調査数	胃	大腸	乳房	甲状腺
拠点病院	合計	5	1	3	5	1
	がん拠点病院	2	1	1	2	0
	一般病院	3	0	2	3	1

3:ピアサポートについて

(1) ピアサポートの実施

問3 がんの「ピアサポート」について

(1) 病院において、がんの「ピアサポート」を実施していますか

- ・病院における「ピアサポート」の実施状況は、全体では22件中8件と半数以下であった。
- ・がん拠点病院では11件中7件が「ピアサポート」を実施しているのに対し、一般病院では、11件中1件の実施にとどまる。

件数表	調査数	実施している	実施していない	わからない
全体	22	 8	 13	 1
がん拠点病院	11	 7	 4	 0
一般病院	11	 1	 9	 1

(2) ピアサポートの必要性

(2) 病院における、がんの「ピアサポート」が必要だと思いますか

- ・病院における「ピアサポート」の必要性について、全体では22件中18件が「必要」としており、「不必要」とする回答は見られなかった。

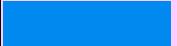
件数表	調査数	必要		不必要		わからない
		必要である	どちらかと言えば必要である	あまり必要ではない	必要ではない	
全体	22	 12	 6	 0	 0	 4
がん拠点病院	11	 8	 2	 0	 0	 1
一般病院	11	 4	 4	 0	 0	 3

4: 名古屋市のがん対策について

(1) がん患者支援に関する名古屋市への期待

問4 がん患者の支援に関して、名古屋市に対して、どのようなことを期待しますか

- ・がん患者の支援に関して名古屋市に対して期待することとして、全体では「仕事と治療の両立を支援」が22件中17件で最も多く、次いで「通院や在宅療養を支援」が15件、「緩和ケアへの取り組みの充実」と「介護と治療の両立を支援」がそれぞれ14件の順となった。
- ・がん拠点病院では、「仕事と治療の両立を支援」が11件中9件で最も多く、次いで多いのは「緩和ケアへの取り組みの充実」と「通院や在宅療養を支援」でそれぞれ7件であった。
- ・一般病院では、「がん患者の方の家族を支援」が11件中9件で最も多く、次いで多いのは「がん治療や医療機関に関する相談体制や情報提供」、「通院や在宅療養を支援」、「仕事と治療の両立を支援」、「介護と治療の両立を支援」でそれぞれ8件であった。

件数表	全体(N=22)	がん拠点病院(n=11)	一般病院(n=11)
仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実	 17	 9	 8
通院や在宅療養を支援する取り組みの充実	 15	 7	 8
緩和ケアへの取り組みの充実	 14	 7	 7
介護と治療の両立を支援する取り組みの充実	 14	 6	 8
がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実	 13	 4	 9
がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実	 11	 3	 8
子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実	 11	 4	 7
がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進	 11	 6	 5
精神的悩みや不安に関する支援の充実	 10	 5	 5
家事と治療の両立を支援する取り組みの充実	 7	 1	 6
その他	 3	 2	 1

一番多い

二番目に多い

Ⅲ：付録

（調査票・名古屋市がん対策推進条例）

調査票

平成28年6月

名古屋市から 「がんに関する市民アンケート」のお願い

名古屋市健康福祉局健康部
健康増進課

名古屋市では、平成24年3月にがん対策推進条例を制定し、がんの予防やがん検診のほか、がん罹患された方々の支援などの取り組みを進めているところです。

このたび、取り組みをさらに推進していくことを目的として、「がんに関するアンケート」を実施することといたしました。

このアンケートは、市内にお住まいの20歳以上の方から無作為にお選びした8,000人の市民の方を対象に実施するもので、そのお一人として、あなたにアンケートへの回答をお願いすることとなったものです。

つきましては、ぜひ、アンケートにご回答の上、ご返送いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

アンケートについて

- 封筒のあて名のご本人がご記入ください。
- お答えは、当てはまる番号を○で囲んでいただくものです。
- ご記入いただきましたアンケート用紙は、6月30日（木）までに、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。
- 封筒・アンケートとも無記名で結構です。
（プライバシーが漏れることはありません）
- アンケートは、この目的以外には使用いたしません。

名古屋市では、がん対策推進条例にもとづき、様々な取り組みを進めています。
詳細は、名古屋市公式ウェブサイトで、「**がん検診等のがん対策**」のページをご覧ください。

このアンケートに関するお問い合わせは
名古屋市健康福祉局健康部 健康増進課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話（052）972-2637 Fax（052）972-4152

【1】あなたの基本情報

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1 男

問2 あなたの生年月を教えてください。

昭和 平成 年 月 生まれ

問3 あなたのお住まいの区を教えてください。

1	千種区	5	中村区	9	熱田区	13	守山区
2	東区	6	中区	10	中川区	14	緑区
3	北区	7	昭和区	11	港区	15	名東区
4	西区	8	瑞穂区	12	南区	16	天白区

問4 あなたの就労状況を教えてください。(○は1つ)

- 1 企業等で雇用されている（パートやアルバイトを含む）
- 2 個人事業主（自営業）として働いている
- 3 専業主婦（夫）
- 4 働いていない
- 5 その他（ ）

【2】 がんについて

問5 がんについて知っていることを教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 日本では、およそ 2 人に 1 人が生涯にがんにかかる。
- 2 日本では 30 年以上、死亡原因の第 1 位ががんであり、死亡者数のうち、およそ 3 人に 1 人ががんによる死亡である。
- 3 医療技術の進歩により、以前より生存率が高くなっている。
- 4 がんは、食事、運動、飲酒などの生活習慣と深い関わりがある。
- 5 たばこは、肺がんや喉頭がんのほか、多くのがんと関わりがある。
- 6 ピロリ菌は胃がんの主な原因であり、中高年以上の世代で感染が多い。
- 7 子宮頸がんは 20 代～30 代の若い世代で多く、主な原因はヒトパピローマウィルスである。
- 8 肝がんの主な原因は肝炎ウィルスであり、予防するためには肝炎ウィルス検査が有効である。

【３】がんの予防について

問6 がんの予防のために日頃心がけていることはありますか？

- 1** ある **2** ない

→ (ある場合、それはどのようなことですか) (○はいくつでも)

- 1 タバコを吸わない、あるいは喫煙者の煙を避けるようにしている。
- 2 お酒を飲みすぎないようにしている。
- 3 バランスのよい食事を心がけている。
- 4 塩分を摂り過ぎないようにしている。
- 5 野菜や果物を多めに摂っている。
- 6 適度な運動をしている。
- 7 太りすぎ、やせすぎに注意している。
- 8 その他 ()

問7 がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるために、何歳ごろから啓発すべきだと思いますか？（○は1つ）

- 1 就学前から
- 2 小学生のうちから
- 3 中学生のうちから
- 4 中学校を卒業してから
- 5 成人してから
- 6 わからない
- 7 その他 ()

【４】がん検診について

問8 がん検診について知っていることを教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 がんを早期発見するためには、がん検診を定期的に受けることが有効である。
- 2 名古屋市では、職場等で受診する機会のない市民を対象として、6 種類（胃、大腸、肺、子宮、乳、前立腺）のがん検診をワンコイン（各 500 円）で実施している。
- 3 名古屋市では平成 28 年 10 月から、職場等で受診する機会のない市民を対象として、胃がん検診（内視鏡検査）を、ワンコイン（各 500 円）で実施することとしている。
- 4 名古屋市では市内全世帯に、がんに関する知識やがん検診の内容、受診できる医療機関などを掲載した「がん検診ガイド」を配布している。
- 5 名古屋市では特定の年齢の市民を対象として、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポン券を配布している。

問9 あなたは今までに、がん検診を受けたことがありますか？

1 受けたことがある **2** 受けたことがない → 問 12 へ

→ (受けたことがある場合、受けたがん検診と受診間隔を教えてください。)

受けたがん検診に○	受診間隔（受けたがん検診で該当するものに○）
1 胃がん検診 （エックス線）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
2 胃がん検診 （内視鏡）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
3 大腸がん検診 （便潜血）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
4 大腸がん検診 （内視鏡）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
5 肺がん検診 （エックス線）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
6 子宮がん検診	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
7 乳がん検診 （マンモグラフィ）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
8 乳がん検診 （エコー）	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
9 前立腺がん検診	1 1年に1回受ける 2 2年に1回受ける 3 3～5年に1回受ける 4 定期的には受けない
10 その他のがん検診を受けている場合は、その種類を記載してください。	過去5年以内に受けたがん検診の種類 （ ）

問10 あなたは昨年度(平成27年4月～平成28年3月)にがん検診を受けましたか？

1 受けた **2 受けなかった**

→（受けた場合、受けたがん検診と種類を教えてください。）

昨年度に受けたがん検診に○	種類（昨年度に受けたがん検診で該当するものに○）
1 胃がん検診 （エックス線）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
2 胃がん検診 （内視鏡）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
3 大腸がん検診 （便潜血）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
4 大腸がん検診 （内視鏡）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
5 肺がん検診 （エックス線）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
6 子宮がん 検診	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
7 乳がん検診 （マンモグラフィ）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
8 乳がん検診 （エコー）	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
9 前立腺がん検診	1 本人や家族の勤務先が提供しているがん検診や人間ドック 2 名古屋市のがん検診 3 自分で（自費で）医療機関で受けたがん検診や人間ドック
10 その他のがん検診を受けた場合は、その種類を記載してください。	昨年度に受けたがん検診の種類 （ ）

問11 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。（○はいくつでも）

- 1 自身の健康管理のため
- 2 名古屋市のがん検診ガイドを見たから
- 3 名古屋市のがん検診がワンコイン（各500円）だから
- 4 無料クーポン券が届いたから
- 5 広報なごややポスター、ちらし、案内のはがきなどを見たから
- 6 近くに受けられるところ（医療機関や検診車による巡回など）があったから
- 7 知人や家族から勧められたから
- 8 医療機関から勧められたから
- 9 会社から案内があったから
- 10 有名人ががんになって自分も不安になったから
- 11 家族や身近な人ががんになって自分も不安になったから
- 12 テレビやラジオでがんに関する番組を見た（聞いた）から
- 13 新聞や雑誌で、がんに関する記事を見たから
- 14 インターネットでがんに関する記事を見たから
- 15 その他（ ）

問12 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。（○は3つまで）

- 1 忙しくて時間がないから
- 2 費用がかかるから
- 3 今は健康に不安がなく自信があるから
- 4 がんとわかるのが不安だから
- 5 面倒だから
- 6 検査が身体的に負担だから
- 7 通院しているから
- 8 心配なときはいつでも医療機関で受診できるから
- 9 精密検査が必要といわれても結局がんでないことが多いから
- 10 医療機関が遠いから
- 11 受診場所や受診方法がわからないから
- 12 がん検診のことをよく知らないから
- 13 その他（ ）

【5】がん医療について

問13 「がん診療拠点病院」には、がんについての様々な相談に応じるための「相談支援センター」があり、その病院に通院などをしていなくても、どなたでも無料で相談できることを、あなたは知っていますか？（○は1つ）

1 知っている

2 なんとなく知っている

3 知らない

「がん診療連携拠点病院」とは・・・

がんに関する診療体制、研修体制、情報提供・相談体制、がん医療の内容、診療実績、設備などについて、国が定めた基準を満たしている病院で、都道府県による推薦に基づき、厚生労働大臣が指定します。名古屋市内には次の7つがあります。（平成28年4月1日現在）

- 愛知県がんセンター中央病院
- 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
- 名古屋大学医学部附属病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院
- 名古屋市立大学病院
- 名古屋第一赤十字病院
- 名古屋第二赤十字病院

「がん診療拠点病院」とは・・・

厚生労働大臣指定の要件に準ずる病院で、愛知県知事が指定します。
名古屋市内には次の4つがあります。

- 名古屋掖済会病院
- 名古屋記念病院
- 独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院
- 名古屋市立西部医療センター

【6】 がん患者の支援について

問14 あなたは、がんや、がんの治療について、どのような情報が必要だと思いますか？
（○は3つまで）

- 1 がんの予防に関する情報
- 2 がん検診に関する情報
- 3 病院や医師に関する情報
- 4 セカンドオピニオンの受け方に関する情報
- 5 治療法や新薬に関する情報
- 6 抗がん剤や副作用への対処方法についての情報
- 7 治療費に関する情報
- 8 通院や療養生活の支援サービスに関する情報
- 9 精神的なサポートに関する情報
- 10 患者会や支援団体に関する情報
- 11 がん全般についての相談窓口に関する情報
- 12 その他（ ）

問15 あなたは、がんの「ピアサポート」を知っていますか？（○は1つ）

- 1 知っている
- 2 言葉だけは知っている
- 3 知らない

問16 あなたは、がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？
（○は1つ）

- 1 知っている
- 2 名前だけは知っている
- 3 知らない

がんの「ピアサポート」とは・・・

がん治療体験者やその家族など、がん患者と同じような経験を持つ者による支援のことです。名古屋市では、がんに関する様々な情報提供を行うとともに、患者さん同士の交流の場として、がん相談・情報サロン「ピアネット」を設置しています。がんの体験者や家族で、養成講座を修了した「ピアサポーター」が、がんに関する相談に応じるとともに、患者会の開催なども行っています。

【7】 緩和ケアについて

問17 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？（○は1つ）

- 1** 知っている **2** なんとなく知っている **3** 知らない

【８】 がんに関する施策全般について

問18 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。
(〇は3つまで)

- 1 食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発
- 2 子どもの頃からのがん学習（がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習）の充実
- 3 喫煙対策の充実
- 4 がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実
- 5 がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実
- 6 緩和ケアの取り組みの充実
- 7 精神的な悩みや不安に関する支援の充実
- 8 通院や在宅療養を支援する取り組みの充実
- 9 仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 10 子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実
- 11 介護と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 12 家事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 13 がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実
- 14 がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進
- 15 その他（ ）

問19 あなたの状況を教えてください。

1 がんの経験者ではない

2 がんの経験者である

└→（がんの経験者ではない場合、身近にがんの経験者がありますか？）（○は1つ）

1 がんの経験者の同居の家族である

2 がんの経験者が身近にいる

3 がんの経験者が身近にいない

問20 その他、ご意見、ご要望等がありましたら、記入してください。

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒（切手不要）にて返送をお願いします。

平成28年6月

名古屋市から 「がんに関するアンケート」のお願い

名古屋市健康福祉局健康部
健康増進課

日頃は、名古屋市の健康福祉行政にご協力いただきありがとうございます。

名古屋市では、平成24年3月にがん対策推進条例を制定し、がんの予防やがん検診のほか、がん罹患された方々の支援などの取り組みを進めているところです。

このたび、取り組みをさらに推進していくことを目的として、「がんに関するアンケート」を実施することといたしました。

このアンケートは、市内に事業所のある企業から無作為にお選びした1,000社を対象に実施するもので、そのひとつとして、御社にアンケートへの回答をお願いすることとなったものです。

つきましては、ぜひ、アンケートにご回答の上、ご返送いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

アンケートについて

- お答えは、当てはまる番号を○で囲んでいただくものです。
- ご記入いただきましたアンケート用紙は、6月30日（木）までに、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。
- 封筒・アンケートとも無記名で結構です。
（プライバシーが漏れることはありません）
- アンケートは、この目的以外には使用いたしません。

名古屋市では、がん対策推進条例にもとづき、様々な取り組みを進めています。
詳細は、名古屋市公式ウェブサイトで、「**がん検診等のがん対策**」のページをご覧ください。

このアンケートに関するお問い合わせは
名古屋市健康福祉局健康部 健康増進課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話（052）972-2637 Fax（052）972-4152

【1】御社の基本情報

問1 御社の業種を教えてください。（○は1つ）

- 1 製造業
- 2 建設業
- 3 卸売業、小売業
- 4 運輸業、郵便業
- 5 金融業、保険業
- 6 学術研究、専門技術サービス業
- 7 宿泊業、飲食サービス業
- 8 その他のサービス業
- 9 教育、教育支援業
- 10 電気、ガス、熱供給、水道業
- 11 情報通信業
- 12 医療、福祉
- 13 その他（ ）

問2 御社の従業員数を教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 19名以下 | 2 20～49名 | 3 50～99名 |
| 4 100～299名 | 5 300～999名 | 6 1,000名以上 |

問3 御社の従業員の構成を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- 1 正社員
- 2 契約社員・嘱託
- 3 パート・アルバイト
- 4 派遣社員

問4 御社が加入する医療保険制度を教えてください。（○は1つ）

- 1 全国健康保険協会（協会けんぽ）
- 2 自社単独またはグループ会社で構成する健康保険組合
- 3 業種団体等で構成する健康保険組合や国保組合
- 4 共済組合
- 5 その他

【2】 がんの予防について

問5 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん予防の働きかけを行っていますか？

1 行っている

2 行っていない

└→（行っている場合、それはどのようなことですか）（○はいくつでも）

1 禁煙の働きかけを行っている

2 バランスのよい食事の働きかけを行っている

3 運動習慣の働きかけを行っている

4 休息・休養の働きかけを行っている

5 ストレス解消の働きかけを行っている

6 がんについてのパンフレットやポスターで啓発をしている

7 その他の働きかけを行っている（ ）

【3】 がん検診について

問6 事業所または医療保険者において、社員に対して、がん検診（自己負担の一部助成を含む）を実施していますか？

1 実施している

2 実施していない

3 わからない

└→（実施している場合、それはどのような検診ですか）（○はいくつでも）

1 胃がん検診（バリウム）

2 胃がん検診（内視鏡）

3 大腸がん検診（便潜血）

4 大腸がん検診（内視鏡）

5 肺がん検診（エックス線）

6 子宮がん検診

7 乳がん検診（マンモグラフィ）

8 乳がん検診（エコー）

9 前立腺がん検診

10 その他（ ）

問7 社員のがん検診受診状況を把握していますか？（○は1つ）

- 1 把握している
- 2 把握していない

問8 社員に対してがん検診の受診を働きかけていますか？

- 1** 働きかけている **2** 働きかけていない

→（働きかけている場合、それはどのようなことですか）（○はいくつでも）

- 1 勤務時間内に受診できるよう対応
- 2 がん検診の案内、周知
- 3 その他（ ）

【４】がんを含めた私傷病への対応について

問9 産業保健スタッフ（産業医を含む）の状況を教えてください。（○は1つ）

- 1 常勤の産業保健スタッフがいる
- 2 非常勤の産業保健スタッフがいる
- 3 外部の産業保健スタッフと連携している
- 4 産業保健スタッフと連携していない
- 5 わからない

問10 社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、労務管理上の社内での報告先や相談窓口はありますか？

- 1** ある **2** ない

→ (ある場合、それはどこですか) (○はいくつでも)

- 1 産業保健スタッフ
- 2 人事、労務担当部署
- 3 上司（管理職）
- 4 その他（ ）

問11 労働基準法に基づく有給休暇以外に、がんを含めた私傷病による休暇が取得できる制度はありますか？（○はそれぞれ1つ）

区 分	制度の有無	
正社員	1 ある	2 ない
契約社員・嘱託	1 ある	2 ない
パート・アルバイト	1 ある	2 ない

問12 勤続年数が10年以上の正社員が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

1 ある **2** ない

└→ （ある場合、その期間はどのくらいですか）（○は1つ）

- 1** 2年以上3年未満
- 2** 1年以上2年未満
- 3** 1ヶ月以上1年未満
- 4** 1ヶ月未満

問13 勤続年数が10年以上の正社員の家族が、がんを含めた私傷病に罹患した場合、取得可能な休暇・休職制度がありますか？

1 ある **2** ない

└→ （ある場合、その期間はどのくらいですか）（○は1つ）

- 1** 1年以上
- 2** 6ヶ月以上1年未満
- 3** 1ヶ月以上6ヶ月未満
- 4** 1ヶ月未満

問14 がんを含めた私傷病に罹患した社員に対して、仕事上の配慮をしていますか？

1 配慮をしている

2 配慮をしていない

└─→（配慮をしている場合、それはどのようなことですか）（○はいくつでも）

1 社員の病気への理解促進

2 プライバシーについての配慮

3 通院治療のしやすさへの配慮

4 業務量についての配慮

5 業務内容についての配慮

6 勤務時間についての配慮

7 勤務地についての配慮

8 所属部署についての配慮

9 その他（ ）

【5】がん患者の仕事と治療の両立について

問15 過去3年間に、がんと診断された社員がいましたか？（○は1つ）

1 いた

2 いない

3 わからない

問16 過去3年間に、がんと診断され、離職した社員がいましたか？（○は1つ）

1 いた

2 いない

3 わからない

問17 過去3年間のがん罹患者のうち、1ヶ月以上連続して休業、休職した社員がいましたか？（○は1つ）

1 いた

2 いない

3 わからない

問18 1ヶ月以上連続して休業、休職した社員の復職の状況を教えてください。
（最も多いと思われるもの1つに○）

1 復職する

2 復職後に退職する

3 復職することなく退職する

4 わからない

問19 仕事と治療の両立を実現するために課題となることは何だと考えますか？
(○はそれぞれ1つ)

＜コスト面の負担＞

- 1 休業中の賃金支給等の金銭的な補償が困難
- 2 休業中の代替要員の雇用にかかるコスト負担が大きい
- 3 長期間働けない社員の社会保険料の事業主負担が大きい
- 4 産業保健スタッフの雇用にかかるコスト負担が大きい
- 5 その他（ ）
- 6 特にない

＜人事管理上や情報把握の負担＞

- 1 休業中の代替要員の確保が困難
- 2 部署異動、適正配置など柔軟な勤務制度の整備が困難
- 3 管理職や他の社員の理解が得られにくい
- 4 治療の見通しや就業制限に関する情報の入手が困難
- 5 その他（ ）
- 6 特にない

【6】 がんに関する施策全般について

問20 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。
（○は3つまで）

- 1 食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発
- 2 子どもの頃からのがん学習（がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習）の充実
- 3 喫煙対策の充実
- 4 がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実
- 5 がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実
- 6 緩和ケアの取り組みの充実
- 7 精神的な悩みや不安に関する支援の充実
- 8 通院や在宅療養を支援する取り組みの充実
- 9 仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 10 子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実
- 11 介護と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 12 家事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 13 がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実
- 14 がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進
- 15 その他（ ）

問21 その他、ご意見、ご要望等がありましたら、記入してください。

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒にて返送をお願いします。

平成28年6月

名古屋市及び協会けんぽ愛知支部から 「がん検診に関するアンケート」のお願い

名古屋市健康福祉局健康部健康増進課
全国健康保険協会（協会けんぽ）愛知支部

日頃は、名古屋市及び協会けんぽの事業運営にご協力いただきありがとうございます。名古屋市では、がんによる死亡を減少させることを目的として、ワンコインがん検診の実施やがん検診無料クーポン券の配布のほか、協会けんぽ愛知支部とも連携しながら、がん検診の受診率向上に努めているところです。

このたび、がん検診の受診率向上のための資料とさせていただくため、協会けんぽ愛知支部にご加入の被扶養者の皆様に、がん検診などについての意識や現状をうかがうアンケートを実施することとなりました。

このアンケートは、協会けんぽ愛知支部に加入されている被扶養者の方から無作為にお選びした約3,000人を対象に実施するもので、そのお一人として、あなたにアンケートへの回答をお願いすることとなったものです。

つきましては、ぜひ、アンケートにご回答の上、ご返送いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

アンケートについて

- 封筒のあて名のご本人がご記入ください。
- お答えは、当てはまる番号を○で囲んでいただくものです。
- ご記入いただきましたアンケート用紙は、6月30日（木）までに、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。
- 封筒・アンケートとも無記名で結構です。
（プライバシーが漏れることはありません）
- アンケートは、この目的以外には使用いたしません。

名古屋市では、がん対策推進条例にもとづき、様々な取り組みを進めています。
詳細は、名古屋市公式ウェブサイトで、「**がん検診等のがん対策**」のページをご覧ください。

このアンケートに関するお問い合わせは
名古屋市健康福祉局健康部 健康増進課
電話（052）972-2637 Fax（052）972-4152
全国健康保険協会（協会けんぽ）愛知支部
電話（052）856-1490 Fax（052）856-1494

【1】あなたの基本情報

問1 あなたの性別を教えてください。（○は1つ）

1 男

2 女

問2 あなたの生年月を教えてください。

昭和 ・ 平成 _____ 年 _____ 月 生まれ

【2】がんについて

問3 がんについて知っていることを教えてください。（○はいくつでも）

- 1 日本では、およそ2人に1人が生涯にがんにかかる。
- 2 日本では30年以上、死亡原因の第1位ががんであり、死亡者数のうち、およそ3人に1人ががんによる死亡である。
- 3 医療技術の進歩により、以前より生存率が高くなっている。
- 4 がんは、食事、運動、飲酒などの生活習慣と深い関わりがある。
- 5 たばこは、肺がんや喉頭がんのほか、多くのがんに関わりがある。
- 6 ピロリ菌は胃がんの主な原因であり、中高年以上の世代で感染が多い。
- 7 子宮頸がんは20代～30代の若い世代で多く、主な原因はヒトパピローマウイルスである。
- 8 肝がんの主な原因は肝炎ウイルスであり、予防するためには肝炎ウイルス検査が有効である。

【３】がん検診について

問4 がん検診について知っていることを教えてください。(○はいくつでも)

- 1 がんを早期発見、早期治療するためには、がん検診を定期的に受けることが有効である。
- 2 名古屋市では、職場等で受診する機会のない市民を対象として、6 種類（胃、大腸、肺、子宮、乳、前立腺）のがん検診をワンコイン（各 500 円）で実施している。
- 3 協会けんぽにご加入の被扶養者で、名古屋市内にお住まいの方は、名古屋市のワンコインがん検診を受診できる。
- 4 名古屋市では平成 28 年 10 月から、職場等で受診する機会のない市民を対象として、胃がん検診（内視鏡検査）を、ワンコイン（各 500 円）で実施することとしている。
- 5 名古屋市では市内全世帯に、がんに関する知識やがん検診の内容、受診できる医療機関などを掲載した「がん検診ガイド」を配布している。
- 6 名古屋市では特定の年齢の市民を対象として、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診の無料クーポン券を配布している。

問5 あなたが昨年度（平成27年4月～平成28年3月）に受けたがん検診を教えてください。（昨年度に受けたがん検診に○）

- 1 胃がん検診（バリウム）
- 2 胃がん検診（内視鏡）
- 3 大腸がん検診（便潜血）
- 4 大腸がん検診（内視鏡）
- 5 肺がん検診（エックス線）
- 6 子宮がん検診
- 7 乳がん検診（マンモグラフィ）
- 8 乳がん検診（エコー）
- 9 前立腺がん検診
- 10 その他のがん検診（ ）
- 11 受けていない

問6 がん検診を受診したことがある方にお尋ねします。がん検診を受診したきっかけを教えてください。（○はいくつでも）

- 1 自身の健康管理のため
- 2 名古屋市のがん検診ガイドを見たから
- 3 名古屋市のがん検診がワンコイン（各500円）だから
- 4 無料クーポン券が届いたから
- 5 広報なごややポスター、ちらし、案内のはがきなどを見たから
- 6 近くに受けられるところ（医療機関や検診車による巡回など）があったから
- 7 知人や家族から勧められたから
- 8 医療機関から勧められたから
- 9 会社から案内があったから
- 10 有名人ががんになって自分も不安になったから
- 11 家族や身近な人ががんになって自分も不安になったから
- 12 テレビやラジオでがんに関する番組を見た（聞いた）から
- 13 新聞や雑誌で、がんに関する記事を見たから
- 14 インターネットでがんに関する記事を見たから
- 15 その他（ ）

問7 がん検診を受診したことがない方にお尋ねします。がん検診を受診しない理由を教えてください。（○は3つまで）

- 1 忙しくて時間がないから
- 2 費用がかかるから
- 3 今は健康に不安がなく自信があるから
- 4 がんとわかるのが不安だから
- 5 面倒だから
- 6 検査が身体的に負担だから
- 7 通院しているから
- 8 心配なときはいつでも医療機関で受診できるから
- 9 精密検査が必要といわれても結局がんでないことが多いから
- 10 医療機関が遠いから
- 11 受診場所や受診方法がわからないから
- 12 がん検診のことをよく知らないから
- 13 その他（ ）

問8 あなたは昨年度（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）に、特定健康診査を受けましたか？（○は 1 つ）

- 1 受けた 2 受けていない 3 今まで受けたことが一度もない

問9 昨年度に特定健康診査を受けた方にお尋ねします。
特定健康診査と同時にがん検診を受けましたか？

1 受けた

2 受けていない

└→（受けた場合、それはどのようながん検診ですか）（○はいくつでも）

- 1 胃がん検診（バリウム）
- 2 胃がん検診（内視鏡）
- 3 大腸がん検診（便潜血）
- 4 大腸がん検診（内視鏡）
- 5 子宮がん検診
- 6 乳がん検診（マンモグラフィ）
- 7 乳がん検診（エコー）
- 8 前立腺がん検診
- 9 その他のがん検診（ ）

問10 特定健康診査を受診したことがない方にお尋ねします。特定健康診査を受診しない理由を教えてください。（○は3つまで）

- 1 忙しくて時間がないから
- 2 費用がかかるから
- 3 今は健康に不安がなく自信があるから
- 4 病気がわかるのが不安だから
- 5 面倒だから
- 6 検査が身体的に負担だから
- 7 通院しているから
- 8 心配なときはいつでも医療機関で受診できるから
- 9 医療機関が遠いから
- 10 受診場所や受診方法がわからないから
- 11 特定健康診査のことをよく知らないから
- 12 その他（ ）

問11 「特定保健指導」がどのようなものか知っていますか。（○は1つ）

1 知っている

2 知らない

「特定健康診査・特定保健指導」とは・・・

「特定健康診査」は、生活習慣病や、その前兆であるメタボリックシンドロームを早期に発見し、改善するための健診です。

40歳～74歳の方を対象として、身体計測や血圧測定、血液検査、尿検査等を行います。

「特定保健指導」は、特定健康診査の結果により、メタボリックシンドロームのリスクがあることが分かった方を対象として、保健師などの専門家が食事等の生活習慣について指導を行うものです。

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒にて返送をお願いします。

平成28年7月

名古屋市「がん対策に関するアンケート」ご協力をお願い

名古屋市健康福祉局健康部健康増進課

名古屋市では、平成24年3月にがん対策推進条例を制定し、がんの予防やがん検診のほか、がん罹患された方々の支援などの取り組みを進めているところです。

このたび、取り組みをさらに推進していくことを目的として、「がん対策に関するアンケート」を実施することといたしました。このアンケートは、愛知県がんセンター中央病院に通院されている方を対象に実施するもので、そのお一人として、アンケートへのご回答をお願いするものです。アンケートにご回答の上、ご返送いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

■回答方法

- ◎同封のアンケートをご覧くださいまして、ご回答をお願いいたします。
- ◎本日、受診の待ち時間など、お時間のある時にご記入ください。
- ◎ご記入いただいたアンケートは、お手数ですが、ロビーにいる調査員に手渡すか、返信用の封筒に入れて返信してください。（切手は不要です。）

■お約束ごとについて

- ◎ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、個人情報として取り扱うことはなく、個人が特定されることはありません。
- ◎アンケートへの協力は任意です。できるだけすべての質問にお答えいただければ幸いです。答えにくい質問はお答えいただかなくても構いません。そのことで診療や看護等に不利益が生じることはありません。
- ◎ご回答いただいた内容や調査結果が、調査の目的以外のために使用されることは一切ありません。
- ◎調査結果は、名古屋市が主催する有識者懇談会において、がん対策の今後のあり方について検討するための基礎資料とするとともに、名古屋市の広報媒体等での公表を予定しています。なお、公表の際にはプライバシー保護は徹底いたします。
- ◎アンケートの回収、返信をもって、調査に同意いただけたものとさせていただきます。
- ◎無記名のアンケート調査のため、一度回収された後はご回答の撤回ができません。
- ◎この調査は、ご協力をお願いする皆様の不利益にならないこと、目的や方法が妥当なものであることなどが確認され、愛知県がんセンター中央病院倫理審査委員会の承認を受けています。

【このアンケートに関するお問い合わせ先】

名古屋市健康福祉局健康部 健康増進課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話（052）972-2637 FAX（052）972-4152

【1】あなたの基本情報について

問1 あなたの性別を教えてください。（○は1つ）

1 男性

2 女性

問2 あなたのお住まいを教えてください。（○は1つ）

1 名古屋市内

2 名古屋市外（ ）

問3 あなたの生年月を教えてください。

昭和 ・ 平成 _____年 _____月 生まれ 現在（ ）歳

問4 あなたは、がんと診断されていますか？（○は1つ）

1 はい

└─> 次のページにお進みください。

2 いいえ

└─> 最終ページ 問 **32** にお進みください。

問5 診断されたがんの種類（原発巣）を教えてください。

- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|----------------------------|
| 1 胃 | 2 大腸 | 3 肺 | 4 子宮 |
| 5 乳房 | 6 前立腺 | 7 肝臓 | 8 その他（ ） |

問6 最初にがんと診断された時の年齢を教えてください。

（ ）歳のとき

問7 診断されたときの進行度（ステージ）を教えてください。

複数回かかったときは、直近のがんについて教えてください。（○は1つ）

- | | | | | | |
|-------------|-------------|--------------|---------------|--------------|----------------|
| 1 0期 | 2 I期 | 3 II期 | 4 III期 | 5 IV期 | 6 わからない |
|-------------|-------------|--------------|---------------|--------------|----------------|

問8 がんと診断されたときの世帯の状況を教えてください。

区 分	<u>がんと診断されたときの状況</u> (○はそれぞれ1つ)
世帯の状況	1 一人暮らし 2 夫婦のみ 3 その他
配偶者がいた場合、 配偶者の年代	1 64 歳以下 2 65～74 歳 3 75 歳以上
中学生までの子どもが いた場合、子どもの年代	1 0 歳～2 歳 () 人 2 3 歳～就学前 () 人 3 小学生・中学生 () 人
介護や介助を必要とする、 高齢者や障害者・児等の 家族の有無	1 介護や介助を必要とする <u>同居</u> の家族がいた 2 介護や介助を必要とする <u>別居</u> の家族がいた 3 介護や介助を必要とする家族はいなかった
介護や介助を必要とする 家族がいた場合、 要介護者（要介助者）を主に 介護（介助）していたのは 誰ですか	1 自分（がん患者本人） 2 自分以外の家族

【２】がん医療・がん患者の支援について

問9 現在の状況を教えてください。(○は1つ)

- 1 治療前
- 2 治療継続中
- 3 治療は終了し、定期的な検査のために通院中
- 4 治療は終了し、検査も受けていない
- 5 その他（ ）

問10 がんについて、現在、悩みがありますか？

- 1** ある **2** ない

→ (ある場合、それはどのような悩みですか) (○は3つまで)

- 1 セカンドオピニオンを受けるかどうか
- 2 治療方法の選択
- 3 治療中や治療後の症状（副作用や後遺症、痛みなど）
- 4 外見の悩み
- 5 療養先の選択（住まいや施設の選択など）
- 6 主治医や医療機関スタッフとのコミュニケーション
- 7 経済的な悩み（治療費や生活費など）
- 8 仕事についての悩み（仕事への影響など）
- 9 家事についての悩み（買出し、炊事、洗濯、掃除など）
- 10 子育てについての悩み
- 11 子どもにがんのことを理解してもらうことについての悩み
- 12 日常生活の悩み（食事や運動、入浴、趣味など）
- 13 精神的な悩み（再発の不安や孤独感など）
- 14 その他（ ）

問11 がんと診断されたとき、がんや、がんの治療などに関する様々な疑問や不安について、相談できる人がいましたか？

2 いなかった

↳ (いた場合、それはどのような人ですか) (〇はいくつでも)

- 1 がんの主治医
- 2 かかりつけの医師
- 3 看護師や薬剤師等の医療スタッフ
- 4 医療機関の相談員
- 5 患者会やピアサポーター
- 6 家族や友人
- 7 その他（ ）

問12 がんやがんの治療について必要な情報が得られていると思いますか？
(〇は1つ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 思わない

問13 あなたは、がんや、がんの治療について、特にどのような情報が必要だと思いますか？（○は3つまで）

- 1 がんの予防に関する情報
- 2 がん検診に関する情報
- 3 病院や医師に関する情報
- 4 セカンドオピニオンの受け方に関する情報
- 5 治療法や新薬に関する情報
- 6 治療費に関する情報
- 7 抗がん剤や副作用への対処方法についての情報
- 8 通院や療養生活の支援サービスに関する情報
- 9 精神的なサポートに関する情報
- 10 患者会や支援団体に関する情報
- 11 がん全般についての相談窓口に関する情報
- 12 その他（ ）

問14 がんの「ピアサポート」を知っていますか？（○は1つ）

- 1 知っている 2 言葉だけは知っている 3 知らない

問15 がん相談・情報サロン「ピアネット」を知っていますか？（○は1つ）

- 1 知っている 2 名前だけは知っている 3 知らない

がんの「ピアサポート」とは・・・

がん治療体験者やその家族など、がん患者と同じような経験を持つ者による支援のことです。名古屋市では、がんに関する様々な情報提供を行うとともに、患者さん同士の交流の場として、がん相談・情報サロン「ピアネット」を設置しています。がんの体験者や家族で、養成講座を修了した「ピアサポーター」が、がんに関する相談に応じるとともに、患者会の開催なども行っています。

【3】 口腔ケアについて

問16 がん医療における「口腔ケア」の必要性について、知っていますか？（○は1つ）

- 1 知っている 2 言葉だけは知っている 3 知らない

問17 がん医療において、「口腔ケア」を受けていますか（受けましたか）？（○は1つ）

- 1 受けた 2 受けていない

問18 がん治療において、お口の事で、困ることがありますか（ありましたか）？

- 1 ある** **2 ない**

↳ (ある場合、それはどのようなことですか) (○はいくつでも)

- 1** 口内炎
- 2** 口腔乾燥
- 3** 口腔カンジダ症
- 4** 咀嚼困難
- 5** 嚥下障害
- 6** 味覚障害
- 7** 口臭・口腔内不衛生
- 8** 口腔内の出血や痛み
- 9** 会話困難
- 10** むし歯や歯周病
- 11** 義歯の悩み
- 12** 居宅における歯科治療（在宅歯科医療）
- 13** その他（

がん医療における口腔ケアの目的とは・・・

- ・お口の痛みなどの悪化を軽減し、食事を摂取できるようにします。
- ・お口の中の細菌の繁殖を少なくし、肺炎などの二次感染を防止します。
- ・唾液の分泌を促し、お口の自浄作用を促進します。
- ・お口の中の菌垢を取り除き、むし歯や歯周病を予防し、進行を抑えます。
- ・お口の中の不快感を少なくして、食欲亢進を図ります。
- ・口臭を防ぎ、周囲に不快感を与えないようにすることで、人間関係を良好に保ちます。

【４】緩和ケアについて

問19 あなたは、がん医療の「緩和ケア」が、身体の痛みだけでなく、心も含めた様々なつらさを和らげるケアであり、がんと診断されたときから実施されるべきものであることを知っていますか？（○は1つ）

- 1** 知っている **2** なんとなく知っている **3** 知らない

【5】通院治療や在宅療養について

問20 治療の際に、困ることがありますか（ありましたか）？

- 1** ある **2** ない

→ (ある場合、それはどのようなことですか) (○は3つまで)

- 1 通院するとき、交通手段や付き添いが無い
- 2 通院治療のための準備や体調管理、スケジュール調整等が難しい
- 3 仕事と治療を両立させることが難しい
- 4 子育てと治療を両立させることが難しい
- 5 家族の介護と治療を両立させることが難しい
- 6 家事と治療を両立させることが難しい
- 7 日常生活の悩み（食事や運動、入浴、趣味など）
- 8 在宅での療養の継続が難しい（サービスが無いなど）
- 9 在宅での療養について、相談できるところがない
- 10 その他（ ）

【6】仕事と治療の両立について

※複数回、がんにかかった方は、最初に診断されたときのことを記載してください。

問21 がんと診断されたとき、働いていましたか？（○は1つ）

- 1** 企業等で雇用されていた（パートやアルバイトを含む）（⇒問 22 へ）
2 個人事業主（自営業）として働いていた（⇒問 22 へ）
3 専業主婦（夫）
4 働いていなかった
5 その他（ ）
- （⇒問 30 へ）

問22 問21で、1 または 2 と回答された方にお尋ねします。
 がんが診断された後の状況について教えてください。(〇は1つ)

- 1** がんにかかる前と同じところで継続して働いている（働いていた）
2 一時休職して、職場復帰した（復帰予定を含む）
3 仕事が継続できず、転職した
4 仕事が継続できず、働いていない（働かなくなった）
- } (⇒問24へ)

問23 問22で、3 または 4 と回答された方にお尋ねします。
仕事を継続しなかった理由を教えてください。(〇はいくつでも)

- 1 治療、療養に専念するため
- 2 体力面から継続困難だったため
- 3 利用できる休暇休職制度がなかったため
- 4 職場に迷惑をかけたくないため
- 5 主治医等の医療従事者から勧められたため
- 6 職場から促されたため
- 7 家族から勧められたため
- 8 職場に居づらくなったため
- 9 他にやりたいことがあったため
- 10 その他（

問24 がんに罹患した後、収入は減りましたか？（○は1つ）

1 減った

2 変わらない

3 増えた

問25 がんに罹患した後、仕事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

1 あった

2 なかった

└→（あった場合、それはどのようなところですか）
（相談できる（できた）制度や窓口すべてに○）

1 勤務先の相談窓口（上司・人事担当者含む）

2 勤務先の産業保健スタッフ

3 医療機関の相談員

4 主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ

5 患者会など

6 ハローワーク

7 社会保険労務士

8 行政の相談窓口

9 その他（ ）

問26 仕事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？**1** ある**2** ない→（ある場合、それはどのようなことですか）（○は3つまで）

- 1** 治療費の見通しなどが立たない
- 2** 働き方を変えることで収入が減る
- 3** 体調や治療の状況に応じて勤務の内容や時間を変更できない
- 4** 副作用や体調の変化に対する自己管理が難しく、通院や通勤が困難
- 5** 治療や通院のための休暇を取得できない
- 6** 相談できるところがない
- 7** 相談することで不利な扱いをされることへの不安
- 8** 職場（雇用主や上司、同僚など）の理解が不足している
- 9** 同僚に迷惑をかけないように気をつかう
- 10** 外見の変化に対する職場や周囲の反応が気になる
- 11** その他（ ）

※がんと診断されたときに企業等で雇用されていた方は、以下を記入してください。

問27 がんと診断されたとき、どのような立場で働いていましたか？（○は1つ）

- 1 企業等の法人の正社員
- 2 契約社員、嘱託社員
- 3 パート、アルバイト
- 4 派遣社員
- 5 その他（ ）

問28 がんと診断されたときに働いていた企業等の従業員規模を教えてください。（○は1つ）

- 1 19名以下
- 2 20～49名
- 3 50～99名
- 4 100～299名
- 5 300～999名
- 6 1,000名以上
- 7 わからない

問29 がんにかかった後、勤務先で配慮してほしいことはありましたか？

- 1 ある
- 2 ない

└─>（ある場合、それはどのようなことですか）（○は3つまで）

- 1 病気に対する社員の理解についての配慮
- 2 プライバシーについての配慮
- 3 通院治療のしやすさへの配慮
- 4 業務量についての配慮
- 5 業務内容についての配慮
- 6 勤務時間についての配慮
- 7 勤務地についての配慮
- 8 所属部署についての配慮
- 9 その他（ ）

【7】子育て・介護・家事と治療の両立について

※複数回、がんにかかった方は、最初に診断されたときのことを記載してください。

問30 がんに罹患した後、子育てや介護、家事と治療の両立について相談できる制度や窓口がありましたか？

1 あった

2 なかった



（あった場合、それはどのようなところですか）

（相談できる（できた）制度や窓口すべてに○）

1 医療機関の相談員

2 主治医、看護師、薬剤師等の医療スタッフ

3 患者会など

4 行政の相談窓口

5 その他（ ）

問31 子育て・介護・家事と治療を両立するために悩んだことや困難であったことはありますか？

1 ある

2 ない



（ある場合、それはどのようなことですか）（○は3つまで）

1 子育てや介護、家事と治療を両立について、よき理解者や相談できるところがない

2 治療や通院のとき、自分の代わりに家事（洗濯や掃除など）をしてくれる人がいない

3 治療や通院のとき、自分の代わりに家族の介護をしてくれる人がいない

4 治療や通院のとき、自分の代わりに子どもの面倒をみってくれる人がいない

5 食欲がなく、料理を作ったり買い物に行く気になれない

6 外出の機会や話し相手が少なく、気が滅入る

7 その他（ ）

【8】 がんに関する施策全般について

問32 名古屋市のがん対策において充実すべきだと思うことを教えてください。

（○は3つまで）

- 1 食生活、運動習慣などのがん予防に関する啓発
- 2 子どもの頃からのがん学習（がんを予防するための生活習慣など、がんについての正しい知識を身につけるための学習）の充実
- 3 喫煙対策の充実
- 4 がん検診に関する受診勧奨や情報提供の充実
- 5 がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実
- 6 緩和ケアの取り組みの充実
- 7 精神的な悩みや不安に関する支援の充実
- 8 通院や在宅療養を支援する取り組みの充実
- 9 仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 10 子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実
- 11 介護と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 12 家事と治療の両立を支援する取り組みの充実
- 13 がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実
- 14 がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進
- 15 その他（ ）

問33 その他、ご意見、ご要望等がありましたら、記入してください。

ご協力ありがとうございました。

調査員にお渡しいただくか、返信用封筒（切手不要）にて返送をお願いします。

名古屋市役所健康増進課行き（FAX番号）052-972-4152

<基本情報>

医療機関名		
担当者（記入者）の 所属・氏名	所属	
	氏名	
担当者連絡先	電話	
	メールアドレス	

- 1 来院（入院）しているがん患者から、どのような悩みについて、相談を受けることが多いですか。当てはまる頻度に○を記載してください。
また、その相談への対応において、どのような課題がありますか。
（下のア～エから選択 ○はいくつでも）

相談の内容	相談頻度	相談対応における 課題の内容等
1 治療方法の選択や医療機関スタッフとの コミュニケーションなどについての悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
2 治療中・治療後の症状や、日常生活（食事や 運動、入浴、趣味など）についての悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
3 外見の変化についての悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
4 仕事と治療の両立や経済的なことに関する 悩み（治療費や生活費など）	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
5 子育てや家事と治療の両立についての悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
6 療養先の選択や、介護保険サービス等の 使い方などの悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
7 通院治療や在宅療養についての悩み	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
8 精神的な悩み （再発の不安や漠然とした不安、孤独感など）	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ
9 その他 （ ）	多い ●————● 少ない ・不明	ア イ ウ エ

<相談対応における課題の内容>

ア 悩みに関する知識や情報が不足している	イ 相談窓口の情報が不足している
ウ 関係機関との連携	エ 課題はない

2 がん患者の患者会やサロンの実施状況についてお訊ねします。

(1) 病院において、がん患者の患者会やサロンを実施していますか。

実施状況	実施回数 (「月に1回」など)
1 実施していない(把握していない)	
2 場所を貸しているのみ	
3 病院が主催しているが、企画、運営は参加者が行っている	
4 病院が主体的に企画、運営している	

(2) 実施している場合、どのようながん種について実施していますか。

1 がん種別には実施していない
2 わからない(把握していない)
3 がん種別に実施している
↳ 該当するがん種に○(胃 大腸 肺 子宮 乳房 前立腺 肝臓) その他のがん()

3 がんの「ピアサポート」について

(1) 病院において、がんの「ピアサポート」を実施していますか

1 実施している	2 実施していない	3 わからない
----------	-----------	---------

(2) 病院における、がんの「ピアサポート」が必要だと思いますか

1 必要である	2 どちらかといえば必要である	3 あまり必要ではない
4 必要ではない	5 わからない	

4 がん患者の支援に関して、名古屋市に対して、どのようなことを期待しますか。

(○はいくつでも)

1 がんの治療や医療機関に関する相談体制や情報提供の充実
2 緩和ケアの取り組みの充実
3 精神的な悩みや不安に関する支援の充実
4 通院や在宅療養を支援する取り組みの充実
5 仕事と治療の両立を支援する取り組みの充実
6 子育てと治療の両立を支援する取り組みの充実
7 介護と治療の両立を支援する取り組みの充実
8 家事と治療の両立を支援する取り組みの充実
9 がん患者の方の家族を支援する取り組みの充実
10 がんや、がん患者の方に対する社会全体の理解の促進
11 その他()

5 名古屋市が実施するがん検診の受診票(写)をお持ちの方が、貴院において、がん検診にかかる精密検査を受診した場合、初診にかかる「選定療養費」を徴収していますか。

(平成28年10月以降の状況について記載してください。)

1 徴収している(金額¥)	2 徴収していない
----------------	-----------

名古屋市がん対策推進条例

名古屋市がん対策推進条例

平成 24 年 3 月 28 日

条例第 31 号

人間とがんと闘いの歴史は、古代にまでさかのぼることができます。がんは、今や我が国において 2 人に 1 人が侵される「国民病」といわれています。一方、医学界始め関係各界においてがん撲滅に向けた力強い取り組みが展開されており、がんの予防の推進からがん医療水準の向上まで、着実に成果は上がっています。私たちは、これら英知を結集し、都市をあげてがんに立ち向かうことを決意します。

名古屋市は、がんに打ち勝つためのあらゆる方策をみんなで考える都市として、まずは、がんの予防を一層推進するため、市民のがんに対する知識を高めることに力を注がなければなりません。また、子どもたちへのがん教育の重要性を強く認識し、学習の機会を広げるよう努力します。さらに、がん患者及びその家族をまち全体で温かく包み込み、その負担を少しでも和らげる環境をつくりあげていきます。

がんに立ち向かう都市・名古屋の挑戦は、この条例の制定をもって終わるものではありません。がんに打ち勝つため、たゆまざる前進の第一歩として、ここに名古屋市がん対策推進条例を制定するものです。

（目的）

第 1 条 この条例は、本市のがん対策の基本となる事項を定めることにより、がんの予防及び早期発見を推進するとともに、地域のがん医療水準の向上を図り、がんの克服に向けた市民総ぐるみによるがん対策の実施に資することを目的とする。

（市の責務）

第 2 条 市は、国、県、医療機関、医療関係団体、医療保険者（介護保険法（平成 9 年法律第 123 号）第 7 条第 7 項に規定する医療保険者をいう。以下同じ。）並びにがん患者及びその家族（以下「がん患者等」という。）で構成される団体その他の関係団体と連携を図りつつ、がん対策に関し必要な施策を実施するものとする。

（市民の役割）

第 3 条 市民は、がんに関する正しい知識を持ち、がんの予防及び積極的ながん検診の受診に努めるとともに、市が実施するがん対策に協力するよう努めるものとする。

（保健医療関係者等の役割）

第 4 条 保健医療関係者（がんの予防及び早期発見並びにがん医療に携わる者をいう。）及び事業者は、市が実施するがん対策に協力するよう努めるものとする。

（がんの予防の推進等）

第 5 条 市は、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣及び生活環境が健康に及ぼす影響に関する知識の普及啓発その他のがんの予防の推進のために必要な施策を実施するものとする。

- 2 前項のがんの予防の推進のために必要な施策は、女性に特有のがん等、性別及び年齢に応じて好発するがんの種類を考慮して効果的に実施するものとする。
- 3 市は、がん教育を推進するため、児童及び生徒が学習活動等を通じてがんに対する理解及びがんの予防に関する知識を深めるために必要な施策を実施するよう努めるものとする。
- 4 市は、医療保険者及び事業者と連携を図りつつ、職場におけるがんに関する正しい知識及びがん検診の普及啓発並びにがん患者等の支援に関する情報の提供に努めるものとする。

（がんの早期発見の推進）

第6条 市は、がんの早期発見に資するよう、がん検診の質の向上を図るために必要な施策及びがん検診の普及啓発その他のがん検診の受診率の向上を図るために必要な施策を実施するものとする。

（がん医療水準の向上）

第7条 市は、県及び医療機関と連携を図りつつ、がん患者がそのがんの状態に応じた質の高い適切ながん医療を受けることができるよう必要な環境整備に努めるものとする。

2 市は、県が効果的ながん対策の立案及びがん医療水準の向上に資する情報を得るために実施するがん登録の推進に協力するものとする。

（緩和ケアの充実）

第8条 市は、県並びに医療機関その他関係機関及び関係団体と連携を図りつつ、緩和ケア（がん患者の身体的苦痛、精神的苦痛その他の苦痛又は社会生活上の不安の軽減等を目的とする医療、看護、介護その他の行為をいう。）の充実を図るために必要な環境整備に努めるものとする。

（在宅療養の充実）

第9条 市は、県並びに医療機関その他関係機関及び関係団体と連携を図りつつ、がん患者等の意向により、その居宅において療養できるよう必要な環境整備に努めるものとする。

（がん患者等の支援）

第10条 市は、がん患者等のがんの罹患に伴う負担の軽減に資するよう、がんに関する相談体制の充実その他のがん患者等の支援のために必要な施策を実施するよう努めるものとする。

2 市は、がん患者等で構成される団体その他の関係団体が行うがん患者の療養生活の質の維持向上に資する活動並びにがんの予防及び早期発見を推進する活動の支援に努めるものとする。

（情報収集及び提供）

第11条 市は、市民ががん医療に関する適切な情報を得られるよう、県及び医療機関と連携を図りつつ、がん医療に関する情報の収集に努めるものとする。

2 市は、市民に対し、がん医療及びがん患者等の支援に関する情報を提供するために必要な広報活動を実施するよう努めるものとする。

（財政上の措置）

第12条 市は、がん対策を実施するために必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

（市会への報告）

第13条 市長は、毎年度、本市のがん対策の実施状況等を取りまとめ、その概要を市会に報告するものとする。

（委任）

第14条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定めるものとする。

附 則

1 この条例は、公布の日から施行する。

2 この条例の規定については、この条例の施行後4年を目途として、この条例の施行状況等を勘案して検討が加えられ、必要があると認められるときは、所要の措置が講ぜられるものとする。

3 前項の検討は、幅広く市民の意見を聴取して行われるものとする。